別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾁｭｳｵｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　中央大学	
フリガナ 大学の名称	ﾁｭｳｵｳﾀﾞｲｶﾞｸ 中央大学（Chuo University）	
大学本部の位置	東京都八王子市東中野742番1	
大学の目的	中央大学は、その伝統および私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。	
新設学部等の目的	社会理工学部は、工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
社会理工学部	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
都市環境学科	4	90	－	360	学士（工学）	工学関係	令和8年4月 第1年次	
ビジネスデータサイエンス学科	4	115	－	460	学士（工学）	工学関係	令和8年4月 第1年次	東京都文京区春日1丁目13番27号
人間総合理工学科	4	75	－	300	学士（工学）	工学関係	令和8年4月 第1年次	
計		280	－	1,120				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	
	理工学部（廃止） 数学科　（△70） 物理学科　（△70） 都市環境学科　（△90） 精密機械工学科　（△145） 電気電子情報通信工学科　（△135） 応用化学科　（△145） ビジネスデータサイエンス学科　（△115） 情報工学科　（△100） 生命科学科　（△75） 人間総合理工学科　（△75） ※令和8年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
社会理工学部　都市環境学科	173科目	42科目	19科目	234科目	134単位
社会理工学部 ビジネスデータサイエンス学科	156科目	48科目	18科目	222科目	134単位
社会理工学部　人間総合理工学科	145科目	46科目	21科目	212科目	134単位

新設分

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教授	准教授	講師	助教	計			
社会理工学部　都市環境学科	人 9 (9)	人 3 (3)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 12 (12)	人 0 (0)	人 172 (122)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			

c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
社会理工学部 ビジネスデータサイエンス学科	9 (8)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (12)	0 (0)	176 (127)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ８人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (8)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (12)			
社会理工学部　人間総合理工学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	158 (113)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
基幹理工学部　数学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	157 (113)	令和7年4月届出済
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	7 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
基幹理工学部　物理学科	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	170 (119)	令和7年4月届出済
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ６人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

小計（a～b）	10 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)			
計（a～d）	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
基幹理工学部　応用化学科	12 (12)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	166 (122)	令和7年4月届出済 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (11)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	16 (16)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	11 (11)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	16 (16)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
計（a～d）	12 (12)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
基幹理工学部　生命科学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	175 (118)	令和7年4月届出済 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ６人
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
先進理工学部　精密機械工学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	204 (136)	令和7年4月届出済 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ８人
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
計（a～d）	11 (11)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			

先進理工学部　電気電子情報通信工学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	182 (124)	令和7年4月届出済
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	8 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)			
計（a ～ d）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
先進理工学部　情報工学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	172 (122)	令和7年4月届出済
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	6 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)			
計（a ～ d）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
計	87 (89)	34 (33)	0 (0)	1 (1)	122 (123)	0 (0)	－ (－)	
既設分 法学部　法律学科	45 (45)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	509 (509)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	43 (43)	10 (10)	0 (0)	3 (3)	56 (56)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 24人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
小計（a ～ b）	45 (45)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	60 (60)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	45 (45)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	60 (60)			
法学部　政治学科	20 (20)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	28 (28)	0 (0)	487 (487)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	20 (20)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	28 (28)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 14人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	20 (20)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	28 (28)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	20 (20)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	28 (28)			
法学部　国際企業関係法学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	450 (450)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
経済学部　経済学科	13 (13)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	342 (342)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (13)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	24 (24)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 15人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	13 (13)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	24 (24)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	13 (13)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	24 (24)			
経済学部　経済情報システム学科	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	348 (348)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			

経済学部　国際経済学科	11 (11)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	345 (345)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (11)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	11 (11)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	22 (22)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	11 (11)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	22 (22)			
経済学部　公共・環境経済学科	9 (9)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	351 (351)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	9 (9)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	9 (9)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			
商学部　経営学科	17 (17)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	380 (380)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	17 (17)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	27 (27)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	17 (17)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	27 (27)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	17 (17)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	27 (27)			
商学部　会計学科	18 (18)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	392 (392)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	18 (18)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	18 (18)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
商学部　国際マーケティング学科	15 (15)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	388 (388)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (15)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	23 (23)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	15 (15)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	23 (23)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	15 (15)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	23 (23)			
商学部　金融学科	12 (12)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	398 (398)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (20)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (20)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (20)			
文学部　人文社会学科	75 (75)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	88 (88)	0 (0)	392 (392)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	75 (75)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	88 (88)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 28人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	75 (75)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	88 (88)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	75 (75)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	88 (88)			

総合政策学部　政策科学科	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	211 (211)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
総合政策学部　国際政策文化学科	7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	215 (215)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 18人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
国際経営学部　国際経営学科	15 (15)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	181 (181)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (15)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 13人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	15 (15)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	22 (22)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a ～ d）	15 (15)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	22 (22)			
国際情報学部　国際情報学科	16 (16)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	126 (126)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a ～ b）	16 (16)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

計（a～d）	16 (16)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	21 (21)			
法学部　通信教育課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	0 (0)	117 (117)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
小計（a～b）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
計（a～d）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
計	308 (308)	111 (111)	0 (0)	18 (18)	437 (437)	0 (0)	－ (－)	
合　　計	395 (397)	145 (144)	(0) (0)	19 (19)	559 (560)	0 (0)	－ (－)	

職　　種	専　属	その他	計
事　務　職　員	434 (434)	433 (433)	867 (867)
技　術　職　員	12 (12)	31 (31)	43 (43)
図　書　館　職　員	6 (6)	9 (9)	15 (15)
そ　の　他　の　職　員	3 (3)	0 (0)	3 (3)
指　導　補　助　者	0 (0)	534 (534)	534 (534)
計	455 (455)	1,007 (1,007)	1,462 (1,462)

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	校　舎　敷　地	514,521.92㎡	0㎡	0㎡	514,521.92㎡
	そ　の　他	48,566.52㎡	0㎡	0㎡	48,566.52㎡
	合　計	563,088.44㎡	0㎡	0㎡	563,088.44㎡

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	311,471.24㎡ (311,471.24㎡)	0㎡ (　0　㎡)	0㎡ (　0　㎡)	311,471.24㎡ (　311,471.24㎡)

教室・教員研究室	教　室	874室	教員研究室	37室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点
	社会理工学部 都市環境学科	41,366〔3,104〕 (40,166〔3,064〕)	－ (－)	(18〔0〕) (18〔0〕)	－ (－)	640 (　640　)	2 (2)
	ビジネスデータサイエンス学科	51,441〔11,354〕 (50,241〔11,314〕)	－ (－)	(17〔9〕) (17〔9〕)	－ (－)	1,037 (　1,037　)	1 (1)
	人間総合理工学科	42,062〔3,235〕 (40,862〔3,195〕)	－ (－)	(11〔1〕) (11〔1〕)	－ (－)	569 (　569　)	0 (0)
	計	134,869〔17,693〕 (131,269〔17,573〕)	※1,024,812〔1,013,612〕 ※(959,812〔950,612〕)	46〔10〕 46〔10〕	※94,957〔94,810〕 ※(94,957〔94,810〕)	2,246 (　2,246　)	3 (3)

※左記電子図書、電子ジャーナルは学部・学科単位で特定不能なため、計は大学全体の数としている。

また、左記とは別に大学全体共用分は以下のとおり。

図書
(2,429,385〔991,018〕) 冊
学術雑誌
(28,821〔12,993〕) 種

機械・器具
1,354点

スポーツ等施設	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	2232.55㎡	0㎡	24,937.29㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		602千円	602千円	602千円	602千円	― 千円	― 千円	届出学部全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	共同研究費等		6,887千円	6,887千円	6,887千円	6,887千円	― 千円	― 千円	
	図書購入費	26,505千円	26,505千円	26,505千円	26,505千円	26,505千円	― 千円	― 千円	
	設備購入費	179,649千円	179,649千円	179,649千円	179,649千円	179,649千円	― 千円	― 千円	
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			1,882千円	1,673千円	1,704千円	1,736千円	― 千円	― 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			学生納付金以外の維持方法は、次のとおりです。 ①手数料収入（入学検定料収入、試験料収入、証明手数料収入等） ②補助金収入（国庫補助金収入等）						

大学等の名称　中央大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部	4	1,439	―	5,756	―	1.00 《0.96》	昭和29年度	東京都文京区大塚1丁目4番1	
法律学科	4	882	―	3,528	学士 （法学）	0.99 《0.95》	昭和29年度		
政治学科	4	389	―	1,556	学士 （法学）	1.00 《0.97》	昭和29年度		
国際企業関係法学科	4	168	―	672	学士 （法学）	1.06 《1.00》	平成5年度		
経済学部	4	1,062	―	4,248	―	1.06 《1.02》	昭和38年度	東京都八王子市東中野742番1	
経済学科	4	467	―	1,868	学士 （経済学）	1.00 《0.96》	昭和38年度		
経済情報システム学科	4	180	―	720	学士 （経済学）	1.06 《1.03》	昭和38年度		
国際経済学科	4	265	―	1,060	学士 （経済学）	1.10 《1.05》	昭和38年度		
公共・環境経済学科	4	150	―	600	学士 （経済学）	1.18 《1.13》	平成5年度		
商学部	4	1,020	―	4,080	―	1.06 《1.02》	昭和38年度	東京都八王子市東中野742番1	
経営学科	4	300	―	1,200	学士 （商学）	1.07 《1.03》	昭和38年度		
会計学科	4	300	―	1,200	学士 （商学）	1.07 《1.03》	昭和38年度		
国際マーケティング学科	4	300	―	1,200	学士 （商学）	1.03 《0.98》	昭和38年度		
金融学科	4	120	―	480	学士 （商学）	1.11 《1.06》	平成6年度		
理工学部	4	1,020	―	4,080	―	1.06 《1.02》	昭和24年度	東京都文京区春日1丁目13番27号	※令和8年4月より学生募集停止
数学科	4	70	―	280	学士 （理学）	1.16 《1.09》	昭和37年度		
物理学科	4	70	―	280	学士 （理学）	1.16 《1.11》	昭和37年度		
都市環境学科	4	90	―	360	学士 （工学）	1.02 《0.99》	昭和24年度		
精密機械工学科	4	145	―	580	学士 （工学）	1.07 《1.03》	昭和24年度		
電気電子情報通信工学科	4	135	―	540	学士 （工学）	1.05 《1.02》	昭和24年度		

応用化学科	4	145	―	580	学士 (工学)	1.04 《0.98》	昭和24年度		
ビジネスデータサイエンス学科	4	115	―	460	学士 (工学)	0.99 《0.96》	昭和37年度		
情報工学科	4	100	―	400	学士 (工学)	1.11 《1.06》	平成4年度		
生命科学科	4	75	―	300	学士 (理学)	1.07 《1.07》	平成20年度		
人間総合理工学科	4	75	―	300	学士 (工学)	0.95 《0.93》	平成25年度		
文学部	4	990	―	3,960	―	1.06 《1.02》	平成18年度	東京都八王子市東中野742番1	
人文社会学科	4	990	―	3,960	学士 (文学) 学士 (史学) 学士 (哲学) 学士 (社会学) 学士 (教育学)	1.06 《1.02》	平成18年度		
総合政策学部	4	300	―	1,200	―	1.05 《1.02》	平成5年度	東京都八王子市東中野742番1	
政策科学科	4	150	―	600	学士 (総合政策)	1.04 《1.01》	平成5年度		
国際政策文化学科	4	150	―	600	学士 (総合政策)	1.05 《1.02》	平成5年度		
国際経営学部	4	300	―	1,200	―	1.07 《1.00》	平成31年度	東京都八王子市東中野742番1	
国際経営学科	4	300	―	1,200	学士 (国際経営学)	1.07 《1.00》	平成31年度		
国際情報学部	4	150	―	600	―	1.07 《1.03》	平成31年度	東京都新宿区市谷田町1丁目18番	
国際情報学科	4	150	―	600	学士 (国際情報)	1.07 《1.03》	平成31年度		
通信教育部 (法学部通信教育課程)	4	3,000	―	12,000	学士 (法学)	0.37	昭和25年度	東京都八王子市東中野742番1	
法学研究科 (博士課程前期課程)	2	73	― ―	146	―	0.23	昭和26年度	東京都文京区大塚1丁目4番1	
公法専攻 (博士課程前期課程)	2	8	―	16	修士 (法学)	0.25	昭和55年度		
民事法専攻 (博士課程前期課程)	2	20	―	40	修士 (法学)	0.22	昭和26年度		
刑事法専攻 (博士課程前期課程)	2	10	―	20	修士 (法学)	0.65	昭和26年度		
国際企業関係法専攻 (博士課程前期課程)	2	20	―	40	修士 (法学)	0.05	平成9年度		
政治学専攻 (博士課程前期課程)	2	15	―	30	修士 (政治学)	0.20	昭和26年度		

既設大学等の状況	法学研究科 （博士課程後期課程）	3	28	—	84	—	0.47	昭和28年度	東京都文京区大塚1丁目4番1	
	公法専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 （法学）	0.88	昭和55年度		
	民事法専攻 （博士課程後期課程）	3	7	—	21	博士 （法学）	0.38	昭和28年度		
	刑事法専攻 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	博士 （法学）	1.00	昭和28年度		
	国際企業関係法専攻 （博士課程後期課程）	3	10	—	30	博士 （法学）	0.13	平成11年度		
	政治学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 （政治学）	0.55	昭和28年度		
	経済学研究科 （博士課程前期課程）	2	50	—	100	—	0.53	昭和26年度	東京都八王子市東中野742番1	
	経済学専攻 （博士課程前期課程）	2	50	—	100	修士 （経済学）	0.53	昭和26年度		
	経済学研究科 （博士課程後期課程）	3	10	—	30	—	0.40	昭和36年度	東京都八王子市東中野742番1	
	経済学専攻 （博士課程後期課程）	3	10	—	30	博士 （経済学） 博士 （会計学） 博士 （経営学）	0.40	昭和36年度		
	商学研究科 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	—	0.84	昭和26年度	東京都八王子市東中野742番1	
	商学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 （商学）	0.84	昭和26年度		
	商学研究科 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	—	0.86	昭和29年度	東京都八王子市東中野742番1	
	商学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	博士 （商学） 博士 （経営学） 博士 （会計学） 博士 （経済学） 博士 （金融学）	0.86	昭和29年度		
	理工学研究科 （博士課程前期課程）	2	347	—	694	—	0.92	昭和28年度	東京都文京区春日1丁目13番27号	
	数学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 （理学）	0.40	平成3年度		
	物理学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 （理学）	0.60	昭和42年度		
	都市人間環境学専攻 （博士課程前期課程）	2	60	—	120	修士 （工学）	1.05	昭和28年度		
	精密工学専攻 （博士課程前期課程）	2	52	—	104	修士 （工学）	1.27	昭和30年度		
	電気電子情報通信工学専攻 （博士課程前期課程）	2	45	—	90	修士 （工学）	1.17	平成29年度		
	応用化学専攻 （博士課程前期課程）	2	45	—	90	修士 （工学）	1.20	昭和30年度		

ビジネスデータサイエンス専攻 （博士課程前期課程）	2	30	—	60	修士 (工学)	0.70	平成3年度		
情報工学専攻 （博士課程前期課程）	2	40	—	80	修士 (工学)	0.63	平成29年度		
生命科学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 (理学)	0.50	平成24年度		
理工学研究科 （博士課程後期課程）	3	29	—	87	修士 (工学) －	0.73	昭和30年度	東京都文京区春日1丁目13番27号	
数学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (理学)	0.11	平成6年度		
物理学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (理学)	0.33	平成3年度		
都市人間環境学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	博士 (工学)	1.26	昭和30年度		
精密工学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (工学)	0.88	昭和39年度		
応用化学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (工学)	0.88	昭和39年度		
ビジネスデータサイエンス専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (工学)	1.55	平成10年度		
生命科学専攻 （博士課程後期課程）	3	2	—	6	博士 (理学)	0.16	平成24年度		
電気・情報系専攻 （博士課程後期課程）	3	7	—	21	博士 (工学) 博士 (工学)	0.47	平成29年度		
文学研究科 （博士課程前期課程）	2	80	—	160	—	0.55	昭和30年度	東京都八王子市東中野742番1	
国文学専攻 （博士課程前期課程）	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	昭和31年度		
英文学専攻 （博士課程前期課程）	2	10	—	20	修士 (文学)	0.15	昭和31年度		
独文学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (文学)	0.20	昭和31年度		
仏文学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (文学)	0.50	昭和30年度		
中国言語文化専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (文学)	0.10	平成18年度		
日本史学専攻 （博士課程前期課程）	2	7	—	14	修士 (史学)	0.92	昭和38年度		
東洋史学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (史学)	0.30	昭和38年度		
西洋史学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (史学)	0.90	昭和37年度		
哲学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (哲学)	0.70	昭和31年度		
社会学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (社会学)	1.60	昭和37年度		
社会情報学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (社会情報学)	0.30	平成7年度		
教育学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	—	10	修士 (教育学)	0.10	平成4年度		

心理学専攻 （博士課程前期課程）	2	8	―	16	修士 （心理学）	0.81	平成12年度	
文学研究科 （博士課程後期課程）	3	46	―	138	―	0.48	昭和37年度	東京都八王子市東中野742番1
国文学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （文学）	0.66	昭和38年度	
英文学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （文学）	0.06	昭和39年度	
独文学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （文学）	0.00	昭和37年度	
仏文学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （文学）	0.22	昭和37年度	
中国言語文化専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （文学）	0.33	平成20年度	
日本史学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 （史学）	1.20	昭和37年度	
東洋史学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （史学）	0.77	昭和38年度	
西洋史学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （史学）	0.22	平成6年度	
哲学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （哲学）	0.33	昭和37年度	
社会学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （社会学）	0.88	昭和40年度	
社会情報学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （社会情報学）	0.22	平成9年度	
教育学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （教育学）	0.22	平成6年度	
心理学専攻 （博士課程後期課程）	3	4	―	12	博士 （心理学）	0.75	平成14年度	
総合政策研究科 （博士課程前期課程）	2	40	―	80	―	0.20	平成9年度	東京都八王子市東中野742番1
総合政策専攻 （博士課程前期課程）	2	40	―	80	修士 （総合政策）	0.20	平成9年度	
総合政策研究科 （博士課程後期課程）	3	10	―	30	―	0.16	平成11年度	東京都八王子市東中野742番1
総合政策専攻 （博士課程後期課程）	3	10	―	30	博士 （総合政策）	0.16		
国際情報研究科 （修士課程）	2	25	―	50	―	0.52	令和5年度	東京都新宿区市谷田町1丁目18番
国際情報専攻 （修士課程）	2	25	―	50	修士 （国際情報）	0.52	令和5年度	
戦略経営研究科 （博士課程後期課程）	3	12	―	36	―	0.13	平成22年度	東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5
ビジネス科学専攻 （博士課程後期課程）	3	12	―	36	博士 （経営管理）	0.13	平成22年度	
法務研究科 （専門職学位課程）	3	160	―	560	博士 （学術） ―	0.62	平成16年度	東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5
法務専攻 （専門職学位課程）	3	160	―	560	法務博士 （専門職）	0.62	平成16年度	

	戦略経営研究科 （専門職学位課程）	2	80	—	160	—	1.16	平成20年度	東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	戦略経営専攻 （専門職学位課程）	2	80	—	160	経営修士 （専門職）	1.16	平成20年度		
附属施設の概要		該当なし								

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（社会理工学部都市環境学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語教育科目	英語	英語表現演習1a	1前	○	1				○							9	
		英語表現演習1b	1後	○	1				○							9	
		英語表現演習2a	2前	○	1				○							9	
		英語表現演習2b	2後	○	1				○							8	
		英語講読演習1a	1前	○	1				○							9	
		英語講読演習1b	1後	○	1				○							9	
		英語講読演習2a	2前	○	1				○							8	
		英語講読演習2b	2後	○	1				○							8	
		留学準備講座	1･2･3･4前			1			○							1	
		英語コミュニケーションA	3･4前			1			○							3	
		英語コミュニケーションB	3･4後			1			○							3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前			1			○							1	
		アカデミック・R&W	3･4後			1			○							1	
		中級英語試験講座A	3･4前			1			○							1	
		中級英語試験講座B	3･4後			1			○							1	
		上級英語試験講座A	3･4前			1			○							1	
		上級英語試験講座B	3･4後			1			○							1	
		小計（17科目）	－	－	8	9	0	－			0	0	0	0	0	31	－
	第二外国語	ドイツ語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		フランス語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		フランス語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		フランス語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		フランス語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		中国語初級（表現）a	1前	○		1		○								2	
		中国語初級（表現）b	1後	○		1		○								2	
		中国語初級（文法）a	1前	○		1		○								2	
		中国語初級（文法）b	1後	○		1		○								2	
		日本語（読解）1a	1前			1		○								1	
		日本語（読解）1b	1後			1		○								1	
		日本語（表現）1a	1前			1		○								1	
		日本語（表現）1b	1後			1		○								1	
		ドイツ語中級Aa	2前			1		○								1	
		ドイツ語中級Ab	2後			1		○								1	
		ドイツ語中級Ba	2前			1		○								1	
		ドイツ語中級Bb	2後			1		○								1	
		フランス語中級Aa	2前			1		○								1	
		フランス語中級Ab	2後			1		○								1	
		フランス語中級Ba	2前			1		○								1	
		フランス語中級Bb	2後			1		○								1	
		中国語中級Aa	2前			1		○								1	
		中国語中級Ab	2後			1		○								1	
		中国語中級Ba	2前			1		○								1	
		中国語中級Bb	2後			1		○								1	
		日本語（読解）2a	2前			1		○								1	
		日本語（読解）2b	2後			1		○								1	
		日本語（表現）2a	2前			1		○								1	
		日本語（表現）2b	2後			1		○								1	
		小計（32科目）	－	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	12	－
		体育実技1a	1前･後	○		1				○						8	
		体育実技1b	1前･後	○		1				○						8	
		体育実技2a	2･3･4前･後			1				○						6	
		体育実技2b	2･3･4前･後			1				○						6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
総合教育科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学	2･3･4前			2		○								1	
		スポーツ解析	2･3･4後			2		○								1	
		スポーツ科学	2･3･4前			2		○								1	
		生涯スポーツ科学	2･3･4後			2		○								1	
		ライフセービング	1･2･3･4前			2		○								2	共同
		小計（9科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	10	－
	人文社会	哲学A	1･2･3･4前	○		2		○								2	
		哲学B	1･2･3･4後	○		2		○								2	
		倫理学A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		倫理学B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		言語・記号論	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		科学思想A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		科学思想B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		心理学A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		心理学B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		芸術A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		芸術B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		憲法	1･2･3･4前・後	○		2		○								1	
		法学	1･2･3･4前・後	○		2		○								1	メディア
		経済A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		経済B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		政治学A	1･2･3･4前	○		2		○								1	メディア
		政治学B	1･2･3･4後	○		2		○								1	メディア
		現代社会論A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		現代社会論B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		環境論A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		環境論B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		生命と多様性A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		生命と多様性B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		欧米の文化と歴史A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		欧米の文化と歴史B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		アジアの文化と歴史A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		アジアの文化と歴史B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		日本の歴史と現代A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		日本の歴史と現代B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		環境行政概論	1･2･3･4前	○		2		○			1						
		教養演習A	1･2･3･4前	○		2			○							5	
		教養演習B	1･2･3･4後	○		2			○							5	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後	○		2			○							3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前	○		2		○								6	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論A	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論B	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		小計（38科目）	－	－	0	76	0	－			1	0	0	0	0	19	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後			2				○	1					3	
		グローバルスタディーズBI	1･2･3･4前・後			1				○	1					2	
		グローバルスタディーズBII	1･2･3･4前・後			1				○	1					2	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後			1				○						2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前			2		○								1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後			2			○							1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前			2		○								3	オムニバス 共同（一部）
		産業財産権法	1･2･3･4後			2		○								1	
		知的財産法演習	1･2･3･4後			2			○							3	オムニバス
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2		○								5	オムニバス
		AI・データサイエンス工学概論	1後			2		○								4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前			2		○			1					11	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前			2			○							3	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後			2		○								1	
		障害学	1･2･3･4後			2		○								1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
			Global Issues A	1･2･3･4前	○		1		○								1	
			Global Issues B	1･2･3･4後	○		1		○								1	
			Education for SDGs	1･2･3･4後	○		1		○								1	
			International Relations and Politics	1･2･3･4前	○		1		○								1	
			小計（19科目）	－	－	0	31	0	－			1	0	0	0	0	30	－
	基礎科目	数学	線形代数	1前	○		2		○								2	
			微分・積分	1前	○		4		○								2	
			解析学基礎	1後	○		4		○								2	
			常微分方程式	1後	○		1		○				1					
			偏微分方程式	1後	○		1		○			1						
			ベクトル解析	2前	○		1		○			1						
			フーリエ解析	2後	○		1		○								1	
			固有値解析	2前	○		1		○			1						
			複素関数	2後	○		1		○								1	
			確率・統計	1前	○		2		○								1	
			データ解析基礎	1後	○		2		○			1						
			回帰モデル	2前	○		1		○			1						
			クラスター分析	2前	○		1		○				1					
			最適化理論	2後	○		1		○				1					
			ミクロ経済学序説	2後	○		1		○			1						
			小計（15科目）	－	－	0	24	0	－			4	2	0	0	0	8	－
		情報	プログラミング言語	2前	○		2		○			1						※演習
			数値解析	3後	○		2		○			1						
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	0	－
		理学	力学	1前	○		2		○								2	
			基礎化学	1前	○		2		○								1	
			地学1	1前	○		2		○			1						
			物理実験	2前	○		2				○						1	
			化学実験	2前	○		2				○						1	
			熱力学・電磁気学	3後	○		2		○								1	
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			1	0	0	0	0	6	－
	コア科目		都市環境学概論1	1前	○	2			○			2						オムニバス ※実習
			都市環境学概論2	1前	○	2			○			5						オムニバス
			空間情報学	2前	○	2			○			1						
			卒業研究I	4前	○	3				○		9	3					
			卒業研究II	4後	○	3				○		9	3					
			小計（5科目）	－	－	12	0	0	－			9	3	0	0	0	0	－
		コース	社会基盤系ゼミナール1	3前･後	○		2			○		4						オムニバス
			水環境・防災系ゼミナール1	3前	○		2			○		2	1					オムニバス
			計画系ゼミナール1	3前	○		2			○		1	1					オムニバス
			社会基盤系ゼミナール2	3後	○		2			○		4						オムニバス
			水環境・防災系ゼミナール2	3後	○		2			○		2	1					オムニバス 共同（一部）
			計画系ゼミナール2	3後	○		2			○		1	1					オムニバス
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			7	3	0	0	0	0	－
		キャリア・倫理	都市環境キャリアデザイン	2後	○		1		○			1						
			現場見学	3後	○		1				○	2						
			公務員のための都市環境学	3前	○		2		○			1					1	オムニバス
			建設技術者のための都市環境学	4前	○		1		○			1						
			国際技術者のための都市環境学	4後	○		1		○			1						
			小計（5科目）	－	－	0	6	0	－			5	0	0	0	0	1	－
		社会基盤系（1）構造・材料	材料力学・同演習	1後	○		2		○			1						※演習
			構造力学1	2前	○		1		○			1						
			コンクリート材料1	2前	○		1		○			1						
			構造力学2	2後	○		1		○			1						
			コンクリート材料2	2後	○		1		○			1						
			小計（5科目）	－	－	0	6	0	－			2	0	0	0	0	0	－
		社会基盤系（2）土質	土質力学1	1後	○		1		○			1						
			土質力学2	2前	○		1		○			1						
			土質力学3	2後	○		1		○			1						
			小計（3科目）	－	－	0	3	0	－			2	0	0	0	0	0	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	コア選択科目	水環境・防災系	基礎流体力学・同演習	1後	○		2		○			1						※演習
			水理学1・同演習	2前	○		2		○			1						※演習
			海岸水理基礎	2後	○		1		○			1						
			大気流体基礎	2後	○		1		○				1					
			小計（4科目）	－	－	0	6	0	－			2	1	0	0	0	0	－
		計画系	空間のマネジメント	1後	○		2		○			1	2					オムニバス
			都市環境計画1	2前	○		2		○			1	1					オムニバス
			都市環境計画2	2後	○		2		○			1	1					オムニバス
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			1	2	0	0	0	0	－
		応用（1）社会基盤系	鉄筋コンクリート・同演習	3後	○		2		○			1						※演習
			土質力学4	3前	○		1		○			1						
			構造力学3	3前	○		1		○			1						
			固体力学	3後	○		2		○			1						
			地盤工学1	3後	○		1		○			1						
			構造シミュレーション	3後	○		2		○			1						
			材料科学論	4前	○		2		○			1					1	オムニバス
			地盤工学2	4前	○		2		○			1						
			地盤動力学	4前	○		2		○			1						
			小計（9科目）	－	－	0	15	0	－			4	0	0	0	0	1	－
		（2）水環境・防災系	水理学2	3後	○		1		○			1						
			海岸・港湾工学	3前	○		2		○			1						
			水文学	3前	○		2		○			1						
			河川工学	3後	○		2		○			1						
			沿岸環境工学	3前	○		2		○			1						
			都市水循環	4前	○		2		○			1						
			海岸水理学	4前	○		2		○			1						
			気象学	4後	○		2		○				1					
			小計（8科目）	－	－	0	15	0	－			2	1	0	0	0	0	－
		（3）計画系	都市環境計画3	3前	○		2				○		1				2	共同
			コミュニティデザイン	3前	○		2		○				1					
			都市環境政策	4前	○		2		○				1					
			離散選択モデル	4前	○		2		○				1					
			輸送システム	4後	○		2		○				1				1	オムニバス
			政策評価手法	4前	○		2		○			1						
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			1	2	0	0	0	3	－
		展開科目	自然環境論	2前			2		○			1					2	オムニバス　※実習
			空間情報学実習	2後			2				○	1						
			振動と耐震1	3前			1		○			1						
			地形・地質工学	3前			2		○			3						オムニバス
			空間デザイン演習	3前			2			○		1					1	共同
			振動と耐震2	3前			1		○			1						
			地理空間情報学	3後			2		○								1	※演習
			防災工学	3前			2		○								1	
			環境リスク評価論	3後			2		○			1						
			基礎生態学	3後			2		○								1	
			計算力学	4前			2		○			1						
			維持管理工学	4後			2		○								1	
			連続体力学	4前			2		○								1	
			小計（13科目）	－	－	0	24	0	－			6	0	0	0	0	7	－
	社会理工学部共通科目		社会理工学概論	1前	○	2			○			1					4	オムニバス
			小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	4	－
			短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						9	メディア
			短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						9	メディア
			短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後			2				○						4	
			短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後			2				○						4	
			ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○							17	メディア
			ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○							17	メディア
			ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○							17	メディア
			AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
			AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
	AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
	AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							4	メディア
	AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							4	メディア
	グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前・後			2		○								6	
	専門インターンシップ	1･2･3･4前・後			1				○						1	
	グローバル総合講座	2･3･4前・後			2		○								4	オムニバス・共同（一部）
	グローバル集中講義	2･3･4前・後			1		○								2	
	グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							1	メディア
	グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	
	AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後			2		○								4	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後			2		○								9	オムニバス
	AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後			2		○								3	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
	AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後				2	○								1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後				2	○								1	メディア
	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								1	
	小計（28科目）	－	－	0	57	6	－			0	0	0	0	0	64	－
合計（234科目）		－	－	22	364	6	－			9	3	0	0	0	172	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習1a」から「英語講読演習2b」までの8科目8単位、「第二外国語」区分の「ドイツ語初級（表現）a」から「日本語（表現）1b」までの16科目（ただし、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から9単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技1a」から「体育実技1b」までの2科目から1単位以上、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から103単位以上修得 ・「基礎科目」区分について、「線形代数」から「複素関数」までの9科目から12単位以上、「確率・統計」から「ミクロ経済学序説」までの6科目から4単位以上、「プログラミング言語」から「熱力学・電磁気学」までの8科目から8単位以上、合計30単位以上修得 ・「コア科目」区分から12単位修得 ・「コア選択科目」区分について、「コース」から4単位以上、「キャリア・倫理」から3単位以上修得。「社会基盤系（1）構造・材料」から4単位以上、「社会基盤系（2）土質」から2単位以上、「水環境・防災系」から4単位以上、「計画系」から4単位以上、合計18単位以上修得。「応用（1）社会基盤系」から5単位以上、「応用（2）水環境・防災系」から5単位以上、「応用（3）計画系」から4単位以上、合計16単位以上修得 ・「展開科目」区分から8単位以上、「社会理工学部共通科目」区分から2単位修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（社会理工学部ビジネスデータサイエンス学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語教育科目	英語	英語表現演習1a	1前	○	1				○							8	
		英語表現演習1b	1後	○	1				○							8	
		英語表現演習2a	2前	○	1				○			1				9	
		英語表現演習2b	2後	○	1				○			1				8	
		英語講読演習1a	1前	○	1				○							9	
		英語講読演習1b	1後	○	1				○							9	
		英語講読演習2a	2前	○	1				○							9	
		英語講読演習2b	2後	○	1				○							9	
		留学準備講座	1･2･3･4前			1			○			1					
		英語コミュニケーションA	3･4前			1			○							3	
		英語コミュニケーションB	3･4後			1			○							3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前			1			○							1	
		アカデミック・R&W	3･4後			1			○							1	
		中級英語試験講座A	3･4前			1			○							1	
		中級英語試験講座B	3･4後			1			○							1	
		上級英語試験講座A	3･4前			1			○							1	
		上級英語試験講座B	3･4後			1			○							1	
		小計（17科目）	－	－	8	9	0	－			0	1	0	0	0	29	－
	第二外国語	ドイツ語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		フランス語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		フランス語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		フランス語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		フランス語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		中国語初級（表現）a	1前	○		1		○								3	
		中国語初級（表現）b	1後	○		1		○								3	
		中国語初級（文法）a	1前	○		1		○								3	
		中国語初級（文法）b	1後	○		1		○								3	
		日本語（読解）1a	1前			1		○								1	
		日本語（読解）1b	1後			1		○								1	
		日本語（表現）1a	1前			1		○								1	
		日本語（表現）1b	1後			1		○								1	
		ドイツ語中級Aa	2前			1		○								1	
		ドイツ語中級Ab	2後			1		○								1	
		ドイツ語中級Ba	2前			1		○								1	
		ドイツ語中級Bb	2後			1		○								1	
		フランス語中級Aa	2前			1		○								1	
		フランス語中級Ab	2後			1		○								1	
		フランス語中級Ba	2前			1		○								1	
		フランス語中級Bb	2後			1		○								1	
		中国語中級Aa	2前			1		○								1	
		中国語中級Ab	2後			1		○								1	
		中国語中級Ba	2前			1		○								1	
		中国語中級Bb	2後			1		○								1	
		日本語（読解）2a	2前			1		○								1	
		日本語（読解）2b	2後			1		○								1	
		日本語（表現）2a	2前			1		○								1	
		日本語（表現）2b	2後			1		○								1	
		小計（32科目）	－	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	13	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1a	1前・後	○		1				○						9	
		体育実技1b	1前・後	○		1				○						9	
		体育実技2a	2・3・4前・後			1				○						6	
		体育実技2b	2・3・4前・後			1				○						6	
		健康スポーツ科学	2・3・4後			2		○								1	
		スポーツ解析	2・3・4後			2		○								1	
		スポーツ科学	2・3・4前			2		○								1	
		生涯スポーツ科学	2・3・4後			2		○								1	
		ライフセービング	1・2・3・4前			2		○								2	共同
		小計（9科目）	－	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	11	－
	人文社会	哲学A	1・2・3・4前	○		2		○								2	
		哲学B	1・2・3・4後	○		2		○								2	
		倫理学A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		倫理学B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		言語・記号論	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		情報・メディア論	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		科学思想A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		科学思想B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		心理学A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		心理学B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		芸術A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		芸術B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		憲法	1・2・3・4前・後	○		2		○								1	
		法学	1・2・3・4前・後	○		2		○								1	メディア
		経済A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		経済B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		政治学A	1・2・3・4前	○		2		○								1	メディア
		政治学B	1・2・3・4後	○		2		○								1	メディア
		現代社会論A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		現代社会論B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		環境論A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		環境論B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		生命と多様性A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		生命と多様性B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		欧米の文化と歴史A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		欧米の文化と歴史B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		アジアの文化と歴史A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		アジアの文化と歴史B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		日本の歴史と現代A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		日本の歴史と現代B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		情報社会と倫理・職業	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		環境行政概論	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		教養演習A	1・2・3・4前	○		2			○							5	
		教養演習B	1・2・3・4後	○		2			○							5	
		日本語リテラシー基礎演習	1・2・3・4前・後	○		2			○							3	オムニバス
		科学技術と倫理	1・2・3・4前	○		2		○								6	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		小計（38科目）	－	－	0	76	0	－			0	0	0	0	0	20	－
		グローバルスタディーズA	1・2・3・4前・後			2				○						4	
		グローバルスタディーズBI	1・2・3・4前・後			1				○						3	
		グローバルスタディーズBII	1・2・3・4前・後			1				○						3	
		グローバルインターンシップ	1・2・3・4前・後			1				○						2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1・2・3・4後			2			○							1	メディア
		技術と法	1・2・3・4前			2		○								3	オムニバス 共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	グローバル・学際	産業財産権法	1･2･3･4後			2		○								1	
		知的財産法演習	1･2･3･4後			2			○							3	オムニバス
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2		○								5	オムニバス
		AI・データサイエンス工学概論	1後			2		○			2					2	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前			2		○								12	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前			2			○							3	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後			2		○								1	
		障害学	1･2･3･4後			2		○								1	
		Global Issues A	1･2･3･4前	○		1		○								1	
		Global Issues B	1･2･3･4後	○		1		○								1	
		Education for SDGs	1･2･3･4後	○		1		○								1	
		International Relations and Politics	1･2･3･4前	○		1		○								1	
		小計（19科目）	－	－	0	31	0	－			2	0	0	0	0	29	－
専門教育科目	基礎科目	微分・積分1	1前	○	4			○								3	
		微分・積分2	1後	○	4			○								3	
		線形代数1	1前	○	2			○								2	
		線形代数2	1後	○	2			○								2	
		物理1	1前	○	2			○								1	
		化学1	1前	○	2			○								1	
		物理実験	1前	○		2				○						1	
		化学実験	1後	○		2				○						1	
		物理2	1後			2		○								1	
		化学2	1後			2		○								1	
		小計（10科目）	－	－	16	8	0	－			0	0	0	0	0	12	－
	コア科目	情報処理	1前	○	2			○				1					
		情報処理演習	1前	○	1				○			1					
		プログラム言語及演習1	1後	○	2				○		1						
		確率論	1前	○	2			○			1						
		確率論演習	1前	○	1				○		1						
		統計学	1後	○	2			○			1						
		統計学演習	1後	○	1				○		1						
		応用解析1	2前	○	2			○				1					
		応用解析2	2後	○	2			○				1					
		データ解析1	2前	○	2			○				1					
		オペレーションズ・リサーチ1	2前	○	2			○			1						
		テクニカル・プレゼンテーション	2前	○	1				○		2						
		データサイエンス実験A	2後	○	2					○	1	2				1	共同
		データ構造とアルゴリズム	2後	○	2			○			1						
		データサイエンス実験B	3前	○	2					○	3	1					共同
		オペレーションズ・リサーチ演習	3前	○	1				○		1						
		データサイエンス演習	3後	○	1				○		3					2	共同
		卒業研究I	4前	○	2				○		9	4					
		卒業研究II	4後	○	2				○		9	4					
		小計（19科目）	－	－	32	0	0	－			9	4	0	0	0	3	－
	コア選択科目	品質管理	2前	○		2		○				1					
		企業データ分析	2後	○		2		○			1						
		生産管理	2前	○		2		○				1					
		マーケティング・リサーチ	3前	○		2		○			1						
		サプライチェーン・マネジメント	3後	○		2		○				1					
		金融工学	3前	○		2		○			1						
		実験計画法	3前	○		2		○			1						
		経済性工学	3前	○		2		○			1						
		データ解析2	2後	○		2		○				1					
		プログラム言語及演習2	2前	○		2			○		1						
		オペレーションズ・リサーチ2	2後	○		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		機械学習基礎論	3前	○		2		○			1						
		データベース工学	3後	○		2		○			1						
		深層学習	3後	○		2		○			1						
		最適化手法	3後	○		2		○			1						
		時系列解析	4前	○		2		○			1						
		小計（16科目）	－	－	0	32	0	－			6	3	0	0	0	0	－
	展開科目	データサイエンス基礎演習	1後			1			○		3						共同
		応用確率論	2後			2		○				1					
		情報数学	2前			2		○			1						
		情報システムの構造と理論	2前			2		○			1						
		情報理論	2前			2		○								1	
		経営学基礎論	2前			2		○			1						
		データ処理と可視化	2後			2		○				1					
		人間工学	2前			2		○								2	オムニバス
		人工知能基礎論	2後			2		○			1						
		人工知能応用論1	2後			2		○			1						
		代数学1	2前			2		○								1	
		代数学2	2後			2		○								1	
		生存時間解析	3前			2		○				1					
		数理統計学	3後			2		○			1						
		情報幾何学	3後			2		○			1						
		人工知能応用論2	3後			2		○			1						
		数値解析	3後			2		○								1	
		感性工学	3後			2		○								1	
		情報通信産業論	3前			2		○			1					5	オムニバス
		経営戦略論	3後			2		○			1						
		シミュレーション	3後			2		○								1	※演習
		産業心理学	3後			2		○								1	
		幾何学1	3前			2		○								1	メディア
		幾何学2	3後			2		○								1	メディア
		新製品開発論	4前			2		○			1						
		確率過程論	4前			2		○			1						
		ソフトウェア工学	4前			2		○			1						
		データサイエンス特別講義A	2・3・4前			2		○			1						
		データサイエンス特別講義B	2・3・4後			2		○			1						
		小計（29科目）	－	－	0	57	0	－			8	2	0	0	0	12	－
	社会理工学部共通科目	社会理工学概論	1前	○	2			○			1					4	オムニバス
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	4	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後			2				○						4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後			2				○						4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○							17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○							17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○							17	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							4	メディア
		グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前・後			2		○								6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後			1				○						1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後			2		○								4	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後			1		○								2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後			2		○				1				3	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後			2		○			1					8	オムニバス
	AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後			2		○								3	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
	AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後				2	○								1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後				2	○								1	メディア
	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								1	
	小計（28科目）	－	－	0	57	6	－			1	1	0	0	0	63	－
教職科目	数学科教育法1	2前			2			○							2	
	数学科教育法2	2後			2			○							2	
	数学科教育法3	3前			2			○							2	
	数学科教育法4	3後			2			○							2	
	小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	2	－
合計（222科目）		－	－	58	324	6	－			9	5	0	0	0	176	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習1a」から「英語講読演習2b」までの8科目8単位、「英語コミュニケーションA」から「日本語（表現）1b」までの24科目（ただし、「第二外国語」区分から履修する場合は、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技1a」から「体育実技1b」までの2科目から1単位以上、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から102単位修得 ・「基礎科目」区分の「微分・積分1」から「化学1」までの6科目16単位、「物理実験」から「化学実験」までの2科目から2単位以上、「コア科目」区分から32単位、「コア選択科目」区分の「品質管理」から「経済性工学」までの8科目から12単位以上、「データ解析2」から「時系列解析」までの8科目から12単位以上、「展開科目」区分から24単位以上、「社会理工学部共通科目」区分から2単位修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（社会理工学部人間総合理工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語教育科目	英語	英語表現演習1a	1前	○	1				○		1					7	
		英語表現演習1b	1後	○	1				○		1					7	
		英語表現演習2a	2前	○	1				○							6	
		英語表現演習2b	2後	○	1				○							5	
		英語講読演習1a	1前	○	1				○							8	
		英語講読演習1b	1後	○	1				○							7	
		英語講読演習2a	2前	○	1				○							7	
		英語講読演習2b	2後	○	1				○							7	
		留学準備講座	1･2･3･4前			1			○							1	
		英語コミュニケーションA	3･4前			1			○							3	
		英語コミュニケーションB	3･4後			1			○							3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前			1			○							1	
		アカデミック・R&W	3･4後			1			○							1	
		中級英語試験講座A	3･4前			1			○		1						
		中級英語試験講座B	3･4後			1			○		1						
		上級英語試験講座A	3･4前			1			○							1	
		上級英語試験講座B	3･4後			1			○							1	
		小計（17科目）	－	－	8	9	0	－			1	0	0	0	0	26	－
	第二外国語	ドイツ語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		ドイツ語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		フランス語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		フランス語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		フランス語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		フランス語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		中国語初級（表現）a	1前	○		1		○								1	
		中国語初級（表現）b	1後	○		1		○								1	
		中国語初級（文法）a	1前	○		1		○								1	
		中国語初級（文法）b	1後	○		1		○								1	
		日本語（読解）1a	1前			1		○								1	
		日本語（読解）1b	1後			1		○								1	
		日本語（表現）1a	1前			1		○								1	
		日本語（表現）1b	1後			1		○								1	
		ドイツ語中級Aa	2前			1		○			1						
		ドイツ語中級Ab	2後			1		○			1						
		ドイツ語中級Ba	2前			1		○								1	
		ドイツ語中級Bb	2後			1		○								1	
		フランス語中級Aa	2前			1		○								1	
		フランス語中級Ab	2後			1		○								1	
		フランス語中級Ba	2前			1		○								1	
		フランス語中級Bb	2後			1		○								1	
		中国語中級Aa	2前			1		○								1	
		中国語中級Ab	2後			1		○								1	
		中国語中級Ba	2前			1		○								1	
		中国語中級Bb	2後			1		○								1	
		日本語（読解）2a	2前			1		○								1	
		日本語（読解）2b	2後			1		○								1	
		日本語（表現）2a	2前			1		○								1	
		日本語（表現）2b	2後			1		○								1	
		小計（32科目）	－	－	0	32	0	－			1	0	0	0	0	12	－
		体育実技1a	1前･後	○	1					○	1	1				6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1b	1前・後	○	1					○	1	1				6	
		体育実技2a	2・3・4前・後			1				○	1					5	
		体育実技2b	2・3・4前・後			1				○	1					5	
		健康スポーツ科学	2・3・4後			2		○								1	
		スポーツ解析	2・3・4後			2		○				1					
		スポーツ科学	2・3・4前			2		○								1	
		生涯スポーツ科学	2・3・4後			2		○				1					
		ライフセービング	1・2・3・4前			2		○			1					1	共同
		小計（9科目）	－	－	2	12	0	－			1	1	0	0	0	7	－
	人文社会	哲学A	1・2・3・4前	○		2		○								2	
		哲学B	1・2・3・4後	○		2		○								2	
		倫理学A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		倫理学B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		言語・記号論	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		情報・メディア論	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		科学思想A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		科学思想B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		心理学A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		心理学B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		芸術A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		芸術B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		憲法	1・2・3・4前・後	○		2		○								1	
		法学	1・2・3・4前・後	○		2		○								1	メディア
		経済A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		経済B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		政治学A	1・2・3・4前	○		2		○								1	メディア
		政治学B	1・2・3・4後	○		2		○								1	メディア
		現代社会論A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		現代社会論B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		環境論A	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		環境論B	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		生命と多様性A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		生命と多様性B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		欧米の文化と歴史A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		欧米の文化と歴史B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		アジアの文化と歴史A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		アジアの文化と歴史B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		日本の歴史と現代A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		日本の歴史と現代B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		情報社会と倫理・職業	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		環境行政概論	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		教養演習A	1・2・3・4前	○		2			○							5	
		教養演習B	1・2・3・4後	○		2			○							5	
		日本語リテラシー基礎演習	1・2・3・4前・後	○		2			○							3	オムニバス
		科学技術と倫理	1・2・3・4前	○		2		○			1					5	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論A	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論B	1・2・3・4後	○		2		○								1	
		小計（38科目）	－	－	0	76	0	－			1	0	0	0	0	19	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1・2・3・4前・後			2				○	1	1				2	
		グローバルスタディーズBI	1・2・3・4前・後			1				○		1				2	
		グローバルスタディーズBII	1・2・3・4前・後			1				○		1				2	
		グローバルインターンシップ	1・2・3・4前・後			1				○	1					1	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1・2・3・4後			2			○							1	メディア
		技術と法	1・2・3・4前			2		○								3	オムニバス 共同（一部）
		産業財産権法	1・2・3・4後			2		○								1	
		知的財産法演習	1・2・3・4後			2			○							3	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2		○								5	オムニバス
		AI・データサイエンス工学概論	1後			2		○								4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前			2		○			1					11	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前			2			○							3	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後			2		○								1	
		障害学	1･2･3･4後			2		○								1	
		Global Issues A	1･2･3･4前	○		1		○								1	
		Global Issues B	1･2･3･4後	○		1		○								1	
		Education for SDGs	1･2･3･4後	○		1		○								1	
		International Relations and Politics	1･2･3･4前	○		1		○								1	
		小計（19科目）	－	－	0	31	0	－			2	1	0	0	0	28	－
	基礎科目	微分・積分1	1前	○	4			○								2	
		微分・積分2	1後	○	4			○								2	
		線形代数1	1前	○	2			○								1	
		物理1	1前	○		2		○								1	
		物理2	1後	○		2		○								1	
		化学1	1前	○		2		○								1	
		化学2	1後	○		2		○								1	
		線形代数2	1後	○		2		○								1	
		化学実験	2後	○		2				○						1	
		物理実験	2後	○		2				○						1	
		小計（10科目）	－	－	10	14	0	－			0	0	0	0	0	9	－
専門教育科目	コア科目	認知脳科学	1後	○	2			○			1						
		生命倫理	1前	○	2			○			1						
		地域環境科学	1前	○	2			○			1	1					オムニバス
		基礎生態学	1前	○	2			○			1						
		基礎エネルギー制御学	1後	○	2			○			1						
		フレッシュマンセミナー	1前	○	1			○			6	2					オムニバス
		確率・統計	1後	○	2			○								1	
		情報処理	1前	○	2			○			1						
		環境物理化学	1後	○	2			○			1						
		情報処理演習	1後	○	1				○		1						
		健康科学概論	1前	○	2			○				1				1	オムニバス
		都市生態学概論	1前	○	2			○			1	1					オムニバス
		実用認知心理学	2前	○	2			○			1						
		人体の構造と機能	2前	○	2			○				1				1	オムニバス
		生物統計学	2後	○	2			○				1					
		都市環境デザイン	2後	○	2			○			1	1					オムニバス ※演習
		保全生態学概論	2後	○	2			○			2						オムニバス
		水環境システム学	2後	○	2			○			1						
		土壌環境制御学	2前	○	2			○			1						
		ソフォモアセミナー	2前	○	1			○			6	2					オムニバス
		救急理論・実習	2前・後	○	1					○	1					1	共同
		環境デザイン概論・実習	2前	○	2			○				1					※実習
		プログラミング言語1	2後	○	2			○			1						※演習
		応用生態工学	2後	○	2			○			1	1					オムニバス
		人間総合理工学演習1	3前	○	3				○		5	2					オムニバス 共同（一部）
		人間総合理工学演習2	3後	○	3				○		5	2					共同
		環境エネルギー・自然誌実習	3前	○	3					○	3					1	オムニバス 共同（一部）
		認知科学・健康科学実習	3後	○	3					○	1	1				1	オムニバス 共同（一部）
		インディペンデントスタディ3B	3後	○	1				○		6	2					
		卒業研究I	4前	○	2				○		6	2					
		卒業研究II	4後	○	2				○		6	2					
		小計（31科目）	－	－	61	0	0	－			6	3	0	0	0	6	－
		心理統計学	2後			2		○								1	
		心理統計学演習	2後			1			○							1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	展開科目	保全生態学フィールドワーク・データ解析	2前			2				○	1					1	共同
		基礎生物・生化学	2前			2		○								1	
		地球科学	2前			2		○								1	
		科学技術の発展と人間社会	2後			2		○								1	
		現代物理学1	2前			2		○								1	メディア
		現代物理学2	2後			2		○								1	
		地学1	2前			2		○								1	
		地学2	2後			2		○								1	
		微生物学	2後			2		○								1	メディア
		水環境工学	3前			2		○			1						
		保健医療情報処理	3前			2		○				1					
		プログラミング言語2	3前			2		○			1					1	オムニバス ※演習
		生物統計学演習	3後			1			○			1					
		認知マーケティング	3後			2		○			1						
		機器分析化学	3後			2		○			1						
		ヒューマンウエルネス論	3後			2		○			1					2	オムニバス
		サスティナビリティ行動科学	3前			2		○			2						オムニバス
		国際サステイナビリティ計画	3後			2		○			2	1					オムニバス 共同（一部）※演習
		資源循環エネルギー学	3前			2		○			1						
		ファシリテーション実習	4前			1				○	6	2					
		小計（22科目）	－	－	0	41	0	－			6	2	0	0	0	12	－
	社会理工学部共通科目	社会理工学概論	1前	○	2			○			2	1				2	オムニバス
		小計（1科目）	－	－	2	0	0	－			2	1	0	0	0	2	－
学部間共通科目		短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						9	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						9	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後			2				○						4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後			2				○						4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○		1					16	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○		2					15	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		2					15	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							4	メディア
		グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前・後			2		○								6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後			1				○						1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後			2		○								4	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後			1		○								2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後			2		○								4	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後			2		○								9	オムニバス
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後			2		○								3	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後				2	○								1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後				2	○								1	メディア
	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								1	
	小計（28科目）	－	－	0	57	6	－			2	0	0	0	0	62	－
自由科目	インディペンデントスタディ1A	1前				1		○		6	2					
	インディペンデントスタディ1B	1後				1		○		6	2					
	インディペンデントスタディ2A	2前				1		○		6	2					
	インディペンデントスタディ2B	2後				1		○		6	2					
	インディペンデントスタディ3A	3前				1		○		6	2					
	小計（5科目）	－	－	0	0	5	－			6	2	0	0	0	0	－
合計（212科目）		－	－	83	272	11	－			8	3	0	0	0	158	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から14単位以上修得 ・「英語」区分「英語表現演習1a」から「英語講読演習2b」までの8科目8単位、「英語コミュニケーションA」から「上級英語試験講座B」までの8科目から2単位以上、「第二外国語」区分の「ドイツ語初級（表現）a」から「日本語（表現）1b」までの16科目（ただし、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技1a」から「体育実技1b」までの2科目2単位、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から100単位以上修得 ・「基礎科目」区分の「微分・積分1」から「線形代数1」までの3科目10単位、「物理1」から「物理実験」までの7科目から6単位以上、「コア科目」区分から61単位、「展開科目」区分から21単位以上、「社会理工学部共通科目」区分から2単位修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業の標準時間	100分

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部都市環境学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○								兼9	
		英語表現演習２	1後	1			○								兼9	
		英語表現演習３	2前	1			○								兼9	
		英語表現演習４	2後	1			○								兼9	
		英語講読演習１	1前	1			○								兼9	
		英語講読演習２	1後	1			○								兼9	
		英語講読演習３	2前	1			○								兼8	
		英語講読演習４	2後	1			○								兼8	
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○								兼1	
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3	
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1	
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○								兼1	
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○								兼1	
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○								兼1	
		上級英語試験講座	3･4前		1		○								兼1	
		小計(16科目)	－	8	8	0	－			0	0	0	0	0	兼32	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼2	
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼2	
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼2	
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼2	
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		小計(32科目)	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼13	－
	健康・スポーツ	体育実技ＡⅠ	1前・後		1				○						兼9	
		体育実技ＡⅡ	1前・後		1				○						兼9	
		体育実技ＢⅠ	2前・後		1				○						兼6	
		体育実技ＢⅡ	2前・後		1				○						兼6	
		健康スポーツ科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目		スポーツ科学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生涯スポーツ科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		スポーツ解析	1･2･3･4前		2		○								兼1	共同
		ライフセービング	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		小計(9科目)	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		法学	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○			1						
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼4	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼5	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○								兼7	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(38科目)	－	0	76	0	－			1	0	0	0	0	兼20	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○	1					兼3	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○	1					兼2	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○	1					兼2	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同(一部)
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○								兼4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○			1					兼13	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○							兼8	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(14科目)	－	0	25	0	－			1	0	0	0	0	兼33	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	基礎科目	線形代数	1前		2		○								兼2	
		微分・積分	1前		2		○								兼2	
		力学	1前		2		○								兼2	
		基礎化学	1前		2		○								兼1	
		物理実験	2前		2				○						兼1	
		化学実験	2前		2				○						兼1	
		熱力学・電磁気学	3後		2		○								兼1	
		小計(7科目)	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
	コア科目・コア選択科目・展開科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			1						※実習
		固体・流体の科学	1前	2				○		5						オムニバス
		水理学１	2前	2			○			1						
		構造力学１	2前	2			○			2						オムニバス
		キャリアデザインと倫理	3前	2			○			1					兼11	オムニバス
		卒業研究Ⅰ	4前	3				○		9	3					
		卒業研究Ⅱ	4後	3				○		9	3					
		確率・統計	1前		2		○								兼1	※演習
		数学演習	1前		1			○		1						
		流体力学	1後		2		○			1						
		材料力学	1後		2		○			1						
		解析学基礎	1後		2		○								兼2	
		データ解析基礎	1後		2		○				1					
		空間のマネジメント	1後		2		○			1	2					オムニバス
		流体力学演習	1後		1			○		1						
		材料力学演習	1後		1			○		1						
		コンクリート材料	2前		2		○			1						
		応用解析Ⅰ	2前		2		○								兼2	オムニバス
		プログラミング言語	2前		2		○			1						※演習
		地学１	2前		2		○			1						
		データ解析	2前		2		○				1				兼2	オムニバス
		自然環境論	2前		2		○			1					兼2	オムニバス　※実習
		水理学および構造力学演習１	2前		1			○		3						共同
		水理学２	2後		2		○			1						
		構造力学２	2後		2		○			1						
		地盤工学１	2後		2		○			2						オムニバス
		鉄筋コンクリート構造	2後		2		○			1						※演習
		応用解析Ⅱ	2後		2		○				1				兼1	オムニバス
		都市・地域計画	2後		2		○			1	1					オムニバス
		空間情報学	2後		2		○			1						
		システム最適化	2後		2		○			1						
		生活環境論	2後		2		○			1						
		水環境システム学	2後		2		○								兼1	
		空間情報学実習	2後		2				○	1						
		水理学および構造力学演習２	2後		1			○		2						共同
		鉄筋コンクリート構造演習	2後		1			○		1						
		専門演習１	3前		2			○		1						
		地盤工学２	3前		2		○			2						オムニバス
		空間デザイン演習	3前		2			○		1					兼1	共同
		コミュニティデザイン	3前		2		○				1					
		交通計画	3前		2		○				1					
		空間設計実習	3前		2				○		1				兼2	共同
		環境解析	3前		2		○			1						
		防災工学	3前		2		○								兼1	
		振動と耐震	3前		2		○			1						
		海岸・港湾工学	3前		2		○			1						
		国土・都市行政	3前		2		○								兼1	
		水文学	3前		2		○			1	1					オムニバス
		環境エネルギー工学	3前		2		○								兼1	
		地盤工学演習	3前		1			○		2						共同
		政策分析・評価	3前		2		○				2					オムニバス
		地形・地質工学	3前		2		○			3						オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		水環境工学	3前		2		○								兼1	
		専門演習２	3後		2			○			1				兼1	オムニバス
		力学実験	3後		3				○	5					兼2	オムニバス
		現場実習	3後		2				○	1						
		数値解析	3後		2		○			1						
		環境リスク評価論	3後		2		○			1						
		固体力学	3後		2		○			1						
		河川工学	3後		2		○			1						
		維持管理工学	3後		2		○								兼1	
		基礎生態学	3後		2		○								兼1	
		機能とデザイン演習	3後		2			○		1	1				兼2	共同
		シミュレーション工学	3後		2		○			1					兼1	オムニバス
		地理空間情報学	3後		2		○			1						
		政策評価手法	4前		2		○			1						※演習
		都市水循環	4前		2		○			1						
		計算力学	4前		2		○			1						
		材料科学論	4前		2		○			1					兼1	オムニバス
		地盤動力学	4前		2		○			1						
		構造物の安全性・信頼性	4前		2		○			1						
		気象学	4前		2		○				1					
		海岸水理学	4前		2		○			1						
		離散選択モデル	4前		2		○				1					
		連続体力学	4前		2		○								兼1	
		地盤構造物の設計・施工・維持管理	4前		2		○			1					兼1	オムニバス
		輸送システム	4後		2		○				1				兼1	オムニバス
		小計(77科目)	－	16	134	0	－			9	3	0	0	0	兼36	－
学部間共通科目		短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○							兼17	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○								兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	オムニバス
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		小計（27科目）	－	0	57	4	－			0	0	0	0	0	兼65	－
		キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	
		先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○								兼9	
		先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	産業キャリアプログラム科目	先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○								兼10	
		産業科学技術論B	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論C	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○							兼10	
		産業科学技術演習B	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術演習C	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術研修Ａ	4前			2		○							兼2	
		産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○							兼2	
		小計(13科目)	－	0	0	13	－			0	0	0	0	0	兼36	－
合計(206科目)			－	24	360	27	－			9	3	0	0	0	兼242	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「ドイツ語ＡⅠ」から「日本語ＢⅡ」までの16科目のうち、いずれか一か国の言語を選択して4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から9単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目から1単位以上、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から103単位修得 ・「基礎科目」区分から10単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部精密機械工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○								兼10	
		英語表現演習２	1後	1			○								兼10	
		英語表現演習３	2前	1			○								兼10	
		英語表現演習４	2後	1			○								兼10	
		英語講読演習１	1前	1			○								兼10	
		英語講読演習２	1後	1			○								兼10	
		英語講読演習３	2前	1			○								兼8	
		英語講読演習４	2後	1			○								兼9	
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○								兼1	
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3	
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1	
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○								兼1	
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○								兼1	
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○								兼1	
		上級英語試験講座	3･4前		1		○								兼1	
		小計（16科目）	－	8	8	0	－			0	0	0	0	0	兼32	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼4	
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼4	
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼4	
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼4	
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		小計（32科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼18	－
		体育実技ＡⅠ	1前・後		1				○				1		兼6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技ＡⅡ	1前・後		1				○				1		兼6	
		体育実技ＢⅠ	2前・後		1				○						兼6	
		体育実技ＢⅡ	2前・後		1				○						兼6	
		健康スポーツ科学	2前		2		○								兼1	
		スポーツ科学	2後		2		○								兼1	
		生涯スポーツ科学	2前		2		○								兼1	
		スポーツ解析	2･3･4前		2		○								兼1	
		ライフセービング	2･3･4前		2		○								兼2	共同
		小計（9科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	1	0	兼8	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	
		法学	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼4	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼5	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○								兼7	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（38科目）	－	0	76	0	－			0	0	0	0	0	兼21	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部）
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○								兼4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○			1					兼13	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○		1					兼7	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	25	0	－			1	0	0	0	0	兼33	－
専門教育科目	基礎科目	数学Ⅰ	1前	2			○								兼2	
		数学Ⅱ	1前	2			○								兼2	
		数学Ⅲ	1後	2			○								兼2	
		数学Ⅳ	1後	2			○								兼2	
		数学演習Ⅰ	1前	2				○							兼2	
		数学演習Ⅱ	1後	2				○							兼2	
		物理実験	1前	2					○						兼1	
		物理学	1後		2		○								兼1	
		化学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		化学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	14	6	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
	コア科目	力学Ⅰ	1前	2			○			1						
		力学Ⅱ	1後	2			○			1						
		情報処理	1前	2			○				1					
		材料力学Ⅰ	1後	2			○			1						
		精密機械材料Ⅰ	1後	2			○			1						
		設計製図通論	1後	2					○	1						
		精密機械工学概論	1前	2			○			10	2					オムニバス
		精密機械工学特別講義	1後	2			○			1					兼11	オムニバス
		精密機械工学演習	1前	2				○		1						
		機構学	1後	2			○			1						
		機械力学Ⅰ	2前	2			○			1						
		流体力学Ⅰ	2前	2			○				1					
		工業熱力学	2後	2			○			1						
		材料加工学Ⅰ	2前	2			○			1						
		精密機械製図	2前	2					○	2						
		電気工学	2前	2			○			1						
		制御工学Ⅰ	2前	2			○			1						
		精密機械工学プロジェクト	2後	2					○	8	1					共同
		伝熱工学	3前	2			○			1						
		計測工学Ⅰ	3前	2			○			1						
		精密機械工学実験	3前	2					○	2	1				兼1	共同
		卒業研究Ⅰ	4前	3				○		11	2					
		卒業研究Ⅱ	4後	3				○		11	2					
		小計（23科目）	－	48	0	0	－			11	2	0	0	0	兼12	－
	コア選択科目	情報処理演習	1前		2			○			1					
		機械力学演習	2前		2			○		1						
		材料力学演習	2後		2			○		2						
		流体力学演習	2後		2			○			1					
		電子回路	2後		2		○			1						
		制御工学演習	2後		2			○		1						
		応用数学Ⅰ	2後		1		○								兼1	
		応用数学Ⅱ	2前		1		○								兼1	
		応用数学Ⅲ	2前		1		○								兼1	
		応用数学Ⅳ	2後		1		○				1					
		熱工学演習	3前		2			○							兼1	
		小計（11科目）	－	0	18	0	－			5	2	0	0	0	兼4	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	展開科目	工業技術史	1後		2		○								兼1	
		機械力学Ⅱ	2後		2		○			1						
		材料力学Ⅱ	2後		2		○			1						
		情報工学演習	2前		2			○		1						
		計算工学Ⅰ	2後		2		○				1					
		精密機械材料Ⅱ	2前		2		○			1						
		材料加工学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		代数学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		代数学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		音響工学	3後		2		○			1						
		弾塑性学	3後		2		○			1						
		流体力学Ⅱ	3前		2		○				1					
		ソフトコンピューティング	3後		2		○								兼1	
		材料強度学	3前		2		○			1						
		トライボロジー	3後		2		○								兼1	
		加工制御工学	3前		2		○								兼1	
		工作機械学	3後		2		○								兼1	
		生産システム工学	3後		2		○								兼1	
		設計システム工学	3後		2		○				1					
		工業デザイン	3後		2		○			1					兼5	オムニバス
		マイクロマシン	3後		2		○			1						
		制御工学Ⅱ	3前		2		○			1						
		メカトロニクス	3後		2		○			1						
		ロボット工学	3前		2		○			1						
		現代制御理論	3後		2		○			1						
		計測工学Ⅱ	3後		2		○			1						
		光学	3前		2		○								兼1	
		生体工学	3後		2		○			1						
		医用精密工学	3後		2		○								兼1	メディア
		情報機器	3後		2		○								兼4	オムニバス
		科学技術英語	3後		2		○								兼1	
		機械要素設計	3後		2		○			1						
		幾何学Ⅰ	3前		2		○								兼1	メディア
		幾何学Ⅱ	3後		2		○								兼1	メディア
		計算工学Ⅱ	4前		2		○			1						
		画像処理	4前		2		○			1						
		品質工学	4後		2		○								兼1	
		小計（37科目）	－	0	74	0	－			10	2	0	0	0	兼20	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○					1		兼16	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○					1		兼16	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	
	AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○								兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	オムニバス
	AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
	AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
	小計（27科目）	－	0	57	4	－			0	0	0	1	0	兼64	－
自由科目 産業キャリア教育プログラム	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	共同
	知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	オムニバス
	先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○								兼9	オムニバス
	先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○								兼1	
	先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○								兼1	
	産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○								兼10	オムニバス
	産業科学技術論Ｂ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
	産業科学技術論Ｃ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
	産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○							兼10	オムニバス
	産業科学技術演習Ｂ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
	産業科学技術演習Ｃ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
	産業科学技術研修Ａ	4前			2		○							兼2	共同
	産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○							兼2	共同
	小計（13科目）	－	0	0	23	－			0	0	0	0	0	兼36	－
教職科目	数学科教育法１	3前			2		○							兼2	
	数学科教育法２	3後			2		○							兼2	
	数学科教育法３	4前			2		○							兼2	
	数学科教育法４	4後			2		○							兼2	
	職業指導Ⅰ	3前			2	○								兼1	※演習
	職業指導Ⅱ	3後			2	○								兼1	※演習
	工業科教育法１	3前			2		○							兼1	
	工業科教育法２	3後			2		○							兼1	
	小計（8科目）	－	0	0	16	－			0	0	0	0	0	兼4	－
合計（238科目）		－	70	310	43	－			11	2	0	1	0	兼248	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「英語コミュニケーション１」から「日本語ＢⅡ」までの23科目（ただし、「第二外国語」区分から履修する場合は、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から9単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目から1単位以上、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から103単位修得 ・「基礎科目」区分の「数学Ⅰ」から「物理実験」までの7科目14単位、「コア科目」区分から48単位、「コア選択科目」区分から14単位以上、「展開科目」区分から27単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部電気電子情報通信工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○								兼8
		英語表現演習２	1後	1			○								兼8
		英語表現演習３	2前	1			○								兼7
		英語表現演習４	2後	1			○								兼7
		英語講読演習１	1前	1			○								兼9
		英語講読演習２	1後	1			○								兼9
		英語講読演習３	2前	1			○								兼9
		英語講読演習４	2後	1			○								兼9
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○								兼1
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○								兼1
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○								兼1
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○								兼1
		上級英語試験講座	3･4前		1		○								兼1
		小計（16科目）	－	8	8	0	－			0	0	0	0	0	兼29	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼2
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼2
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼2
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼2
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼4
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼4
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼4
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼4
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		小計（32科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼19	－
		体育実技ＡⅠ	1前・後	1					○						兼6	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技ＡⅡ	1前・後	1					○						兼6	
		体育実技ＢⅠ	2前・後		1				○						兼6	
		体育実技ＢⅡ	2前・後		1				○						兼6	
		健康スポーツ科学	1前		2		○								兼1	
		スポーツ科学	1後		2		○								兼1	
		生涯スポーツ科学	1前		2		○								兼1	
		スポーツ解析	2･3･4前		2		○								兼1	
		ライフセービング	2･3･4前		2		○								兼2	共同
		小計（9科目）	－	2	12	0	－			0	0	0	0	0	兼8	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	
		法学	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼4	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼5	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○								兼7	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（38科目）	－	0	76	0	－			0	0	0	0	0	兼21	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部）
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○								兼4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○								兼14	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○							兼8	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	25	0	－			0	0	0	0	0	兼34	－
	基礎科目	微分・積分１	1前	4			○								兼3	
		微分・積分２	1後	4			○								兼3	
		線形代数１	1前	2			○								兼2	
		線形代数２	1後	2			○								兼2	
		物理１	1前	2			○								兼1	
		物理２	1後	2			○								兼1	
		物理実験	1後	2					○						兼1	
		化学１	1前		2		○								兼1	
		化学２	1後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	18	4	0	－			0	0	0	0	0	兼9	－
	コア科目	電気電子情報通信工学概論	1前	1			○			10	4					オムニバス
		回路基礎及演習１	1後	3				○		1						
		ディジタル代数及演習	1前	3				○		1						
		技術文書作成演習	1前	1				○		1						
		プログラム言語及演習１	1前	2				○			1					
		プログラム言語及演習２	1後	2				○			1					
		解析概論	2前	4			○			1						
		電磁気学及演習１	2前	3				○		1						
		電磁気学及演習２	2後	3				○		1						
		回路基礎及演習２	2前	3				○		1						
		制御工学	2後	2			○			1						
		電子回路１	2後	2			○				1					
		電子物性	2前	2			○			1						
		情報理論	2後	2			○			1						
		電気電子情報通信実験	3前・後	6					○	10	4					共同
		卒業研究Ⅰ	4前	3				○		10	4					
		卒業研究Ⅱ	4後	3				○		10	4					
		小計（17科目）	－	45	0	0	－			10	4	0	0	0	兼0	－
専門教育科目		確率及統計	2前		2		○								兼1	
		材料力学概論	2前		2		○				1					
		電磁気計測	2後		2		○			1						
		半導体工学	2後		2		○			1						
		電子計測	2後		2		○			1						
		数値解析	2後		2		○			1						
		アルゴリズムとデータ構造	2前		2		○			1						
		数理計画法	2前		2		○			1						
		コンピュータ工学基礎	2前		2		○				1					
		電気回路	2後		2		○			1						
		電気機器基礎	2前		2		○			1						
		代数学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		代数学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		発変電工学	3前		2		○								兼1	
		送配電工学	3後		2		○								兼1	
		電気機器応用	3前		2		○								兼1	
		パワーエレクトロニクス	3前		2		○								兼1	
		電気化学と電池	3前		2		○				1					
		システム制御	3前		2		○			1						
		センシング工学	3後		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	展開科目	電磁界理論	3前		2		○			1						
		電磁波工学	3後		2		○			1						
		光エレクトロニクス	3後		2		○			1						
		電気・電子材料	3後		2		○				1					
		電子回路２	3前		2		○				1					
		電子回路設計	3後		2		○								兼1	
		ディジタル回路	3後		2		○								兼1	
		信号処理	3前		2		○			1						
		情報通信伝送	3後		2		○			1						
		量子論	3前		2		○			1						
		情報数学	3前		2		○			1						
		情報セキュリティ基礎	3前		2		○				1					
		電気機器設計	3後		2		○								兼1	
		先端技術特別講義１	3前		2		○			1						
		機械学習	3前		2		○			1						
		幾何学Ⅰ	3前		2		○								兼1	メディア
		幾何学Ⅱ	3後		2		○								兼1	メディア
		工学デザイン概論	4前		2		○								兼1	
		科学技術英語	4前		2		○			1						
		品質管理	4後		2		○								兼1	
		新エネルギー技術	4前		2		○				1					
		電力応用	4前		2		○								兼1	
		電気法規及施設管理	4前		2		○								兼1	
		ロボット工学	4後		2		○			1						
		応用数理解析	4前		2		○			1						
		情報通信ネットワーク	4前		2		○			1						
		通信機器	4後		2		○			1						
		通信法規	4後		2		○								兼1	
		コンピュータシステムとインターネット	4後		2		○				1					
		データベース工学	4後		2		○								兼1	
		コンピュータグラフィックス	4前		2		○								兼1	
		情報通信産業論	4前		2		○								兼1	
		生体情報工学	4後		2		○				1					
		先端技術特別講義２	4前		2		○			1						
		小計（54科目）	－	0	108	0	－			9	4	0	0	0	兼17	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○							兼17	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○								兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		小計（27科目）	－	0	57	4	－			0	0	0	0	0	兼65	－
自由科目	産業キャリア教育プログラム	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	共同
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	オムニバス
		先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○								兼9	オムニバス
		先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○								兼1	
		先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○								兼10	オムニバス
		産業科学技術論Ｂ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論Ｃ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○							兼10	オムニバス
		産業科学技術演習Ｂ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術演習Ｃ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術研修Ａ	4前			2		○							兼2	共同
		産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○							兼2	共同
		小計（13科目）	－	0	0	23	－			0	0	0	0	0	兼36	－
教職科目		数学科教育法１	3前			2		○							兼2	
		数学科教育法２	3後			2		○							兼2	
		数学科教育法３	4前			2		○							兼2	
		数学科教育法４	4後			2		○							兼2	
		情報科教育法	3後			4		○							兼1	
		職業指導Ⅰ	3前			2	○								兼1	
		職業指導Ⅱ	3後			2	○								兼1	
		工業科教育法１	3前			2		○							兼1	
		工業科教育法２	3後			2		○							兼1	
		小計（9科目）	－	0	0	20	－			0	0	0	0	0	兼4	－
合計（238科目）			－	73	322	47	－			10	4	0	0	0	兼228	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「英語コミュニケーション１」から「日本語ＢⅡ」までの23科目（ただし、「第二外国語」区分から履修する場合は、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目2単位、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から102単位修得 ・「基礎科目」区分の「微分･積分１」から「物理実験」までの7科目18単位、「コア科目」区分から45単位、「展開科目」区分から39単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部応用化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○								兼7	
		英語表現演習２	1後	1			○								兼8	
		英語表現演習３	2前	1			○								兼10	
		英語表現演習４	2後	1			○								兼10	
		英語講読演習１	1前	1			○			1	1				兼7	
		英語講読演習２	1後	1			○			1	1				兼7	
		英語講読演習３	2前	1			○								兼9	
		英語講読演習４	2後	1			○								兼9	
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○								兼1	
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3	
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1	
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○			1						
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○								兼1	
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○								兼1	
		上級英語試験講座	3･4前		1		○				1					
		小計（16科目）	－	8	8	0	－			1	1	0	0	0	兼31	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼2	
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼2	
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼2	
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼2	
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼3	
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼3	
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼3	
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼3	
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		小計（32科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼18	－
		体育実技ＡⅠ	1前・後	1					○	1					兼7	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技ＡⅡ	1前・後	1					○	1					兼7	
		体育実技ＢⅠ	2前・後		1				○	1					兼5	
		体育実技ＢⅡ	2前・後		1				○	1					兼5	
		健康スポーツ科学	2前		2		○								兼1	
		スポーツ科学	2後		2		○			1						
		生涯スポーツ科学	2前		2		○								兼1	
		スポーツ解析	2･3･4前		2		○								兼1	
		ライフセービング	2･3･4前		2		○								兼2	共同
		小計（9科目）	－	2	12	0	－			1	0	0	0	0	兼8	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○			1						
		法学	1･2･3･4前・後		2		○			1						メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○			1						メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○			1						メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○				1					
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○				1					
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○			1				兼3	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○		1	2				兼2	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○								兼7	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（38科目）	－	0	76	0	－			1	2	0	0	0	兼18	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部）
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○								兼4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○								兼14	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○							兼8	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○				1					
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	25	0	－			0	1	0	0	0	兼33	－
専門教育科目	基礎科目	微分・積分１	1前	4			○								兼3	
		微分・積分２	1後	4			○								兼3	
		物理１	1前	2			○								兼2	
		物理２	1後	2			○								兼2	
		物理実験	1後	2					○						兼1	
		基礎物理化学	1前	2			○			1						
		物理化学１	1後	2			○				1					
		化学実験	2後	2					○	1						
		小計（8科目）	－	20	0	0	－			2	1	0	0	0	兼9	－
	コア科目	基礎無機化学	1前	2			○			1						
		無機化学１	1後	2			○			1						
		基礎有機化学	1前	2			○				1					
		有機化学１	1後	2			○			1						
		化学情報処理	1前	2				○		1						
		基礎化学工学	1後	2			○				1					
		応用化学実験１	3前・後	3					○	2						
		応用化学実験２	3前・後	3					○	1	1					
		応用化学実験３	3前・後	3					○	2	1					
		応用化学実験４	3前・後	3					○	1	1					
		卒業研究Ⅰ	4前	4				○		11	3					
		卒業研究Ⅱ	4後	4				○		11	3					
		小計（12科目）	－	32	0	0	－			11	3	0	0	0	兼0	－
	コア選択科目	線形代数１	1前		2		○								兼1	
		線形代数２	1後		2		○								兼2	
		物理化学２	2前		2		○			1						
		物理化学３	2後		2		○			1						※演習
		物理化学演習	2後		2			○		1						
		無機化学２	2前		2		○								兼1	
		分析化学	2前		2		○			1						
		無機化学演習	2後		2			○		4						オムニバス 共同（一部）
		有機化学２	2前		2		○			1						
		有機化学３	2後		2		○			1						
		化学工学１	2前		2		○			1						
		化学工学２	2後		2		○			1						
		物理化学４	3前		2		○				1					
		物理化学５	3後		2		○			1						
		無機化学３	3前		2		○			1						
		有機化学４	3前		2		○				1					
		高分子化学	3前		2		○								兼1	
		有機化学演習	2前		1			○		1						
		化学工学演習	3前		1			○		1						
		小計（19科目）	－	0	36	0	－			10	2	0	0	0	兼4	－
		地学１	2・3前		2		○								兼1	
		地学２	2・3後		2		○								兼1	
		生物学１	2・3前		2		○								兼1	
		生物学２	2・3後		2		○								兼1	
		有機分析化学	4前		2		○			1						
		応用有機化学１	4前		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	展開科目	分子機能化学	3・4後		2		○			1						
		生物無機化学	3・4後		2		○			1						
		応用分析化学	3・4後		2		○			1						
		無機材料化学	3・4後		2		○			1						
		有機金属化学	3・4前		2		○			1						
		生物有機化学	3・4後		2		○			1						
		天然物化学	3・4後		2		○				1					
		応用有機化学２	3・4前		2		○			1						
		光機能化学	3・4前		2		○			1						メディア
		化学工学３	3・4前		2		○								兼1	
		化学工学４	3・4前		2		○				1					
		化学工学５	3・4前		2		○								兼1	
		品質管理	3・4後		2		○								兼1	
		小計（19科目）	－	0	38	0	－			7	2	0	0	0	兼5	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○							兼17	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○								兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	オムニバス
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		小計（27科目）	－	0	57	4	－			0	0	0	0	0	兼65	－
		キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	共同
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	オムニバス
		先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○			1					兼8	オムニバス
		先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	産業キャリア教育プログラム	先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○								兼10	オムニバス
		産業科学技術論Ｂ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論Ｃ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○							兼10	オムニバス
		産業科学技術演習Ｂ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術演習Ｃ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術研修Ａ	4前			2		○							兼2	共同
		産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○							兼2	共同
		小計（13科目）	－	0	0	23	－			1	0	0	0	0	兼35	－
教職科目		生物学実験Ⅰ	2前			1			○						兼7	共同
		生物学実験Ⅱ	2後			1			○						兼1	
		地学実験Ⅰ	2前			1			○						兼1	
		地学実験Ⅱ	2後			1			○						兼1	
		理科教育法１	3前			2		○							兼1	
		理科教育法２	3後			2		○							兼1	
		理科教育法３	4前			2		○							兼1	
		理科教育法４	4後			2		○							兼1	
		小計（8科目）	－	0	0	12	－								兼9	－
合計（215科目）			－	62	284	39	－			14	6	0	0	0	兼223	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「英語コミュニケーション１」から「日本語ＢⅡ」までの23科目（ただし、「第二外国語」区分から履修する場合は、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目2単位、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から96単位修得 ・「基礎科目」区分から20単位、「コア科目」区分から32単位、「コア選択科目」区分から30単位以上、「展開科目」区分から10単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を130単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部ビジネスデータサイエンス学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○								兼7
		英語表現演習２	1後	1			○								兼7
		英語表現演習３	2前	1			○				1				兼9
		英語表現演習４	2後	1			○				1				兼9
		英語講読演習１	1前	1			○								兼10
		英語講読演習２	1後	1			○								兼10
		英語講読演習３	2前	1			○								兼9
		英語講読演習４	2後	1			○								兼9
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○				1				
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○								兼1
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○								兼1
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○								兼1
		上級英語試験講座	3･4前		1		○								兼1
		小計（16科目）	－	8	8	0	－			0	1	0	0	0	兼30	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼1
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼1
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼1
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼1
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼3
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼3
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼3
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼3
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1
		小計（32科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼14	－
		体育実技ＡⅠ	1前・後		1				○						兼8	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技ＡⅡ	1前・後		1				○						兼8	
		体育実技ＢⅠ	2･3･4前･後		1				○						兼6	
		体育実技ＢⅡ	2･3･4前･後		1				○						兼6	
		健康スポーツ科学	2･3後		2		○								兼1	
		スポーツ科学	2･3前		2		○								兼1	
		生涯スポーツ科学	2･3後		2		○								兼1	
		スポーツ解析	2･3･4前		2		○								兼1	
		ライフセービング	2･3･4前		2		○								兼2	共同
		小計（9科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	
		法学	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼4	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼5	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○								兼7	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（38科目）	－	0	76	0	－			0	0	0	0	0	兼21	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部）
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○			2					兼2	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○			1					兼13	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○							兼8	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	25	0	－			3	0	0	0	0	兼31	－
専門教育科目	基礎科目	微分・積分１	1前	4			○								兼3	
		微分・積分２	1後	4			○								兼3	
		線形代数１	1前	2			○								兼2	
		線形代数２	1後	2			○								兼2	
		物理１	1前	2			○								兼1	
		化学１	1前	2			○								兼1	
		物理実験	1前		2				○						兼1	
		化学実験	1後		2				○						兼1	
		物理２	1後		2		○								兼1	
		化学２	1後		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	16	8	0	－			0	0	0	0	0	兼13	－
	コア科目	データサイエンス概論	1前	2			○			10	3					
		情報処理	1前	2			○				1					
		情報処理演習	1前	1				○			1					
		プログラム言語及演習１	1後	2				○		1						
		確率論	1前	2			○			1						
		確率論演習	1前	1				○		1						
		統計学	1後	2			○			1						
		統計学演習	1後	1				○		1						
		応用解析１	2前	2			○				1					
		応用解析２	2後	2			○				1					
		データ解析１	2前	2			○				1					
		オペレーションズ・リサーチ１	2前	2			○			1						
		テクニカル・プレゼンテーション	2前	1				○		1						
		データサイエンス実験Ａ	2後	2					○	2	1				兼1	共同
		データ構造とアルゴリズム	2後	2			○			1						
		データサイエンス実験Ｂ	3前	2					○	3	1					共同
		オペレーションズ・リサーチ演習	3前	1				○		1						
		データサイエンス演習	3後	1				○		3					兼3	共同
		卒業研究Ⅰ	4前	2				○		10	3					
		卒業研究Ⅱ	4後	2				○		10	3					
		小計（20科目）	－	34	0	0	－			10	3	0	0	0	兼4	－
	コア選択科目	品質管理	2前		2		○			1						
		企業データ分析	2後		2		○			1						
		生産管理	2後		2		○				1					
		マーケティング・リサーチ	3前		2		○			1						
		サプライチェーン・マネジメント	3後		2		○				1					
		金融工学	3前		2		○			1						
		実験計画法	3前		2		○			1						
		経済性工学	3前		2		○			1						
		データ解析２	2後		2		○				1					
		プログラム言語及演習２	2前		2			○		1						
		オペレーションズ・リサーチ２	2後		2		○			1						
		機械学習基礎論	3前		2		○			1						
		データベース工学	3後		2		○			1						
		深層学習	3後		2		○			1						
		最適化手法	3後		2		○			1						
		時系列解析	4前		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		小計（16科目）	－	0	32	0	－			7	2	0	0	0		－
	展開科目	データサイエンス基礎演習	1後		1			○		3						共同
		応用確率論	2後		2		○				1					
		情報数学	2前		2		○			1						
		情報システムの構造と理論	2前		2		○								兼1	
		情報理論	2前		2		○								兼1	
		経営学基礎論	2前		2		○			1						
		データ処理と可視化	2後		2		○				1					
		人間工学	2前		2		○								兼2	オムニバス
		人工知能基礎論	2前		2		○			1						
		人工知能応用論１	2後		2		○			1						
		代数学Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		代数学Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		生存時間解析	3前		2		○				1					
		数理統計学	3後		2		○			1						
		情報幾何学	3後		2		○			1						
		人工知能応用論２	3後		2		○			1						
		数値解析	3後		2		○								兼1	
		感性工学	3前		2		○								兼1	
		情報通信産業論	3前		2		○			1					兼5	オムニバス
		経営戦略論	3後		2		○			1						
		シミュレーション	3後		2		○								兼1	※演習
		産業心理学	3後		2		○								兼1	
		幾何学Ⅰ	3前		2		○								兼1	メディア
		幾何学Ⅱ	3後		2		○								兼1	メディア
		新製品開発論	4前		2		○			1						
		確率過程論	4前		2		○			1						
		ソフトウェア工学	4前		2		○			1						
		データサイエンス特別講義Ａ	2・3・4前		2		○			1						
		データサイエンス特別講義Ｂ	2・3・4後		2		○			1						
		小計（29科目）	－	0	57	0	－			8	2	0	0	0	兼15	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○							兼17	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○				1				兼3	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○			1					兼8	オムニバス
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア 共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
	小計（27科目）	－	0	57	4	－			1	1	0	0	0	兼63	－
自由科目 産業キャリア教育プログラム	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	共同
	知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	オムニバス
	先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○								兼9	オムニバス
	先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○			1						
	先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○			1						
	産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○			1					兼9	オムニバス
	産業科学技術論Ｂ	1･2･3･4後			2	○			1						
	産業科学技術論Ｃ	1･2･3･4後			2	○			1						
	産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○		2					兼8	オムニバス
	産業科学技術演習Ｂ	1･2･3･4後			1		○		1						
	産業科学技術演習Ｃ	1･2･3･4後			1		○		1						
	産業科学技術研修Ａ	4前			2		○		1					兼1	共同
	産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○		1					兼1	共同
	小計（13科目）	－	0	0	23	－			2	0	0	0	0	兼34	－
教職科目	数学科教育法１	3前			2		○							兼2	
	数学科教育法２	3後			2		○							兼2	
	数学科教育法３	4前			2		○							兼2	
	数学科教育法４	4後			2		○							兼2	
	小計（4科目）	－	0	0	8	－			0	0	0	0	0	兼2	－
合計（228科目）		－	58	309	35	－			10	4	0	0	0	兼224	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「英語コミュニケーション１」から「日本語ＢⅡ」までの23科目（ただし、「第二外国語」区分から履修する場合は、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目から1単位以上、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から102単位修得 ・「基礎科目」区分の「微分・積分１」から「化学１」までの6科目16単位、「物理実験」から「化学実験」までの2科目から2単位以上、「コア科目」区分から34単位、「コア選択科目」区分の「品質管理」から「経済性工学」までの8科目から12単位以上、「データ解析２」から「時系列解析」までの8科目から12単位以上、「展開科目」区分から24単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部情報工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○								兼7	
		英語表現演習２	1後	1			○								兼7	
		英語表現演習３	2前	1			○								兼9	
		英語表現演習４	2後	1			○								兼9	
		英語講読演習１	1前	1			○								兼9	
		英語講読演習２	1後	1			○								兼9	
		英語講読演習３	2前	1			○			1					兼7	
		英語講読演習４	2後	1			○								兼8	
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○								兼1	
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3	
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1	
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○								兼1	
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○								兼1	
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○								兼1	
		上級英語試験講座	3･4前		1		○								兼1	
		小計（16科目）	－	8	8	0	－			1	0	0	0	0	兼32	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼2	
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼2	
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼2	
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼2	
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		小計（32科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼13	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技ＡⅠ	1前・後	1					○						兼8	
		体育実技ＡⅡ	1前・後	1					○						兼8	
		体育実技ＢⅠ	2･3･4前･後		1				○						兼6	
		体育実技ＢⅡ	2･3･4前･後		1				○						兼6	
		健康スポーツ科学	2･3･4前		2		○								兼1	
		生涯スポーツ科学	2･3･4前		2		○								兼1	
		スポーツ科学	2･3･4前		2		○								兼1	
		ライフセービング	2･3･4前		2		○								兼2	共同
		スポーツ解析	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	2	12	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○				1				兼1	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○				1				兼1	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○				1					
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○				1					
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	
		法学	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○			1				兼3	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○			1				兼4	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○				1				兼6	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（38科目）	－	0	76	0	－			0	1	0	0	0	兼20	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○						兼3	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼2	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○								兼4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○								兼14	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○							兼8	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	25	0	－			0	0	0	0	0	兼34	－
専門教育科目	基礎科目	微分・積分１	1前	4			○								兼3	
		微分・積分２	1後	4			○								兼3	
		線形代数１	1前	2			○								兼2	
		線形代数２	1後	2			○								兼2	
		物理１	1前	2			○								兼1	
		物理２	1後	2			○								兼1	
		物理実験	1後		2				○						兼1	
		化学１	1前		2		○								兼1	
		化学２	1後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	16	6	0	－			0	0	0	0	0	兼11	－
	コア科目	情報基礎数学	1前	2			○			1						
		映像情報学	1後	2			○			1						
		情報総合概論	1前	2			○				1					
		コンピュータの構造	1後	2			○				1					
		Ｃプログラミング初級	1前	2			○			1						
		Ｃプログラミング初級演習	1前	2				○		1						
		Ｃプログラミング中級演習	1後	2				○			1					
		情報総合演習	1後	2				○		2						共同
		社会情報学１	2後	2			○			1						
		数理基礎１	2前	2			○				1					
		数理基礎２	2後	2			○			1						
		応用数学	2前	2			○			1						
		知能情報学	2前	2			○			1						
		データベース技術	2前	2			○				1					
		数理情報学１	2前	2			○			1						
		数理情報学２	2後	2			○			1						
		数値計算１	2後	2			○			1						
		プログラミング上級演習	2前	2				○			1					
		アルゴリズムとデータ構造演習	2後	2				○		1						
		オペレーティングシステム技術	3後	2			○			1						
		ネットワーク技術	3前	2			○				1					
		ソフトウェア技術	3後	2			○			1						
		基盤系オブジェクト指向プログラミング演習	3前	2				○		1						
		開発系プログラミング演習	3後	2				○			1					
		卒業研究Ⅰ	4前	2				○		8	3					
		卒業研究Ⅱ	4後	2				○		8	3					
		小計（26科目）	－	52	0	0	－			8	3	0	0	0		－
		論文演習	1前		2			○		1						
		空間数学	1後		2		○			1						
		物理応用	2後		2		○								兼1	
		地理空間情報技術	2後		2		○				1					
		画像・映像コンテンツ演習１	2後		2			○		1						
		数値計算２	3後		2		○			1						
		サイバー技術	3前		2		○			1						
		ディジタル信号処理	3前		2		○			1						
		マルチメディア情報処理	3後		2		○			1						
		情報・通信理論	3前		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	展開科目	暗号理論	3後		2		○			1						
		最適化	3前		2		○			1						
		ディジタル形状処理	3後		2		○				1					
		大規模・高速計算	3前		2		○			1						
		計算幾何学	3後		2		○			1						
		ネットワークアルゴリズム	3後		2		○			1						
		コンピュータ設計	3前		2		○			1						
		情報ビジネス	3前		2		○								兼1	
		社会情報学２	3後		2		○				1					
		実践プログラミング	3前		2			○			1					
		画像・映像コンテンツ演習２	3前		2			○		1						
		画像・映像コンテンツ演習３	3後		2			○		1						
		幾何学Ⅰ	3前		2		○								兼1	メディア
		幾何学Ⅱ	3後		2		○								兼1	メディア
		コンピュータグラフィックス	4前		2		○			1						
		コンパイラ設計	4前		2		○								兼1	※演習
		システムプログラム	4前		2		○			1						
		画像・映像コンテンツ演習４	4前		2			○		1						
		小計（28科目）	－	0	56	0	－			8	3	0	0	0	兼5	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○							兼17	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○							兼17	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○								兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	オムニバス
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
		小計（27科目）	－	0	57	4	－			0	0	0	0	0	兼65	－
		キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○			1				兼1	共同
		知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	オムニバス
		先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○								兼9	オムニバス
		先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○								兼1	
		先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	産業キャリア教育プログラム	オープンプロジェクト演習	1･2･3･4前			2		○							兼2	
		産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○								兼10	オムニバス
		産業科学技術論Ｂ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術論Ｃ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
		産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○							兼10	オムニバス
		産業科学技術演習Ｂ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術演習Ｃ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
		産業科学技術研修Ａ	4前			2		○							兼2	共同
		産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○							兼2	共同
		小計（14科目）	－	0	0	23	－			0	1	0	0	0	兼37	－
教職科目		数学科教育法１	3前			2		○							兼2	
		数学科教育法２	3後			2		○							兼2	
		数学科教育法３	4前			2		○							兼2	
		数学科教育法４	4後			2		○							兼2	
		情報科教育法	3後			4		○							兼1	
		小計（5科目）	－	0	0	12	－			0	0	0	0	0	兼2	－
合計（218科目）			－	78	272	39	－			9	4	0	0	0	兼216	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から12単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「英語コミュニケーション１」から「日本語ＢⅡ」までの23科目（ただし、「第二外国語」区分から履修する場合は、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目2単位、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から102単位修得 ・「基礎科目」区分の「微分・積分１」から「物理２」までの6科目16単位、「コア科目」区分から52単位、「展開科目」区分から34単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部人間総合理工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	英語	英語表現演習１	1前	1			○			1					兼7	
		英語表現演習２	1後	1			○			1					兼7	
		英語表現演習３	2前	1			○								兼6	
		英語表現演習４	2後	1			○								兼6	
		英語講読演習１	1前	1			○								兼7	
		英語講読演習２	1後	1			○								兼7	
		英語講読演習３	2前	1			○								兼7	
		英語講読演習４	2後	1			○								兼7	
		留学準備講座	1･2･3･4前・後		1		○								兼1	
		英語コミュニケーション１	3･4前		1		○								兼3	
		英語コミュニケーション２	3･4後		1		○								兼3	
		アカデミック・コミュニケーション	3･4前		1		○								兼1	
		アカデミック・R&W	3･4後		1		○								兼1	
		中級英語試験講座１	3･4前		1		○			1						
		中級英語試験講座２	3･4後		1		○			1						
		上級英語試験講座	3･4前		1		○								兼1	
		小計（16科目）	－	8	8	0	－			1	0	0	0	0	兼28	－
	第二外国語	ドイツ語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		中国語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		中国語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		中国語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		日本語ＡⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅡ	1後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅠ	1前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ＡⅢ	2前		1		○			1						
		ドイツ語ＡⅣ	2後		1		○			1						
		ドイツ語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		フランス語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		中国語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		中国語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＡⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＡⅣ	2後		1		○								兼1	
		日本語ＢⅢ	2前		1		○								兼1	
		日本語ＢⅣ	2後		1		○								兼1	
		小計（32科目）	－	0	32	0	－			1	0	0	0	0	兼11	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技ＡⅠ	1前・後	1					○	1	1				兼5	
		体育実技ＡⅡ	1前・後	1					○	1	1				兼5	
		体育実技ＢⅠ	2前・後		1				○	1	1				兼4	
		体育実技ＢⅡ	2前・後		1				○	1	1				兼4	
		ライフセービング	1前		2		○			1					兼1	共同
		健康スポーツ科学	2･3･4後		2		○								兼1	
		スポーツ科学	2･3･4前		2		○								兼1	
		生涯スポーツ科学	2･3･4後		2		○				1					
		スポーツ解析	2･3･4前		2		○				1					
		小計（9科目）	－	2	12	0	－			1	1	0	0	0	兼7	－
	人文社会	哲学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼2	
		哲学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼2	
		倫理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		倫理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		言語・記号論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報・メディア論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学思想Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学思想Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		心理学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		芸術Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		芸術Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		憲法	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	
		法学	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	メディア
		経済Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経済Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		政治学Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		現代社会論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代社会論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		環境論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○			1						
		環境論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○			1						
		生命と多様性Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生命と多様性Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		欧米の文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		アジアの文化と歴史Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本の歴史と現代Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報社会と倫理・職業	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		環境行政概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		教養演習Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼4	
		教養演習Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼5	
		日本語リテラシー基礎演習	1･2･3･4前・後		2			○							兼3	オムニバス
		科学技術と倫理	1･2･3･4前		2		○			1					兼6	オムニバス
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（38科目）	－	0	76	0	－			1	0	0	0	0	兼20	－
	グローバル・学際	グローバルスタディーズA	1･2･3･4前・後		2				○	1	1				兼2	
		グローバルスタディーズBⅠ	1･2･3･4前・後		1				○		1				兼2	
		グローバルスタディーズBⅡ	1･2･3･4前・後		1				○		1				兼2	
		グローバルインターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○	1					兼1	
		グローバルアントレプレナーシップ入門	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		グローバルアントレプレナーシップ演習	1･2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		技術と法	1･2･3･4前		2		○								兼3	オムニバス 共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		産業財産権法	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		知的財産法演習	1･2･3･4後		2			○							兼4	オムニバス
		ＡＩ・データサイエンス工学概論	1後		2		○								兼4	オムニバス・メディア ※演習
		学問最前線	1前		2		○			1					兼13	オムニバス・メディア 共同（一部）
		学際最前線	3前		2			○		1					兼7	オムニバス 共同（一部）
		多文化共生論	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		障害学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（14科目）	－	0	25	0	－			2	1	0	0	0	兼31	－
専門教育科目	基礎科目	微分・積分１	1前	4			○								兼2	
		微分・積分２	1後	4			○								兼2	
		線形代数１	1前	2			○								兼1	
		物理１	1前		2		○								兼1	
		物理２	1後		2		○								兼1	
		化学１	1前		2		○								兼1	
		化学２	1後		2		○								兼1	
		線形代数２	1後		2		○								兼1	
		化学実験	1後		2				○						兼1	
		物理実験	1後		2				○						兼1	
		小計（10科目）	－	10	14	0	－			0	0	0	0	0	兼10	－
	コア科目	認知脳科学	1後	2			○			1						
		空間情報科学概論	1後	2			○			1	1					オムニバス
		生命倫理	1前	2			○			1						
		都市と環境	1前	2			○			1	1					オムニバス
		基礎生態学	1前	2			○			1						
		エネルギー創造学	1後	2			○			1						
		フレッシュマンセミナー	1前	1			○			6	2					オムニバス
		確率・統計１	1後	2			○								兼1	
		情報処理	1前	2			○			1						
		環境物理化学	1後	2			○			1						
		情報処理演習	1後	1				○		1						
		応用認知心理学	2前	2			○			1						
		都市空間と行動	2前	2			○			1	1					オムニバス
		人体の構造と機能	2前	2			○								兼2	オムニバス
		健康科学概論	2前	2			○				1				兼1	オムニバス
		生物統計学	2後	2			○				1					
		環境デザイン論	3後	2			○			1	1					オムニバス ※演習
		保全生態学概論	2後	2			○			2						オムニバス
		水環境システム学	2後	2			○			1						
		環境エネルギー工学	3前	2			○			1						
		ソフォモアセミナー	2前	1			○			5	2					オムニバス
		救急理論・実習	2前・後	1					○	1					兼1	共同
		デザイン技法	2前	2				○			1					
		プログラミング言語１	2後	2			○								兼1	※演習
		人間総合理工学演習１	3前	3				○		5	2					オムニバス 共同（一部）
		人間総合理工学演習２	3後	3				○		5	2					共同
		環境エネルギー・自然誌実習	3前	3					○	3					兼1	オムニバス 共同（一部）
		認知科学・健康科学実習	3後	3					○	1	1				兼1	オムニバス 共同（一部）
		卒業研究Ⅰ	4前	2				○		6	2					
		卒業研究Ⅱ	4後	2				○		6	2					
		小計（30科目）	－	60	0	0	－			6	2				兼8	－
		心理統計学	2前		2		○								兼1	
		心理統計学演習	2前		1			○							兼1	
		保全生態学フィールドワーク・データ解析	2前		2				○	1					兼1	共同
		基礎生物・生化学	2前		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	展開科目	確率・統計２	2後		2		○								兼1	
		地球科学	2前		2		○								兼1	
		科学技術の発展と人間社会	2後		2		○								兼1	
		現代物理学１	2前		2		○								兼1	メディア
		現代物理学２	2後		2		○								兼1	
		地学１	2前		2		○								兼1	
		地学２	2後		2		○								兼1	
		微生物学	2後		2		○								兼1	メディア
		エコロジカルプランニング	3・4後		2		○			2	1					オムニバス 共同（一部）※演習
		機器分析化学	3・4後		2		○			1						
		ヒューマンウエルネス論	3・4後		2		○			1					兼2	オムニバス
		サスティナビリティ行動科学	3・4前		2		○			2						オムニバス
		物質エネルギー操作	3・4前		2		○			1						
		水環境工学	3前		2		○			1						
		ヒューマンバイオロジー	3後		2		○			1						
		保健医療情報処理	3前		2		○				1					
		プログラミング言語２	3前		1		○								兼1	※演習
		応用植生学	3前		2		○			1						
		環境政策	3前		2		○								兼1	
		空間情報モデリング	3前		2		○			1						
		生物統計学演習	3後		1			○			1					
		システム最適化	2後		2		○								兼1	
		都市・地域計画	2後		2		○								兼2	オムニバス
		認知マーケティング	3後		2		○			1						
		交通計画	3前		2		○								兼1	
		都市空間解析	4前		2		○								兼1	
		品質管理	4後		2		○								兼1	
		感性工学	3前		2		○								兼1	
		人間工学	2前		2		○								兼2	オムニバス
		バイオメカニクス	4後		2		○								兼1	
		エイジング生物学	3前		2		○								兼1	
		ヒトと病気の生物学	3前		2		○								兼1	
		医用精密工学	3後		2		○								兼1	
		免疫学	3前		2		○								兼1	
		気象学	4前		2		○								兼1	
		環境リスク評価論	3後		2		○								兼1	
		小計（40科目）	－	0	77	0	－			6	2	0	0	0	兼28	－
	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○		1					兼16	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○		2					兼15	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○		2					兼15	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前		1				○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○								兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	オムニバス
	AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
	AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
	AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
	大学生のための論文作成の技法（発展編）	1前・後			2	○								兼1	メディア
	小計（27科目）	－	0	57	4	－			2	0	0	0	0	兼63	－
自由科目 産業キャリア教育プログラム	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	共同
	知的財産取扱基礎知識	1･2･3･4前			2	○								兼5	オムニバス
	先端科学技術論Ⅰ	3･4前			2	○								兼9	オムニバス
	先端科学技術論Ⅱ	3･4後			2	○								兼1	
	先端科学技術論Ⅲ	3･4後			2	○								兼1	
	産業科学技術論Ａ	1･2･3･4前			2	○								兼10	オムニバス
	産業科学技術論Ｂ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
	産業科学技術論Ｃ	1･2･3･4後			2	○								兼1	
	産業科学技術演習Ａ	1･2･3･4前			1		○							兼10	オムニバス
	産業科学技術演習Ｂ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
	産業科学技術演習Ｃ	1･2･3･4後			1		○							兼1	
	産業科学技術研修Ａ	4前			2		○							兼2	共同
	産業科学技術研修Ｂ	4後			2		○							兼2	共同
	小計（13科目）	－	0	0	23	－			0	0	0	0	0	兼36	－
合計（229科目）		－	80	301	27	－			8	3	0	0	0	兼227	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「外国語教育科目」群から14単位以上修得 ・「英語表現演習１」から「英語講読演習４」までの8科目8単位、「英語コミュニケーション１」から「上級英語試験講座」までの7科目から2単位以上、「ドイツ語ＡⅠ」から「日本語ＢⅡ」までの16科目のうち、いずれか一か国の言語を選択）から4単位以上修得 ■「総合教育科目」群から10単位以上修得 ・「健康・スポーツ」区分の「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの2科目2単位、「人文社会」区分から8単位以上修得 ■「専門教育科目」群から100単位修得 ・「基礎科目」区分の「微分･積分１」から「線形代数１」までの3科目10単位、「物理１」から「物理実験」までの7科目から6単位以上、「コア科目」区分から60単位、「展開科目」区分から24単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を134単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際情報学部国際情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報基盤	国際情報概論	1前	2			○			15	4		1			オムニバス・共同
	基礎情報学	1前	2			○			1						
	プログラミングのための数学	1前		2		○			1						
	インターネット概論	1前	2			○			1						
	情報フルエンシー	1前	2			○			2	1				兼5	
	プログラミング基礎	1後	2			○			2	2				兼4	
	統計学	1後		2		○								兼1	
	データサイエンス基礎	1後		2		○				1					
	情報倫理	1後	2			○			1						
	先端国際情報学	2前	2			○			1						
	情報理論	2前	2			○				1					
	問題解決とアルゴリズム	2後		2		○								兼1	
	コンピュータアーキテクチャ	2前		2		○				1					
	情報ネットワーク論	2前		2		○				1					
	システム開発論	2前		2		○				1					
	情報セキュリティ論	2前		2		○			1						
	アプリケーション開発	2前		2		○			1						
	OSとハードウェア	2後		2		○				1					
	リスクコミュニケーション	2後		2		○			1						
	意思決定論	2後		2		○								兼1	
	システムマネジメント	2後		2		○								兼1	
	データベース論	3･4前		2		○				1					
	システムとソフトウェア	3･4前		2		○			1						
	SNSとコミュニケーション	3･4前		2		○								兼1	
	情報産業における人的資源管理論	3･4前		2		○								兼1	
	ICTケーススタディ（ネットワーク構築）	3･4前		2		○				1					
	セキュリティマネジメント	3･4前		2		○								兼1	
	データマイニングとAI	3･4後		2		○				1					
	小計(28科目)	－	16	40	0	－			15	4	0	1	0	兼12	－
情報法	法学概論	1前	2			○			1	1					
	民事法（総則と情報契約法）	1前	2			○			1						
	情報政策概論	1後	2			○			1						
	情報と憲法	1後	2			○			1						
	刑事法（概論）	1後	2			○				1					
	情報法	1後	2			○			1						
	民事法（情報不法行為法）	2前	2			○			1						
	民事法（財産法総合）	2前		2		○								兼1	
	知的財産法	2前		2		○								兼2	オムニバス・共同
	国際法	2前		2		○								兼1	
	情報プライバシー権法	2前	2			○			1						
	AI・ロボット法	2前	2			○			1						
	法情報学	2前		2		○			1						
	情報政策ワークショップ	2後		2		○			2						オムニバス・共同
	行政法（情報行政法）	2後	2			○			1						
	情報通信法	2後		2		○			1						
	民事法（債権法総合）	2後		2		○								兼1	
	刑事法（サイバー犯罪の刑事規制）	2後		2		○				1					
	法と経済学	2後		2		○			1						
	ICTビジネスと公共政策	3･4前		2		○			1						
	情報政策事例研究	3･4前		2		○			1						
	競争法（情報競争法）	3･4前		2		○			1						
	企業と情報法	3･4前		2		○			1						
	国際私法	3･4前		2		○								兼1	
	刑事法（サイバーセキュリティと刑事法）	3･4前		2		○								兼1	
	情報判例研究A	3･4前		2		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群		情報判例研究B	3･4前		2		○			1						
		情報と国家安全保障	3･4前		2		○			1						
		著作権実務	3･4後		2		○								兼1	
		消費者保護法	3･4後		2		○			1						
		国際規約と国際標準化団体	2前		2		○			1						
		電子商取引法	3･4後		2		○								兼1	
		刑事法（デジタル・フォレンジック）	3･4後		2		○								兼1	
		法交渉学	3･4後		2		○								兼1	
		小計(34科目)	－	20	48	0	－			6	1	0	0	0	兼10	－
	情報発展	学問最前線	1前		2		○			4						オムニバス
		学際最前線	3･4前		2		○			2						オムニバス
		イノベーションと技術	3･4前		2		○								兼1	
		インターフェースデザインとユーザ体験	3･4前		2		○								兼1	
		システムコンサルティング技法	3･4前		2		○			1						
		情報戦略論	3･4前		2		○								兼1	メディア
		システム監査論	3･4前		2		○			1						
		プロジェクトマネジメント	3･4後		2		○								兼1	
		技術戦略論	3･4後		2		○								兼1	
		DX戦略	3･4後		2		○			1						
		デジタルブランディング	3･4後		2		○								兼1	
		ITILとサービスマネジメント	3･4後		2		○								兼1	
		ICTケーススタディ（セキュリティインシデント）	3･4後		2		○			1						
		小計(13科目)	－	0	26	0	－			5	0	0	0	0	兼7	－
	情報実践	メディア論	1後		2		○			1						
		ジャーナリズム論	1後		2		○			1						
		映像制作基礎	1後		2		○								兼1	
		Practical English for Informatics	2前		2		○			1						
		English for Current Topics	2前		2		○								兼1	
		情報社会学Ⅰ	2前		2		○			1						
		ドキュメンタリー論	2前		2		○			1						
		特殊講義A1	2前		2		○			1						
		特殊講義A3	2後		2		○								兼1	
		Technical Writing	2後		2		○								兼1	
		情報社会学Ⅱ	2後		2		○			1						
		特殊講義A2	2後		2		○			1						
		特殊講義A4	2後		2		○								兼1	
		デジタルメディアとコンテンツ	3･4前		2		○								兼1	
		情報サービスとゲーミフィケーション	3･4前		2		○								兼1	
		金融情報システム論	3･4前		2		○								兼1	
		情報教育論	3･4前		2		○								兼1	
		ICTケーススタディ（パケットキャプチ	3･4前		2		○								兼1	
		特殊講義B1	3･4前		2		○			1						
		特殊講義B2	3･4後		2		○								兼1	
		特殊講義B3	3･4後		2		○								兼1	
		広告論	3･4後		2		○								兼1	
		パブリックコミュニケーション	3･4後		2		○								兼1	
		ネットビジネスとマネタイズ	3･4後		2		○								兼1	
		情報と言語	3･4後		2		○			1						
		ブロックチェーンとWeb3	3･4後		2		○			1						
		特殊講義B4	3･4後		2		○			1						
		特殊講義B5	3･4後		2		○			1						
		特殊講義B6	3･4後		2		○			1						
		小計(29科目)	－	0	58	0	－			5	0	0	0	0	兼14	－
演習		基礎演習	1前	2				○		14	4		1			
		国際情報演習Ⅰ	2後		2			○		12	4		1			
		国際情報演習Ⅱ	3前		2			○		12	4		1			
		国際情報演習Ⅲ	3後		2			○		12	4		1			
		国際情報演習Ⅳ	4前		2			○		15	4					
		国際情報演習Ⅴ	4後		2			○		15	4					
		卒業研究	4後		4			○		15	4					
		特定課題研究Ⅰ	4前		2			○		15	4					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		特定課題研究Ⅱ	4後		2			○		15	4					
		小計(9科目)	－	2	18	0	－			16	4	0	1	0	0	－
グローバル・教養科目群	グローバル	論理学Ⅰ	1前	2			○				1					メディア
		情報と国際コミュニケーション	1前		2		○						1			
		論理学Ⅱ	1後	2			○				1					
		宗教学	1後		2		○			1						メディア
		哲学Ⅰ	2前		2		○				1					メディア
		国際関係論	2前		2		○						1			
		情報社会と社会的包摂	2前		2		○								兼1	メディア
		哲学Ⅱ	2後		2		○				1					
		国際文化論	2後		2		○						1			
		比較文明論	2後		2		○								兼1	
		ダイバシティ論	2後		2		○								兼1	
		日本文化論	3･4前		2		○			1						メディア
		宗教とメディア	3･4後		2		○			1						メディア
		異文化間コミュニケーション論	3･4前		2		○								兼1	メディア
		インターネット文化とサブカルチャー	3･4後		2		○			1						
		各国ICT事情	3･4後		2		○								兼1	
		統合英語Ⅰ	1前	2			○			1					兼7	
		ICT留学	1･2･3･4前		2				○	1						
		アカデミックイングリッシュⅠ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		ビジネスイングリッシュⅠ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		統合英語Ⅱ	1後	2			○			1					兼7	
		国際ICTインターンシップ	1･2･3･4後		2				○	1						
		アカデミックイングリッシュⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		ビジネスイングリッシュⅡ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		情報英語Ⅰ	2前	2			○			1					兼7	
		情報英語Ⅱ	2後	2			○			1					兼7	
		小計(26科目)	－	12	40	0	－			4	1	0	1	0	兼12	－
	教養	政治学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		歴史学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		心理学	1･2･3･4前		2		○			1						
		生命科学	1･2･3･4前		2		○								兼1	メディア
		環境科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		ミクロ経済学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		マクロ経済学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		社会学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		文学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		物質科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康・スポーツ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(11科目)	－	0	22	0	－			1	0	0	0	0	兼8	－
学部間共通科目・随意科目	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前		4				○						兼10	メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前・後		2				○						兼4	
		専門インターンシップ	1･2･3･4前・後		1				○						兼1	
		グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前・後		2		○								兼6	
		グローバル総合講座	2･3･4前・後		2		○								兼5	オムニバス
		グローバル集中講義	2･3･4前・後		1		○								兼2	オムニバス・共同（一部）
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後		2			○							兼1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前・後		1				○						兼1	
		学部共通インターンシップⅠ	2前		2				○						兼1	
		学部共通インターンシップⅡ	2後		2				○						兼1	
		ＦＬＰ演習Ａ	2通		4			○		2					兼15	メディア
		ＦＬＰ演習Ｂ	3通		4			○		2					兼15	メディア
		ＦＬＰ演習Ｃ	4通		4			○		1					兼16	メディア
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前・後		2		○			2					兼4	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前・後		2		○								兼9	
		AI・データサイエンスツールⅠ	1前・後		2		○								兼3	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1前		2		○			1						メディア

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		AI・データサイエンスツールⅢ	1後		2		○								兼2	オムニバス・メディア共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1後		2		○								兼1	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前		2			○		1					兼3	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前		2			○		1					兼3	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後		2			○							兼4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前		2			○		1					兼3	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後		2			○							兼4	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1前・後		2		○								兼1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1前・後		2		○								兼1	メディア
		小計(29科目)	－	0	65	0	－			5	0	0	0	0	兼63	－
	随意科目	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前			2		○							兼2	共同
	随意科目	学術情報の探索・活用法	1･2前・後			2	○								兼1	
	随意科目	小計(2科目)	－	0	0	4	－			0	0	0	0	0	兼3	－
合計(181科目)			－	50	305	4	－			16	4	0	1	0	兼126	－

学位又は称号	学士（国際情報）	学位又は学科の分野	法学関係、工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門科目群」から68単位以上（「情報基盤」から30単位以上、「情報法」から30単位以上、「関連科目」から8単位以上）を修得すること。 ■「演習科目群」から2単位を修得すること。 ■「グローバル・教養科目群」から24単位以上（「グローバル」から16単位以上、「教養」から8単位以上）を修得すること。 ■卒業単位として認める単位を合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録上限（年間）：1年次42単位、2年次42単位、3年次38単位、4年次38単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会理工学部都市環境学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語教育科目	英語	英語表現演習1a	○	本科目は、英語でのスムーズかつ明瞭なコミュニケーション能力の育成を目指す。この授業では、我々が直面する諸問題をグローバルな視点から学ぶことを通して、解決すべき問題に対する幅広い知識を得るとともに、それらを批判的に思考する能力を高めることを目指す。また、各授業において、学生同士の情報共有、英語での質疑応答、ペアやグループでの英語での議論を行う。加えて、より発展的な形態での情報発信・情報収集の方法も学習する。こういったさまざまな学習を通して、スピーキング・リスニングの能力を伸ばすのみならず、英語でのスムーズかつ明瞭な発信を、自信をもって行う素地を形成する。英語でのアカデミックなスピーキング・リスニングの能力を伸ばすための学習機会を提供することで、今後の大学生活において必要とされる英語コミュニケーション能力の基礎を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習1b	○	本科目は、英語での明瞭かつ簡潔な文章作成能力の育成を目指す。この授業では、まず基礎的なパラグラフ・ライティングの技法を学び、また、トピック・センテンス、支持文、結論文による段落構成の方法を学ぶ。そして、さまざまな種類のパラグラフ作成練習や自身の主張を支持するための根拠や論拠の用い方についての練習を行う。最終的には、より発展的なライティングの形態として、短いエッセイやレポートの作成方法も学習する。こういった段階的な学習を通して、アカデミック・ライティングの基礎について明確に理解する。英語でのパラグラフ・ライティングや短いレポートの作成方法を学ぶことで、今後の大学生活において必要とされる英語アカデミック・ライティング作成のための基礎的能力を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習2a	○	本科目は、英語でのアカデミック・コミュニケーションとアカデミック・ライティングの能力を有機的に伸ばすことを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力を高める。また、各授業では教室内外において、クラスメートと共に自分たちの関心に基づいたプロジェクト、プレゼンテーション、レポートに取り組むことを通じて、対人スキルや協働スキルを高めるとともに、より複雑で長い話し言葉・書き言葉でのコミュニケーションの構成方法を学ぶ。加えて、これまで学んだ関連語彙や文法を実際に活用し、自らの考えを正確かつ流暢に表現できるようにする。1年次に培った各技能の素地をもとにして、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力を高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習2b	○	本科目は、英語でのアカデミック・コミュニケーションとアカデミック・ライティング能力を有機的に、より発展的に伸ばすことを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力をさらに高めることを目指す。また、各授業において、より高度なライティングとコミュニケーション技能の演習に取り組むことで、複雑な考えを明瞭で明確な方法で表現する方法を学ぶ。学生は質問やフィードバックをすることで、また相互の発表に興味を示すことで、グループやペアでの積極的な授業参加を行う。加えて、話し言葉と書き言葉という異なるジャンルの特徴についても学び、様々な表現の機会のそれぞれにおいて自信をもってコミュニケーションできるようにする。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力をさらに高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習1a	○	本科目は、英語での比較的複雑な文章を流暢かつ正確に読むための能力の育成を目指す。この授業では、社会問題やグローバルな問題―例えば、国際関係、政治、経済、社会と文化―といった題材を取り扱った文章で学習することで、現実世界の諸問題への理解を深めるとともに、アカデミックな語彙や文法の知識を補強する。また、文章の精読方法に加えて、速読のための方法―例えば、スキミングやスキャニング―についても学習する。加えて、読んだ文章に対する要約作成、分析や議論を通した意見表明についても演習を行う。一般的なアカデミック・リーディングの演習を行うことで、文章全体をスムーズに読む能力を育成するとともに、一文一文の構造を読み解く能力を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習1b	○	本科目は、英語講読演習1aで培った英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに伸ばすことを目指す。この授業では、社会問題やグローバルな問題についての理解をより深めるとともに、アカデミックな語彙や文法の知識をさらに補強する。また、一文一文の複雑な構造を読み解くための精読能力のさらなる向上に加えて、さまざまな速読方法を適切に選択・組み合わせることによる速読能力の向上も図る。加えて、批判的思考の基本的な演習―例えば、事実と意見を区別すること、思い込みにとらわれないこと、情報が事実に裏付けられているか判断すること―を通した、批判的読解能力の育成も行う。アカデミック・リーディングの発展的な演習を行うことで、文章をより流暢かつ正確に読む能力を育成するとともに、批判的読解についての意識をより高めることを目的とする。	

外国語教育科目	英語	英語講読演習2a	○	本科目は、1年次の英語講読演習1a・1bに引き続き、英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに展開することを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する理解を深め、自分の意見を表明する能力を高める。また、取り扱うトピックに関連する重要な語彙や文法の知識を補強し、比較的複雑な文章を大きくつまずくことなく正確に読む能力の向上も図る。加えて、1年次に学んだ文章の精読方法や速読方法―例えば、スキミングやスキャニング―や読んだ文章に対する要約作成、分析や議論を通した意見表明についても、より発展的な演習を行う。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する読解能力をさらに高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習2b	○	本科目は、英語講読演習2aで発展的に演習した英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに深化させることを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する理解を深め、自分の意見を表明する能力をさらに高める。また、取り扱うトピックに関連する語彙や文法の知識をさらに補強することにとどまらず、１年次に学んだ批判的読解能力をさらに高めながら、読解した内容を社会や技術の発展に関する幅広い問題に関連づけ、グローバル社会に貢献可能な方法を模索するための演習も行う。加えて、必修での英語履修後にも継続的に活用できる、自学自習のための方法についても取り扱う。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する読解能力をさらに深化させることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	留学準備講座		本科目は、学生が留学を現実的なものとして考え、最終的にはそれぞれの目標に向けて主体的に行動できるよう、留学の応募準備や英語検定試験対策、留学先における授業対策などを行う。また英語で得た情報を理解し、自分の意見を述べる練習を行うことで、留学準備に留まらない英語コミュニケーションカ・発信力の強化も目指す。留学に興味・関心のある学生が、主体的に留学準備を進められるようになり、留学先および各学生の専門分野のグローバルな現場において活用できる、英語力の向上を目指す。また、ある程度アカデミックな内容の英語を理解し、その上で自身の意見を英語で伝える練習等をクラスメイトと行うことで、多様性創発力も養う。	
外国語教育科目	英語	英語コミュニケーションA	○	In this course, students will develop their communication skills in English. They will learn about topics related to scientific, technological and global issues, focusing on areas of direct relevance to themselves and their future goals. They will listen to a variety of English media, including news reports, business conversations, and academic lectures, and increase their knowledge of practical vocabulary and expressions. They will also learn to share information and express their opinions in a clear and logical manner. Through their work in class, students will become more confident speakers of English, gaining skills they can use in their future careers. 本科目は学生の英語でのコミュニケーションスキルを伸ばすためのものである。学生は、自身あるいは将来の目標に直接関係する分野に注目して、科学、技術、またグローバルな問題について学ぶ。ニュース報道、ビジネス会話、学術講演など、さまざまな英語媒体を聴き、実践的な語彙や表現の知識を増やし、明瞭かつ論理的に情報を共有し自分の意見を述べることも学ぶ。学生が本科目での学びを通して、より自信をもって英語を話せるようになり、将来のキャリアで使えるスキルを身に付けることを目標とする。	
外国語教育科目	英語	英語コミュニケーションB	○	In this course, students will continue to develop their communication skills in English. They will listen to different kinds of media related to scientific, technological and global issues and carry out discussions and presentations on topics of personal interest. This course will put a particular focus on learning self-study skills students can use after completing their university studies. Students will be encouraged to look for opportunities to improve their speaking and listening by technology and resources on the internet. Through their work in class, students will gain confidence in their communication skills and learn how to become lifelong learners of English. 本科目で学生は、引き続き英語でのコミュニケーションスキルを伸ばす。科学、技術、またグローバルな問題についてさまざまな英語媒体を聴き、自身が関心をもつトピックについてディスカッションや発表を行う。また本科目では、特に大学卒業後に自身で学び続けるためのスキルを重視し、学生はインターネットの技術やリソースを使ってスピーキング力やリスニング力を高める機会を求めることが推奨される。学生が本科目での学びを通して、コミュニケーションスキルにおいて自信をもち、生涯にわたって英語を学び続ける術を身に付けることを目標とする。	
外国語教育科目	英語	アカデミック・コミュニケーション	○	本科目は、将来のキャリアで英語を使う可能性のある学生、または大学院に進学し国際会議等での活躍を目指す学生を主な対象とし、主に口頭での専門的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。国際的な会議や学会での口頭発表、ポスター発表、質疑応答といった場面を想定した実践的な練習を通して、それぞれの場面での慣習や方略を具体的に学び、専門的な内容を効果的に伝え、議論する力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	アカデミック・R&W	○	本科目は、将来のキャリアで英語を使う可能性のある学生、または大学院に進学し国際会議等での活躍を目指す学生を主に対象とし、主に書き言葉での情報収集と成果発信の能力を養う。専門的な文章の実践的な読解能力、およびアカデミックなコンテクストにおける実践的なライティング能力を高めることを目的とした本科目を通して、英語で書かれた論文や教科書などの文章から必要な情報を獲得し、整理し、他者に伝え、他者と議論する力、また、読み手や場面に合わせて目的達成のために工夫しながら英語で書く力を養うことを目的とする。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	

外国語教育科目	英語	中級英語試験講座A	○	本科目は、TOEIC® Listening & Reading Test に対応した教科書を用いて授業を行う。教科書に加え補助教材を使い、出題形式やパートごとの解答のポイントを学ぶ。問題を解くことに加え、様々な学習方法(例：シャドウイング、ディクテーション、リテリング)を行う。ペアやグループでの活動を通して、基礎力をより強固にし、応用力育成を目指す。この科目での学習を通じて、外国語および様々な視点に対する認識を深めるとともに、学んだ知識を応用できることを目的とする。TOEIC対策を中心に、多様な英語活動を通じ英語力を伸ばすことを目標とする。	
外国語教育科目	英語	中級英語試験講座B	○	本科目は、「中級英語試験講座A」に引き続き、TOEIC® Listening & Reading Test に対応した教科書を用いて授業を行う。教科書に加え補助教材を使い、出題形式やパートごとの解答のポイントを学ぶ。問題を解くことに加え、様々な学習方法(例：シャドウイング、ディクテーション、リテリング)を行う。ペアやグループでの活動を通して、基礎力をより強固にし、応用力育成を目指す。この科目での学習を通じて、外国語および様々な視点に対する認識を深めるとともに、学んだ知識を応用できることを目的とする。TOEIC対策を中心に、多様な英語活動を通じ英語力を伸ばすことを目標とする。	
外国語教育科目	英語	上級英語試験講座A	○	本科目は留学を目指す学生を主に対象とし、留学要件となる英語検定試験対策を視野に入れながらよりアカデミックな内容をカバーする。授業では具体的にTOEFLやIELTSの問題形式や解答のポイントを学ぶと同時に、自律的な学習方法を実践し、多様な活動を通じて学んだ知識やスキルを応用できる力を養うことを目指す。本科目を通して、留学に必要となる総合的で高度な英語運用能力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	上級英語試験講座B	○	本科目は「上級英語試験講座A」に引き続き、留学を目指す学生を主に対象とし、留学要件となる英語検定試験対策を視野に入れながら、さらに高度でアカデミックな内容をカバーする。授業では具体的にTOEFLやIELTSの問題形式や解答のポイントを学ぶと同時に、自律的な学習方法を実践し、多様な活動を通じて学んだ知識やスキルを応用できる力を養うことを目指す。本科目を通して、留学に必要となる総合的で高度な英語運用能力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（表現）a	○	本科目では、初めてドイツ語を学ぶ学習者を対象とする。「ドイツ語初級（文法）a」で学ぶ文法を確認しながら、その初歩的な応用（読む、聞く、話す、書く）を段階的に習得する。具体的には、「読む」ではドイツの日常生活、社会制度、歴史などを平易なドイツ語で書いたものを読む。「聞く」では各種音源を利用して初歩的な聞き取り練習をする。「話す」では受講生同士でドイツ語を用いた会話をしたり、教員のドイツ語の質問にドイツ語で答えるなどして、初歩的な会話を練習する。「書く」では教科書の例文を応用して初歩的な作文練習をする。これらの学習を通じて、初歩的なドイツ語を読む・書く・聞く・話すための能力を身につける。「ドイツ語初級（表現）b」と合わせて受講し、ドイツ語検定４級合格と同等のレベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（表現）b	○	本科目では、「ドイツ語初級（表現）a」に引き続き、「ドイツ語初級（文法）b」で学ぶ文法を確認しながら、その初歩的な応用（読む、聞く、話す、書く）を段階的に習得する。具体的には、「読む」ではドイツの日常生活、社会制度、歴史などを平易なドイツ語で書いたものを読む。「聞く」では各種音源を利用して初歩的な聞き取り練習をする。「話す」では受講生どうしでドイツ語を用いた会話をしたり、教員のドイツ語の質問にドイツ語で答えるなどして、初歩的な会話を練習する。「書く」では教科書の例文を応用して初歩的な作文練習をする。これらの学習を通じて、初歩的なドイツ語を読む・書く・聞く・話すための能力を身につける。「ドイツ語初級（表現）a」と合わせて受講し、ドイツ語検定４級合格と同等のレベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（文法）a	○	本科目は、「ドイツ語初級（表現）a」で学ぶ簡単な日常会話文からはじめて、その背後にある文法構造へ、また逆に文法から始めて、まとまった文章へと螺旋的に階段を登りながら、「ドイツ語初級（表現）b」や「ドイツ語初級（文法）b」にも繋がる、体系的にドイツ語初級を学ぶ。文法は、読む・聞く・話す・書くといったどのアングルからもすべての基礎となる。本科目ではドイツ語の文法を初歩から学び、実際に使いこなせるようになることを目指す。まずは動詞の現在人称変化、それから次第にポイントが名詞に移動し「名詞の性・格」を学習し、前置詞の理解と習得をすることが到達目標となる。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（文法）b	○	本科目では、ドイツ語のごく初歩的な文法（動詞の現在人称変化、キーワード「名詞の性・格」など）はすでに身に付いていることを前提に、ドイツ語の初級文法をさらに学ぶ。基本的な文法事項を理解し、豊富な文法問題演習を実際に解いてみながら、実践的な力を伸ばす。さらに会話文や読解テキストなどにも挑戦し、実践的なドイツ語力に磨きをかける。授業を通じて、分離動詞や再帰動詞、話法の助動詞、時制、受動文、形容詞、関係代名詞などを理解することが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（表現）a	○	本科目では、フランス語の初歩的な会話表現を中心に学ぶ。フランス語の発音や聞き取りの練習、自己紹介や友人の紹介、電話での会話、天候や行先にまつわる会話、レストランでの注文や会話など、簡単なフランス語会話の練習などを行い、実用的なフランス語の習得を行う。フランス語の基本的な会話表現を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、フランス語による簡単な表現や会話などができるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（表現）b	○	本科目では、「フランス語初級（表現）a」に引き続き、フランス語の初歩的な会話表現を中心に学ぶ。フランス語の発音や聞き取りの練習、簡単なフランス語会話の練習などを行い、実用的なフランス語の習得を行う。視聴覚資料も活用して、学習内容の定着を目指す。フランス語の基本的な会話表現を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、フランス語による簡単な表現や会話などができるようになることを到達目標とする。	

外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（文法）a	○	本科目では、フランス語文法の基本を学ぶ。授業では、「聞く」（音声教材）、「読む」（発音）、「書く」（練習問題）を繰り返し実践し、フランス語の基礎をしっかり身につける。フランスは地方ごとに特色・魅力があるので、折に触れて各地方の紹介もする。①フランス語の文字と発音の仕組みを理解し、フランス語の文・語句を自ら正確に発音できるようになる、②フランス語初級の文法および語彙・表現を学び、フランス語で会話したりフランス語の文章を読むための基礎が身につく、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（文法）b	○	本科目では、「フランス語初級（文法）a」に引き続き、フランス語文法の基本を学ぶ。授業では、「聞く」（音声教材）、「読む」（発音）、「書く」（練習問題）を繰り返し実践し、フランス語の基礎をしっかり身につける。フランスは地方ごとに特色・魅力があるので、折に触れて各地方の紹介もする。①フランス語の文字と発音の仕組みを理解し、フランス語の文・語句をさらに正確に発音できるようになる、②フランス語初級の文法および語彙・表現を学び、フランス語で会話したりフランス語の文章を読むための基礎的な力がさらにが身につくことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（表現）a	○	本科目は、初めて中国語を学ぶ学習者を対象し、発音全般の基礎を築き、正しい声調、ピンインの読み方の定着を目指す。朗読、リスニング練習に意を用い、中国語の発音を耳に慣らし、実際に発音できるまで反復練習する。発音の習得後は､テキストに沿って､初級段階に必要な語彙や文法事項を学ぶ。音読を繰り返すことにより、リスニングを強化し､会話が楽しめるような下地を作る。リスニング・スピーキングを含めた豊富なドリルをこなしたのちに、学生同士での会話練習の時間も設ける。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（表現）b	○	本科目は、「中国語初級（表現）a」に引き続き、初めて中国語を学ぶ学習者を対象し、発音全般の基礎を築き、正しい声調、ピンインの読み方をさらに定着させることを目指す。朗読、リスニング練習に意を用い、中国語の発音を耳に慣らし、実際に発音できるまで反復練習する。発音の習得後は､テキストに沿って､初級段階に必要な語彙や文法事項を学ぶ。音読を繰り返すことにより、リスニングを強化し､会話が楽しめるような下地を作る。リスニング・スピーキングを含めた豊富なドリルをこなしたのちに、学生同士での会話練習の時間も設ける。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（文法）a	○	本科目は、中国語の文法・構造の理解を中心とする入門クラスである。授業では、入門しやすい初級テキストを使い、発音の指導から始めて、基本表現や基礎的な文法要項などを学ぶ。特に、発音、書字体系、構文知識の理解に重点を置いて指導する。豊富な例文と練習問題で繰り返し訓練することにより、中国語の基礎をしっかり作るよう工夫する。授業での学びを通じて、中国語検定試験準4級、HSK1級合格程度の能力が身に付くことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（文法）b	○	本科目は、中国語の文法・構造の理解を中心とする入門クラスである。授業では、「中国語初級（文法）a」に引き続き、入門しやすい初級テキストを使い、発音の指導から始めて、基本表現や基礎的な文法要項などを学ぶ。特に、発音、書字体系、構文知識の理解に重点を置いて指導する。豊富な例文と練習問題で繰り返し訓練することにより、中国語の基礎をしっかり作るよう工夫する。授業での学びを通じて、中国語検定試験4級、HSK2級合格程度の能力が身に付くことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）1a	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、様々なテーマを扱った評論文や新聞記事などを読み、文章の中で用いられている表現、語彙、文法、漢字などを取り上げ、内容を理解する力を養う。具体的には、音読、ワークシートによる内容理解の確認、内容に関する意見文の作成などを行う。様々な文体の日本語に慣れるとともに、大学生活で必要となる日本語読解力を養成することを目的とする。大学生活に必要な一般的教養書を正確に速く読み、理解できるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）1b	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（読解）1a」に引き続き、評論文や新聞記事などを読み、文章の中で用いられている表現、語彙、文法、漢字などを取り上げ、内容を理解する力を養う。具体的には、音読、ワークシートによる内容理解の確認、内容に関する意見文の作成などを行う。日本社会への理解を深めるのに役立つ文章や科学に関する評論を題材にしながら、日本語読解力を養成することを目的とする。①日本社会や日本人の持っている背景知識への理解を深めることができる、②科学の領域における優れた評論を読み、知識を広げることができる、③論理的な文章を正確に理解できるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）1a	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、文章を作成する時の基本的な点を確認し、メールや意見文などの作文練習をする。具体的には、先生へのメールや奨学金申請書の書き方などのほか、敬語について学ぶ。また、書き言葉に特徴的な語彙・表現を身につけるための訓練を行う。日本で留学生活を送る上で必要な日本語作文能力の向上を目的とする。本科目での学びを通じて、適切な語彙・表現、文法を用いて、大学生活で必要な文章を書けるようになることを目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）1b	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（表現）1a」に引き続き、レポートを読み、分析することによってレポート作成に必要な基礎知識を身につける。具体的には、実験レポート例や論証型レポート例を取り上げ、その書き方を学ぶ。また、論理的に文章を組み立てる練習をする。簡潔で正確な文章を書く訓練として要約の練習を行う。大学における基礎的なレポート□作成が行える作文技術の習得を目的とする。書き言葉の文法、語彙・表現を身につけ、簡潔で論理的な文章が書けるようになることを目指す。	

外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Aa		本科目では、ドイツ語の技能をバランスよく身に付ける。具体的には、ドイツ語の文章を忠実に日本語に訳すなかで、文脈を正確にとらえる力を養う。また、受講者のドイツ語力に応じて、これまで学んだ基本事項の復習も行う。また、接続法などのより高次の文法内容についても学ぶ。ドイツ語技能検定試験（独検）の問題にも取り組む。この科目での学びを通じて、①中級程度のテキストを辞書を使って読めるようになる、②簡単なドイツ語会話を聞いて理解できるようになる、③ドイツ語で適切に文を作成でき、それを会話や記述によって表現できるようになる、ことを目指す。独検3級の合格レベルが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Ab		本科目では、「ドイツ語中級Aa」に引き続き、ドイツ語の技能をバランスよく身に付ける。具体的には、ドイツ語の文章を忠実に日本語に訳すなかで、文脈を正確にとらえる力を養う。また、受講者のドイツ語力に応じて、これまで学んだ基本事項の復習も行う。また、接続法などのより高次の文法内容についても学ぶ。ドイツ語技能検定試験（独検）の問題にも取り組む。この科目での学びを通じて、①中級程度のテキストを辞書を使って読めるようになる、②簡単なドイツ語会話を聞いて理解できるようになる、③ドイツ語で適切に文を作成でき、それを会話や記述によって表現できるようになる、ことを目指す。独検3級の合格レベルが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Ba		本科目では、中級程度のレベルのドイツ語テキスト・リーディングを行う。最初は既習の文法項目の確認をしつつ、ドイツ語で書かれた文章に触れる。また、実際にテクストを音読することで、ドイツ語の発音の仕方やメカニズムを復習する。接続法や関係代名詞など、難易度の高い文法項目は詳細に解説する。①ネイティブのドイツ語で書かれた文章を辞書を用いながら読めるようになる、②初級ドイツ語学習時に学んだ文法項目を補完し、より精度の高い文法・語学知識が獲得できる、③ドイツ語を用いて簡単な日常会話や作文など、自己表現ができるようになる、ことを目指す。ドイツ語技能検定試験の2～3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Bb		本科目では、「ドイツ語中級Ba」に引き続き、中級レベルのドイツ語テキスト・リーディングを行う。また、実際にテクストを音読することで、ドイツ語の発音の仕方やメカニズムを復習する。接続法や関係代名詞など、難易度の高い文法項目は詳細に解説する。①ネイティブのドイツ語で書かれた文章を辞書を用いながら読めるようになる、②初級ドイツ語学習時に学んだ文法項目を補完し、より精度の高い文法・語学知識が獲得できる、③ドイツ語を用いて簡単な日常会話や作文など、自己表現ができるようになる、ことを目指す。ドイツ語技能検定試験の2～3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Aa		本科目では、フランスでの政治、経済、文化にまつわるフランス語の時事的な文章、例えばフランスでの移民政策や起業の事情、大学事情、ファッション、Mangaブームなどのトピックを読むことを通じて、これまで学んだ初級文法の知識や基本的な語彙・表現の定着を図る。また、同時にフランス文化や社会についての理解を深める。フランス語の初級文法の理解を深めながら、フランス語で書かれた時事的な文章の読解ができるようになることを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Ab		本科目では、「フランス語中級Aa」に引き続き、フランス語の時事的な文章を読むことを通じて、これまで学んだ初級文法の知識や基本的な語彙・表現の定着を図る。また、同時にフランス文化や社会についての理解を深める。フランス語の初級文法の理解を深めながら、フランス語で書かれた時事的な文章の読解ができるようになることを目指す。これまでの学びを通じて、初級から中級レベル（仏語検定3級レベル）までの読解力・表現力を身につけ、それに応じたフランス人の物の考え方に対する知識を得ることを目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Ba		本科目では、初級文法を終えた学習者のための作文の教科書を用いて、フランス語で作文を行う。正確で明瞭な文章を書く能力は、会話をする際にも、文章を読解する際にも、必ず役に立つことから、文法・語彙・構文を確認しながら、フランス語らしい文章を書くスキルを身に付ける。外国語を学ぶことを通じて、自分自身のことや自分が属する文化・社会のことを外国語で正確に表現し、理解してもらうためのスキルを身に付けることを目的とする。①諸外国の科学技術・文化・社会に目を向け、グローバルな視点をもつことができるようになる、②フランス語の基礎文法を復習しながら、それぞれの文法事項や、語彙、構文を使って、実際にフランス語の文章を作ることができるようになる、③自分自身のこと（専攻、趣味・特技、親族・友人・知人、将来の夢など）を簡潔なフランス語で表現することができるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Bb		本科目では、「フランス語中級Ba」に引き続き、初級文法を終えた学習者のための作文の教科書を用いて、フランス語で作文を行う。正確で明瞭な文章を書く能力は、会話をする際にも、文章を読解する際にも、必ず役に立つことから、文法・語彙・構文を確認しながら、フランス語らしい文章を書くスキルを着実に身に付ける。外国語を学ぶことを通じて、自分自身のことや自分が属する文化・社会のことを外国語で正確に表現し、理解してもらうためのスキルをさらに身に付けることを目的とする。①諸外国の科学技術・文化・社会に目を向け、グローバルな視点をもつことができるようになる、②フランス語の基礎文法を復習しながら、それぞれの文法事項や、語彙、構文を使って、実際にフランス語の文章を作ることができるようになる、③自分自身のこと（専攻、趣味・特技、親族・友人・知人、将来の夢など）を簡潔なフランス語で表現することができるようになる、ことを目指す。	

外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Aa		本科目は、中国語初級レベルを完璧にし、中級に向かうクラスである。入門の教科書を援用し、既習内容の確認・復習と定着に重きを置き、豊富な表現、会話ができるように知識を増やす。受講者のレベルに合わせて、なるべく教科書の他に、どのような例文があるか等も紹介する。中国、台湾や香港の現代文化や社会についても適宜触れながら、現実感のある語学学習を目指す。①中国語圏の文化、言語が日本のそれらといかに近いかを実感し、中国語圏の人々を身近に感じる、②外国語学習を通して、今までの自分の価値観とは違う見方を知り、柔軟な思考を養う、③外語学学習の楽しさを知り、外国語コミュニケーションへの精神的ハードルを下げる、④中国語コミュニケーションについてはある程度の自信を持って堂々と実行できる、ことを目的とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Ab		本科目は、「中国語中級Aa」に引き続き、中国語初級レベルを完璧にし、中級に向かうクラスである。入門の教科書を援用し、既習内容の確認・復習と定着に重きを置く。そしてさらに豊富な表現、会話ができるように知識を増やしていく。受講者のレベルに合わせて、なるべく教科書の他に、どのような例文があるか等も紹介する。中国、台湾や香港の現代文化や社会についても適宜触れながら、現実感のある語学学習を目指す。①中国語圏の文化、言語が日本のそれらといかに近いかを実感し、中国語圏の人々を身近に感じる、②外国語学習を通して、今までの自分の価値観とは違う見方を知り、柔軟な思考を養う、③外語学学習の楽しさを知り、外国語コミュニケーションへの精神的ハードルを下げる、④中国語コミュニケーションについてはある程度の自信を持って堂々と実行できる、ことを目的とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Ba		本科目では、初級クラスで一年間習得したものを復習しながら、中級レベルの実用会話と短文を学習する。常用語句や基本表現及び場面別の実用会話を身につけるように、できるだけ繰り返し練習を行う。同時に現代中国事情にも触れ、変貌しつつある中国及び中国人の考え方への理解度を深める。初級クラスで学んだことを応用、発展させる中級クラスなので、基本的な会話表現と平易な文章を理解し、中級レベルの会話力と読解力を持つことを目的とする。中国語の基本的な表現を身に付け、より多くの場面会話を習得することを目指す。また、中国語の文構造と表現法の特徴を把握し、一般的な文章を辞書をたよりに読解できる、やや複雑な複文でも応用できることを目指す。中国語検定試験の3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Bb		本科目では、「中国語中級Ba」に引き続き、初級クラスで一年間習得したものを復習しながら、中級レベルの実用会話と短文を学習する。常用語句や基本表現及び場面別の実用会話を確実に身につけるように、さらに繰り返し練習を行う。同時に現代中国事情にも触れ、変貌しつつある中国及び中国人の考え方への理解度を深める。初級クラスで学んだことを応用、発展させる中級クラスなので、基本的な会話表現と平易な文章を理解し、中級レベルの会話力と読解力を確実に身に付けることを目的とする。中国語の基本的な表現を身に付け、より多くの場面会話を習得することを目指す。また、中国語の文構造と表現法の特徴を把握し、一般的な文章を辞書をたよりに読解できる、やや複雑な複文でも応用できることを目指す。中国語検定試験の3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）2a		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、論証型や報告型など複数の形式のレポートの書き方や、他の論文等の引用の仕方を、レポート例を用いて学ぶ。また、文を推敲し、修正する練習をすることで、適切な文章を書く訓練をする。レポート・論文を適切な日本語表現で書くための技術や知識を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、レポート・論文などの提出物が適切な日本語で書けるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）2b		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（読解）2a」に引き続き、文章を書くのに必要な文法的知識を固める。タイトルの付け方、論理的に考える訓練、メールや科学技術文の書き方なども組み合わせて授業を進める。レポート・論文を適切な形式と日本語表現で書くための技術や知識を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、レポート・論文などの提出物がより適切な日本語で書けるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）2a		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、仮名遣いや送り仮名、四字熟語、文法などの日本語の基盤となる内容や、敬語やEメールなどの、大学生・社会人として必要な日本語表現を学ぶ。また、作文を推敲し丹念に修正することによって、自らの書く作文の問題点を知り、文章力の向上を図る。日本語一般の知識を身につけ、大学生活や社会で必要な日本語運用能力を養うことを目的とする。大学生活や社会で必要な日本語の語彙・表現などの知識、運用能力の基礎が身につくことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）2b		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、前半で日本語検定やSPI3言語問題、BJTの問題、N1レベル以上の語彙や表現を扱い、就職活動やビジネスシーンにおいて必要な日本語を学ぶ。後半では、要約や意見文の作成、作文修正を行うことによって、自らの作文の問題点を知り、文章力の向上を図る。日本語一般の知識を身につけ、大学生活や社会で必要な日本語運用能力を高めることを目的とする。大学生活や社会で必要な日本語の語彙・表現などの知識、運用能力を向上させる。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1a	○	本科目では、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力を向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	

総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1b	○	本科目では、「体育実技1a」に引き続き、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力をさらに向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技2a		本科目では、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、複数の異なる競技種目を経験することで、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力を向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技2b		本科目では、本科目では、「体育実技2a」に引き続き、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、複数の異なる競技種目を経験することで、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力をさらに向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学		近年、わが国の人口動態は平均寿命が世界のトップレベルを維持し、加えて出生率の長期的な低下により少子高齢化の進展など、ライフスタイルに大きな変化をもたらしている。このような中で、いつまでも活き活きとした人生を営むためにも、健康の保持・増進は必要不可欠となる。そこで本科目では、各ライフステージにおける健康の保持・増進に関する基礎的な知識から近年の情報までをトレーニング科学、スポーツ医科学などの立場からも紹介し、これからのスポーツのあり方について学ぶ。幼児期から老年期まで生涯にわたって、その体力や目的に応じていつでもどこでもスポーツに親しむことを可能とする知識の獲得、また、参加する人の目的が「スポーツを楽しみ、交流を深める」、「自己の限界に挑戦する」等多様化していることへの対応力を身に付けることを目的とする。	
総合教育科目	健康・スポーツ	スポーツ解析		身体的運動を伴うようなスポーツあるいは歩行やゲームなどのフォームに関わるような、映像をベースとした画像データ、勝敗を決定する得点などの記録データ、身体的計測データや、生化学的数値データなどの取得および分析をおこなう。スポーツに関わるデータを様々な角度から分析し、スポーツの実践をより有効なものとすると同時に、スポーツ観戦についても分析的な立場に立って捉えられるようにする。歩行を含めるスポーツ全体に関わる、分析対象としてのデータが何であるかを理解し、それらのデータを簡単な図や表でまとめ、分析できるような技術を身に付ける。あわせて、理想的なフォームや歩行の状態に対しての理解を得ることを目標とする。	
総合教育科目	健康・スポーツ	スポーツ科学		スポーツと言っても観るスポーツと行うスポーツがあるが、人間は素晴らしいプレーや、早いタイムに出会うと感動する。なぜトップアスリートはあの様な難しい動きが出来るのだろうか？本科目では、スポーツを科学的な観点から学ぶ。具体的には、楽しいスポーツの基本 〞個を生かすチームづくり〞、スポーツ実践・観戦の楽しみ方（スピード、加速度、慣性、力、円運動、重心、トルク、エネルギー）、細胞のスーパーパワー、メンタル（脳）トレーニング（潜在脳の使い方、脳波と睡眠法）、老いと戦う細胞、コーチング（コミュニケーション能力の開発・発揮・発展）について解説し、理解を深める。スポーツを科学的に理解し、健康増進と社会への適応能力を知り、社会生活をする上で最も大切な健康増進の理解が深められることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	生涯スポーツ科学		「生涯スポーツ科学」は、スポーツ医科学、スポーツビジネス、スポーツ文化学、スポーツコーチング、健康スポーツなどから構成される。本科目では、スポーツ医科学について、主なスポーツ外傷・障害を学ぶ。具体的には、足関節捻挫、シンスプリント、脛骨疲労骨折、ジョーンズ骨折、アキレス腱断裂、アキレス腱付着部症、足底腱膜炎、膝前十字靱帯損傷、膝内側側副靱帯損傷、半月板損傷、ジャンパー膝、オスグッド病、分裂膝蓋骨、ランナー膝（腸脛靱帯炎）、鷲足炎、グローインペイン症候群、ハムストリング肉離れ、投球障害肩（腱板断裂、SLAP損傷、インピンジメント症候群）、肩関節脱臼、水泳肩、野球肘、テニス肘、TFCC損傷、突き指、腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、女性の三主徴、高齢者の変形性膝関節症、について解説し、理解を深める。年齢、性別などの多様性を理解し、複数人の協働により成果を得ることができるようになることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	ライフセービング		WHO報告より「2分間に1人」、世界のどこかで水の事故により尊い生命が失われているという。我が日本にも溺水事故は不慮の事故として扱われ、その事故者数は常に上位を占めている。この受け入れがたい事実を減少させるために国際ライフセービング連盟（124カ国加盟）が設立され、諸外国ではライフセーバーが公務員として雇用されている。本科目では、その視点から「生命・健康・安全」をキーワードとして、大自然のなかで、アウトドア・フィットネス（環境も含む）というライフスタイルを創造・展開していく。①自然の中で、自他の危険回避能力が身に付く、②理論と実践を通じて安全思想を高め、自然と生命についての畏敬が深まる、③アウトドア・フィットネスというライフスタイルを理解できるようになる、ことを目指す。	共同

総合教育科目	人文社会	哲学A	○	現在、哲学は世界中で教えられている。だがもともとは古代ギリシアで誕生したローカルで特殊な知の形態であった。遠く離れた極東の地で私たちはそれを学ぼうとしている。そうであるなら、一度は原点にたちかえって、哲学がどのようにして成立し展開していったかを確認しておく作業が必要であろう。本科目はそうした見とおしのもと、前期ではまず古代ギリシアにおける哲学の誕生とその展開の過程を見直すことからはじめ、あわせてヨーロッパにおける哲学の形成に大きなかかわりをもったユダヤ・キリスト教の誕生の過程についても理解することを目的とする。哲学を学ぶということは、西洋という文明の総体を俯瞰することにもつながる。たんに、ひとつの学科を学ぶというレベルをはるかに超えた広い視野と知識が不可欠となる。そうしたグローバルな観点から学習へつなげる。	
総合教育科目	人文社会	哲学B	○	哲学を学ぶには、大きく編年体スタイルとテーマ別スタイルがありうる。「哲学A」では、歴史をたどるスタイルを採用したが、本科目では、学校・ことば・正義・お金・死・世界・戦争・法・自分・性差・愛・幸福など、多様なテーマについて哲学者たちの見解を採りあげ、理解することを目的とする。哲学を学ぶということは、西洋という文明の総体を俯瞰することにもつながる。たんに、ひとつの学科を学ぶというレベルをはるかに超えた広い視野と知識が不可欠となる。そうしたグローバルな観点から学習へつなげる。	
総合教育科目	人文社会	倫理学A	○	本科目では、倫理学の学説を古代から近代まで年代順に解説することを基軸としつつ、その根底にある世界観・価値体系としての哲学についても広く学んでいく。ここで取り上げる思想の多くは数百年前に生きた哲学者のものであり、古いところでは二千数百年も前に成立したものであるが、それらの思想は、自分でも気付かないうちに私たちの頭の中にインストールされていたりもする。私たちが有している世界観や価値観は、自分一人で作り上げたものではなく、必ず歴史のどこかに「起源」を有しているのである。したがって、思想の歴史を知ることは自分自身を知ることでもある。倫理学とその基礎となる哲学の理論や概念について、幅広く理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	倫理学B	○	本科目では、主に現代思想における倫理学的探究の解説を基軸にしつつ、狭義の「倫理学」には分類されないテーマについてもとりあげ、現代という時代において生じた特有の倫理的問題について考察していく。さらには、書物に表現された思想だけでなく、歴史における現実的事象（「風景」の発見・公民権運動・テクノロジーの発展等）の哲学的・倫理学的な意味についても考察し、抽象的な理論と具体的な実践の場面とを接続していく。倫理学とその基礎となる哲学の理論や概念について、幅広く理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	言語・記号論	○	私たちは「言語」や「記号」を四六時中用いて大学生活、日常生活を営んでいるが、ごくありふれたものであるがゆえに、ふだんほとんど意識することはない。本科目では、まずそもそも「言語」とは何かを問い、そしてこれまでの「言語」の問い方の歴史をたどる。特に20世紀後半に興隆した記号論あるいは構造主義の理論および方法論の基礎を学ぶ。さらに、それらの理論・方法論を応用した研究や芸術作品を読解・鑑賞する。20世紀後半に興隆した記号論や構造主義は、21世紀に入って下火になったというよりは、もはや常識になったと考えてよいだろう。それは言語学の理論をモデルにしながら、理系も含め様々な学問分野にも適用・応用された。本科目は、いわゆる「文理融合」を念頭に置いて、理工系を専攻する学生にとっても役立つような、記号論の理論、方法論、応用例などを分かりやすく紹介し、理解できるようになること目指す。	
総合教育科目	人文社会	情報・メディア論	○	私たちは日々、テレビ、新聞、インターネットなどを通じて得た情報を利用しながら生活しているが、それらの情報を、誰が、どんな立場で、何を根拠に、何のために、いつ、どのような仕方で発信したのか、意識しないことが多いのではないか。本科目では、情報とは何か、メディアとは何か、という根本的な問いからスタートして、メディアの歴史、情報の価値、メディアの問題点などを見ていく。理工学を学ぶ学生を対象とした授業であるため、メディアとテクノロジーの関係についても、様々な角度から考察する。さらに、メディアとテクノロジーの関係、テクノロジーと人間の感性の関係、テクノロジーと社会形成の関係について考察し、理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	科学思想A	○	地球規模の環境破壊、大量消費社会の出現などの現象が示すように、われわれは、人間の最高の英知の所産であるはずの科学が人間自身によって制御しがたいまでに肥大化し、人間を支配しようとさえするような奇妙な時代に住んでいる。現代では、「科学とはなにか」という素朴な問いに答えることが緊急課題となっている。そこで本科目では、科学がはじめて誕生した古代ギリシアと、近代科学が成立した科学革命の時代を取りあげて、その科学思想の特徴を検討する。学生には専門的な科学的知識を習得する前に、「科学」がどのように始まり、それがほかの人間の営みとどの点で共通し、どの点で異なるかを理解してもらい、それによって、自分の学習内容が社会でどのような意味をもっているかを学んでもらうことを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	科学思想B	○	本科目では、現代の科学哲学の議論を手がかりにして、科学者の思考がいかなるものか、いかにして法則を見いだすのか、科学者が新しい学説を受け入れるようになる背景は何かを考察する。まず、仮説演繹法についての批判的考察を足がかりに、科学者の思考法について様々な学説を紹介する。次いで、科学が前提とする諸概念について掘り下げ、それらについて様々な解釈が可能であることを理解する。最後に、科学が前提とする世界観について批判的に検討する。科学者の思考や方法論がいかなるものか、科学の進歩とは何かなど、科学という営みの特徴について理解を深めることを目的とする。	

総合教育科目	人文社会	心理学A	○	私たちが漠然と抱いている「こころ」と称する対象について、その理解の仕方はさまざまである。本科目は「こころ」の働きを科学的な視点から理解することを目指す。まず、心理学の成立の背景事情にふれながら心理学の視点について考え、「こころ」の心理学的な捉え方や考え方の理解に努める。これを踏まえて、人間の知性にかかわる「こころ」の諸機能（感覚・知覚、記憶、言語など）について科学的な立場からの理解に努め、「こころ」のもつ優れた環境適応性を考えていく。また、必要に応じて、心理学と隣接する諸領域（哲学、神経科学、進化生物学など）について若干触れてみることで、「こころ」についての理解をもう少し深めてみる。学習を通じて、学生が、心と称する対象に対して、私的な立場から離れて科学的、客観的に考える態度を養い、これを通じて心に対する理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	心理学B	○	現代の心理学は基礎科学だと捉えることができる。本科目では、科学の眼を通して心の働きについて理解することを目的とする。はじめに、基礎科学としての心理学が成立するまでの学問的背景について哲学から説き起こし、19世紀の自然科学領域の発展を交えながら、現代の心理学までの流れを追っていく。そして、心の働きを理解するにあたっての心理学の立場を明確にする。こうした心理学的な考え方を押さえたうえで、人の認知機能について古典から現代までの研究を通して学習する。具体的には、認知することにとっての基礎となる知覚の働きを中心に、記憶、思考や言語の働きにまで展開していく。そして、人の認知機能がいかに巧緻なものなのかの気づきを契機として、心の働きについてより深く考え理解していくことをさらに目指していく。	
総合教育科目	人文社会	芸術A	○	本科目では、毎回一つの身近なモチーフを中心に取り上げ、アート表象においてジェンダーとセクシュアリティがどのように表現されるかを探求する。美術史を横断的に考察するため、学生は異なる時代や文化のアート作品を通じて、ジェンダーとセクシュアリティに関する理論や概念を理解し、自らの視点を深めることが期待される。多様な時代や文化のアート作品に対して感受性を高め、アートを通じてジェンダーやセクシュアリティについて理解し、批判的な視点を養う。理工系の分野においても多様性と包摂性の視点を持ち、自らの専門領域で創造的で柔軟なアプローチを発展させることを目指す。	
総合教育科目	人文社会	芸術B	○	本科目では、ジェンダー&セクシュアリティの政治の表現手段として、アートがどのように機能してきたのかを考察し、20世紀以降のアーティストたちによる具体的な実践を紹介する。本科目の目的としては、まず、現代アーティストがジェンダーやセクシュアリティの政治に焦点をあってどのようなアート実践を取り組んできたかを認識し、その重要性を理解する。次に、フェミニストアートやクィアアート歴史と文脈を把握し、多様なアート作品を通じて現代社会の課題を理解し、ジェンダーとセクシュアリティに関する議論に取り組むスキルを養成することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	憲法	○	「憲法」とは、個々の国家の基本事項につき規定したものである。では、日本国憲法はどのような事柄を基本事項として定めているのだろうか。本科目では、日本国憲法が規定する基本的な内容、考え方等について学ぶ。日本国憲法については、すでに中学校や高等学校において学習したことがあるはずである。もっとも、本講義は、単に条文を読み、これを暗記することを目的とするものではない。本講義においては、日本国憲法の思想的な背景や基本的な考え方、人権の意味と内容、統治システムの実態などを明らかにすることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	法学	○	本科目では、各法分野についての概略を学び、理解することを目的とする。具体的には、憲法、民法、刑法、社会保障法、労働法、国際法について、その重要なエッセンスを取り上げながら、それらを略述する。社会にはさまざまな法が存在している。法は生活の規範として機能したり、さまざまな紛争の解決の手段となったり、時には法によって規制される場合もある。社会の中で当たり前のように存在している法とは、どのようなものなのか。そして日常生活のどのように関わり、どういた解決手段を提示しているか。こうした日常で当たり前のように存在している法について、漠然とした概念にとらわれるだけではなく、具体的な事例を通して検討していく。	メディア
総合教育科目	人文社会	経済A	○	ミクロ経済学は、全ての財・サービスの市場について、その需要や供給など、経済の微視的な動向を分析対象とする。本科目はマクロ経済学と並び、現代経済学の入門コースにあたるもので、ミクロ経済学の基礎的な理論について説明する。講義では、図や数値例を使ったり、現実の問題を取り上げるなどして、ミクロ経済学の核心部分をわかりやすく説明する。本科目の目標は、新聞やニュースでよく取り上げられるような身近な経済問題、例えば、課税（たばこ税、酒税、消費税など）や競争の激しい産業（外食産業やIT産業など）に関する問題を、経済学の枠組みで理解できるようになることである。	
総合教育科目	人文社会	経済B	○	マクロ経済学はGDP（国内総生産）、雇用量（失業率）、物価など経済の巨視的な動向を分析対象とする。本科目は、現代経済学の入門篇として、マクロ経済学の基礎的な部分を取り上げ、経済学をはじめて受講する学生にもわかりやすいように、図や数値例を用いて説明を行う。また、さまざまな経済現象に対する見方や考え方を養えるよう、理論だけでなく、現実の経済の動向についても解説を加える。経済学の基礎内容をマクロ経済学の側面から習得することを目的とし、新聞やニュースでよく取り上げられるような、主要なマクロ指標（GDP、CPI、M1など）を理解し、国の経済政策についても基本的な方向性を把握できるようになることを目標とする。	
総合教育科目	人文社会	政治学A	○	本科目では、政治学を学ぶ上での基礎的教養である日本の統治機構、政治制度につき、日本国憲法をもとに検討していく。たとえば、「権力分立」の下に構築されているといわれているが、なぜそれらは分立しなければならないのか、またそれらは「抑制・均衡」関係に立つと考えることが正しいのか。その他にも、法律はどのようにつくられるのか、行政は何を行うことが憲法によって義務付けられているのか、裁判所は何ができて何ができない機関なのか。講義において、こうした疑問に対する検討を踏まえつつ、日本国憲法における統治機構の統制と、現実的な政治との架橋を行う。日本の統治構造につき、国会、内閣、裁判所といった国家機関の基本的な組織、構造、権限を検討することにより、日本の政治に対する理解を深めることを目的とする。	メディア

総合教育科目	人文社会	政治学B	○	本科目では、政治学について、まずはその意義や経済との関係などを明らかにし、さらに政治制度や政治過程、そして政党や国際政治に関わる問題について、検討を行う。そもそも社会科学は、理工系の学問を専門とする学生には馴染みの薄い学問だと思われるが、現実的な政治問題について、教養として向き合う場面は、市民社会の一員として活動していく以上、多々あると思われる。そのため講義において、そうした政治を見つめるための基礎的な概念や理論を紹介する。現代政治学の基礎的な概念・理論を理解し、現代の政治をより深く理解するための素養を身につけることを目的とする。	メディア
総合教育科目	人文社会	現代社会論A	○	本科目では、現代社会の問題を具体的な事例にもとづいて考察するため、戦後日本における「公害の原点」と言われる水俣病問題をとりあげる。水俣病は、遠い過去の問題として片づけられるものではない。また、科学技術の問題性を感情的にあげつらったり、一企業の加害責任を追及したりすればすむ問題でもない。しかも、立場の違いによって水俣病問題はさまざまな相貌を見せる。ここに水俣病問題の難しさがある。授業では、水俣病問題についての「理解」を深めるだけでなく、水俣病問題の「理解しがたさ」や「割り切れなさ」をも感じとることを目指す。そのため、チッソの経営者、現場の技術者、水俣病患者、医療現場の医師、水俣病問題に取り組んだ作家といったさまざまな立場の人びとの証言を、文字記録・映像記録によって紹介し、考察してゆく。	
総合教育科目	人文社会	現代社会論B	○	本科目では、現代社会の問題を具体的な問題に即しつつ考える。このためドキュメンタリー映画や現代日本の思想家の活動や著作などを手がかりに考察を進める。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。現代社会のかかえる問題について、特定の視点から単純に割り切るのではなく、さまざまな人間の立場から考えられる柔軟性を養うことが目標である。	
総合教育科目	人文社会	環境論A	○	20世紀の半ばごろから公害問題や地球環境問題に対する問題意識の高まりとともに、「環境」が私たちの重要なテーマとなった。環境とは、単なる空間ではなく、私たちを取り囲み、私たちと相互に関係し、影響を与え合って存在する場のことである。私たちは環境の中で、環境と関わり合いながら生きており、その活動のあり方によっては、環境を悪化させ、その結果、私たち自身の存在をも脅かす可能性がある。だからこそ私たちの生きる環境の「持続可能性」が重要な問題として共有されている。本科目では、こうした前提認識を踏まえた上で、人間の生きる環境がどのようなものかを分析し、人間がそれをどのようにデザインしていくべきか理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	環境論B	○	本科目では、「環境論A」での学修を踏まえて、私たちが現在直面している様々な環境問題に焦点を当て、それに対して私たちがどのように取り組むべきかを、倫理の観点から考察する。環境問題に直面する私たちは、倫理の対象を人間だけでなく、動物や植物、生態系、将来世代などにまで拡大することを考えなければならなくなっている。また、環境問題の被害を受ける人々は往々にして社会的弱者が多く、そこでは新たな社会正義の問題が生じている。これらの倫理的観点を考慮しながら環境問題について多面的に考察できるようになることを目指す。	
総合教育科目	人文社会	生命と多様性A	○	本科目では、日常生活の身近な話題や社会的関心が高い話題を軸に生命科学の基本を解説する。具体的には、生命科学の誕生、生命の基本単位（細胞）、生命の設計図（ゲノム、遺伝子、DNA、遺伝と生物情報）、エピゲノム（遺伝と環境の関わり）、発生と分化、脳機能、がん、食と健康、感染と免疫、生命倫理、生命技術と現代社会（遺伝子技術の発展、ヒトゲノム・遺伝子解析の倫理的課題）、生物多様性と地球環境の保全、について解説し、理解を深める。ヒトと社会から生命科学を理解し、また、日常にあふれる情報を正しく判断して活用する。科学リテラシーを身につけることを目的とする。生命科学の進歩と応用に関する知識や思考力を深め、科学技術と社会の間に起こる諸問題について理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	生命と多様性B	○	地球上の生物は40億年という長い歴史の中で、他の生物とかかわり合いながらさまざまな環境に適応することで多様化をとげてきた。本科目では、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方・原理をわかりやすく説明する。また、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響にも言及する。生物の多様性と共通性について進化の観点から理解し、進化論や自然淘汰の基本的な考え方を身につけることを目的とする。進化の結果として生物界が多様化していく現象や、生物同士のかかわり、生物と自然環境（生物自身も環境の一部である）とのかかわりを、具体例を通して学ぶとともに、分子、ゲノム、細胞から個体、集団、種、地球環境までの広い観点から理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	欧米の文化と歴史A	○	本科目では、19世紀前半ドイツのベートーヴェンから20世紀アメリカのアイヴズにいたるクラシック音楽の楽曲、そのほかさまざまな美術作品、文学作品などを適宜とりあげ、ヨーロッパとアメリカ合衆国の文化と歴史を概観する。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。以下を本科目の到達目標とする。 ①欧米の文化はおおまかに言って、古代ギリシア的な世界観（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な世界観（ヘブライズム）という異質な世界観どうしの反発や融和のくりかえしといった「常識」を理解する。 ②身近なところでなにげなく接するクラシック音楽や美術作品の背後にも歴史的な奥行きがあることを知り、そうした奥行きを楽しみ味わえる感性と想像力と知性を磨く。 ③個別具体的な芸術作品について、自分の評価・意見を表明する積極性を養う。	

総合教育科目	人文社会	欧米の文化と歴史B	○	本科目では、古代ギリシアのいわゆる「ソクラテス以前の哲学者たち」から19世紀のニーチェに至るヨーロッパの思想史を紹介する。ただし、たんに思想家の思想を紹介するだけでなく、適宜、文学や音楽などの芸術と関連させながら議論を進める。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。以下を本科目の到達目標とする。 ①欧米の文化は、おおまかに言って、古代ギリシア的な世界観（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な世界観（ヘブライズム）という異質な世界観どうしの反発や融和のくりかえしといった「常識」を理解する。 ②さらにヘレニズムとヘブライズムの内部にも、相互に歩み寄る可能性が秘められていたことを理解する。 ③文学作品やクラシック音楽を欧米の文化と歴史の流れで捉えることのおもしろさ・大切さを理解する。	
総合教育科目	人文社会	アジアの文化と歴史A	○	本科目では、「アジア」のなかでも、主に中国語圏の歴史・文化について学び、考察することを目的とする。トピックは様々だが、ジェンダー、セクシュアリティの角度から、多く考察する。文学・映画がどのように社会や歴史を描いているか（＝表象しているか）について、考える科目でもある。時代と、地域（主に中国大陸と台湾）をテーマ的繋がりによって往還し、幅広く中国語圏文学・映画の重要作品に触れる。希望によっては、書く練習（文学・映画作品を鑑賞し、それに対する批評を書く練習）を増やす。	
総合教育科目	人文社会	アジアの文化と歴史B	○	本科目では、「アジアの文化と歴史A」に引き続き、「アジア」のなかでも、主に中国語圏の歴史・文化について学び、考察する。「アジアの文化と歴史A」よりは、アジアと欧米が交差する時について考える。ジェンダー、セクシュアリティなどのトピックに着目し、マルチカルチャー的視点、世界的視野で「アジア」を見つめ直せるようにする。「アジアの文化と歴史A」と同様、文学・映画がどのように社会や歴史を描いているか（＝表象しているか）について考える。希望によっては、書く練習（文学・映画作品を鑑賞し、それに対する批評を書く練習）を増やす。アジアの歴史の流れと文化的特徴を把握し、文学や映画の重要性、役割、その可能性を知って感じ取り、批判的思考力を養い、広い視野を持つことを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	日本の歴史と現代A	○	本科目のテーマは、日本人の「感受性」に関する歴史的考察である。我々はしばしば敏感とか鈍感ということを口にするが、この言葉は実のところ何を意味しているのか。これらの語に象徴される人の感受性の問題は、古く遡れば遡るほど、どこか宗教的色彩を帯びる。神や仏という他者、すなわち憧れかつ恐れる超越的存在との独特の交渉に関わる、この国の人々の心構えに触れることになるのだ。本科目では、以上の視点に立ち、日本神話や仏教などをテーマとして取り上げ、日本人の「感受性」をめぐる思想の諸形態を、古代から中世まで概観することにより、この国の人々が神や仏をどのようにイメージしつつ生活してきたのかを十分に理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	日本の歴史と現代B	○	本科目のテーマは、日本人の「感受性」に関する歴史的考察である。我々はしばしば敏感とか鈍感ということを口にするが、この言葉は実のところ何を意味しているのか。これらの語に象徴される人の感受性の問題は、古く遡れば遡るほど、どこか宗教的色彩を帯びる。神や仏という他者、すなわち憧れかつ恐れる超越的存在との独特の交渉に関わる、この国の人々の心構えに触れることになるのだ。本科目では、以上の視点に立ち、「国学」「朱子学」「蘭学」等のテーマを広く取り扱いながら日本人の「感受性」をめぐる思想の諸形態を、近世から近現代まで概観することにより、この国の人々が神や仏をどのようにイメージしつつ生活してきたのかを十分に理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	情報社会と倫理・職業	○	本科目では、情報とは何か、インターネットの歴史、情報化によるビジネス環境の変化、人工知能やビッグデータの影響、プライバシー保護の問題、著作権や特許など情報資産である知的財産の保護と活用の問題、監視社会、生命科学の進歩によりもたらされる生命と情報の新たな関係、教育の情報化等など、情報社会を様々な切り口から概観しながら、情報社会における労働観や倫理上問題となるテーマを取り上げていく□。具体的事例の検討を受講者各自が行い、そしてそれぞれ自分とは異なる見解を理解することによって、倫理観をベースとした普遍的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	環境行政概論	○	本科目では、環境行政の政策目的や実施手法を、映像教材やケーススタディー等も含めて具体的に説明する。この中で講師の国及び地方公共団体における環境行政の実務体験等を適宜紹介する。また、講義の中で過去に公務員試験等で出題された問題等をクイズとして出題し、その解説も併せて行う。本科目での学習を通じて、学生が環境問題に対する認識を深めるとともに、実際の環境行政の実務等に対する基礎的な知識を習得することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	教養演習A	○	本科目は、演習形式で広く教養を身に付けることを目的とした科目であり、いくつかのテーマで開講されている。そのうちの一つを記載する。 本科目では、感性と言語、そして両者の関係についてあらためて考える。具体的には、視覚的芸術（絵画）と聴覚的芸術（音楽）の読解・鑑賞を通じて、それぞれの芸術作品を言葉で理解し、他者と言葉でコミュニケーションしながら、「共感」のための基礎的・学術的な方法を学ぶ。21世紀の科学および産業においては、AIが時代をリードする最先端技術になっていると言っても過言ではない。しかし、このような時代だからこそ、AIをめぐる未曾有の問題に対処するために、生身の人間の身体的なもの、感覚的なものの果たす役割がますます重要になってくる。本科目では、芸術作品（美的なもの＝感性的なもの）を鑑賞する方法を学びながら、感覚（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）によって世界を「感じる」ことの意義について考えることを目的とする。	

総合教育科目	人文社会	教養演習B	○	本科目は、演習形式で広く教養を身に付けることを目的とした科目であり、いくつかのテーマで開講されている。そのうちの一つを記載する。 本科目では、グリム兄弟による『子供と家庭のためのメルヒェン』、いわゆる『グリム童話』を読み解き、理解を深めることを目的とする。『グリム童話』がいかなる意図で収集され、出版され、書き換えられていったかということについては、歴史的な背景（たとえばロマン主義やナショナリズムの高揚、近代家族の成立など）を学ぶことなしに理解することはできない。本科目では、この童話集の成立にまつわる歴史的・文化的背景を学びながら、日本でもよく知られた童話を読んでいく。まずは初版と最終版である第七版を比較検討しながら、これらの物語をどのように論理的に解釈していくか考える。さらにこれらの物語がどのように受容され、再生産されてきたかを考える。その際には、子供向けの本や映画なども参照する。	
総合教育科目	人文社会	日本語リテラシー基礎演習	○	本科目はオムニバス方式でおこなう。前半では、レポート・論文を書くために必要な技術を習得するための練習をおこなう。事実と意見の区別、漢字とかなの使い分け、読点、語順、科学技術文において注意すべき事項を扱う。後半の授業では、テーマに基づき、毎授業プレゼンテーション（発表）を行い、学生同士による評価、フィードバックを実施する。本講義を通して、大学での専門知識の効果的習得を促進するような基礎的な日本語力を身につけることが第一の目標である。さらに、情報を的確に読み取り、その情報を活用して他者と積極的にコミュニケーションし、他者と協働しながら独創的な発想を展開できるような人材の育成をめざす。 （オムニバス方式／全14回） （155 中村　拳／6回） 対面プレゼンテーションおよびオンラインプレゼンテーションの実践演習 （70 吉田　達／2回） ガイダンスおよび全体のまとめ （104 井田　尚美／6回） 伝わりやすい日本語の文章を書くための実践演習	オムニバス
総合教育科目	人文社会	科学技術と倫理	○	環境、情報、技術、医療、法律など現代社会のさまざまな分野で活躍されている学内外講師によるオムニバス方式の講義である。科学技術は人々の生活を支え社会を発展させる反面、地球全体に大きな影響を及ぼす可能性をつねに含んでいる。もし科学技術において倫理に悖る（もとる）行為があった場合は、人々の生活や福祉に深刻な影響を与え、人間の尊厳を傷つける結果にもなる。本科目は、高い科学技術力の修得を志す者に対し、相応しい倫理観を持って社会で活躍していくために必要な倫理教育を授けることを目的とし、生涯において継続的に前進するための具体的な方法論と社会的知識とを全人的に獲得させることを目標としている。 （オムニバス方式／全14回） （42 寺本　剛／5回） 科学技術のリスクと安心・安全、放射性廃棄物と世代間倫理、気候変動とジオエンジニアリングの倫理 （70 吉田　達／2回） 掘割再生−広松伝氏の仕事から考える、現代社会における倫理の問題をあらためて考える （127 小須田　健／1回） 現代社会はなぜ倫理を必要とするか （164 本田　隆浩／2回） 現代情報化社会の構造と倫理・道徳・法の関係、プライバシー保護と個人情報保護 （84 竹中　真也／3回） デジタル時代のリアリティ （134 柴尾　晴信／1回） 生命科学研究における倫理問題	オムニバス
総合教育科目	人文社会	ジェンダー・セクシュアリティ論A	○	本科目では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基礎となる、歴史的な考え方と基礎知識を学ぶ。ジェンダー・セクシュアリティ論について正確に理解するために必要な、歴史学や社会学をはじめとした人文社会科学の様々な分野の知見を学び、議論の土台となる知識を獲得することを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティ論における基本概念とその歴史的成立を理解し、知識を得ること、またその知識をもとに、議論ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	ジェンダー・セクシュアリティ論B	○	本科目では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識を学び理解するとともに、現代社会における様々なアクチュアルな問題や課題について学ぶ。授業では、基本的な概念を応用してより複雑な問題について考え、議論していく。ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識と理解に基づき、現代社会のアクチュアルな問題群に対して考察を深め、議論する力を養うことを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識を獲得し、理解すること、また、現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティをめぐる課題について、正確な知識と理解を土台として考察し、議論ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズA		本科目では、海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解への機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の4週間の海外研修プログラムを通して外国語運用能力向上を図る。TOEIC等の外部英語能力テストのスコアの向上など、各自が目標設定をして留学の成果を確認する。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先はハワイ大学（米国）、春季はカリフォルニア大学デービス校（米国）と西オーストラリア大学（オーストラリア）を予定している。	

総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズBI		本科目では、海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解、理工学分野の研究施設や企業訪問の機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通してイノベーションが創出される近隣国の動向と将来性を理解、外国語運用能力向上を図る。イノベーション、スタートアップ、アントレプレナーシップ動向把握と世界におけるアジア諸国の立ち位置の理解、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先は、シリコンバレー（米国）、春季は上海理工大学（中国）、タマサート大学（タイ）、シリコンバレー（米国）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズBII		本科目では、「グローバルスタディーズBI」履修済みの学生と対象として海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解、理工学分野の研究施設や企業訪問の機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通してイノベーションが創出される近隣国の動向と将来性を理解、外国語運用能力向上を図る。イノベーション、スタートアップ、アントレプレナーシップ動向把握と世界におけるアジア諸国の立ち位置の理解、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先は、シリコンバレー（米国）、春季は上海理工大学（中国）、タマサート大学（タイ）、シリコンバレー（米国）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルインターンシップ		本科目では、夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通して、新技術が創出されるイノベーション大国の動向と将来性を理解、併せて外国語運用能力向上を図ることを目指す。同時にスタートアップ、アントレプレナーシップ動向とエコシステムの実態を把握し、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。併せて、語学力向上、多文化理解やグローバルな視点を養うと共に、シリコンバレー流起業プロセスを理解する。夏季・春季ともその渡航先は、シリコンバレー（米国）、ハノイ・ホーチミン（タイ）、マレーシア工科大学（マレーシア）、ダルマプルサダ大学（インドネシア）、ラマイア工科大学（インド）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルアントレプレナーシップ入門		我が国の少子高齢化、新興国の台頭で地球規模の社会、経済、産業、人口構造変化が起きている。このような状況下、市場のグローバル化が余儀なくされ、グローバル人材輩出への期待が年々高まっている。また、不確実性社会が到来、自らの意思判断で時代の潮流に乗り切ることができる、アントレプレナーシップマインドの醸成が必要不可欠となり、双方を兼ね備えた人材が求められている。そこで本科目では、前半で、日本の現状理解、それに応ずるための企業の国際化、市場・産業を理解、また企業が求めるグローバル人材（ニーズ）を理解した上で、個人のキャリアを振り返り、異文化コミュニケーションの必要性と多文化理解を学ぶ。後半では、第4次産業革命、世界のイノベーション、スタートアップ、エコシステムを理解し、アントレプレナーシップの基礎も身に付ける。そして、自ら立案したビジネスプランを作成する能力を養い、ピッチ（プレゼンテーションテクニック習得）実習を行うことでグローバルに羽ばたける人材創出を目指す。	メディア
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルアントレプレナーシップ演習		我が国の少子高齢化、新興国の台頭で地球規模の社会、経済、産業、人口構造変化が起きている。このような状況下、市場のグローバル化が余儀なくされ、グローバル人材輩出への期待が年々高まっている。また、不確実性社会が到来、自らの意思判断で時代の潮流に乗り切ることができる、アントレプレナーシップマインドの醸成が必要不可欠となり、双方を兼ね備えた人材が求められている。本科目では、このような時代の潮流を乗り切れる人材創出を目的とし、「アントレプレナーシップ入門」で身に付けた基礎知識を基に、更なるステップアップを目指す。前半では、「アントレプレナーシップ入門」の振り返りを行い、自身が深堀したいビジネスを取り決め、グローバルで通用するビジネスプラン作成を演習形式で実施する。また、自ら立案したビジネスプランを作成する効果的に発表する能力を養うために、グローバルピッチ演習も実施する。さらには、授業で取り組んだビジネスプランを産学協同で日本社会、そして国際社会でも実装できるよう、起業経験者や国・地域別専門家など様々な学外専門家をゲストスピーカーとして招聘、ハンズオンで指導を受ける機会を設けるなど、各専門分野のスキルも向上させ、アントレプレナーシップマインドを備えたグローバル人材の創出を目指す。	メディア
総合教育科目	グローバル・学際	技術と法		本科目では、知的財産法制や技術に関連する法制度、さらには、技術と倫理の立場や企業組織のコンプライアンス・レピュテーションの維持のために大事な内部統制に関する法制度、さらには、急速な発展とともに次々に法的問題が顕在化しているIT・インターネットに関する法律などを幅広く解説する。IT技術の進歩とともに、科学技術の開発・流通・利用に関わる事件が多発するようになり、技術者にとって技術開発や利用の場面で、知的財産権やIT法制、コンプライアンスといった、関連する法制度や法的思考を理解しておくことが重要になってきている。そこで、理系の学生が知っておくべき法律問題の基本的部分を講義し、一定レベルの知識を会得してもらうことを主な目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （34 杉浦　宣彦／11回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。合計9回の授業においては、知的財産に関する法律知識について解説する。 （99 浅見　浩二／1回） 経営法務に関する法律知識について解説する。 （168 丸山　陽／1回） IT・インターネットに関する法律知識について解説する。 （99 浅見　浩二、168 丸山　陽／1回）（共同） 弁理士業務の概要について説明する。	オムニバス 共同（一部）

総合教育科目	グローバル・学際	産業財産権法		本科目では、特許制度をはじめとした産業財産権制度の意義やその状況等について解説するとともに、権利を活用するまでの基礎的な知識（法目的、保護対象、手続きの流れ、登録要件等）および権利取得および権利行使における実務上重要な事項に関する講義を行う。本科目での学びを通じて、特許制度をはじめとした産業財産権制度が産業の発達にどのように貢献するのかを理解し、産業財産権法の基礎的な知識および実務上重要な事項が理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	グローバル・学際	知的財産法演習		本科目は、演習を通じて、知的財産やITをめぐる様々な事案を題材にした知的財産やIT技術に関連する法制度の基礎を学ぶ。前半授業回では、知的財産の基本的知識を学ぶ。そのうえで、その知識を活かして判例を検討し、発表を行う。後半授業回では、実際に企業や特許事務所で働く弁理士の話を聞いたり、現場を見ることによって、現実社会における知的財産を体験する。どのように法制度を学ぶのか、また、法制度の調査方法（リーガルリサーチ）の基礎を学ぶことにより、なにか法的疑問を感じたときにも対応できる基礎的な能力を会得できることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （34 杉浦　宣彦／9回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。合計7回の授業においては、知財法総論、判例研究の仕方、ITセキュリティ関連の判例研究について解説する。 （141 千且　和也／2回） 特許権をめぐる判例研究について解説する。 （109 大塚　啓生／3回） 商標権や意匠権をめぐる判例研究について解説する。	オムニバス
総合教育科目	グローバル・学際	知的財産取扱基礎知識		本科目では、特許権、意匠権、商標権等を権利化するための特許庁への出願手続、それらを取消または無効とするための審判請求・異議申立ての手続、ライセンス契約の交渉、仲裁手続などの代理業務のほか、知的財産取扱に最小限必要な程度の基礎知識を伝授する。将来開発者を目指す学生にとって、特許や商標等の知的財産に関する知的は、自身が発明した権利を守るという意味で重要な権利である。一方、将来知的財産の業界で働くことを考えている学生にとっては、その業務の内容を知ることは非常に有意義である。このような観点から、知的財産に関する実務を垣間見れるような授業を行い、将来的に活用できる知識の習得を目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （99 浅見　浩二／4回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。このほか2回の授業において、自分の発明を特許出願する方法、意匠法に関連して、先行意匠調査と意匠情報について解説する。 （121 楠　和也／3回） 特許情報の調査、実用新案制度、意匠法に関連してデザインの意義、意匠登録制度とデザインについて解説する。 （168 丸山　陽／2回） 出願から特許取得までの流れ、外国で特許を取るため方法等について解説する。 （148 田中　虹輝／2回） 意匠法、商標法について解説する。 （109 大塚　啓生／3回） 企業経営における商標の効果・価値、商標調査について解説する。	オムニバス
総合教育科目	グローバル・学際	AI・データサイエンス工学概論		自然科学や先端科学技術の諸分野において、人工知能（AI）やデータサイエンスの高度な活用が急速に広がっている。本科目は、理工系学部の各専門分野においてAIやデータサイエンスを活用したいと考える学生を対象とした入門的な科目として、動画及び資料に基づいて、AI・データサイエンスの諸手法の考え方、背後にある数理の概要、そして Python 言語による実装や活用事例を学ぶ。また、Google Colaboratory というクラウド上の実行環境を用いて Python 言語による実際のプログラムの実行と結果の考察を行う。以下を到達目標とする。 ①現代社会におけるAI・データサイエンスの意義を説明できる。 ②機械学習・画像解析・自然言語処理を理学・工学にどのように活用しうるかを例を挙げて説明できる。 ③Python言語で書かれたプログラムをアレンジして簡単な機械学習・画像解析・自然言語処理を行うことができる。 （オムニバス方式／全14回） （37 田口　善弘／3回） Pythonの基礎、Pythonによるデータ分析と可視化について解説する。 （49 生田目　崇／4回） Pythonと機械学習について解説する。 （77 大野　航太／4回） Pythonと画像解析について解説する。 （50 難波　英嗣／3回） Pythonと自然言語処理について解説する。	オムニバス・メディア ※演習 講義7回 演習7回

総合教育科目	グローバル・学際	学問最前線		本科目は、都心キャンパスの学部（基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、法学部、国際情報学部）の学生対象の共同開講科目（1年次配当）である。3学部の教員がそれぞれの専門領域に関連するテーマについて多角的な視点による講義を提供することを通じて、文系・理系を問わず学生に求められる幅広い視野、深い思考の礎となる素養を涵養する。1年次配当科目であることから、大学という学問の入り口に立った学生が他学部(他学科)の学生とも協働しながら、現代において日々生起する新たな問題の解決には様々な思考様式があることを知り、複眼的かつ柔軟な創造力の素地を獲得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （67 山西　博之、52 西村　暢史、15 岩隈　道洋／2回）（共同） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。 （67 山西　博之／2回） 理工学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （58 ホーテス　シュテファン／1回） 持続可能性科学の研究成果の応用を目指して、不確実性やトレードオフに向き合うための体制づくりについて解説する。 （15 岩隈　道洋／1回） リクナビ事件を素材として個人情報保護とELSIについて解説する。 （59 堀江　亜以子／1回） ボーダーレス化する世界と知的財産権の保護について解説する。 （2 樫山　和男／1回） 防災・環境問題を例に数値シミュレーションについて解説する。 （20 角田　篤泰／1回） 情報科学的視点からみた法、法分野へのAI・ソフトウェア工学の応用について解説する。 （30 佐藤　文彦／1回） 生殖補助医療と法、いわゆる代理出産をめぐる課題について解説する。 （27 小向　太郎／1回） サイバーセキュリティと法制度について解説する。 （33 四方　光／1回） サイバー犯罪の現状と対策について解説する。 （51 新妻　実保子／1回） ロボットの自律化、人-ロボットインタラクションなどについて解説する。 （28 斎藤　裕紀恵／1回） EdTechの現状と展望について解説する。	オムニバス・メディア 共同（一部）
総合教育科目	グローバル・学際	学際最前線		本科目は、都心キャンパスの学部（基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、法学部、国際情報学部）の学生対象の共同開講科目（3年次配当）である。3学部の教員が提供する学問分野の発展的内容をそれぞれの学部の学生がともに学ぶという専門的・学際的な視野をもった科目である。3年次配当科目であることから、自らの学問分野における専門的知識を身に付けつつある学生が他学部（他学科）の学生とも協働しながら、異なる学問分野からのアプローチを学び、専門分野横断的で学際的な問題解決力を獲得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （67 山西　博之、52 西村　暢史、15 岩隈　道洋／2回）（共同） 第1回の科目説明、14回のまとめを担当する。 （67 山西　博之／4回） 理工学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （52 西村　暢史／4回） 法学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （15 岩隈　道洋／4回） 国際情報学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。	オムニバス 共同（一部）
総合教育科目	グローバル・学際	多文化共生論		「多文化共生社会」を理解し体得するため、本科目では広く、「越境」と「エンパシー」をテーマに解説する。作品（文学、映画、ドラマなど）を使いながら、自分の固定観念を破り、もっと多様な生、多様な人間がいるということを体感し、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など、人の属性、アイデンティティ、境界線を作る様々な要素について、考察する。本科目での学びを通じて、①自分とは違う環境で生きる人間の心を、前よりも想像できるようになる、②自己と他者の境界線を、前よりも柔軟に捉えることができるようになる、③フィクションが持つ力を実感し、前よりも作品の意味をしっかり考察できるようになる、ことを目指す。	
総合教育科目	グローバル・学際	障害学		障害学は、1970年代以降、徐々に学問領域／アプローチとして形成されてきた。障害学において、障害とは主流派の身体と異なる（とされた）身体、異なる（とされた）身体性のことを指しつつ、そうした身体性を持ってこの社会を生きていくことの経験、とりわけそこで生じる社会的な不利益や差別、排除、抑圧のことを障害と呼ぶ。ここでの「身体」「身体性」には精神や認知特性といったものも含まれる。障害学は、この障害の社会的な側面に焦点を当て、社会構造、人々に与えるインパクト、そして障害の経験の中で紡ぎ出された思想を学問的に取り扱う。本科目では、障害学の蓄積を学ぶことを通じて、障害とそれを取り巻く社会を捉え、複数の視点を獲得することを目的とする。また、障害については、制度化された学問体系には収まらない「知」や「思想」がたくさんあるため、学術論文や書籍以外の書かれたものや、映像なども取り上げながら、考えを深める。	

総合教育科目	グローバル・学際	Global Issues A	○	In this course, students will study in English about the most pressing environmental challenges faced by the world today, including climate change, energy generation, resource depletion, deforestation, and pollution. They will go beyond a superficial understanding of these problems to examine the deep-lying global structures that systemize and perpetuate environmental damage. This is a task-based course in which students will be expected to work in groups to carry out independent research projects into the issues studied in class. Through their work in class they will learn how to research information from reliable sources, critically examine and analyze evidence, and draw conclusions supported by verifiable data. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、現代の世界が直面する環境問題について英語で学ぶ。気候変動、エネルギー生成、資源の枯渇、森林破壊、汚染といった最も差し迫った問題を取り上げ、これらの問題をより深く理解するために、環境破壊が体系的かつ持続的に行われる根本となっている世界の構造について考える。授業はタスクを中心とし、授業で取り上げた問題についてグループで調査プロジェクトを実施する。本科目での学びを通して、信頼できる情報源を使って調査し、また証拠を批判的に検討して分析し、検証可能なデータに裏付けられた結論を導く力を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	Global Issues B	○	In this course, students will learn in English about important social and technological issues in the world today, including artificial intelligence, social media, aging societies, global migration, and human rights. Through their work in class, students will learn how scientific advancements are transforming the way we work and interact and they will cast a critical eye on both the risks and rewards of technological change. They will also study in depth about social change happening across the globe and analyze the trends that are likely to shape our societies tomorrow. They will continue to work in groups to complete self-directed projects, learning how to manage time and resources within a team environment. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、人工知能、ソーシャルメディア、高齢化社会、世界規模の移民、人権といった、現代世界における重要な社会問題および科学技術問題について英語で学ぶ。本科目での学びを通じて、科学技術変化のリスクと恩恵の両面に批判的な目を向け、科学の進歩がいかに働き方や交流の仕方を変容させているかを考え、さらに、世界で起こっている社会的な変化を掘り下げて調べ、これからの社会を形作っていきそうな傾向を分析する力を身に付ける。また、自律的にグループでプロジェクトを実施し、チームで時間とリソースを管理する力も身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	Education for SDGs	○	In this course, students will examine in English the United Nations’ 17 Sustainable Development Goals (SDGs), putting a focus on what we as individuals can do to ameliorate social, economic, and environmental inequalities within our world. As well as taking a broad overview of the SDGs and their principles and challenges, students will choose one goal they have a particular interest in, carrying out a research project into a specific instance of how individual action impacted a local area. They will present the results of their research in a written report and oral presentation. Through their work in class, they will learn the fundamental principles of communicating information clearly, concisely, and attractively. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、国連の掲げる17の持続可能な開発目標(SDGs)について英語で調査し、私たちの世界にある社会的、経済的、環境的な格差を改善するために私たちが個人としてできることは何かを考える。17の目標とその原則や課題を概観した上で、受講者それぞれが関心を寄せる目標を一つ選び、いかに個人の行動が地域に影響するかを具体的に示す調査プロジェクトを実施する。調査の結果はレポートとプレゼンテーションの両方で報告する。本科目での学びを通じて、明瞭に、簡潔に、そして興味をもってもらえるように情報を伝えるための基本原則を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	

総合教育科目	グローバル・学際		International Relations and Politics	○	In this course, students will study politics and international relations in English to gain an understanding of events happening around the globe. They will watch news items aimed at native speakers, read articles, and prepare summaries and questions. Through their work in class, they will learn how to express their opinion in a logical and persuasive manner and how to lead discussions and debates. They will also learn to look behind current events to uncover the underlying causes of conflicts and disputes, examining issues like religion, democracy, terrorism, and the clash of ideologies. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、世界で起こっている出来事を理解するために政策と国際関係について英語で学ぶ。授業では英語母語話者に向けて作成されたニュースを視聴し、記事を読んで、要約を作成したり論点を準備する。本科目での学びを通じて、論理的に説得力をもって意見を述べることを学び、議論やディベートを導く力を身に付ける。さらに、現在起こっている出来事の背景を探って対立や紛争の根底にある原因を明らかにし、宗教、民主主義、テロ、そしてイデオロギーの衝突といった問題を調査する力を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
専門教育科目	基礎科目	数学	線形代数	○	線形代数は19世紀後半にその基礎が整備されたが、理工学、社会科学全般において不可欠の言語となっている。本科目では、空間図形の復習、行列の導入から出発して、連立一次方程式の解法と行列式について、理論的な考え方の理解と計算の習熟に重点をおいて解説する。これらの項目は、ベクトル空間、基底、次元、固有値、行列の対角化などの学習で不可欠な要素である。線形代数の基本（空間図形、行列、掃き出し法、行列式）について学ぶ。行列や行列式の基本事項を理解できるようになり、演習問題が自力で解け、その解法を明確に説明できることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	数学	微分・積分	○	本科目では、微分積分学の基礎である極限、連続の概念を学び、１変数関数の微分積分について諸概念や諸定理を踏まえて、具体的な計算ができるようになることを目指す。具体的には、数列の極限と実数の連続性、関数の極限と連続関数、初等関数、関数の微分、平均値の定理とロピタルの定理、高次の導関数と曲線の凹凸、テーラーの定理、ランダウの記号と漸近展開、定積分と不定積分、積分の計算、広義積分、などについて解説し、理解を深める。	
専門教育科目	基礎科目	数学	解析学基礎	○	本科目では、多変数関数の偏微分法と重積分について学ぶ。具体的には、多変数関数の極限と連続性、偏微分と全微分可能性、合成関数の微分、高次の偏導関数と２変数のテーラーの定理、２変数関数の極値の判定、陰関数の定理と条件付き極値問題、重積分と累次積分、重積分の変数変換、体積、曲面積、線積分とグリーンの定理、ガンマ関数とベータ関数、について解説し、理解を深める。多変数関数の微分積分について具体的な計算が出来るようになることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	数学	常微分方程式	○	本科目では、都市環境という分野における道具としての数学という観点から、特に常微分方程式に重点をおいて解説する。内容的には一部は高校から大学1年までの数学を基礎として、都市環境の分野で今後新しく必要となるものまでを広くカバーする。特に、基礎から応用まで多用する、常微分方程式の基礎、1階常微分方程式、2階線形微分方程式、高階微分方程式、演算子、級数解法、常微分方程式の数値解析を重点的に講義し、将来的に数値解析プログラミングに応用できる能力を身につけることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	数学	偏微分方程式	○	偏微分方程式は、流体力学、材料力学など、時空間の変形を取り扱う分野において、重要な基本的な概念となる。本科目では、偏微分方程式の基礎的な知識、分類、解析解の特徴を、具体的な事例（常微分方程式の解法、偏微分と全微分、１階偏微分方程式、ラグランジュの偏微分方程式の解法、完全微分方程式と全微分方程式、2階線形偏微分方程式、フーリエ解析の復習、波動方程式、円柱・球座標での偏微分方程式、極座標・円柱座標におけるラプラシアン、ベッセルの微分方程式とベッセル関数）を用いて学び、理解できるようになることを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	数学	ベクトル解析	○	ベクトル解析は、あらゆる力学の数学的記述の基礎をなしており、工学の分野においては空間や時間の関数として表現される現象を記述するに際して必要不可欠な学問である。本科目では、ベクトルの基本的概念からスカラー場やベクトル場の微分積分学への適用を学ぶとともに、工学分野におけるベクトル解析の位置づけとそれを用いた計算手法（スカラー場の勾配ベクトル、ベクトル場の発散、ベクトル場の回転等）を習得することを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	数学	フーリエ解析	○	本科目では、都市環境という分野における道具としての数学という観点から、特にフーリエ解析に重点をおいた講義を行う。内容的には一部は高校から大学1年までの数学を基礎として、都市環境の分野で今後新しく必要となるものまでを広くカバーする。また、偏微分方程式に繋がる連続性も持ち合わせている。基礎から応用まで今後多用する、フーリエ級数の基礎、フーリエ級数の応用、フーリエ変換の基礎、フーリエ変換の応用、偏微分方程式の基礎、偏微分方程式への応用を重点的に講義し、将来的に数値解析プログラミングに応用できる能力を身につけることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	数学	固有値解析	○	行列の固有値と固有ベクトルは、線形代数において重要な概念であり、構造工学、振動工学、連続体力学、信頼性工学など、都市環境学科に限らず、様々な工学分野において不可欠な概念である。本科目では、「線形代数」で学んだ行列の基本事項（行列による一次変換や固有値）を踏まえ、行列の固有値と固有ベクトルを用いた工学的な諸問題のモデル化の手法（座標変換、固有振動数、主応力、主成分分析）を学び、その実際の計算を実施できるようになることを目的とする。	

専門教育科目	基礎科目	数学	複素関数	○	都市環境という分野における道具としての数学という観点から、特に複素関数に重点をおいた講義を行う。内容的には一部は高校から大学1年までの数学を基礎として、都市環境の分野で今後新しく必要となるものまでを広くカバーする。基礎から応用まで多用される、複素数と複素数平面の基本、さまざまな複素関数、複素関数の微分（コーシー・リーマンの方程式）、複素関数の積分、複素関数の級数展開の基礎、複素関数の級数展開（実数関数の積分への応用）を重点的に講義し、将来的に数値解析プログラミングに応用できる能力をつけることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	数学	確率・統計	○	本科目は、統計学の入門的な位置づけであり、データの収集法から、 データの要約（統計的記述）の方法、データにつきまとう不確実性の確率による表現、不確実性を考慮に入れた統計的推測の方法までを体系的に学ぶ。具体的には、記述統計学、確率と確率変数、データの収集、統計的推測について解説し、理解を深める。①世の中に溢れる統計の誤用・悪用に気づき、正しい情報や問題点を読み取ることができるようになること、②データによって適切な要約法が異なることを理解し、適切な要約方法を自分で選択できるようになること、③不確実な事柄を確率や確率変数で表現し、それを用いて判断に活かすことができるようになること、④基本的なデータの収集法を理解し、必要に応じて適切なデータ収集法を選択することができるようになること、⑤点推定や区間推定を用いて、母集団についての推測を行うことができるようになること、⑥仮説検定によって自らが立てた仮説を検証するための考え方と方法を理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	数学	データ解析基礎	○	本科目では、統計分析のソフトとしてPythonを用いて、確率・統計を学ぶ。具体的には、量的変数の要約（可視化）、量的変数の関連（散布図）、確率、確率変数、確率分布、複数の確率変数、母集団と標本・標本抽出、点推定・区間推定、仮説検定、カイ二乗検定・分散分析、回帰分析、重回帰分析（残差の解析）について解説し、理解を深める。研究における「データ解析基礎（統計学）」の役割を理解することを目的とする。確率･統計で学んだ基礎的知識をさらに深め、確率分布、母集団と標本の関係、区間推定、仮説検定および重回帰回分析について理解することを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	数学	回帰モデル	○	本科目では、変動や誤差を有するデータの処理方法の基本的考え方を学ぶ。講義の進め方としては、統計解析ソフトを利用してデータ解析を体験的に学習する。具体的には、教師データありの分析手法である、回帰分析、判別分析、離散選択モデルの基礎について学習する。時空間データと回帰分析、重回帰分析、判別分析、離散選択モデル、の順に講義し、自ら問題を設定し、データ解析の手法を利用することで、その問題が解決できるようになることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	数学	クラスター分析	○	本科目では、変動や誤差を有するデータの処理方法の基本的考え方を理解する。統計解析ソフトを利用してデータ解析を体験的に学習する。教師データなしの分析手法である、主成分分析、因子分析そしてクラスター分析について学習する。変数間の関係を用いた分析法、主成分分析、因子分析、ここまでの演習、クラスター分析(階層クラスタリング（デンドログラム）)、クラスター分析(K-means法)の順に講義し、さらには自ら問題を設定し、データ解析の手法を利用することで、その問題が解決できるようになることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	数学	最適化理論	○	最適化に用いられる基本的な手法を理解し、利用できるようになるとともに、方法を自分で実際に具体的問題に適用し、最適化することの有効性を認識する。利害対立の構造理解や社会的合意形成の数学的意味付けの理解に有効な最適化の理論を理解する。線形計画問題、制約条件付非線形最適化、待ち行列問題、ネットワークの最適化、不確実性下での最適化、ゲーム理論の順に講義し、基本的な問題の解法を身につけるとともに、社会の中で何が「目的関数」「制約条件」になり、何がトレードオフとなっているかなどを洞察し、現実の問題と数学的なアプローチの関係性の見通しがつけられるようにする。	
専門教育科目	基礎科目	数学	ミクロ経済学序説	○	本科目では、人間行動の定式化としてミクロ経済学の基礎について学ぶ。企業・世帯行動の定式化および市場均衡の概念を理解し、土地利用、交通、環境問題を考える上での社会的厚生最大化の政策を検討するための基礎を学ぶ。ミクロ経済学の考え方と企業の行動、世帯の行動の定式化、市場均衡と余剰、交通市場：私的費用と社会的費用、土地市場と立地均衡、情報の経済学(不確実性と非対称性)を順に学習し、企業・世帯行動の定式化ができるようになるとともに市場均衡の概念が理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	情報	プログラミング言語	○	本科目では、プログラミングの基礎を実践を通して学んでいく。言語としてはPythonを用いる。Pythonは柔軟性に富んだ言語であり、比較的学習もしやすい。特に数値処理に適した言語であり、研究のための基礎ツールになる。Pythonを理解し、自分でプログラムを作ることができるようになることを目指す。近年、アカデミアおよびテック系企業の双方において需要の高まっている Python によるプログラミングを学習・実践することで、データ処理に必要な論理的思考方法とプログラミングに関して、最低限のノウハウを身につけることを目標とする。	※演習 講義7回 演習7回
専門教育科目	基礎科目	情報	数値解析	○	数値解析とは、解析的に解くことが不可能な数学上の問題を数値的に（コンピュータを用いて）解く手法に関する学問である。本科目では、都市環境の諸問題に現れる数学モデルを解くための各種数値解析手法を学ぶ。この科目の学びを通じて、学生が各種数値解析手法の理論を理解するとともに、コンピュータ利用（高級言語、数式処理言語、表計算）により実際の都市環境学に現れる数学モデルを解くことができるスキルを身につけることを目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	理学	力学	○	本科目では、高等学校で学んだ力学の内容に触れつつ、大学で学ぶ力学・数学の内容を積極的に取り入れた講義を行う。力学の基本概念や力学法則、運動方程式のたて方やその解法、物理的意味などに触れながら、力学も含めた様々な分野で応用可能な微分方程式の解法にも焦点をあてて解説する。古典力学の基本的概念と典型的な問題の解法を理解し、ひいては理学・工学の基本的な考え方を身に付けることを目的とする。基礎的な力学の問題に対して適切に運動方程式をたてることができ、微分方程式の解法を通して物体の運動を数学的に理解できるようになることが到達目標である。	

専門教育科目	基礎科目	理学	基礎化学	○	化学は物質の構造・特性・反応を理解し、あらたなモノを創り出すことのできる学問である。本科目では、最初に原子の構造から始め、周期律と原子構造の関係、それを基に分子の構造の理解へとつなげる。物質の三態（気体、液体・溶液、固体）、化学反応と化学平衡など化学を分子の観点から理解する基礎理論を解説する。応用としては電池、放射線に関しても述べる。化学は、環境、生命、食品など、多くの科学分野にとってその基礎となっている。この科目の内容を身のまわりの生きた"化学"と紐づけて理解を進め、化学に対する認識を深めることを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	理学	地学1	○	地球上には生命が育まれ、私たち人類も出現し、豊かな文化や芸術も生まれた。私たちが享受する美しい自然も地球の変化の産物である。一方で、そうした地球の変化は、ときに私たちにとって脅威となる。地震、洪水などの自然災害は地球の変化のひとつの側面であり、私たちは否応なしにこれらと対峙しなければならない。さらに近代以降は、逆に、拡大する人類活動が地球という惑星や私たち自身を含むそこに生きる生命にとって脅威となりつつある。このような時代において、さまざまな現象を地質学的時間・空間スケールで捉えることは、私たちの存在を再認識する上でも、また、自然災害を軽減し環境問題を解決するためにも重要であり、これからの時代を担う科学者・技術者・教育者にとって必須の素養と言っても過言ではない。本科目では、地球に変化を与える２種類の主たる営力（内的営力と外的営力）のうち、内的営力（地球内部に起因する営力）に関する内容、具体的には、プレートテクトニクス、鉱物、岩石、火山、地震などについて学び、理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	理学	物理実験	○	物理学はあらゆる理工学の基礎である。物理学では実験と理論がともに重要な役割を担ってきたが、実験の裏付けがない限り、理論の発展もない。大学において物理学を学ぶにあたって、実験を通じて自然の仕組みを知ることにはたいへん大きな意義がある。本科目では、以下の課題（単振り子、磁気、低温の世界、水素スペクトル、電子の比電荷の測定、回折と干渉、たわみによるヤング率の測定、オシロスコープ、電磁波、GM管による放射線の測定）の検証実験を自ら行う。実際に手を動かして実験した内容をレポートにまとめることを通して、講義で学んだ物理現象に対する理解をより一層深めることを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	理学	化学実験	○	本科目は、化学の基礎知識及び基本操作の体得を目標とし、基礎的な物理化学、無機化学、有機化学の実験を行う。具体的には、ガラス細工・予備実験、陽イオンの定性分析（金属イオンの反応による同定、金属イオン混合物の分離同定）、アルカリ混合物の定量（中和滴定）、電位差法（pHメーター）を用いた酢酸の水酸化ナトリウムによる滴定、分光光度計によるリン酸イオンの比色定量分析、ガスクロマトグラフィーによるアルコール含有量の測定、薄層クロマトグラフィーを用いたアミノ酸の分離、p-ニトロアセトアニリドの合成、アゾ色素の合成（ジアゾ化反応とカップリング）、パソコンを利用した分子モデリングについて実験を行う。各回の実験について、事前に実験計画を立て、実験後にはレポートを作成して実験の内容とデータをまとめ、考察する。このような作業を重ねることにより、化学現象を科学的に認識し、正しく情報を発信する能力を身につけることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	理学	熱力学・電磁気学	○	本科目では、古典物理学のうち、電磁気学と熱力学の２分野を中心として、基礎的な考え方、物理的な考え方に重点をおいた解説を行う。具体的には、温度と熱、熱と仕事、熱力学第一法則、熱容量、理想気体の熱力学的性質、カルノーサイクル、熱力学第二法則、エントロピーの導入、電荷にはたらく力、静電場の性質（ガウスの法則、静電ポテンシャル）、導体と静電場、定常電流の性質、電流と静磁場、電磁誘導の法則について解説し、理解を深める。都市環境学あるいは土木工学において具体的な問題に取り組む際、問題解決の基本的な考え方の基礎として役立つことを目指す。	
専門教育科目	コア科目		都市環境学概論1	○	本科目では、都市環境学の学問体系の全体像を把握するために、都市環境学とはどのような学問であり、いまどのようなことが課題となっているかを実例を通じて学ぶ。到達目標は、都市環境学の学問体系の全体像を把握すると共に都市環境の課題について理解することである。都市環境学を学習前提として、日本の国土（地形、地質、自然条件、社会条件）を基礎として学習し、計画、設計、施工、維持管理に繋がる概論を学習する。さらに、実際の実例として墨田川沿いの現場見学、関西国際空港を題材とした現業を学習する。 （オムニバス方式／全14回） （2 樫山　和男／7回） 東京の都市環境（隅田川と橋梁、スーパー堤防） （7 西岡　英俊／7回） 事例研究：関西国際空港（計画、設計、施工、維持管理）	オムニバス ※実習 講義12回 実習2回
専門教育科目	コア科目		都市環境学概論2	○	本科目では、物理現象ならびに自然現象を体験し、それらの現象を説明可能とする理論ならびに現在の理論では説明できない問題点等の概要を学び、今後の専門教育科目の理解を深めるための導入知識を修得する。本科目は、物理化学や力学に関する高等教育から大学で本格的に学ぶ各種の専門教育への移行をスムーズに行えるような架け橋的科目であるとともに、専門教育科目への導入的科目でもある。固体材料の破壊現象、物理現象と自然現象、川の流れ、海の波、固体材料の破壊現象をテーマに学習し、それぞれの基礎から応用までを理解することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （8 平川　大貴／3回） 土の力学的特性と破壊過程、土質実験見学 （1 有川　太郎／3回） 海の波の基礎と応答、海岸実験見学 （12 大下　英吉／3回） 鋼材、コンクリートの力学的特性と破壊過程、鋼材とコンクリート実験見学 （6 手計　太一／3回） 川の流れ基礎、川の流れ応用、実験見学 （7 西岡　英俊／2回） 地震動による構造物の振動特性と破壊過程、地震動による構造物の実験見学	オムニバス

専門教育科目	コア科目		空間情報学	○	本科目は、測量技術の基本的な考え方を修得することを目的とした講義である。測量は、基本的に距離と角度と高低差を測り、地球上のいろいろな点の位置を決める技術である。これらの測量は測定誤差を伴うので、この誤差を処理する方法についても修得する。測量実習を通じて体得する古典的な測量方法に加えて、最近の新しい技術についても触れる。この科目での学習を通じて、学生が測量には誤差がつきものであるという認識を深めるとともに、その誤差を誤差理論に基づいて適切に調整する基礎的な知識を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア科目		卒業研究I	○	3年次までに受講した講義・演習・実習により培ってきた都市環境学の知識を基に、1年を通して卒業研究に取り組む。評価は半期ごとに「卒業研究I」「卒業研究II」として行う。本科目では、専門的能力の向上のために「問題の認識・技術的背景・技術情報などの探求法」「実験・解析技術」などの習得を目指す。論文等から専門的知識とともに研究遂行の過程で得られる実践的な知識を得て、都市環境学分野における「専門性」を養う。また、Civil Engineerとして求められる「コミュニケーション能力」、「問題解決能力」、「知識獲得力」、「組織的行動能力」、「創造力」、「自己実現力」および「多様性創発力」を養う。 「幅広い教養と技術者倫理」、「基礎及び専門知識・応用能力」、「表現・コミュニケーション能力」および「エンジニアリングデザイン力(自己学習、先端技術への関心、リーダーシップ)」の能力が得られることを目指す。	
専門教育科目	コア科目		卒業研究II	○	3年次までに受講した講義・演習・実習により培ってきた都市環境学の知識を基に、1年を通して卒業研究に取り組む。評価は半期ごとに「卒業研究I」「卒業研究II」として行う。本科目では、「卒業研究I」で習得した「問題の認識・技術的背景・技術情報などの探求法」、「実験・解析技術」を向上させるとともに、「結果のまとめ方」、「原稿執筆・発表の方法」などを習得し、その成果を卒業論文として提出する。 論文等から専門的知識とともに研究遂行の過程で得られる実践的な知識を得て、都市環境学分野における「専門性」を養う。また、Civil Engineerとして求められる「コミュニケーション能力」、「問題解決能力」、「知識獲得力」、「組織的行動能力」、「創造力」、「自己実現力」および「多様性創発力」を養う。 「幅広い教養と技術者倫理」、「基礎及び専門知識・応用能力」、「表現・コミュニケーション能力」および「エンジニアリングデザイン力(自己学習、先端技術への関心、リーダーシップ)」の能力が得られることを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	コース	社会基盤系ゼミナール1	○	「社会基盤系ゼミナール」は、社会基盤施設の整備（設計・施工）・維持管理を通じて安全・安心な社会の実現に貢献するエンジニアに求められる実務的な技術について、実験や解析の実習を通して経験し、課題解決に向けたアプローチを理解することを目的とした科目である。そのうち本科目では、土質材料の締固めと強度試験（一面せん断試験と三軸圧縮試験）、鉄筋コンクリート部材の設計および打設技術、片持ち梁のたわみと固有振動数による構造同定技術についてオムニバス方式で取り扱う。 （オムニバス方式／全14回） （8 平川　大貴／4回） 土質材料の締固め試験と考察、土の三軸圧縮試験と考察 （7 西岡　英俊／4回） 土の一面せん断試験と考察 （12 大下　英吉／4回） 鉄筋コンクリート部材の設計法とその考察、コンクリート打設技術とその考察 （2 樫山　和男／2回） 片持ち梁のたわみと固有振動数による構造同定技術	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	コース	水環境・防災系ゼミナール1	○	本科目では、 都市環境の中でも水環境や防災にかかわる科学技術を通じて、持続可能な社会、安全・安心な社会の実現に貢献できるエンジニアに求められる実践的な技術を学習する。特に、大気、陸水、海洋の流体現象や解析の理論の基礎を演習形式で実践的に学ぶ。前半では流体力学の中の水に着目した応用部分について学習する。「水環境・防災系ゼミナール2」に接続するため、基礎的かつ幅広い分野を理解し、深く学習することを目的としている。また、国際的視点も強く意識した講義とする。 （オムニバス方式／全14回） （6 手計　太一／10回） 開水路の急変流及び漸変流など、陸水分野における最先端研究調査 （10 新田　友子／2回） 大気分野における最先端研究の調査 （1 有川　太郎／2回） 海岸分野における最先端研究の調査	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	コース	計画系ゼミナール1	○	私たち人間は、空気・水・土・動植物・景観などの環境からさまざまな恵みを受けて生活している一方で、活動によりこれらの環境に影響を与えている。自動車などの排出ガスによる大気や水質汚濁、騒音・廃棄物などの都市・生活型公害、外来生物による生態系やメンタルも含めた健康被害、さらに地球規模の気候変動がもたらす災害などの問題が生じている。本科目では生活環境の改善を市民とともに考えるための(情報)基盤について学ぶ。講義は演習形式で行い、国土や都市の計画に必要となる生活環境の調査、改善、評価を行うための基礎的な知識と技術を、グループワークを通して習得すること、発表能力を高めることを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （5 谷下　雅義／7回） コロプレス図をつくる Python、人工衛星・航空写真、ハザードマップなど （11 三浦　詩乃／7回） FormITの使い方、交通量・騒音・照度計測（緑・壁効果）、後楽園キャンパス空間など	オムニバス

専門教育科目	コア選択科目	コース	社会基盤系ゼミナール2	○	「社会基盤系ゼミナール」は、社会基盤施設の整備（設計・施工）・維持管理を通じて安全・安心な社会の実現に貢献するエンジニアに求められる実務的な技術について、実験や解析の実習を通して経験し、課題解決に向けたアプローチを理解することを目的とした科目である。そのうち本科目では、第1回から第9回までは以下のオムニバス方式で各種実験や数値解析を取り扱い、第10回～第14回は、配属先の研究室に分かれて、卒業研究に向けた学習を行う。 （オムニバス方式／全14回） （12 大下　英吉／4回） ＲＣ部材の曲げ試験、せん断試験、考察、最先端の研究動向の調査と、卒業研究に必要な基本スキルの習得 （8 平川　大貴／3回） 液状化の実験、考察、最先端の研究動向の調査と、卒業研究に必要な基本スキルの習得 （7 西岡　英俊／4回） 擁壁土圧の実験、考察、最先端の研究動向の調査と、卒業研究に必要な基本スキルの習得 （2 樫山　和男／3回） 汎用構造解析プログラムによる不静定構造物の構造解析、固有値解析、最先端の研究動向の調査と、卒業研究に必要な基本スキルの習得	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	コース	水環境・防災系ゼミナール2	○	本科目では、「水環境・防災系ゼミナール1」で学んだ基礎や幅広い知識を利用して、大気、陸水、海洋の流体現象や解析の理論の応用を実践的に学ぶ。ここでは、実験や数値解析の実習を通して経験し、課題解決に向けたアプローチを学ぶ科目である。大気分野、陸水分野、海岸分野のそれぞれにおいて実験を考察を深めることを通して、理解を深化させることを目的とする。これまで学習してきた数学やプログラミング技術を実践的に応用する機会を設ける。また、国際的視点も強く意識した講義とする。 （オムニバス方式／全14回） （6 手計　太一／3回） 講義概要と分野別研究紹介、陸水分野における実験と考察 （10 新田　友子／2回） 大気分野における実験と考察 （1 有川　太郎／2回） 海岸分野における実験と考察 （6 手計　太一、10 新田　友子、1 有川　太郎／7回）（共同） 各分野における研究動向の調査と、卒業研究に必要な基本スキルの習得	オムニバス・共同（一部）
専門教育科目	コア選択科目	コース	計画系ゼミナール2	○	本科目では、学生をいくつかのグループに分け、各グループで土木計画および都市地域計画に関するテーマを設定し、仮説をたてて検証する。実務問題の本質を把握するとともに、その解答を工学的に分析することによって、解を導くまでの過程を表現するトレーニングを行う。本科目での学びを通じて、都市･環境問題を解決するための具体的な代替案を考え、これらの中から妥当な案を各種資料やGISを用いて定量的に評価、選択し、その結果を他の人に理解してもらえるよう説明する能力を身に付けることを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （5 谷下　雅義／7回） 経済分析指導、中間発表・最終発表審査 （9 竹内　龍介／7回） GIS分析指導、中間発表・最終発表審査	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	キャリア・倫理	都市環境キャリアデザイン	○	公共的な事柄に携わる土木工学分野において技術者として関与するためには、教養(自然科学、人文科学、社会科学など幅広い学識)、技術者倫理、専門知識、コスト・時間・安全・品質・環境などを考慮した総合的なマネジメント能力が求められる。本科目では、都市と環境に関する現状と諸問題に触れて各分野での土木技術者に求められる知識・能力・倫理観について理解するとともに、職務・職責、望まれる人材像を知って自らのキャリアデザインを思考する能力を養うことを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	キャリア・倫理	現場見学	○	本科目は、3年次前期までに学んだ都市環境学に関する社会基盤系および水環境・防災系の専門科目の総合として、実際の現場の見学を行い、それらが計画・設計・施工・維持管理のそれぞれの段階で、どのように活用されているか理解することを目的とする。見学先は、東京都内および近郊の社会基盤施設や防災施設の現場（建設工事中の現場に限らず、実際に完成して供用中の施設も含む）や、建設資材製作工場、土木分野の公的研究機関あるいは土木系企業の研究所などの見学を行う。	
専門教育科目	コア選択科目	キャリア・倫理	公務員のための都市環境学	○	前半は、構造力学、水理学および土質力学について、実務問題の本質を把握するとともに、その解答を工学的に分析することによって、解を導くまでの過程を表現するトレーニングを行う。後半は「計画系ゼミナール1」を受けて、都市環境学の専門知識が体系的に身についているか、特に基本となる力学系科目を中心に確認する。あわせて公務員としての実務について学ぶ。「安全・利便・快適かつ景観に優れ、そして持続可能な生活環境を市民とともに創造し、豊かな環境・文化を次世代につなげる仕事を担う人材を養成」することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （5 谷下　雅義／7回） 構造・水理・地盤などの力学指導、都市プランニングでの必要性、多変量解析＋制約条件付き最適化問題の定式化・解法・解釈等 （131 佐々木　啓文／7回） 計画の諸要素、法律・行政・財政などの行政・社会のマネジメント知識、集団意思決定に必要な表現力等	オムニバス

専門教育科目	コア選択科目	キャリア・倫理		建設技術者のための都市環境学	○	本科目は、将来的に防災施設を含む社会基盤施設の整備および維持管理を行う発注機関、建設会社、建設コンサルタント等で建設技術者として働くことを志す学生を対象として、3年次までに主に社会基盤系および水環境・防災系の専門科目で学んだ専門的知識を、実務に活用できるように再整理及び体系化して学び、実務の際に直面するトレードオフ問題を取り扱う際に必要となる建設マネジメントの基本的な考え方について理解することを目標とする。発注機関、建設会社（ゼネコン、サブコン）、建設関連業（建設コンサルタント、地質調査会社）のそれぞれの立場における建設マネジメントの実例について取り上げ、理解を深める。	
専門教育科目	コア選択科目	キャリア・倫理		国際技術者のための都市環境学	○	本科目では、都市の複雑な課題に対処するため、都市計画、環境工学、持続可能性などを総合的に学ぶ。特に国際的な視点から都市の構造や課題を理解し、環境への影響を最小限に抑えつつ、効果的で持続可能な都市設計を追求する技術者を養成することを目標とする。実践的なプロジェクトや事例研究を通じて、現実の都市環境の課題に対処するスキルを学ぶ。これまで日本のODAで実施してきた国際プロジェクトのみならず、援助によらない相手国の予算で実施した我が国の企業の活躍を紹介する。	
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（1）構造・材料	材料力学・同演習	○	本科目は、材料力学、弾性力学、塑性力学や流体力学などの連続体力学一般を体系的に学ぶことの第１段階として、弾性力学の基礎を修得することを目的とする。土木分野にとどまらず各分野において、ここ十数年余りに急速な発展を遂げた有限要素法を理解するためには、材料力学は必修であり、連続体力学の基礎ともなる学問である。本科目では、材料力学、弾性力学、塑性力学や流体力学などの連続体力学一般を体系的に学ぶとともに、基本理論・原理を演習により詳細に理解し、応用能力の発展を図る。連続体力学の枠組みの中における力学の基礎の修得を目指す。	※演習 講義7回 演習7回
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（1）構造・材料	構造力学1	○	構造力学は、形が変化する物体（固体）の力学として一般的な原則を学んだ「材料力学」の内容を踏まえ、３次元的挙動を示す物体に対して特有の条件を適用することで１次元に単純化した骨組構造物における力学的挙動を学ぶ基礎的な学問である。本科目では、物体挙動の３次元から１次元への単純化プロセスの概念、骨組構造のうち「静定はり」としての力学的挙動の振る舞いを、数式的かつ図式的に表現する手法を学び、実事例に適用可能となる素養を習得することを目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（1）構造・材料	コンクリート材料1	○	セメント・コンクリートは、鉄鋼とともに今日の土木・建築構造物の主たる建設用材料である。このような主要な建設材料であるセメント・コンクリートに関する材料学的かつ工学的知識を学ぶ学問が「コンクリート材料1、2」であり、セメント・コンクリートと名が付くあらゆる学問の基礎をなすものである。本科目では、セメントの成り立ちから製造工程、セメントと水との水和発熱反応から硬化過程の特性に関する基礎知識を修得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（1）構造・材料	構造力学2	○	構造力学は、形が変化する物体（固体）の力学として一般的な原則を学んだ「材料力学」の内容を踏まえ、3次元的挙動を示す物体に対して特有の条件を適用することで1次元に単純化した骨組構造物における力学的挙動を学ぶ基礎的な学問である。本科目では、静定はりのモデル化を学んだ「構造力学1」の内容を踏まえ、骨組構造のうち、部材同士をピン接合した「トラス」、部材同士を剛接合した「ラーメン」としての力学的挙動の振る舞いを、数式的かつ図式的に表現する手法を学ぶ。影響線の概念を学ぶことで、自動車や列車などの移動荷重の下における骨組構造物の変形挙動に対する取扱いの習得を目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（1）構造・材料	コンクリート材料2	○	世界各国における社会基盤をなす構造物には、鋼材やセメントを主成分としたコンクリートなる材料が使用されており、このような主要な建設材料であるセメント・コンクリートに関する材料学的かつ工学的知識を学ぶ学問が「コンクリート材料1、2」である。構造物としての機能を果たすためには、それら材料の品質や強さ、自然環境などによる劣化などの特性が重要となる。本科目では、セメントと水が水和発熱反応した後のコンクリートの強度、耐久性、水密性に代表される各種の機能と材料の劣化性状に関する基礎知識を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（2）土質	土質力学1	○	橋やトンネル、堤防など、全ての社会基盤施設は地盤との関わりを無視することができない。地盤を工学的に利用するための学問が地盤工学であり、安全・安心な社会の実現に必要不可欠な学問である。この地盤は、主に岩と土に分けられるが、このうち土は極めて身近な工学材料であるものの、土粒子、水、空気から成る二層三成分の材料であるため、複雑な挙動を示す。この材料としての特性を学ぶのが「土質力学」である。本科目では、土質力学の基礎として、土の状態を定量的に説明するための基本的な指標（粒度、単位体積重量、含水比、間隙比、飽和度等）を理解するとともに、それらの指標やコンシステンシー等の特性に基づく工学的な土の分類方法について学ぶ。土質力学およびそれに続く地盤工学で扱う諸問題を俯瞰するのに必要な基本的な知識を身に付けることを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（2）土質	土質力学2	○	地下水以深で土中の水に圧力差が生じると間隙内を水が移動する。このような透水現象における地盤工学上の重要な論点は、透水量と透水力となる。透水量は漏水問題、透水力は土・地盤の安定問題につながる。本科目では、土の透水現象を理解し、土木技術者として土・地盤の種々の透水問題に対応するために必要な基本的な知識を得ることを目的とする。透水性の指標である透水係数の物理的な意味と算出方法、流速と透水量の関係性、間隙中を水が流れる際に土粒子に働く透水力と土・地盤の安定問題の一つである透水安定性について理解を深める。	

専門教育科目	コア選択科目	社会基盤系	（2）土質	土質力学3	○	本科目の目的は、土を建設材料として取り扱うために必要となる「土の強度変形特性」、および盛土の施工の基本的な知識として「土の締固め」に関する基本的な知識を得ることにある。「土の強度変形特性」に関しては地盤内の応力状態と土の破壊現象、土の強度の表現方法と算出方法、摩擦則とダイレタンシー則、土の安定問題に直結する排水条件について学ぶ。また、土構造物に求められる性能とともに盛土の一般的な施工管理方法を理解し、安定的な土構造物を構築するうえで留意すべき事柄について学ぶ。	
専門教育科目	コア選択科目	水環境・防災系		基礎流体力学・同演習	○	流体力学とは、水、空気など流れるものの運動を数式を用いて表現することにより、定量的に理解しようとする学問である。本科目では、流体力学の基礎方程式である連続式や運動方程式、とくに、ナビエーストークス運動方程式の導出や、導出過程を解説し、理解を深めることを目的とする。水や空気などの流体の運動は確かに複雑ではあるが、流体力学的な考え方に慣れ、道具としての数学を扱えるようになることを到達目標とする。それとともに演習を行うことによって、基本理論・原理をより詳細に理解し、応用能力の発展を図る。	※演習 講義10回 演習4回
専門教育科目	コア選択科目	水環境・防災系		水理学1・同演習	○	本科目では、水の流れを表す基礎方程式とその前提となる物理法則を学び、その運動を解析することにより、河川・管路・地下水などの流れを理解する。本科目の目的は、水理学の基礎を理解し、流体の運動方程式を自ら導出できる能力を身に付けることである。ベルヌーイの定理、運動量の法則、ナビエーストークス方程式を理解するとともに、基本理論・原理を演習により詳細に理解し、応用能力の発展を図る。この講義では質量の保存、運動量の保存、エネルギーの保存等、保存則に基づく力学概念の把握と習熟に力点をおく。	※演習 講義10回 演習4回
専門教育科目	コア選択科目	水環境・防災系		海岸水理基礎	○	本科目は、沿岸域の水理学的プロセスに焦点を当てた科目であり、潮汐、波浪、高潮、津波などの基礎的な理論を学ぶとともに、そこから派生する漂砂や沿岸環境などの海岸ダイナミクスについて理解を深め、沿岸地域の変化やリスクを評価するための基礎的な方法を習得することを目的とする。波の基礎方程式の境界条件、その導出と解（微小振幅波理論）、長周期の波と海浜流、漂砂と海浜変形のみならず、海岸法、港湾法、技術基準についても講義する。外力である水の波の性質を理解すること、海岸･港湾における工学的な課題とその対策について知ることを到達目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	水環境・防災系		大気流体基礎	○	地球をシステムとして捉え、それを構成する様々な循環の構造と意味を説明する。そのうえで、大気と水に着目して、物理法則などに基づきつつ、観測や数値計算による証左を用いながら、社会にとって大きなインパクトをもつ水資源にかかわる降水現象に至るまでの過程の理解を図る。上記を理解したうえで、私たちの社会で発生する気象・水関連災害の概要を理解し、さらに近年グローバルイシューの一つとなった気候変動を正しく理解しその社会へのインパクトを概観しつつ、第二次世界大戦からの経済復興と環境問題の潮流を知り、将来私たちが取りうる社会について考える素地を獲得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	計画系		空間のマネジメント	○	本科目では、「われわれが生活する社会とはどんなところか」「公共空間を計画するとはどういうことか」「またそのための手法にはどういうものがあるか」について、都市政策・都市計画・計画手法の観点から、事例を交えて学ぶ。安全かつ豊かな生活を支える公共空間について理解し、その計画および計画を策定・実施するための手法について学ぶことを目的とする。公共空間計画学のおもしろさが理解できるようになることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （11 三浦　詩乃／6回） 公共空間計画の考え方 （5 谷下　雅義／6回） 公共空間の基礎知識と計画手法 （9 竹内　龍介／2回） 公共空間計画の応用	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	計画系		都市環境計画1	○	本科目は、建築・造園・法律・経済など他分野の専門家と連携してプランニングしていくための都市地域計画に関する基礎的な知識を習得する。都市は多くの人々が高密度に居住し、資本・交通・文化が交流する場である。そこでは経済・社会・環境に関してさまざま問題が発生する。本科目において都市計画の必要性とその内容について理解し、持続可能な都市を形成するために技術者として何ができるかを考えられるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （11 三浦　詩乃／7回） エリアマネジメント等 （5 谷下　雅義／7回） 地区交通計画・交通工学等	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	計画系		都市環境計画2	○	本科目では、市区町村レベルでの都市計画及び都市交通計画の基礎と各論について講義する。都市および都市交通計画の歴史的な発展、課題を把握するための調査・分析手法ならびに都市計画マスタープラン、立地適正化、用途地域などの土地利用計画に関連する制度、道路計画、公共交通計画、地区交通計画、交通結節点、さらに物流計画の各論について学ぶ。これらの学びを通じて、市民との協働により計画立案するプロセス、市区町村レベルの都市計画、都市交通計画の新たな展開について理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （5 谷下　雅義／7回） 都市計画法等 （9 竹内　龍介／7回） 交通計画等	オムニバス

専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	鉄筋コンクリート・同演習	○	本科目は、コンクリートの構造学的知識を学ぶ学問であり、主な対象構造物は、鉄とコンクリートの複合体である鉄筋コンクリート構造物（Reinfoiced Concrete：RC）である。本科目では、「コンクリート材料1」「コンクリート材料2」「材料力学・同演習」「構造力学1」で修得した基礎知識をコンクリート構造に応用できる能力を修得するべく、鉄筋コンクリート構造設計の基本理論を学び、演習により詳細に理解し、応用能力の発展を図ることを目的とする。	※演習 講義10回 演習4回
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	土質力学4	○	軟弱地盤における土質力学の主たる課題の一つに、長期間にわたって継続する沈下現象である「圧密」がある。本科目では飽和化した軟弱な粘土地盤で問題となる圧密現象とその対策方法について学ぶ。一次元圧密理論と適用限界、圧密現象に関する種々のパラメータ、圧密現象に及ぼす応力履歴の影響、物性および地層条件の違いによる圧密挙動の差異、鉛直・水平排水やプレロードといった基本的な圧密対策、圧密の方法とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	構造力学3	○	構造力学は、形が変化する物体（固体）の力学として一般的な原則を学んだ「材料力学」の内容を踏まえ、３次元的挙動を示す物体に対して特有の条件を適用することで１次元に単純化した骨組構造物における力学的挙動を学ぶ基礎的な学問である。本科目では、静定構造物について扱った「構造力学１」および「構造力学２」の内容を踏まえ、不静定構造物の振る舞いを数式的に表現する手法として、エネルギー原理（仮想仕事の原理、カスティリアノの定理、最小仕事の原理）について学び、それを用いて不静定構造物を解く（すなわち反力や断面力・応力、変位・ひずみを求める）手法（応力法）を身に付けることを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	固体力学	○	土木・建築に使われる材料の力学的性質を理解する上で、固体の力学は不可欠である。固体が液体と大きく異なる点はせん断剛性の有無であり、それにより固体力学の特徴が表れる。本科目では、あらゆる固体の力学を扱うための基本である応力・ひずみの概念やそれらの間の関係を学ぶ。さらに、弾性体・塑性体を取り上げ、その基本的性質と、固体の応力・変形を考える上での基礎知識を学ぶ。本科目の学習を通じて、主に固体材料を用いる鋼構造分野、コンクリート構造分野、地盤分野に共通する力学的な専門知識の修得を目的とする。また、これらの分野において卒業研究を実施するために、さらには将来具体的な構造物を計画・設計できるエンジニアとなるために必要な応用能力の修得を目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	地盤工学1	○	本科目では、「土質力学3」で学んだ土の強度定数(粘着力、内部摩擦角)を踏まえ、地盤の安定問題として「擁壁の土圧問題」と「斜面の安定問題」に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。土圧に関しては主働・静止・受働の3つの土圧状態、Rankine土圧論およびCoulomb土圧論の内容と適用限界、経験則に基づいた土圧公式、補強土擁壁について学ぶ。斜面安定では安定問題の考え方、直線斜面の安定性と円弧すべり面による安定解析、切土斜面の安定性と地層・地質条件の関係性、について学ぶ。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	構造シミュレーション	○	構造物の計画・設計にはシミュレーション工学の基礎理論の理解と汎用CAEシステムの利用が必要不可欠になっている。本科目では、シミュレーション工学における標準的な離散化手法である有限要素法の基礎理論の習得、および汎用CAEシステムを用いて実問題に対するシミュレーションとその結果の評価を行う。具体的には、「構造力学3」で学んだ不静定構造物の解法を踏まえて、トラス構造や骨組み構造を対象としたマトリックス変位法を習得することを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	材料科学論	○	本科目では、材料力学、弾性力学、塑性力学や流体力学などの連続体力学一般を体系的に学ぶことの第１段階として、弾性力学の基礎を学ぶ。具体的には、棒材の圧縮と引張、はりの曲げ、変形と応力とひずみ、３次元状態における弾性体の構成式、３次元挙動を簡易に表現可能な2次元問題（平面応力と平面ひずみ、極座標系、軸対称系、変位、応力とひずみ、基礎式と一般解））について解説する。本科目での学びを通じて、運動状態を記述するに便利なテンソルの表記方法を習得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （169 三島　徹也／7回） 弾塑性力学 （12 大下　英吉／7回） 材料力学	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	地盤工学2	○	本科目では、地盤の安定問題を扱ううえで必要な土の力学特性と種々の安定問題について学ぶ。土の応力-ひずみ関係と強度の表現方法、擁壁の土圧問題、土質調査、基礎の支持力と沈下、斜面の安定問題に関する基礎知識を習得する。土木工学の主要分野の一つである地盤分野に関する基礎的な知識の習得を目的とする。 エンジニアとして地盤・土構造物の諸問題に取り組めるように、地盤材料の力学的性質、土質調査の概要、土構造物(擁壁、基礎構造物、斜面)の安定性の評価方法が理解できることを到達目標とする。	

専門教育科目	コア選択科目	応用	（1）社会基盤系	地盤動力学	○	本科目は、地震を作用力とした地盤災害である液状化現象に特化している。地震記録、災害記録、実験データ等により、地震時での振動増幅、地盤の液状化といった地震に起因する地盤災害のメカニズムと対策技術について学ぶ。各自が注目する対策について口頭発表を行い、グループディスカッションを行う。本科目は、地盤の液状化現象に対して、被害を抑制するための方法を思考する能力を養うことを目的とする。地震波の特性を理解する。また、地盤の液状化現象と被害予測、対策技術について基礎的な知識を習得することを到達目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	水理学2	○	「水理学1」で学んだ内容を発展、応用させ、管路と開水路の種々の水理現象を対象に、流量や水面形などの水理量を推定するための力学理論とその活用方法を学ぶ。本科目では、流体運動を表す方程式、運動量保存則の基礎と応用、エネルギー保存則の基礎と応用、管路の流れ―層流と乱流、レイノルズ数、ハーゲンポアズイユ流れ、管路の流れ―レイノルズ応力、管路の流れ―水理学的滑面、粗面、ムーディー図、管路の流れ―種々のエネルギー損失を重点的に講義し、国家公務員総合職試験問題が容易に解けるレベルを到達目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	海岸・港湾工学	○	本科目では、海岸･港湾における水理現象の理解とその制御手段について解説する。また、できる限り、最新の事情を紹介し、実際の海で生じている現象について理解できるようにする。海岸における災害を含めた様々な事象、波浪の基礎方程式、海岸・港湾における計画などを理解してもらうことを本科目の目的とする。外力である水の波の性質を理解することができ、海岸･港湾における工学的な課題とその対策について把握できることを到達目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	水文学	○	本科目では、地球上での水の循環から、河川流域スケールでの水循環までに介在している、水文循環の要素である、降水、蒸発散、浸透、流出の諸現象の特性を学ぶとともに、工学的な応用として治水対策、水資源開発、水環境保全に関連する水文統計モデル、流出モデル、水循環モデルについて学ぶ。広範にわたる水文現象を理解することを目的とする。流出現象を中心とした河川水文学に加え、水文気象学等関連する分野も含めて基礎的事項を理解し、水文現象の特性を把握するとともに、都市化、森林の変化との関連、河川の計画への応用等を理解することを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	河川工学	○	河川は、人々の生活に恵みをもたらし、都市や地域の歴史、文化、風土を形成するとともに、豊かな自然を育んでいる。しかし、河川は、時には猛威をふるい、人命・財産を脅かすことになる。本科目では、河川の有する治水・利水・環境の機能と役割、河川整備や管理の考え方を解説するとともに、新しい時代の河川のあり方について学ぶ。本科目の目的は、実務に生かせる河川工学の理解を深めることである。河川の機能と役割、私たちの生活との関わりを理解し、適切な川づくりと河川災害の軽減方策の基本的事項の修得を目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	沿岸環境工学	○	本科目では、人を取り巻く環境、特に沿岸環境における科学的現象を解析する道具としての偏微分方程式について講義する。解法のテクニックのみならず、現象と方程式の関係、つまり方程式の作り方や、方程式を解かなくてもわかること、解の現象と関連付けた解釈など、現象の説明のための数学に力点をおく。偏微分方程式ならびに応用数学に対する理解を深めることを目的とする。沿岸環境における実際の現象と偏微分方程式およびその解との関係を理解し、偏微分方程式の基本的な解法が習得できることを到達目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	都市水循環	○	近年、問題視されているヒートアイランド現象やゲリラ豪雨などは都市域の水に関する問題であり、私たちの生活と密接な関係にある。本科目では、都市インフラの発展と水との関わり、それらに対する近年の研究動向に触れながら、都市域の水循環について工学的な視点から学ぶ。また都市特有の水循環を理解する。都市の水循環の仕組みとこれに起因する水問題を把握し、これらの現状と将来想定される問題点を理解し、その上で、ヒートアイランド現象やゲリラ豪雨などの近年都市域で問題視されている物理現象を、河川水文学や水文気象学等の工学的知見を用いて理解できることを到達目標とする。	

専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	海岸水理学	○	本科目では、海の波の水理の難解ながらも興味深い側面について学ぶ。具体的には、海の波の理論、微小振幅波理論、有限振幅波理論、非線形長波方程式、ブシネスク方程式、不規則波と波別解析、不規則波とスペクトル、海浜流、沿岸流、沿岸構造物と波力、津波と災害、高潮と災害、基礎方程式と数値計算について解説し、理解を深める。特に海で生じている波浪や海浜流に対する基礎方程式の理解を深める。海の波に関する力学的理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（2）水環境・防災系	気象学	○	本科目では、地球をシステムとして捉え、それを構成する様々な循環の構造と意味を解説する。そのうえで、大気と水に着目して、物理法則などに基づきつつ、観測や数値計算による証左を用いながら、社会にとって大きなインパクトをもつ水資源にかかわる降水現象に至るまでの過程の理解を図る。これらを理解したうえで、私たちの社会で発生する気象・水関連災害の概要を理解し、さらに近年グローバルイシューの一つとなった気候変動を正しく理解しその社会へのインパクトを概観しつつ、第二次世界大戦からの経済復興と環境問題の潮流を知り、将来私たちが取りうる社会について考える素地を獲得することを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（3）計画系	都市環境計画3	○	本科目は、グローバル化が進む中で、地球規模における気候変動・ダイバーシティなどの問題について学ぶことで、海外でも活躍可能なグローバル人材に必要な知識を習得することを狙いとする。具体的には、国内の物流、国際ロジスティクス概論、国際輸送、諸外国での荷役や保管、国際港湾や国際空港の現状と計画、輸出入業務の流れと貿易実務、ロジスティクスとサプライチェーン、グローバルサプライチェーンの可視化、越境ECと国際宅配便、国際ロジスティクスのリスクなどである。またエネルギー・食料ネクサスまたジェンダーなどの論点もまじえながらグローバルな視点から授業・グループワークを行う。	共同
専門教育科目	コア選択科目	応用	（3）計画系	コミュニティデザイン	○	本授業では、現代的なコミュニティの多様性を紹介し、なかでも地域に根差したコミュニティの「ありたい姿」を実現するハードウェアとソフトウェアのデザイン手法、デザインの担い手を支える社会的な仕組みについて学ぶ。空間と社会サービスの連携をテーマに、フィールドワークを行い、社会調査の基本的手法を実践する。これらの学びを通じて、プランナーおよびエンジニアの立場から、コミュニティの抱える問題に対して持続可能な解決策を生み出す能力を身に付けることを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（3）計画系	都市環境政策	○	本科目は、受講生が今日的な都市環境政策のあり方に対する理解を深めることを目的とし、特に国際的な事例と計画・デザインの基礎を解説した上で、具体的なフィールドを念頭に置いた議論を行う。受講生の研究への発展を視野に、国内外の地域環境の計画・デザインの現場で用いられる基本的手法、技術、データの知識に触れることで、設定したテーマや問題に対する洞察力を養う。将来、持続可能な社会づくりを担う際に、いかなる立場においても暮らしと環境問題に関してミッションドリブンで取り組み、新たな価値を形成できるような、都市環境政策形成の素養を培うことを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（3）計画系	離散選択モデル	○	本科目では、交通行動を表現するための代表的モデルであるランダム効用理論に基づく非集計行動モデルについて学ぶ。授業は、講義、教科書の輪講と質疑応答、SP調査の設計とモデル推定で構成する。本科目での学びを通じて、受講者が「交通行動の理解と、それに基づく交通施策の提案」に対する基礎的知識を獲得することを目的とする。さらには、ランダム効用理論に基づく非集計行動モデルの考え方と適用方法を習得することを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	応用	（3）計画系	輸送システム	○	本科目では、輸送システムを供給する主体が、どのようなメカニズムでサービスを提供しているかを、ビジネスや政策等の観点から学習する。日常利用している、鉄道、バス、航空等に加えて船舶、トラック等も取り挙げ、経営内容、制度、新しいシステム等を理解する。輸送システムについて、利用者の視点のみではなく、供給者（事業者や政策立案者）の視点から現状や課題を理解することを目的とする。鉄道、バス、航空、船舶、トラック等の輸送システムの実際や課題に触れ、そのサービスがどのようなメカニズムで提供されているか理解することを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （125 小坂　浩之／7回） 国内・国際物流 （9 竹内　龍介／7回） 鉄道・バスなど人の輸送	オムニバス
専門教育科目	コア選択科目	応用	（3）計画系	政策評価手法	○	本科目では、政策分析・評価にかかわる因果関係の推定や予測手法について、統計解析ソフトRを使いながら学ぶ。具体的にはセレクションバイアスとRCT、回帰分析、構造変化、傾向スコアを用いた分析等をテーマとして、費用便益分析を念頭に、計量経済学の理解、特に時系列データの特性および分析手法を学ぶ。本科目での学びを通じて、政策評価において用いられる回帰分析について、質的データ分析や残差の解析ができるようになることを目的とする。	

専門教育科目	展開科目	自然環境論		本科目では、現代都市における河川・水辺環境の形成過程を含め、現代都市の自然環境の特徴を学ぶ。さらに、行政、市民により創出・維持管理されている荒川の水辺公園において、野外実習を行う。実習では、水辺の地形・水位変動、水質、底質、植生・水生生物、外来生物の調査ならびに利用実態調査を実施し、その特徴と保全の課題等を理解する。調査で得られたデータについてまとめ、発表、討論を行う。都市の自然環境の軸となる河川・水辺を対象とし、水辺の生物と地形・水流等の基盤となる自然との相互関係および人間の営みとの関連などを調査することにより、生態学的な知見にもとづく自然環境の基本的な見方を習得することを目的とする。河川水辺における野外調査の手法を把握し、各データの統合により現場の維持管理に還元してゆく技法の習得を目指す。 （オムニバス方式／全14回） （6 手計　太一／2回） 底質の実態、その調査方法について （105 板垣　範彦／6回） 水辺周辺の環境設計 （156 西原　昇吾／6回） 水辺の環境設計	オムニバス ※実習 講義12回 実習2回
専門教育科目	展開科目	空間情報学実習		本科目では、「空間情報学」で修得した基本的な測量技術を総合し、実際に地形図を作成することにより、空間情報学の基本技術を応用する方法について実習する。各種測量用装置の使い方を知って実際に距離、角度および高低差を測定して誤差の処理を行う技術を学び、トラバース測量を行って地形図を作成する。距離測量、角測量、高低差測量を行うための測量機器の基本的な操作を修得し、また、トラバース網の調整計算を実際の測量結果に適用して誤差の調整が行えるようになること、さらに、トラバース網からその周辺の地形図を作成する技術に習熟することを目指す。	
専門教育科目	展開科目	振動と耐震1		我が国は地震大国であり、安全・安心な社会の実現には、地震に対する力学的な特性を知ることは、社会基盤系のみならず、水環境・防災系および計画系においても極めて重要である。本科目では、社会基盤施設の振動問題を俯瞰して、その基本的な対応方針を学ぶ。地震による構造物の振動特性に関する基礎的な内容として、１自由度系の振動問題を対象に、数学的なアプローチを復習するとともに、特に周期特性を踏まえた耐震設計技術（震度法）の基本概念を学び、理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	地形・地質工学		都市や各種施設を計画する上でも、また、減災・防災の観点からも、その土地の地形・地質学的な歴史や背景、特徴を把握しておくことは非常に重要である。とくに、土木構造物は地盤の上あるいは中に構築されるため、地盤を利用する上で直面する様々な工学的問題は、その土地が元来持ち合わせている地形・地質リスクによるところが大きく、その計画・設計・施工に携わる技術者には「地形・地質学的な視点」をもつことが求められる。本科目では、地形学・地質学の基礎を学び、実際の土木構造物の計画・設計・施工の現場における地形・地質学的問題について理解することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （3 金田　平太郎／12回） 地形学・地質学の基礎 （7 西岡　英俊／1回） 地形・地質と杭基礎の設計・施工 （8 平川　大貴／1回） 地形・地質と土木構造物の構造計画	オムニバス
専門教育科目	展開科目	空間デザイン演習		建設業界では、BIM/CIMやi-Constructionの利活用が盛んに行われており、これまでで2次元を中心としたデータ交換から、3次元データの利活用、流通にシフトしつつある。本科目では、このような業界の最新動向を学ぶとともに３次元CADシステムを実際に自分で操作し、任意の地形上において構造物の計画・設計を行うことで、3次元データの利活用と図面作成のスキルを身に付けることを目標にする。設計した構造物をわかりやすく表現し（CGによる可視化）、また設計意図をまとめるスキル、それを簡潔にとりまとめ、相手に伝えるスキル（プレゼンテーション力）を養う。	共同
専門教育科目	展開科目	振動と耐震2		我が国は地震大国であり、安全・安心な社会の実現には、地震に対する力学的な特性を知ることは、社会基盤系のみならず、水環境・防災系および計画系においても極めて重要である。本科目は、「振動と耐震1」で学んだ1自由度系の振動問題の解法と周期特性を踏まえた耐震設計技術の基本概念を踏まえ、多自由度系の固有振動モード、地震動のスペクトル、数値積分による地震応答解析技術について学ぶ。また、兵庫県南部地震以降に導入されたレベル2地震動を考慮した2段階の耐震設計法の基本概念を学び、理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	地理空間情報学		本科目では、各種センサで取得された位置情報、画像情報、環境情報等の取り扱いのために地理空間情報処理技術、応用的な解析手法、GISによる利用技術等について学修する。授業はテーマ毎の講義を中心に進めるが、理解を深めるために資料や事例を用いた実習、技術紹介、演習等を行う。地理空間情報の取得・処理・解析などの概要についてなるべく多数の事例を用いて解説し、地理空間情報を利活用できる基礎知識を習得することを目的とする。	※演習 講義10回 演習4回

専門教育科目	展開科目	防災工学		本科目では、各種の自然の脅威(ハザード)によって生じる様々な現象を理解するとともに、それらが社会に与える負の影響(障害・被害)を最小限に抑えるためのハードとソフト対策、さらに発災時のタイミングを有効活用した「より良い復興（Build Back Better）」を実現する総合的災害管理について学ぶ。また防災の担い手である「自助・共助・公助」の関係と今後の在り方についても学ぶ。適切な防災対策の立案と実施において最も重要な「災害イマジネーション」を身に付けることを目的とする。「災害イマジネーション」とは、ハザードと対象地域の地域特性（自然環境特性と社会環境特性から構成）と発災時の条件（季節や天候、曜日や時刻）を踏まえた上で、発災からの時間経過に基づいて、自分の周りで発生する状況を正しく想像する能力である。加えて、少子高齢人口減少、財政的な制約が厳しくなっていく中での今後の災害対策のあり方について理解することを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	環境リスク評価論		本科目では、公共事業の環境影響評価（環境アセスメント）の基本的な考え方が理解できるよう、いくつかの事例も交えて解説する。また、発ガン物質のように有害性が議論されている化学物質、リスクの不確実な地球温暖化等について、被害を未然に防止するためにはどのような考え方で対応すべきか、講師の国、地方公共団体における経験も踏まえ行政の実務も紹介しながら講義する。本科目での学習を通じて、学生が環境リスクに対する認識を深めるとともに、環境リスクへの対応方法や環境影響評価に対する基礎的な知識を習得することを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	基礎生態学		生態学は、生物の個体以上（個体、個体群、種、生物群集、生態系）の階層で起こる事象を対象として、生物と環境との相互関係を研究する科学である。野生生物と人類の生活圏は直接的・間接的に影響しあっており、土木事業を計画する際に自然環境に配慮することが欠かせない現代において、生態学的思考は不可欠となる。本科目では、自然環境の劣化や喪失に対し、地球環境との共存に根ざした持続的発展のために、生物多様性と生態系の保全・再生が必要であることを学び、保全の実践的な取り組みについて理解する。生態学の応用科学としての保全生態学のほか、持続可能な社会を構築するための広範な環境科学を学ぶための基礎としても本科目が役立つ。生物多様性と生態系の成り立ちについて理解し、自然環境問題に取り組む上で必要となる生物の視点に立ったものの見方（＝生態学的思考）を身に付けることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	計算力学		計算力学とは、偏微分方程式で表される力学現象を離散化解析手法を用いて、理解・解明するための学問である。本科目では、偏微分方程式の代表的な離散化解析手法である有限要素法の基礎理論とその線形問題に対する応用について講義する。さらに、離散化解析手法として、実務において最も広く用いられている有限要素法を取り上げて、その理論と力学現象への適用について学ぶ。偏微分方程式の代表的な離散化解析手法である有限要素法の基礎理論とその応用について理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	維持管理工学		土木構造物のストック増大に伴って構造物の維持管理の重要性が増しており、2030年頃には維持費と建設費の割合が同程度になると見込まれている。すなわち、構造物を新規に建設する技術力もさることながら、維持管理する技術力も要求されることとなる。本科目では、コンクリート構造物ならびに鋼構造物を対象として、維持管理の考え方、劣化現象とそのメカニズム、調査・点検方法、評価・判定、将来予測および補修・補強工法について学ぶ。その上で、ライフサイクルコスト（LCC）の考え方に基づいた維持管理計画の策定方法等についても学ぶ。社会基盤施設の計画、設計、施工、維持管理において、社会基盤施設を工学的に維持管理する上での基礎知識の習得及び維持管理計画について習得することを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	連続体力学		本科目は、連続体力学の理論体系を支える数理の基本的事項と、古典物理の力学の枠組みを整理した後、連続体力学の基礎と応用を概説する。基礎では、連続体力学の理論体系が、使われている応用数理の手法を除けば、バネの力学と完全に等価であることを理解し、また応用では、連続体力学の枠組みで、梁・板・曲梁・シェル等の構造力学の理論を再構築し、構造力学の理論では扱いが難しい、動的問題や応力集中に伴う特異性に関して、連続体理学理論に基づく簡明な説明を加えることで、理解を深めることを目指す。	
専門教育科目	社会理工学部共通科目	社会理工学概論	○	社会理工学部で学ぶ幅広い分野について概論的に紹介するとともに、社会に貢献する科学技術分野を学び、理解することを目的とする。各学科から、学部横断的に重要かつ理解も深まるテーマを選んで講義するものである。本学部では国際化を強く推進しているため、前半では英語の体験学習を通じた国際性の素養の基礎を身に着ける。後半では、3学科から3つずつのテーマで学際的な内容について講義する。都市環境学科の学門分野からは、都市計画、防災とテーマとした内容、ビジネスデータサイエンス学科の学問分野からはデータサイエンスを軸とした内容、そして人間総合総合理工学科の学問分野からはサステナビリティと人間社会、グリーンインフラの役割という内容で講義を通して、社会理工学を俯瞰的に理解できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （6 手計　太一／5回） 英語体験学習、気候変動と水防災 （54 樋口　知之／3回） ビッグデータ時代におけるデータサイエンスの役割 （83 竹内　文乃／2回） 英語体験学習、医療と統計 （35 高田　まゆら／2回） 生態学 （61 三苫　好治／2回） 環境汚染	オムニバス

学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。	メディア
学部間共通科目	短期留学プログラムⅡ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	メディア
学部間共通科目	短期留学プログラムⅢ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。	
学部間共通科目	短期留学プログラムⅣ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は2年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｂ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は3年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｃ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は4年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習A（1）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行なうための基礎的な考え方と技術を修得することを目標とする。	メディア

学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習A（2）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決をおこなうための技術と方法への理解を深め、その実行と結果の解釈・フィードバックを行なうことができる力を身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習B（1）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行なうための考え方と技術を修得し、その実践を行うことを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習B（2）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行うための考え方と技術をさらに深め、その実践を行うことを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習C（1）では、演習A、Bを通じて修得したAI・データサイエンスの知識と技術を活用して、様々な実社会の問題における課題発見、課題解決、結果のフィードバックを踏まえた改善というサイクルを自主的に回すことができる能力を身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習C（2）では、演習A、B、C（1）を通じて修得したAI・データサイエンスの知識と技術を活用して、様々な実社会の問題における課題発見、課題解決、結果のフィードバックを踏まえた改善というサイクルを自主的に回すことができる能力を高い水準で身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	グローバル・テュートリアル		グローバル化が急速に進展する時代の要請に応えていくため、学部学生（日本人学生・学部留学生）、選科生が、テューター（教員）の助言のもとで、小人数グループ討論を行う。英語または中国語を使用言語として、アクティブな討論を行うことにより、国際的に活躍するための実践的素養を身につけることを目標とする。 討論を指導する担当教員（テューター役）は、海外で実務家として働いた経験を有し、一定の要件を備えた者である。	
学部間共通科目	専門インターンシップ		本科目では、海外の特定の企業・機関で2週間のインターンシップを行う。物理的・文化的環境の異なる職場で働くために学ぶべき知識、身につけるべきスキル、海外で通用する仕事をするための姿勢（態度）を、自ら目標を設定しながら身につけることを目的とする。インターンシップ実施前に2回の事前学習を、実施後にレポートまたはプレゼンテーションを行うことにより、インターンシップで得た知識を自身の中で体系化することも目的である。	

学部間共通科目	グローバル総合講座		本科目では、ジェンダー、経済、社会、政治的格差をテーマとし、世界的・地域的な不平等に焦点を当てる。毎週、世界で生じる様々な問題について研究や活動を行う専門家が講義を行うことにより、グローバルとローカル双方の視点から多角的な視点から不平等を理解する。さらに、ローカルな不平等とグローバルな不平等の関連性を確認し、多様な視点から包括的に理解する。講義とディスカッションを通して、様々な不平等を批判的に学修することを目的としている。 （オムニバス形式　全14回） （152 ティン ティン トゥン/11回） 　グローバル・ジェンダーギャップ、ジェンダーと職場の不平等、国境を越えた移民と不平等、気候変動と不平等のテーマの他、リサーチ・プレゼンテーションの指導および授業の振り返り （72 李　里花、152 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 　韓国と日本の関係 （176 山下　梓、152 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 　LGBTIW＋と人権 （158 番園　寛也 、152 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 　身体的不平等と社会	オムニバス・共同（一部）
学部間共通科目	グローバル集中講義		投資・開発プロジェクトによる環境および社会への影響を特定のうえ、評価、最小化、緩和する方法について基本的な事項を理解することを目的とする。履修者は、地球環境保全とそれに対処するための国際戦略、環境・社会政策、欧州復興開発銀行（EBRD）等の国際機関の実践活動に触れて学習する。また、環境要因がビジネスの意思決定上にどのように影響するかについて学習する。更に、英語で環境知識を身につける実践的な方法を学ぶ。	
学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング		「グローバルアクティブラーニング」で決定したSDGsに関連するテーマについて、海外の学生と遠隔で毎週グループワークを行い、英語によるプレゼンテーションの準備と発表を行う。 海外学生とのグループワークで心を通わせる体験を重ねることを通じて、本科目のルーブリックで定義する異文化コミュニケーションのKSA力を身につけることを到達目標とする。	メディア
学部間共通科目	グローバルアクティブラーニング		「グローバル遠隔ラーニング」で海外の学生と充実したグループワークを行うことを前提として、英語で自分自身を表現し、地球規模課題についてコミュニケーションをとれるようになるために、SDGsの目標について学び、その中で自分が関心を持つ分野について英語で表現し、海外大学の学生の関心のあり方を理解しながら議論を行い、海外大学との共同プロジェクトのテーマを決めることを目的とする。授業は2回のプロジェクトマネジメントを行うことに加えて、海外の大学に対面形式で約1週間参加し、現地の学生との共同プロジェクトについて話し合い、内容や方法を調整する。	

学部間共通科目	AI・データサイエンスと現代社会		データサイエンスは、多種多様なデータや情報を分析して問題解決に取り組もうとする際に必要な学問である。本科目は、AI（人工知能）やビッグデータの活用もふまえながら、実務家講師から実践例を学び様々な視点から議論を行うことで、データサイエンスの適用方法や有効性、課題を学ぶ。講義の中でデータサイエンスが社会でどのように活用されているのか幾つかの事例を示し、課題の背景を学びながら解決に至る道筋や技術的な基礎知識を養う。これにより学部学科に関わらず、ある課題に対してデータサイエンスの手法をどのように実践したらよいか計画を打ち立てることができる、一連の基礎能力を身に着けることを目標とする。 （オムニバス形式　全14回） （76 大草　孝介/5回） 　初回は授業の位置づけ、ねらい等を説明し、意欲を高める。2回目以降はAIの基礎やデータの可視化、集約の手法等も踏まえながら、社会で起きている変化や活用されているデータ、AI ・データサイエンスの活用に関することを取り扱う。 （114 小野　陽子/3回） 　人間中心のAI社会に関して、品質や要件定義の問題、倫理の問題や関連する議論の動向を解説する。 （60 松崎　和賢/3回） 　データを守る上での留意事項として、情報セキュリティにおける留意事項を解説する。 （18 岡嶋　裕史/3回） 　個人情報保護と関連する問題等を解説する。また、総まとめを行う。	オムニバス・メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス総合		「AIやデータサイエンスがもたらす価値」、「デジタル技術が行き渡った社会における課題」という大きく分けて２つのテーマを学ぶ。前者は技術的な作業の体験も行い、後者では講義の中で身近にどのような課題がありうるかについて考える。基礎的な統計概念、データに基づく思考や問題解決に関する基礎概念や、データ利用に関する倫理などの概念について、AI・データサイエンス領域における関係性を理解することを通じて、AI・データサイエンスに関連する課題に対する認識を深めるとともに、AI・データサイエンス領域の基礎的な知識を習得することを目的とする。 （オムニバス形式　/全14回） （19 岡田　大士・54 樋口　知之/1回）（共同） 　全体の概要と授業で用いる基本的な用語説明を行う。 （159 廣岡　信行/1回） 　生成 AI（Generative AI）の基礎と活用事例の紹介を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （159 廣岡　信行・77 大野　航太/2回）（共同） 　デジタルツイン（Digital Twin）の基礎と活用事例の紹介、 　生成AI・デジタルツインによる課題解決に関する議論をゲストスピーカーを招聘して多角的に説明する。 （144 高橋　誠人/1回） 　AI・ロボットの普及に伴う職業の変化とキャリア形成の考え方 （54 樋口　知之/1回） 　データ活用人材の育成について、ゲストスピーカーを招聘して具体的に説明する。 （77 大野　航太/1回） 　AI・データ活用による課題解決に関する議論を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （161 福元　徳弘/3回） 　AI・データサイエンスの活用事例の紹介、課題解決に向けたAI・データサイエンスの導入の進め方、AI・データサイエンスの標準化の取り組みについて （177 山下　勝司/2回） 　デジタルトランスフォーメーションの導入事例、デジタルトランスフォーメーションの開発と技術 （177 山下　勝司・86 中村　周史/1回）（共同） 　デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論 （38 武石　智香子/1回） 　授業まとめと今後の学修について	オムニバス・共同（一部）

学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅠ		データサイエンスは社会科学や人文科学の分野ともかかわりが深い。世論調査やマーケティング調査などの個票データ、人口や経済の統計データ、実験などの行動データはその一例である。本科目では、社会調査データの分析ツールの基本となる表計算ソフト「Excel」と、統計パッケージの中でも操作が比較的簡単な統計パッケージ「SPSS」を取りあげ、ExcelとSPSSの基本的な利用方法を理解することを目的とする。到達目標は、社会調査や統計データを用いて基本的なデータ分析を自分自身で行えるようになることとする。 （オムニバス形式　全14回） （38 武石　智香子/10回） Excelから入るデータ整備、分析、集計、Pythonによるプログラミング、Excelの自動化、データベース入門、SQL、Pythonによる探索的データ分析、最適化の考え方を用いた分析、統計的推定と仮説検定 （38 武石　智香子、86 中村　周史/1回）（共同） Excelによる探索的データ分析（可視化） （38 武石　智香子、132 佐々木　亮/1回）（共同） データアナリティクスと機械学習 （132 佐々木　亮/2回） AI体験学習（画像認識、自然言語処理）	オムニバス・メディア　共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅡ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをなるべく少ない操作で自動化して分析するツールが不可欠である。また、昨今はウェブサービスとして各種のAPI（Application Programming Interface）が整備されており、インターネット上のデータをAPI等を用いて自動的に収集するための環境が整っている。 本科目では、プログラミングを用いてスクリプトによるデータ分析を実現するために適しているプログラミング言語であるRubyを習得することとに加え、Rubyを用いてウェブアプリケーションを簡単に作成し得るRuby on Railsについて理解することである。到達目標は、Rubyを用いて簡単なデータ分析を自身でできるようになることと、簡単なウェブアプリケーションを構築できるようになることである。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅢ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをラングリングし、視覚化・分析するツールが不可欠である。 本科目では、プログラム的な基礎知識を要することなくこれらを行うことができるBI（ビジネス・インテリジェンス）ツールと、データサイエンスにおける基礎言語の一つであるRの基礎、そしてデータ加工、可視化、データ分析の基本的な考え方を学び、理解することを目的とする。また、到達目標は、数万件程度までの比較的小規模のデータについて、データ加工、可視化、基本的なデータ分析を自身で行えるようになることである。 （オムニバス形式　全14回） （77 大野　航太/7回） データの読み込みとサマリー、データラングリング、ダッシュボードやノートによるレポーティング、R、グラフ作成とカスタマイズ、Rでのデータ・アナリティクス、Rmarkdownによるレポーティング （77 大野　航太、81 酒折　文武/7回）（共同） AIとBI、データサイエンスとツール、グラフや表による可視化と分析、統計と機械学習、Exploratoryのさらなる活用、データの読み込みと操作、データラングリングの詳細、Shinyでウェブアプリ構築	オムニバス・メディア　共同（一部）

学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅣ		AI・データサイエンスにおいて、データ分析・機械学習や可視化をウェブアプリと連動させたり、音声認識・画像認識などのタスクを行ったり、さらには深層学習や強化学習を含む人工知能を開発したりするためには、汎用的なプログラミング言語が不可欠である。また、格納されているデータベースの操作を行うにはデータベース言語が必要となる。 本科目では、汎用的プログラミング言語の中でデータサイエンスにおける中心的な役割を演じているPythonと、データベース言語SQLを学び、基本的な事項理解することを目的とする。到達目標は、Pythonを用いて数十行程度のプログラムを読んで理解・修正できること、そして簡単なプログラムを自分で作成できること、およびSQLiteを用いてデータベースからのデータ抽出や基本的な処理を行えることとする。	メディア
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（基礎編）		本科目は、大学生として学術的文章作成に必要な知識・技能・態度を基礎から学ぶことで、大学での学びの基礎となる学術的リテラシー（読み書き能力）を身につけることを目的とする。大学生として身につけておくべき学術的な基礎知識を理解し、大学での学修に必要な〈知る／読む／考える〉ことに習熟しながら〈書く〉ことを中心に学ぶ。大学で学ぶ人の心得と大学での学修について理解すること、分かりやすい文章を書くための表記、語彙・語句、文の書き方について理解すること、思考が整理された文章を書くための文章の構造と特徴について理解すること、そして科学的な文章を書くための論証と引用の方法について理解することを到達目標とする。	メディア
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（発展編）		レポート作成や卒業論文の執筆のためには、①自分が立てた問いに対して必要な資料や文献を適切に選び、その内容を正確に理解するスキル、②そこで得た知見に基づいて自分と他者の考えを整理し、さらに思考を深め、自分の意見を確立するスキル、③その内容を他者と共有できるよう、きちんとした文章として書きあげるスキルが必要である。 本科目では、上記①～③のスキルを実践的かつ総合的に学び、大学における記述式テストやレポート作成等の場面で必須となる「書く力」を身につけることを目的とする。到達目標は、レポートや論文の執筆に必要な情報収集力を身につけると同時に、専門領域に関する知識を深めること、データや資料を用いて具体的な論拠を示し、論理的に他者に伝える能力を身につけること、自律的に文章を作成するための基礎知識を学び、自己評価のストラテジーを身につけることである。	メディア
学部間共通科目	キャリア・デザイン・ワークショップ		本科目では、キャリア形成に必要な能力を理解したうえで、学生一人一人が将来社会人としてどのようにありたいのか志を語り、その実現のために、今後どのようにキャリアを形成していくかを確認する。また、社会に目を向け、学科を超えたグループワークで、社会の課題を発見し、解決するプロセスを体験することにより、社会人の能力の基礎となる考える力、協創する力を養う。授業を通じて、キャリア形成の基盤となるコンピテンシー（能力）として、特に、自己実現力、コミュニケーション力、課題設定・解決力のといった将来社会で必要となる能力を身につけることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会理工学部ビジネスデータサイエンス学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語教育科目	英語	英語表現演習1a	○	本科目は、英語でのスムーズかつ明瞭なコミュニケーション能力の育成を目指す。この授業では、我々が直面する諸問題をグローバルな視点から学ぶことを通して、解決すべき問題に対する幅広い知識を得るとともに、それらを批判的に思考する能力を高めることを目指す。また、各授業において、学生同士の情報共有、英語での質疑応答、ペアやグループでの英語での議論を行う。加えて、より発展的な形態での情報発信・情報収集の方法も学習する。こういったさまざまな学習を通して、スピーキング・リスニングの能力を伸ばすのみならず、英語でのスムーズかつ明瞭な発信を、自信をもって行う素地を形成する。英語でのアカデミックなスピーキング・リスニングの能力を伸ばすための学習機会を提供することで、今後の大学生活において必要とされる英語コミュニケーション能力の基礎を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習1b	○	本科目は、英語での明瞭かつ簡潔な文章作成能力の育成を目指す。この授業では、まず基礎的なパラグラフ・ライティングの技法を学び、また、トピック・センテンス、支持文、結論文による段落構成の方法を学ぶ。そして、さまざまな種類のパラグラフ作成練習や自身の主張を支持するための根拠や論拠の用い方についての練習を行う。最終的には、より発展的なライティングの形態として、短いエッセイやレポートの作成方法も学習する。こういった段階的な学習を通して、アカデミック・ライティングの基礎について明確に理解する。英語でのパラグラフ・ライティングや短いレポートの作成方法を学ぶことで、今後の大学生活において必要とされる英語アカデミック・ライティング作成のための基礎的能力を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習2a	○	本科目は、英語でのアカデミック・コミュニケーションとアカデミック・ライティングの能力を有機的に伸ばすことを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力を高める。また、各授業では教室内外において、クラスメートと共に自分たちの関心に基づいたプロジェクト、プレゼンテーション、レポートに取り組むことを通じて、対人スキルや協働スキルを高めるとともに、より複雑で長い話し言葉・書き言葉でのコミュニケーションの構成方法を学ぶ。加えて、これまで学んだ関連語彙や文法を実際に活用し、自らの考えを正確かつ流暢に表現できるようにする。1年次に培った各技能の素地をもとにして、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力を高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習2b	○	本科目は、英語でのアカデミック・コミュニケーションとアカデミック・ライティング能力を有機的に、より発展的に伸ばすことを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力をさらに高めることを目指す。また、各授業において、より高度なライティングとコミュニケーション技能の演習に取り組むことで、複雑な考えを明瞭で明確な方法で表現する方法を学ぶ。学生は質問やフィードバックをすることで、また相互の発表に興味を示すことで、グループやペアでの積極的な授業参加を行う。加えて、話し言葉と書き言葉という異なるジャンルの特徴についても学び、様々な表現の機会のそれぞれにおいて自信をもってコミュニケーションできるようにする。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力をさらに高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習1a	○	本科目は、英語での比較的複雑な文章を流暢かつ正確に読むための能力の育成を目指す。この授業では、社会問題やグローバルな問題―例えば、国際関係、政治、経済、社会と文化―といった題材を取り扱った文章で学習することで、現実世界の諸問題への理解を深めるとともに、アカデミックな語彙や文法の知識を補強する。また、文章の精読方法に加えて、速読のための方法―例えば、スキミングやスキャニング―についても学習する。加えて、読んだ文章に対する要約作成、分析や議論を通した意見表明についても演習を行う。一般的なアカデミック・リーディングの演習を行うことで、文章全体をスムーズに読む能力を育成するとともに、一文一文の構造を読み解く能力を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習1b	○	本科目は、英語講読演習1aで培った英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに伸ばすことを目指す。この授業では、社会問題やグローバルな問題についての理解をより深めるとともに、アカデミックな語彙や文法の知識をさらに補強する。また、一文一文の複雑な構造を読み解くための精読能力のさらなる向上に加えて、さまざまな速読方法を適切に選択・組み合わせることによる速読能力の向上も図る。加えて、批判的思考の基本的な演習―例えば、事実と意見を区別すること、思い込みにとらわれないこと、情報が事実に裏付けられているか判断すること―を通した、批判的読解能力の育成も行う。アカデミック・リーディングの発展的な演習を行うことで、文章をより流暢かつ正確に読む能力を育成するとともに、批判的読解についての意識をより高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習2a	○	本科目は、1年次の英語講読演習1a・1bに引き続き、英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに展開することを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する理解を深め、自分の意見を表明する能力を高める。また、取り扱うトピックに関連する重要な語彙や文法の知識を補強し、比較的複雑な文章を大きくつまずくことなく正確に読む能力の向上も図る。加えて、1年次に学んだ文章の精読方法や速読方法―例えば、スキミングやスキャニング―や読んだ文章に対する要約作成、分析や議論を通した意見表明についても、より発展的な演習を行う。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する読解能力をさらに高めることを目的とする。	

外国語教育科目	英語	英語講読演習2b	○	本科目は、英語講読演習2aで発展的に演習した英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに深化させることを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する理解を深め、自分の意見を表明する能力をさらに高める。また、取り扱うトピックに関連する語彙や文法の知識をさらに補強することにとどまらず、１年次に学んだ批判的読解能力をさらに高めながら、読解した内容を社会や技術の発展に関する幅広い問題に関連づけ、グローバル社会に貢献可能な方法を模索するための演習も行う。加えて、必修での英語履修後にも継続的に活用できる、自学自習のための方法についても取り扱う。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する読解能力をさらに深化させることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	留学準備講座		本科目は、学生が留学を現実的なものとして考え、最終的にはそれぞれの目標に向けて主体的に行動できるよう、留学の応募準備や英語検定試験対策、留学先における授業対策などを行う。また英語で得た情報を理解し、自分の意見を述べる練習を行うことで、留学準備に留まらない英語コミュニケーションカ・発信力の強化も目指す。留学に興味・関心のある学生が、主体的に留学準備を進められるようになり、留学先および各学生の専門分野のグローバルな現場において活用できる、英語力の向上を目指す。また、ある程度アカデミックな内容の英語を理解し、その上で自身の意見を英語で伝える練習等をクラスメイトと行うことで、多様性創発力も養う。	
外国語教育科目	英語	英語コミュニケーションA	○	In this course, students will develop their communication skills in English. They will learn about topics related to scientific, technological and global issues, focusing on areas of direct relevance to themselves and their future goals. They will listen to a variety of English media, including news reports, business conversations, and academic lectures, and increase their knowledge of practical vocabulary and expressions. They will also learn to share information and express their opinions in a clear and logical manner. Through their work in class, students will become more confident speakers of English, gaining skills they can use in their future careers. 本科目は学生の英語でのコミュニケーションスキルを伸ばすためのものである。学生は、自身あるいは将来の目標に直接関係する分野に注目して、科学、技術、またグローバルな問題について学ぶ。ニュース報道、ビジネス会話、学術講演など、さまざまな英語媒体を聴き、実践的な語彙や表現の知識を増やし、明瞭かつ論理的に情報を共有し自分の意見を述べることも学ぶ。学生が本科目での学びを通して、より自信をもって英語を話せるようになり、将来のキャリアで使えるスキルを身に付けることを目標とする。	
外国語教育科目	英語	英語コミュニケーションB	○	In this course, students will continue to develop their communication skills in English. They will listen to different kinds of media related to scientific, technological and global issues and carry out discussions and presentations on topics of personal interest. This course will put a particular focus on learning self-study skills students can use after completing their university studies. Students will be encouraged to look for opportunities to improve their speaking and listening by technology and resources on the internet. Through their work in class, students will gain confidence in their communication skills and learn how to become lifelong learners of English. 本科目で学生は、引き続き英語でのコミュニケーションスキルを伸ばす。科学、技術、またグローバルな問題についてさまざまな英語媒体を聴き、自身が関心をもつトピックについてディスカッションや発表を行う。また本科目では、特に大学卒業後に自身で学び続けるためのスキルを重視し、学生はインターネットの技術やリソースを使ってスピーキング力やリスニング力を高める機会を求めることが推奨される。学生が本科目での学びを通して、コミュニケーションスキルにおいて自信をもち、生涯にわたって英語を学び続ける術を身に付けることを目標とする。	
外国語教育科目	英語	アカデミック・コミュニケーション	○	本科目は、将来のキャリアで英語を使う可能性のある学生、または大学院に進学し国際会議等での活躍を目指す学生を主な対象とし、主に口頭での専門的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。国際的な会議や学会での口頭発表、ポスター発表、質疑応答といった場面を想定した実践的な練習を通して、それぞれの場面での慣習や方略を具体的に学び、専門的な内容を効果的に伝え、議論する力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	アカデミック・R&W	○	本科目は、将来のキャリアで英語を使う可能性のある学生、または大学院に進学し国際会議等での活躍を目指す学生を主に対象とし、主に書き言葉での情報収集と成果発信の能力を養う。専門的な文章の実践的な読解能力、およびアカデミックなコンテクストにおける実践的なライティング能力を高めることを目的とした本科目を通して、英語で書かれた論文や教科書などの文章から必要な情報を獲得し、整理し、他者に伝え、他者と議論する力、また、読み手や場面に合わせて目的達成のために工夫しながら英語で書く力を養うことを目的とする。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	中級英語試験講座A	○	本科目は、TOEIC® Listening & Reading Test に対応した教科書を用いて授業を行う。教科書に加え補助教材を使い、出題形式やパートごとの解答のポイントを学ぶ。問題を解くことに加え、様々な学習方法(例：シャドウイング、ディクテーション、リテリング)を行う。ペアやグループでの活動を通して、基礎力をより強固にし、応用力育成を目指す。この科目での学習を通じて、外国語および様々な視点に対する認識を深めるとともに、学んだ知識を応用できることを目的とする。 TOEIC対策を中心に、多様な英語活動を通じ英語力を伸ばすことを目標とする。	
外国語教育科目	英語	中級英語試験講座B	○	本科目は、「中級英語試験講座A」に引き続き、TOEIC® Listening & Reading Test に対応した教科書を用いて授業を行う。教科書に加え補助教材を使い、出題形式やパートごとの解答のポイントを学ぶ。問題を解くことに加え、様々な学習方法(例：シャドウイング、ディクテーション、リテリング)を行う。ペアやグループでの活動を通して、基礎力をより強固にし、応用力育成を目指す。この科目での学習を通じて、外国語および様々な視点に対する認識を深めるとともに、学んだ知識を応用できることを目的とする。TOEIC対策を中心に、多様な英語活動を通じ英語力を伸ばすことを目標とする。	

外国語教育科目	英語	上級英語試験講座A	○	本科目は留学を目指す学生を主に対象とし、留学要件となる英語検定試験対策を視野に入れながらよりアカデミックな内容をカバーする。授業では具体的にTOEFLやIELTSの問題形式や解答のポイントを学ぶと同時に、自律的な学習方法を実践し、多様な活動を通じて学んだ知識やスキルを応用できる力を養うことを目指す。本科目を通して、留学に必要となる総合的で高度な英語運用能力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	上級英語試験講座B	○	本科目は「上級英語試験講座A」に引き続き、留学を目指す学生を主に対象とし、留学要件となる英語検定試験対策を視野に入れながら、さらに高度でアカデミックな内容をカバーする。授業では具体的にTOEFLやIELTSの問題形式や解答のポイントを学ぶと同時に、自律的な学習方法を実践し、多様な活動を通じて学んだ知識やスキルを応用できる力を養うことを目指す。本科目を通して、留学に必要となる総合的で高度な英語運用能力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（表現）a	○	本科目では、初めてドイツ語を学ぶ学習者を対象とする。「ドイツ語初級（文法）a」で学ぶ文法を確認しながら、その初歩的な応用（読む、聞く、話す、書く）を段階的に習得する。具体的には、「読む」ではドイツの日常生活、社会制度、歴史などを平易なドイツ語で書いたものを読む。「聞く」では各種音源を利用して初歩的な聞き取り練習をする。「話す」では受講生同士でドイツ語を用いた会話をしたり、教員のドイツ語の質問にドイツ語で答えるなどして、初歩的な会話を練習する。「書く」では教科書の例文を応用して初歩的な作文練習をする。これらの学習を通じて、初歩的なドイツ語を読む・書く・聞く・話すための能力を身につける。「ドイツ語初級（表現）b」と合わせて受講し、ドイツ語検定４級合格と同等のレベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（表現）b	○	本科目では、「ドイツ語初級（表現）a」に引き続き、「ドイツ語初級（文法）b」で学ぶ文法を確認しながら、その初歩的な応用（読む、聞く、話す、書く）を段階的に習得する。具体的には、「読む」ではドイツの日常生活、社会制度、歴史などを平易なドイツ語で書いたものを読む。「聞く」では各種音源を利用して初歩的な聞き取り練習をする。「話す」では受講生どうしでドイツ語を用いた会話をしたり、教員のドイツ語の質問にドイツ語で答えるなどして、初歩的な会話を練習する。「書く」では教科書の例文を応用して初歩的な作文練習をする。これらの学習を通じて、初歩的なドイツ語を読む・書く・聞く・話すための能力を身につける。「ドイツ語初級（表現）a」と合わせて受講し、ドイツ語検定４級合格と同等のレベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（文法）a	○	本科目は、「ドイツ語初級（表現）a」で学ぶ簡単な日常会話文からはじめて、その背後にある文法構造へ、また逆に文法から始めて、まとまった文章へと螺旋的に階段を登りながら、「ドイツ語初級（表現）b」や「ドイツ語初級（文法）b」にも繋がる、体系的にドイツ語初級を学ぶ。文法は、読む・聞く・話す・書くといったどのアングルからもすべての基礎となる。本科目ではドイツ語の文法を初歩から学び、実際に使いこなせるようになることを目指す。まずは動詞の現在人称変化、それから次第にポイントが名詞に移動し「名詞の性・格」を学習し、前置詞の理解と習得をすることが到達目標となる。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（文法）b	○	本科目では、ドイツ語のごく初歩的な文法（動詞の現在人称変化、キーワード「名詞の性・格」など）はすでに身に付いていることを前提に、ドイツ語の初級文法をさらに学ぶ。基本的な文法事項を理解し、豊富な文法問題演習を実際に解いてみながら、実践的な力を伸ばす。さらに会話文や読解テキストなどにも挑戦し、実践的なドイツ語力に磨きをかける。授業を通じて、分離動詞や再帰動詞、話法の助動詞、時制、受動文、形容詞、関係代名詞などを理解することが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（表現）a	○	本科目では、フランス語の初歩的な会話表現を中心に学ぶ。フランス語の発音や聞き取りの練習、自己紹介や友人の紹介、電話での会話、天候や行先にまつわる会話、レストランでの注文や会話など、簡単なフランス語会話の練習などを行い、実用的なフランス語の習得を行う。フランス語の基本的な会話表現を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、フランス語による簡単な表現や会話などができるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（表現）b	○	本科目では、「フランス語初級（表現）a」に引き続き、フランス語の初歩的な会話表現を中心に学ぶ。フランス語の発音や聞き取りの練習、簡単なフランス語会話の練習などを行い、実用的なフランス語の習得を行う。視聴覚資料も活用して、学習内容の定着を目指す。フランス語の基本的な会話表現を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、フランス語による簡単な表現や会話などができるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（文法）a	○	本科目では、フランス語文法の基本を学ぶ。授業では、「聞く」（音声教材）、「読む」（発音）、「書く」（練習問題）を繰り返し実践し、フランス語の基礎をしっかり身につける。フランスは地方ごとに特色・魅力があるので、折に触れて各地方の紹介もする。①フランス語の文字と発音の仕組みを理解し、フランス語の文・語句を自ら正確に発音できるようになる、②フランス語初級の文法および語彙・表現を学び、フランス語で会話したりフランス語の文章を読むための基礎が身につく、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（文法）b	○	本科目では、「フランス語初級（文法）a」に引き続き、フランス語文法の基本を学ぶ。授業では、「聞く」（音声教材）、「読む」（発音）、「書く」（練習問題）を繰り返し実践し、フランス語の基礎をしっかり身につける。フランスは地方ごとに特色・魅力があるので、折に触れて各地方の紹介もする。①フランス語の文字と発音の仕組みを理解し、フランス語の文・語句をさらに正確に発音できるようになる、②フランス語初級の文法および語彙・表現を学び、フランス語で会話したりフランス語の文章を読むための基礎的な力がさらにが身につくことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（表現）a	○	本科目は、初めて中国語を学ぶ学習者を対象し、発音全般の基礎を築き、正しい声調、ピンインの読み方の定着を目指す。朗読、リスニング練習に意を用い、中国語の発音を耳に慣らし、実際に発音できるまで反復練習する。発音の習得後は､テキストに沿って､初級段階に必要な語彙や文法事項を学ぶ。音読を繰り返すことにより、リスニングを強化し､会話が楽しめるような下地を作る。リスニング・スピーキングを含めた豊富なドリルをこなしたのちに、学生同士での会話練習の時間も設ける。	

外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（表現）b	○	本科目は、「中国語初級（表現）a」に引き続き、初めて中国語を学ぶ学習者を対象し、発音全般の基礎を築き、正しい声調、ピンインの読み方をさらに定着させることを目指す。朗読、リスニング練習に意を用い、中国語の発音を耳に慣らし、実際に発音できるまで反復練習する。発音の習得後は､テキストに沿って､初級段階に必要な語彙や文法事項を学ぶ。音読を繰り返すことにより、リスニングを強化し､会話が楽しめるような下地を作る。リスニング・スピーキングを含めた豊富なドリルをこなしたのちに、学生同士での会話練習の時間も設ける。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（文法）a	○	本科目は、中国語の文法・構造の理解を中心とする入門クラスである。授業では、入門しやすい初級テキストを使い、発音の指導から始めて、基本表現や基礎的な文法要項などを学ぶ。特に、発音、書字体系、構文知識の理解に重点を置いて指導する。豊富な例文と練習問題で繰り返し訓練することにより、中国語の基礎をしっかり作るよう工夫する。授業での学びを通じて、中国語検定試験準4級、HSK1級合格程度の能力が身に付くことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（文法）b	○	本科目は、中国語の文法・構造の理解を中心とする入門クラスである。授業では、「中国語初級（文法）a」に引き続き、入門しやすい初級テキストを使い、発音の指導から始めて、基本表現や基礎的な文法要項などを学ぶ。特に、発音、書字体系、構文知識の理解に重点を置いて指導する。豊富な例文と練習問題で繰り返し訓練することにより、中国語の基礎をしっかり作るよう工夫する。授業での学びを通じて、中国語検定試験4級、HSK2級合格程度の能力が身に付くことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）1a	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、様々なテーマを扱った評論文や新聞記事などを読み、文章の中で用いられている表現、語彙、文法、漢字などを取り上げ、内容を理解する力を養う。具体的には、音読、ワークシートによる内容理解の確認、内容に関する意見文の作成などを行う。様々な文体の日本語に慣れるとともに、大学生活で必要となる日本語読解力を養成することを目的とする。大学生活に必要な一般的教養書を正確に速く読み、理解できるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）1b	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（読解）1a」に引き続き、評論文や新聞記事などを読み、文章の中で用いられている表現、語彙、文法、漢字などを取り上げ、内容を理解する力を養う。具体的には、音読、ワークシートによる内容理解の確認、内容に関する意見文の作成などを行う。日本社会への理解を深めるのに役立つ文章や科学に関する評論を題材にしながら、日本語読解力を養成することを目的とする。①日本社会や日本人の持っている背景知識への理解を深めることができる、②科学の領域における優れた評論を読み、知識を広げることができる、③論理的な文章を正確に理解できるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）1a	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、文章を作成する時の基本的な点を確認し、メールや意見文などの作文練習をする。具体的には、先生へのメールや奨学金申請書の書き方などのほか、敬語について学ぶ。また、書き言葉に特徴的な語彙・表現を身につけるための訓練を行う。日本で留学生活を送る上で必要な日本語作文能力の向上を目的とする。本科目での学びを通じて、適切な語彙・表現、文法を用いて、大学生活で必要な文章を書けるようになることを目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）1b	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（表現）1a」に引き続き、レポートを読み、分析することによってレポート作成に必要な基礎知識を身につける。具体的には、実験レポート例や論証型レポート例を取り上げ、その書き方を学ぶ。また、論理的に文章を組み立てる練習をする。簡潔で正確な文章を書く訓練として要約の練習を行う。大学における基礎的なレポート・作成が行える作文技術の習得を目的とする。書き言葉の文法、語彙・表現を身につけ、簡潔で論理的な文章が書けるようになることを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Aa		本科目では、ドイツ語の技能をバランスよく身に付ける。具体的には、ドイツ語の文章を忠実に日本語に訳すなかで、文脈を正確にとらえる力を養う。また、受講者のドイツ語力に応じて、これまで学んだ基本事項の復習も行う。また、接続法などのより高次の文法内容についても学ぶ。ドイツ語技能検定試験（独検）の問題にも取り組む。この科目での学びを通じて、①中級程度のテキストを辞書を使って読めるようになる、②簡単なドイツ語会話を聞いて理解できるようになる、③ドイツ語で適切に文を作成でき、それを会話や記述によって表現できるようになる、ことを目指す。独検3級の合格レベルが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Ab		本科目では、「ドイツ語中級Aa」に引き続き、ドイツ語の技能をバランスよく身に付ける。具体的には、ドイツ語の文章を忠実に日本語に訳すなかで、文脈を正確にとらえる力を養う。また、受講者のドイツ語力に応じて、これまで学んだ基本事項の復習も行う。また、接続法などのより高次の文法内容についても学ぶ。ドイツ語技能検定試験（独検）の問題にも取り組む。この科目での学びを通じて、①中級程度のテキストを辞書を使って読めるようになる、②簡単なドイツ語会話を聞いて理解できるようになる、③ドイツ語で適切に文を作成でき、それを会話や記述によって表現できるようになる、ことを目指す。独検3級の合格レベルが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Ba		本科目では、中級程度のレベルのドイツ語テキスト・リーディングを行う。最初は既習の文法項目の確認をしつつ、ドイツ語で書かれた文章に触れる。また、実際にテクストを音読することで、ドイツ語の発音の仕方やメカニズムを復習する。接続法や関係代名詞など、難易度の高い文法項目は詳細に解説する。①ネイティブのドイツ語で書かれた文章を辞書を用いながら読めるようになる、②初級ドイツ語学習時に学んだ文法項目を補完し、より精度の高い文法・語学知識が獲得できる、③ドイツ語を用いて簡単な日常会話や作文など、自己表現ができるようになる、ことを目指す。ドイツ語技能検定試験の2～3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Bb		本科目では、「ドイツ語中級Ba」に引き続き、中級レベルのドイツ語テキスト・リーディングを行う。また、実際にテクストを音読することで、ドイツ語の発音の仕方やメカニズムを復習する。接続法や関係代名詞など、難易度の高い文法項目は詳細に解説する。①ネイティブのドイツ語で書かれた文章を辞書を用いながら読めるようになる、②初級ドイツ語学習時に学んだ文法項目を補完し、より精度の高い文法・語学知識が獲得できる、③ドイツ語を用いて簡単な日常会話や作文など、自己表現ができるようになる、ことを目指す。 ドイツ語技能検定試験の2～3級の合格レベルを到達目標とする。	

外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Aa		本科目では、フランスでの政治、経済、文化にまつわるフランス語の時事的な文章、例えばフランスでの移民政策や起業の事情、大学事情、ファッション、Mangaブームなどのトピックを読むことを通じて、これまで学んだ初級文法の知識や基本的な語彙・表現の定着を図る。また、同時にフランス文化や社会についての理解を深める。フランス語の初級文法の理解を深めながら、フランス語で書かれた時事的な文章の読解ができるようになることを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Ab		本科目では、「フランス語中級Aa」に引き続き、フランス語の時事的な文章を読むことを通じて、これまで学んだ初級文法の知識や基本的な語彙・表現の定着を図る。また、同時にフランス文化や社会についての理解を深める。フランス語の初級文法の理解を深めながら、フランス語で書かれた時事的な文章の読解ができるようになることを目指す。これまでの学びを通じて、初級から中級レベル（仏語検定3級レベル）までの読解力・表現力を身につけ、それに応じたフランス人の物の考え方に対する知識を得ることを目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Ba		本科目では、初級文法を終えた学習者のための作文の教科書を用いて、フランス語で作文を行う。正確で明瞭な文章を書く能力は、会話をする際にも、文章を読解する際にも、必ず役に立つことから、文法・語彙・構文を確認しながら、フランス語らしい文章を書くスキルを身に付ける。外国語を学ぶことを通じて、自分自身のことや自分が属する文化・社会のことを外国語で正確に表現し、理解してもらうためのスキルを身に付けることを目的とする。①諸外国の科学技術・文化・社会に目を向け、グローバルな視点をもつことができるようになる、②フランス語の基礎文法を復習しながら、それぞれの文法事項や、語彙、構文を使って、実際にフランス語の文章を作ることができるようになる、③自分自身のこと（専攻、趣味・特技、親族・友人・知人、将来の夢など）を簡潔なフランス語で表現することができるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Bb		本科目では、「フランス語中級Ba」に引き続き、初級文法を終えた学習者のための作文の教科書を用いて、フランス語で作文を行う。正確で明瞭な文章を書く能力は、会話をする際にも、文章を読解する際にも、必ず役に立つことから、文法・語彙・構文を確認しながら、フランス語らしい文章を書くスキルを着実に身に付ける。外国語を学ぶことを通じて、自分自身のことや自分が属する文化・社会のことを外国語で正確に表現し、理解してもらうためのスキルをさらに身に付けることを目的とする。①諸外国の科学技術・文化・社会に目を向け、グローバルな視点をもつことができるようになる、②フランス語の基礎文法を復習しながら、それぞれの文法事項や、語彙、構文を使って、実際にフランス語の文章を作ることができるようになる、③自分自身のこと（専攻、趣味・特技、親族・友人・知人、将来の夢など）を簡潔なフランス語で表現することができるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Aa		本科目は、中国語初級レベルを完璧にし、中級に向かうクラスである。入門の教科書を援用し、既習内容の確認・復習と定着に重きを置き、豊富な表現、会話ができるように知識を増やす。受講者のレベルに合わせて、なるべく教科書の他に、どのような例文があるか等も紹介する。中国、台湾や香港の現代文化や社会についても適宜触れながら、現実感のある語学学習を目指す。①中国語圏の文化、言語が日本のそれらといかに近いかを実感し、中国語圏の人々を身近に感じる、②外国語学習を通して、今までの自分の価値観とは違う見方を知り、柔軟な思考を養う、③外語学学習の楽しさを知り、外国語コミュニケーションへの精神的ハードルを下げる、④中国語コミュニケーションについてはある程度の自信を持って堂々と実行できる、ことを目的とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Ab		本科目は、「中国語中級Aa」に引き続き、中国語初級レベルを完璧にし、中級に向かうクラスである。入門の教科書を援用し、既習内容の確認・復習と定着に重きを置く。そしてさらに豊富な表現、会話ができるように知識を増やしていく。受講者のレベルに合わせて、なるべく教科書の他に、どのような例文があるか等も紹介する。中国、台湾や香港の現代文化や社会についても適宜触れながら、現実感のある語学学習を目指す。①中国語圏の文化、言語が日本のそれらといかに近いかを実感し、中国語圏の人々を身近に感じる、②外国語学習を通して、今までの自分の価値観とは違う見方を知り、柔軟な思考を養う、③外語学学習の楽しさを知り、外国語コミュニケーションへの精神的ハードルを下げる、④中国語コミュニケーションについてはある程度の自信を持って堂々と実行できる、ことを目的とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Ba		本科目では、初級クラスで一年間習得したものを復習しながら、中級レベルの実用会話と短文を学習する。常用語句や基本表現及び場面別の実用会話を身につけるように、できるだけ繰り返し練習を行う。同時に現代中国事情にも触れ、変貌しつつある中国及び中国人の考え方への理解度を深める。初級クラスで学んだことを応用、発展させる中級クラスなので、基本的な会話表現と平易な文章を理解し、中級レベルの会話力と読解力を持つことを目的とする。中国語の基本的な表現を身に付け、より多くの場面会話を習得することを目指す。また、中国語の文構造と表現法の特徴を把握し、一般的な文章を辞書をたよりに読解できる、やや複雑な複文でも応用できることを目指す。中国語検定試験の3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Bb		本科目では、「中国語中級Ba」に引き続き、初級クラスで一年間習得したものを復習しながら、中級レベルの実用会話と短文を学習する。常用語句や基本表現及び場面別の実用会話を確実に身につけるように、さらに繰り返し練習を行う。同時に現代中国事情にも触れ、変貌しつつある中国及び中国人の考え方への理解度を深める。初級クラスで学んだことを応用、発展させる中級クラスなので、基本的な会話表現と平易な文章を理解し、中級レベルの会話力と読解力を確実に身に付けることを目的とする。中国語の基本的な表現を身に付け、より多くの場面会話を習得することを目指す。また、中国語の文構造と表現法の特徴を把握し、一般的な文章を辞書をたよりに読解できる、やや複雑な複文でも応用できることを目指す。中国語検定試験の3級の合格レベルを到達目標とする。	

外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）2a		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、論証型や報告型など複数の形式のレポートの書き方や、他の論文等の引用の仕方を、レポート例を用いて学ぶ。また、文を推敲し、修正する練習をすることで、適切な文章を書く訓練をする。レポート・論文を適切な日本語表現で書くための技術や知識を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、レポート・論文などの提出物が適切な日本語で書けるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）2b		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（読解）2a」に引き続き、文章を書くのに必要な文法的知識を固める。タイトルの付け方、論理的に考える訓練、メールや科学技術文の書き方なども組み合わせて授業を進める。レポート・論文を適切な形式と日本語表現で書くための技術や知識を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、レポート・論文などの提出物がより適切な日本語で書けるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）2a		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、仮名遣いや送り仮名、四字熟語、文法などの日本語の基盤となる内容や、敬語やEメールなどの、大学生・社会人として必要な日本語表現を学ぶ。また、作文を推敲し丹念に修正することによって、自らの書く作文の問題点を知り、文章力の向上を図る。日本語一般の知識を身につけ、大学生活や社会で必要な日本語運用能力を養うことを目的とする。大学生活や社会で必要な日本語の語彙・表現などの知識、運用能力の基礎が身につくことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）2b		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、前半で日本語検定やSPI3言語問題、BJTの問題、N1レベル以上の語彙や表現を扱い、就職活動やビジネスシーンにおいて必要な日本語を学ぶ。後半では、要約や意見文の作成、作文修正を行うことによって、自らの作文の問題点を知り、文章力の向上を図る。日本語一般の知識を身につけ、大学生活や社会で必要な日本語運用能力を高めることを目的とする。大学生活や社会で必要な日本語の語彙・表現などの知識、運用能力を向上させる。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1a	○	本科目では、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力を向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1b	○	本科目では、「体育実技1a」に引き続き、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力をさらに向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技2a		本科目では、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、複数の異なる競技種目を経験することで、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力を向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技2b		本科目では、本科目では、「体育実技2a」に引き続き、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、複数の異なる競技種目を経験することで、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力をさらに向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学		近年、わが国の人口動態は平均寿命が世界のトップレベルを維持し、加えて出生率の長期的な低下により少子高齢化の進展など、ライフスタイルに大きな変化をもたらしている。このような中で、いつまでも活き活きとした人生を営むためにも、健康の保持・増進は必要不可欠となる。そこで本科目では、各ライフステージにおける健康の保持・増進に関する基礎的な知識から近年の情報までをトレーニング科学、スポーツ医科学などの立場からも紹介し、これからのスポーツのあり方について学ぶ。幼児期から老年期まで生涯にわたって、その体力や目的に応じていつでもどこでもスポーツに親しむことを可能とする知識の獲得、また、参加する人の目的が「スポーツを楽しみ、交流を深める」、「自己の限界に挑戦する」等多様化していることへの対応力を身に付けることを目的とする。	
総合教育科目	健康・スポーツ	スポーツ解析		身体的運動を伴うようなスポーツあるいは歩行やゲームなどのフォームに関わるような、映像をベースとした画像データ、勝敗を決定する得点などの記録データ、身体的計測データや、生化学的数値データなどの取得および分析をおこなう。スポーツに関わるデータを様々な角度から分析し、スポーツの実践をより有効なものとすると同時に、スポーツ観戦についても分析的な立場に立って捉えられるようにする。歩行を含めるスポーツ全体に関わる、分析対象としてのデータが何であるかを理解し、それらのデータを簡単な図や表でまとめ、分析できるような技術を身に付ける。あわせて、理想的なフォームや歩行の状態に対しての理解を得ることを目標とする。	

総合教育科目	健康・スポーツ	スポーツ科学		スポーツと言っても観るスポーツと行うスポーツがあるが、人間は素晴らしいプレーや、早いタイムに出会うと感動する。なぜトップアスリートはあの様な難しい動きが出来るのだろうか？本科目では、スポーツを科学的な観点から学ぶ。具体的には、楽しいスポーツの基本 〝個を生かすチームづくり〟、スポーツ実践・観戦の楽しみ方（スピード、加速度、慣性、力、円運動、重心、トルク、エネルギー）、細胞のスーパーパワー、メンタル（脳）トレーニング（潜在脳の使い方、脳波と睡眠法）、老いと戦う細胞、コーチング（コミュニケーション能力の開発・発揮・発展）について解説し、理解を深める。スポーツを科学的に理解し、健康増進と社会への適応能力を知り、社会生活をする上で最も大切な健康増進の理解が深められることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	生涯スポーツ科学		「生涯スポーツ科学」は、スポーツ医科学、スポーツビジネス、スポーツ文化学、スポーツコーチング、健康スポーツなどから構成される。本科目では、スポーツ医科学について、主なスポーツ外傷・障害を学ぶ。具体的には、足関節捻挫、シンスプリント、脛骨疲労骨折、ジョーンズ骨折、アキレス腱断裂、アキレス腱付着部症、足底腱膜炎、膝前十字靭帯損傷、膝内側側副靭帯損傷、半月板損傷、ジャンパー膝、オスグッド病、分裂膝蓋骨、ランナー膝（腸脛靭帯炎）、鵞足炎、グローインペイン症候群、ハムストリング肉離れ、投球障害肩（腱板断裂、SLAP損傷、インピンジメント症候群）、肩関節脱臼、水泳肩、野球肘、テニス肘、TFCC損傷、突き指、腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、女性の三主徴、高齢者の変形性膝関節症、について解説し、理解を深める。年齢、性別などの多様性を理解し、複数人の協働により成果を得ることができるようになることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	ライフセービング		WHO報告より「2分間に1人」、世界のどこかで水の事故により尊い生命が失われているという。我が日本にも溺水事故は不慮の事故として扱われ、その事故者数は常に上位を占めている。この受け入れがたい事実を減少させるために国際ライフセービング連盟（124カ国加盟）が設立され、諸外国ではライフセーバーが公務員として雇用されている。本科目では、その視点から「生命・健康・安全」をキーワードとして、大自然のなかで、アウトドア・フィットネス（環境も含む）というライフスタイルを創造・展開していく。①自然の中で、自他の危険回避能力が身に付く、②理論と実践を通じて安全思想を高め、自然と生命についての畏敬が深まる、③アウトドア・フィットネスというライフスタイルを理解できるようになる、ことを目指す。	共同
総合教育科目	人文社会	哲学A	○	現在、哲学は世界中で教えられている。だがもともとは古代ギリシアで誕生したローカルで特殊な知の形態であった。遠く離れた極東の地で私たちはそれを学ぼうとしている。そうであるなら、一度は原点にたちかえって、哲学がどのようにして成立し展開していったかを確認しておく作業が必要であろう。本科目はそうした見とおしのもと、前期ではまず古代ギリシアにおける哲学の誕生とその展開の過程を見直すことからはじめ、あわせてヨーロッパにおける哲学の形成に大きなかかわりをもったユダヤ・キリスト教の誕生の過程についても理解することを目的とする。哲学を学ぶということは、西洋という文明の総体を俯瞰することにもつながる。たんに、ひとつの学科を学ぶというレベルをはるかに超えた広い視野と知識が不可欠となる。そうしたグローバルな観点から学習へつなげる。	
総合教育科目	人文社会	哲学B	○	哲学を学ぶには、大きく編年体スタイルとテーマ別スタイルがありうる。「哲学A」では、歴史をたどるスタイルを採用したが、本科目では、学校・ことば・正義・お金・死・世界・戦争・法・自分・性差・愛・幸福など、多様なテーマについて哲学者たちの見解を採りあげ、理解することを目的とする。哲学を学ぶということは、西洋という文明の総体を俯瞰することにもつながる。たんに、ひとつの学科を学ぶというレベルをはるかに超えた広い視野と知識が不可欠となる。そうしたグローバルな観点から学習へつなげる。	
総合教育科目	人文社会	倫理学A	○	本科目では、倫理学の学説を古代から近代まで年代順に解説することを基軸としつつ、その根底にある世界観・価値体系としての哲学についても広く学んでいく。ここで取り上げる思想の多くは数百年前に生きた哲学者のものであり、古いところでは二千数百年も前に成立したものであるが、それらの思想は、自分でも気付かないうちに私たちの頭の中にインストールされていたりもする。私たちが有している世界観や価値観は、自分一人で作り上げたものではなく、必ず歴史のどこかに「起源」を有しているのである。したがって、思想の歴史を知ることは自分自身を知ることでもある。倫理学とその基礎となる哲学の理論や概念について、幅広く理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	倫理学B	○	本科目では、主に現代思想における倫理学的探究の解説を基軸にしつつ、狭義の「倫理学」には分類されないテーマについてもとりあげ、現代という時代において生じた特有の倫理的問題について考察していく。さらには、書物に表現された思想だけでなく、歴史における現実的事象（「風景」の発見・公民権運動・テクノロジーの発展等）の哲学的・倫理学的な意味についても考察し、抽象的な理論と具体的な実践の場面とを接続していく。倫理学とその基礎となる哲学の理論や概念について、幅広く理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	言語・記号論	○	私たちは「言語」や「記号」を四六時中用いて大学生活、日常生活を営んでいるが、ごくありふれたものであるがゆえに、ふだんほとんど意識することはない。本科目では、まずそもそも「言語」とは何かを問い、そしてこれまでの「言語」の問い方の歴史をたどる。特に20世紀後半に興隆した記号論あるいは構造主義の理論および方法論の基礎を学ぶ。さらに、それらの理論・方法論を応用した研究や芸術作品を読解・鑑賞する。20世紀後半に興隆した記号論や構造主義は、21世紀に入って下火になったというよりは、もはや常識になったと考えてよいだろう。それは言語学の理論をモデルにしながら、理系も含め様々な学問分野にも適用・応用された。本科目は、いわゆる「文理融合」を念頭に置いて、理工系を専攻する学生にとっても役立つような、記号論の理論、方法論、応用例などを分かりやすく紹介し、理解できるようになること目指す。	
総合教育科目	人文社会	情報・メディア論	○	私たちは日々、テレビ、新聞、インターネットなどを通じて得た情報を利用しながら生活しているが、それらの情報を、誰が、どんな立場で、何を根拠に、何のために、いつ、どのような仕方で発信したのか、意識しないことが多いのではないか。本科目では、情報とは何か、メディアとは何か、という根本的な問いからスタートして、メディアの歴史、情報の価値、メディアの問題点などを見ていく。理工学を学ぶ学生を対象とした授業であるため、メディアとテクノロジーの関係についても、様々な角度から考察する。さらに、メディアとテクノロジーの関係、テクノロジーと人間の感性の関係、テクノロジーと社会形成の関係について考察し、理解を深めることを目的とする。	

総合教育科目	人文社会	科学思想A	○	地球規模の環境破壊、大量消費社会の出現などの現象が示すように、われわれは、人間の最高の英知の所産であるはずの科学が人間自身によって制御しがたいまでに肥大化し、人間を支配しようとさえするような奇妙な時代に住んでいる。現代では、「科学とはなにか」という素朴な問いに答えることが緊急課題となっている。そこで本科目では、科学がはじめて誕生した古代ギリシアと、近代科学が成立した科学革命の時代を取りあげて、その科学思想の特徴を検討する。学生には専門的な科学的知識を習得する前に、「科学」がどのように始まり、それがほかの人間の営みとどの点で共通し、どの点で異なるかを理解してもらい、それによって、自分の学習内容が社会でどのような意味をもっているかを学んでもらうことを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	科学思想B	○	本科目では、現代の科学哲学の議論を手がかりにして、科学者の思考がいかなるものか、いかにして法則を見いだすのか、科学者が新しい学説を受け入れるようになる背景は何かを考察する。まず、仮説演繹法についての批判的考察を足がかりに、科学者の思考法について様々な学説を紹介する。次いで、科学が前提とする諸概念について掘り下げ、それらについて様々な解釈が可能であることを理解する。最後に、科学が前提とする世界観について批判的に検討する。科学者の思考や方法論がいかなるものか、科学の進歩とは何かなど、科学という営みの特徴について理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	心理学A	○	私たちが漠然と抱いている「こころ」と称する対象について、その理解の仕方はさまざまである。本科目は「こころ」の働きを科学的な視点から理解することを目指す。まず、心理学の成立の背景事情にふれながら心理学の視点について考え、「こころ」の心理学的な捉え方や考え方の理解に努める。これを踏まえて、人間の知性にかかわる「こころ」の諸機能（感覚・知覚、記憶、言語など）について科学的な立場からの理解に努め、「こころ」のもつ優れた環境適応性を考えていく。また、必要に応じて、心理学と隣接する諸領域（哲学、神経科学、進化生物学など）について若干触れてみることで、「こころ」についての理解をもう少し深めてみる。学習を通じて、学生が、心と称する対象に対して、私的な立場から離れて科学的、客観的に考える態度を養い、これを通じて心に対する理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	心理学B	○	現代の心理学は基礎科学だと捉えることができる。本科目では、科学の眼を通して心の働きについて理解することを目的とする。はじめに、基礎科学としての心理学が成立するまでの学問的背景について哲学から説き起こし、19世紀の自然科学領域の発展を交えながら、現代の心理学までの流れを追っていく。そして、心の働きを理解するにあたっての心理学の立場を明確にする。こうした心理学的な考え方を押さえたうえで、人の認知機能について古典から現代までの研究を通して学習する。具体的には、認知することにとっての基礎となる知覚の働きを中心に、記憶、思考や言語の働きにまで展開していく。そして、人の認知機能がいかに巧緻なものなのかの気づきを契機として、心の働きについてより深く考え理解していくことをさらに目指していく。	
総合教育科目	人文社会	芸術A	○	本科目では、毎回一つの身近なモチーフを中心に取り上げ、アート表象においてジェンダーとセクシュアリティがどのように表現されるかを探求する。美術史を横断的に考察するため、学生は異なる時代や文化のアート作品を通じて、ジェンダーとセクシュアリティに関する理論や概念を理解し、自らの視点を深めることが期待される。多様な時代や文化のアート作品に対して感受性を高め、アートを通じてジェンダーやセクシュアリティについて理解し、批判的な視点を養う。理工系の分野においても多様性と包摂性の視点を持ち、自らの専門領域で創造的で柔軟なアプローチを発展させることを目指す。	
総合教育科目	人文社会	芸術B	○	本科目では、ジェンダー&セクシュアリティの政治の表現手段として、アートがどのように機能してきたのかを考察し、20世紀以降のアーティストたちによる具体的な実践を紹介する。本科目の目的としては、まず、現代アーティストがジェンダーやセクシュアリティの政治に焦点をあってどのようなアート実践を取り組んできたかを認識し、その重要性を理解する。次に、フェミニストアートやクィアアート歴史と文脈を把握し、多様なアート作品を通じて現代社会の課題を理解し、ジェンダーとセクシュアリティに関する議論に取り組むスキルを養成することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	憲法	○	「憲法」とは、個々の国家の基本事項につき規定したものである。では、日本国憲法はどのような事柄を基本事項として定めているのだろうか。本科目では、日本国憲法が規定する基本的な内容、考え方等について学ぶ。日本国憲法については、すでに中学校や高等学校において学習したことがあるはずである。もっとも、本講義は、単に条文を読み、これを暗記することを目的とするものではない。本講義においては、日本国憲法の思想的な背景や基本的な考え方、人権の意味と内容、統治システムの実態などを明らかにすることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	法学	○	本科目では、各法分野についての概略を学び、理解することを目的とする。具体的には、憲法、民法、刑法、社会保障法、労働法、国際法について、その重要なエッセンスを取り上げながら、それらを略述する。社会にはさまざまな法が存在している。法は生活の規範として機能したり、さまざまな紛争の解決の手段となったり、時には法によって規制される場合もある。社会の中で当たり前のように存在している法とは、どのようなものなのか。そして日常生活のどのように関わり、どういた解決手段を提示しているか。こうした日常で当たり前のように存在している法について、漠然とした概念にとらわれるだけではなく、具体的な事例を通して検討していく。	メディア
総合教育科目	人文社会	経済A	○	ミクロ経済学は、全ての財・サービスの市場について、その需要や供給など、経済の微視的な動向を分析対象とする。本科目はマクロ経済学と並び、現代経済学の入門コースにあたるもので、ミクロ経済学の基礎的な理論について説明する。講義では、図や数値例を使ったり、現実の問題を取り上げるなどして、ミクロ経済学の核心部分をわかりやすく説明する。本科目の目標は、新聞やニュースでよく取り上げられるような身近な経済問題、例えば、課税（たばこ税、酒税、消費税など）や競争の激しい産業（外食産業やIT産業など）に関する問題を、経済学の枠組みで理解できるようになることである。	
総合教育科目	人文社会	経済B	○	マクロ経済学はGDP（国内総生産）、雇用量（失業率）、物価など経済の巨視的な動向を分析対象とする。本科目は、現代経済学の入門篇として、マクロ経済学の基礎的な部分を取り上げ、経済学をはじめて受講する学生にもわかりやすいように、図や数値例を用いて説明を行う。また、さまざまな経済現象に対する見方や考え方を養えるよう、理論だけでなく、現実の経済の動向についても解説を加える。経済学の基礎内容をマクロ経済学の側面から習得することを目的とし、新聞やニュースでよく取り上げられるような、主要なマクロ指標（GDP、CPI、M1など）を理解し、国の経済政策についても基本的な方向性を把握できるようになることを目標とする。	

総合教育科目	人文社会	政治学A	○	本科目では、政治学を学ぶ上での基礎的教養である日本の統治機構、政治制度につき、日本国憲法をもとに検討していく。たとえば、「権力分立」の下に構築されているといわれているが、なぜそれらは分立しなければならないのか、またそれらは「抑制・均衡」関係に立つと考えることが正しいのか。その他にも、法律はどのようにつくられるのか、行政は何を行うことが憲法によって義務付けられているのか、裁判所は何ができて何ができない機関なのか。講義において、こうした疑問に対する検討を踏まえつつ、日本国憲法における統治機構の統制と、現実的な政治との架橋を行う。日本の統治構造につき、国会、内閣、裁判所といった国家機関の基本的な組織、構造、権限を検討することにより、日本の政治に対する理解を深めることを目的とする。	メディア
総合教育科目	人文社会	政治学B	○	本科目では、政治学について、まずはその意義や経済との関係などを明らかにし、さらに政治制度や政治過程、そして政党や国際政治に関わる問題について、検討を行う。そもそも社会科学は、理工系の学問を専門とする学生には馴染みの薄い学問だと思われるが、現実的な政治問題について、教養として向き合う場面は、市民社会の一員として活動していく以上、多々あると思われる。そのため講義において、そうした政治を見つめるための基礎的な概念や理論を紹介する。現代政治学の基礎的な概念・理論を理解し、現代の政治をより深く理解するための素養を身につけることを目的とする。	メディア
総合教育科目	人文社会	現代社会論A	○	本科目では、現代社会の問題を具体的な事例にもとづいて考察するため、戦後日本における「公害の原点」と言われる水俣病問題をとりあげる。水俣病は、遠い過去の問題として片づけられるものではない。また、科学技術の問題性を感情的にあげつらったり、一企業の加害責任を追及したりすればすむ問題でもない。しかも、立場の違いによって水俣病問題はさまざまな相貌を見せる。ここに水俣病問題の難しさがある。授業では、水俣病問題についての「理解」を深めるだけでなく、水俣病問題の「理解しがたさ」や「割り切れなさ」をも感じとることを目指す。そのため、チッソの経営者、現場の技術者、水俣病患者、医療現場の医師、水俣病問題に取り組んだ作家といったさまざまな立場の人びとの証言を、文字記録・映像記録によって紹介し、考察してゆく。	
総合教育科目	人文社会	現代社会論B	○	本科目では、現代社会の問題を具体的な問題に即しつつ考える。このためドキュメンタリー映画や現代日本の思想家の活動や著作などを手がかりに考察を進める。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。現代社会のかかえる問題について、特定の視点から単純に割り切るのではなく、さまざまな人間の立場から考えられる柔軟性を養うことが目標である。	
総合教育科目	人文社会	環境論A	○	20世紀の半ばごろから公害問題や地球環境問題に対する問題意識の高まりとともに、「環境」が私たちの重要なテーマとなった。環境とは、単なる空間ではなく、私たちを取り囲み、私たちと相互に関係し、影響を与え合って存在する場のことである。私たちは環境の中で、環境と関わり合いながら生きており、その活動のあり方によっては、環境を悪化させ、その結果、私たち自身の存在をも脅かす可能性がある。だからこそ私たちの生きる環境の「持続可能性」が重要な問題として共有されている。本科目では、こうした前提認識を踏まえた上で、人間の生きる環境がどのようなものかを分析し、人間がそれをどのようにデザインしていくべきか理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	環境論B	○	本科目では、「環境論A」での学修を踏まえて、私たちが現在直面している様々な環境問題に焦点を当て、それに対して私たちがどのように取り組むべきかを、倫理の観点から考察する。環境問題に直面する私たちは、倫理の対象を人間だけでなく、動物や植物、生態系、将来世代などにまで拡大することを考えなければならなくなっている。また、環境問題の被害を受ける人々は往々にして社会的弱者が多く、そこでは新たな社会正義の問題が生じている。これらの倫理的観点を考慮しながら環境問題について多面的に考察できるようになることを目指す。	
総合教育科目	人文社会	生命と多様性A	○	本科目では、日常生活の身近な話題や社会的関心が高い話題を軸に生命科学の基本を解説する。具体的には、生命科学の誕生、生命の基本単位（細胞）、生命の設計図（ゲノム、遺伝子、DNA、遺伝と生物情報）、エピゲノム（遺伝と環境の関わり）、発生と分化、脳機能、がん、食と健康、感染と免疫、生命倫理、生命技術と現代社会（遺伝子技術の発展、ヒトゲノム・遺伝子解析の倫理的課題）、生物多様性と地球環境の保全、について解説し、理解を深める。ヒトと社会から生命科学を理解し、また、日常にあふれる情報を正しく判断して活用する。科学リテラシーを身につけることを目的とする。生命科学の進歩と応用に関する知識や思考力を深め、科学技術と社会の間に起こる諸問題について理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	生命と多様性B	○	地球上の生物は40億年という長い歴史の中で、他の生物とかかわり合いながらさまざまな環境に適応することで多様化をとげてきた。本科目では、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方・原理をわかりやすく説明する。また、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響にも言及する。生物の多様性と共通性について進化の観点から理解し、進化論や自然淘汰の基本的な考え方を身につけることを目的とする。進化の結果として生物界が多様化していく現象や、生物同士のかかわり、生物と自然環境（生物自身も環境の一部である）とのかかわりを、具体例を通して学ぶとともに、分子、ゲノム、細胞から個体、集団、種、地球環境までの広い観点から理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	欧米の文化と歴史A	○	本科目では、19世紀前半ドイツのベートーヴェンから20世紀アメリカのアイヴズにいたるクラシック音楽の楽曲、そのほかさまざまな美術作品、文学作品などを適宜とりあげ、ヨーロッパとアメリカ合衆国の文化と歴史を概観する。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。以下を本科目の到達目標とする。 ①欧米の文化はおおまかに言って、古代ギリシア的な世界観（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な世界観（ヘブライズム）という異質な世界観どうしの反発や融和のくりかえしといった「常識」を理解する。 ②身近なところでなにげなく接するクラシック音楽や美術作品の背後にも歴史的な奥行きがあることを知り、そうした奥行きを楽しみ味わえる感性と想像力と知性を磨く。 ③個別具体的な芸術作品について、自分の評価・意見を表明する積極性を養う。	

総合教育科目	人文社会	欧米の文化と歴史B	○	本科目では、古代ギリシアのいわゆる「ソクラテス以前の哲学者たち」から19世紀のニーチェに至るヨーロッパの思想史を紹介する。ただし、たんに思想家の思想を紹介するだけでなく、適宜、文学や音楽などの芸術と関連させながら議論を進める。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。以下を本科目の到達目標とする。 ①欧米の文化は、おおまかに言って、古代ギリシア的な世界観（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な世界観（ヘブライズム）という異質な世界観どうしの反発や融和のくりかえしといった「常識」を理解する。 ②さらにヘレニズムとヘブライズムの内部にも、相互に歩み寄る可能性が秘められていたことを理解する。 ③文学作品やクラシック音楽を欧米の文化と歴史の流れで捉えることのおもしろさ・大切さを理解する。	
総合教育科目	人文社会	アジアの文化と歴史A	○	本科目では、「アジア」のなかでも、主に中国語圏の歴史・文化について学び、考察することを目的とする。トピックは様々だが、ジェンダー、セクシュアリティの角度から、多く考察する。文学・映画がどのように社会や歴史を描いているか（＝表象しているか）について、考える科目でもある。時代と、地域（主に中国大陸と台湾）をテーマ的繋がりによって往還し、幅広く中国語圏文学・映画の重要作品に触れる。希望によっては、書く練習（文学・映画作品を鑑賞し、それに対する批評を書く練習）を増やす。	
総合教育科目	人文社会	アジアの文化と歴史B	○	本科目では、「アジアの文化と歴史A」に引き続き、「アジア」のなかでも、主に中国語圏の歴史・文化について学び、考察する。「アジアの文化と歴史A」よりは、アジアと欧米が交差する時について考える。ジェンダー、セクシュアリティなどのトピックに着目し、マルチカルチャー的視点、世界的視野で「アジア」を見つめ直せるようにする。「アジアの文化と歴史A」と同様、文学・映画がどのように社会や歴史を描いているか（＝表象しているか）について考える。希望によっては、書く練習（文学・映画作品を鑑賞し、それに対する批評を書く練習）を増やす。アジアの歴史の流れと文化的特徴を把握し、文学や映画の重要性、役割、その可能性を知って感じ取り、批判的思考力を養い、広い視野を持つことを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	日本の歴史と現代A	○	本科目のテーマは、日本人の「感受性」に関する歴史的考察である。我々はしばしば敏感とか鈍感ということを口にするが、この言葉は実のところ何を意味しているのか。これらの語に象徴される人の感受性の問題は、古く遡れば遡るほど、どこか宗教的色彩を帯びる。神や仏という他者、すなわち憧れかつ恐れる超越的存在との独特の交渉に関わる、この国の人々の心構えに触れることになるのだ。本科目では、以上の視点に立ち、日本神話や仏教などをテーマとして取り上げ、日本人の「感受性」をめぐる思想の諸形態を、古代から中世まで概観することにより、この国の人々が神や仏をどのようにイメージしつつ生活してきたのかを十分に理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	日本の歴史と現代B	○	本科目のテーマは、日本人の「感受性」に関する歴史的考察である。我々はしばしば敏感とか鈍感ということを口にするが、この言葉は実のところ何を意味しているのか。これらの語に象徴される人の感受性の問題は、古く遡れば遡るほど、どこか宗教的色彩を帯びる。神や仏という他者、すなわち憧れかつ恐れる超越的存在との独特の交渉に関わる、この国の人々の心構えに触れることになるのだ。本科目では、以上の視点に立ち、「国学」「朱子学」「蘭学」等のテーマを広く取り扱いながら日本人の「感受性」をめぐる思想の諸形態を、近世から近現代まで概観することにより、この国の人々が神や仏をどのようにイメージしつつ生活してきたのかを十分に理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	情報社会と倫理・職業	○	本科目では、情報とは何か、インターネットの歴史、情報化によるビジネス環境の変化、人工知能やビッグデータの影響、プライバシー保護の問題、著作権や特許など情報資産である知的財産の保護と活用の問題、監視社会、生命科学の進歩によりもたらされる生命と情報の新たな関係、教育の情報化等など、情報社会を様々な切り口から概観しながら、情報社会における労働観や倫理上問題となるテーマを取り上げていく□。具体的事例の検討を受講者各自が行い、そしてそれぞれ自分とは異なる見解を理解することによって、倫理観をベースとした普遍的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	環境行政概論	○	本科目では、環境行政の政策目的や実施手法を、映像教材やケーススタディー等も含めて具体的に説明する。この中で講師の国及び地方公共団体における環境行政の実務体験等を適宜紹介する。また、講義の中で過去に公務員試験等で出題された問題等をクイズとして出題し、その解説も併せて行う。本科目での学習を通じて、学生が環境問題に対する認識を深めるとともに、実際の環境行政の実務等に対する基礎的な知識を習得することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	教養演習A	○	本科目は、演習形式で広く教養を身に付けることを目的とした科目であり、いくつかのテーマで開講されている。そのうちの一つを記載する。 本科目では、感性と言語、そして両者の関係についてあらためて考える。具体的には、視覚的芸術（絵画）と聴覚的芸術（音楽）の読解・鑑賞を通じて、それぞれの芸術作品を言葉で理解し、他者と言葉でコミュニケーションしながら、「共感」のための基礎的・学術的な方法を学ぶ。21世紀の科学および産業においては、AIが時代をリードする最先端技術になっていると言っても過言ではない。しかし、このような時代だからこそ、AIをめぐる未曾有の問題に対処するために、生身の人間の身体的なもの、感覚的なものの果たす役割がますます重要になってくる。本科目では、芸術作品（美的なもの＝感性的なもの）を鑑賞する方法を学びながら、感覚（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）によって世界を「感じる」ことの意義について考えることを目的とする。	

総合教育科目	人文社会	教養演習B	○	本科目は、演習形式で広く教養を身に付けることを目的とした科目であり、いくつかのテーマで開講されている。そのうちの一つを記載する。 本科目では、グリム兄弟による『子供と家庭のためのメルヒェン』、いわゆる『グリム童話』を読み解き、理解を深めることを目的とする。『グリム童話』がいかなる意図で収集され、出版され、書き換えられていったかということについては、歴史的な背景（たとえばロマン主義やナショナリズムの高揚、近代家族の成立など）を学ぶことなしに理解することはできない。本科目では、この童話集の成立にまつわる歴史的・文化的背景を学びながら、日本でもよく知られた童話を読んでいく。まずは初版と最終版である第七版を比較検討しながら、これらの物語をどのように論理的に解釈していくか考える。さらにこれらの物語がどのように受容され、再生産されてきたかを考える。その際には、子供向けの本や映画なども参照する。	
総合教育科目	人文社会	日本語リテラシー基礎演習	○	本科目はオムニバス方式でおこなう。前半では、レポート・論文を書くために必要な技術を習得するための練習をおこなう。事実と意見の区別、漢字とかなの使い分け、読点、語順、科学技術文において注意すべき事項を扱う。後半の授業では、テーマに基づき、毎授業プレゼンテーション（発表）を行い、学生同士による評価、フィードバックを実施する。本講義を通して、大学での専門知識の効果的習得を促進するような基礎的な日本語力を身につけることが第一の目標である。さらに、情報を的確に読み取り、その情報を活用して他者と積極的にコミュニケーションし、他者と協働しながら独創的な発想を展開できるような人材の育成をめざす。 （オムニバス方式／全14回） （157 中村　拳／6回） 対面プレゼンテーションおよびオンラインプレゼンテーションの実践演習 （72 吉田　達／2回） ガイダンスおよび全体のまとめ （103 井田　尚美／6回） 伝わりやすい日本語の文章を書くための実践演習	オムニバス
総合教育科目	人文社会	科学技術と倫理	○	環境、情報、技術、医療、法律など現代社会のさまざまな分野で活躍されている学内外講師によるオムニバス方式の講義である。科学技術は人々の生活を支え社会を発展させる反面、地球全体に大きな影響を及ぼす可能性をつねに含んでいる。もし科学技術において倫理に悖る（もとる）行為があった場合は、人々の生活や福祉に深刻な影響を与え、人間の尊厳を傷つける結果にもなる。本科目は、高い科学技術力の修得を志す者に対し、相応しい倫理観を持って社会で活躍していくために必要な倫理教育を授けることを目的とし、生涯において継続的に前進するための具体的な方法論と社会的知識とを全人的に獲得させることを目標としている。 （オムニバス方式／全14回） （47 寺本　剛／5回） 科学技術のリスクと安心・安全、放射性廃棄物と世代間倫理、気候変動とジオエンジニアリングの倫理 （72 吉田　達／2回） 掘割再生−広松伝氏の仕事から考える、現代社会における倫理の問題をあらためて考える （130 小須田　健／1回） 現代社会はなぜ倫理を必要とするか （167 本田　隆浩／2回） 現代情報化社会の構造と倫理・道徳・法の関係、プライバシー保護と個人情報保護 （85 竹中　真也／3回） デジタル時代のリアリティ （135 柴尾　晴信／1回） 生命科学研究における倫理問題	オムニバス
総合教育科目	人文社会	ジェンダー・セクシュアリティ論A	○	本科目では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基礎となる、歴史的な考え方と基礎知識を学ぶ。ジェンダー・セクシュアリティ論について正確に理解するために必要な、歴史学や社会学をはじめとした人文社会科学の様々な分野の知見を学び、議論の土台となる知識を獲得することを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティ論における基本概念とその歴史的成立を理解し、知識を得ること、またその知識をもとに、議論ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	ジェンダー・セクシュアリティ論B	○	本科目では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識を学び理解するとともに、現代社会における様々なアクチュアルな問題や課題について学ぶ。授業では、基本的な概念を応用してより複雑な問題について考え、議論していく。ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識と理解に基づき、現代社会のアクチュアルな問題群に対して考察を深め、議論する力を養うことを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識を獲得し、理解すること、また、現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティをめぐる課題について、正確な知識と理解を土台として考察し、議論ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズA		本科目では、海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解への機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の4週間の海外研修プログラムを通して外国語運用能力向上を図る。TOEIC等の外部英語能力テストのスコアの向上など、各自が目標設定をして留学の成果を確認する。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先はハワイ大学（米国）、春季はカリフォルニア大学デービス校（米国）と西オーストラリア大学（オーストラリア）を予定している。	

総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズBI		本科目では、海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解、理工学分野の研究施設や企業訪問の機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通してイノベーションが創出される近隣国の動向と将来性を理解、外国語運用能力向上を図る。イノベーション、スタートアップ、アントレプレナーシップ動向把握と世界におけるアジア諸国の立ち位置の理解、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先は、シリコンバレー（米国）、春季は上海理工大学（中国）、タマサート大学（タイ）、シリコンバレー（米国）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズBII		本科目では、「グローバルスタディーズBI」履修済みの学生と対象として海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解、理工学分野の研究施設や企業訪問の機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通してイノベーションが創出される近隣国の動向と将来性を理解、外国語運用能力向上を図る。イノベーション、スタートアップ、アントレプレナーシップ動向把握と世界におけるアジア諸国の立ち位置の理解、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先は、シリコンバレー（米国）、春季は上海理工大学（中国）、タマサート大学（タイ）、シリコンバレー（米国）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルインターンシップ		本科目では、夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通して、新技術が創出されるイノベーション大国の動向と将来性を理解、併せて外国語運用能力向上を図ることを目指す。同時にスタートアップ、アントレプレナーシップ動向とエコシステムの実態を把握し、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。併せて、語学力向上、多文化理解やグローバルな視点を養うと共に、シリコンバレー流起業プロセスを理解する。夏季・春季ともその渡航先は、シリコンバレー（米国）、ハノイ・ホーチミン（タイ）、マレーシア工科大学（マレーシア）、ダルマプルサダ大学（インドネシア）、ラマイア工科大学（インド）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルアントレプレナーシップ入門		我が国の少子高齢化、新興国の台頭で地球規模の社会、経済、産業、人口構造変化が起きている。このような状況下、市場のグローバル化が余儀なくされ、グローバル人材輩出への期待が年々高まっている。また、不確実性社会が到来、自らの意思判断で時代の潮流に乗り切ることができる、アントレプレナーシップマインドの醸成が必要不可欠となり、双方を兼ね備えた人材が求められている。そこで本科目では、前半で、日本の現状理解、それに応ずるための企業の国際化、市場・産業を理解、また企業が求めるグローバル人材（ニーズ）を理解した上で、個人のキャリアを振り返り、異文化コミュニケーションの必要性と多文化理解を学ぶ。後半では、第4次産業革命、世界のイノベーション、スタートアップ、エコシステムを理解し、アントレプレナーシップの基礎も身に付ける。そして、自ら立案したビジネスプランを作成する能力を養い、ピッチ（プレゼンテーションテクニック習得）実習を行うことでグローバルに羽ばたける人材創出を目指す。	メディア
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルアントレプレナーシップ演習		我が国の少子高齢化、新興国の台頭で地球規模の社会、経済、産業、人口構造変化が起きている。このような状況下、市場のグローバル化が余儀なくされ、グローバル人材輩出への期待が年々高まっている。また、不確実性社会が到来、自らの意思判断で時代の潮流に乗り切ることができる、アントレプレナーシップマインドの醸成が必要不可欠となり、双方を兼ね備えた人材が求められている。本科目では、このような時代の潮流を乗り切れる人材創出を目的とし、「アントレプレナーシップ入門」で身に付けた基礎知識を基に、更なるステップアップを目指す。前半では、「アントレプレナーシップ入門」の振り返りを行い、自身が深堀したいビジネスを取り決め、グローバルで通用するビジネスプラン作成を演習形式で実施する。また、自ら立案したビジネスプランを作成する効果的に発表する能力を養うために、グローバルピッチ演習も実施する。さらには、授業で取り組んだビジネスプランを産学協同で日本社会、そして国際社会でも実装できるよう、起業経験者や国・地域別専門家など様々な学外専門家をゲストスピーカーとして招聘、ハンズオンで指導を受ける機会を設けるなど、各専門分野のスキルも向上させ、アントレプレナーシップマインドを備えたグローバル人材の創出を目指す。	メディア
総合教育科目	グローバル・学際	技術と法		本科目では、知的財産法制や技術に関連する法制度、さらには、技術と倫理の立場や企業組織のコンプライアンス・レピュテーションの維持のために大事な内部統制に関する法制度、さらには、急速な発展とともに次々に法的問題が顕在化しているIT・インターネットに関する法律などを幅広く解説する。IT技術の進歩とともに、科学技術の開発・流通・利用に関わる事件が多発するようになり、技術者にとって技術開発や利用の場面で、知的財産権やIT法制、コンプライアンスといった、関連する法制度や法的思考を理解しておくことが重要になってきている。そこで、理系の学生が知っておくべき法律問題の基本的部分を講義し、一定レベルの知識を会得してもらうことを主な目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （38 杉浦　宣彦／11回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。合計9回の授業においては、知的財産に関する法律知識について解説する。 （97 浅見　浩二／1回） 経営法務に関する法律知識について解説する。 （173 丸山　陽／1回） IT・インターネットに関する法律知識について解説する。 （97 浅見　浩二、173 丸山　陽／1回）（共同） 弁理士業務の概要について説明する。	オムニバス 共同（一部）

総合教育科目	グローバル・学際	産業財産権法		本科目では、特許制度をはじめとした産業財産権制度の意義やその状況等について解説するとともに、権利を活用するまでの基礎的な知識（法目的、保護対象、手続きの流れ、登録要件等）および権利取得および権利行使における実務上重要な事項に関する講義を行う。本科目での学びを通じて、特許制度をはじめとした産業財産権制度が産業の発達にどのように貢献するのかを理解し、産業財産権法の基礎的な知識および実務上重要な事項が理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	グローバル・学際	知的財産法演習		本科目は、演習を通じて、知的財産やITをめぐる様々な事案を題材にした知的財産やIT技術に関連する法制度の基礎を学ぶ。前半授業回では、知的財産の基本的知識を学ぶ。そのうえで、その知識を活かして判例を検討し、発表を行う。後半授業回では、実際に企業や特許事務所で働く弁理士の話を聞いたり、現場を見ることによって、現実社会における知的財産を体験する。どのように法制度を学ぶのか、また、法制度の調査方法（リーガルリサーチ）の基礎を学ぶことにより、なにか法的疑問を感じたときにも対応できる基礎的な能力を会得できることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （38 杉浦　宣彦／9回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。合計7回の授業においては、知財法総論、判例研究の仕方、ITセキュリティ関連の判例研究について解説する。 （141 千且　和也／2回） 特許権をめぐる判例研究について解説する。 （109 大塚　啓生／3回） 商標権や意匠権をめぐる判例研究について解説する。	オムニバス
総合教育科目	グローバル・学際	知的財産取扱基礎知識		本科目では、特許権、意匠権、商標権等を権利化するための特許庁への出願手続、それらを取消または無効とするための審判請求・異議申立ての手続、ライセンス契約の交渉、仲裁手続などの代理業務のほか、知的財産取扱に最小限必要な程度の基礎知識を伝授する。将来開発者を目指す学生にとって、特許や商標等の知的財産に関する知的は、自身が発明した権利を守るという意味で重要な権利である。一方、将来知的財産の業界で働くことを考えている学生にとっては、その業務の内容を知ることは非常に有意義である。このような観点から、知的財産に関する実務を垣間見れるような授業を行い、将来的に活用できる知識の習得を目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （97 浅見　浩二／4回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。このほか2回の授業において、自分の発明を特許出願する方法、意匠法に関連して、先行意匠調査と意匠情報について解説する。 （125 楠　和也／3回） 特許情報の調査、実用新案制度、意匠法に関連してデザインの意義、意匠登録制度とデザインについて解説する。 （173 丸山　陽／2回） 出願から特許取得までの流れ、外国で特許を取るため方法等について解説する。 （148 田中　虹輝／2回） 意匠法、商標法について解説する。 （109 大塚　啓生／3回） 企業経営における商標の効果・価値、商標調査について解説する。	オムニバス
総合教育科目	グローバル・学際	AI・データサイエンス工学概論		自然科学や先端科学技術の諸分野において、人工知能（AI）やデータサイエンスの高度な活用が急速に広がっている。本科目は、理工系学部の各専門分野においてAIやデータサイエンスを活用したいと考える学生を対象とした入門的な科目として、動画及び資料に基づいて、AI・データサイエンスの諸手法の考え方、背後にある数理の概要、そして Python 言語による実装や活用事例を学ぶ。また、Google Colaboratory というクラウド上の実行環境を用いて Python 言語による実際のプログラムの実行と結果の考察を行う。以下を到達目標とする。 ①現代社会におけるAI・データサイエンスの意義を説明できる。 ②機械学習・画像解析・自然言語処理を理学・工学にどのように活用しうるかを例を挙げて説明できる。 ③Python言語で書かれたプログラムをアレンジして簡単な機械学習・画像解析・自然言語処理を行うことができる。 （オムニバス方式／全14回） （41 田口　善弘／3回） Pythonの基礎、Pythonによるデータ分析と可視化について解説する。 （6 生田目　崇／4回） Pythonと機械学習について解説する。 （78 大野　航太／4回） Pythonと画像解析について解説する。 （7 難波　英嗣／3回） Pythonと自然言語処理について解説する。	オムニバス・メディア ※演習 講義7回 演習7回

総合教育科目	グローバル・学際	学問最前線		本科目は、都心キャンパスの学部（基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、法学部、国際情報学部）の学生対象の共同開講科目（1年次配当）である。3学部の教員がそれぞれの専門領域に関連するテーマについて多角的な視点による講義を提供することを通じて、文系・理系を問わず学生に求められる幅広い視野、深い思考の礎となる素養を涵養する。1年次配当科目であることから、大学という学問の入り口に立った学生が他学部(他学科)の学生とも協働しながら、現代において日々生起する新たな問題の解決には様々な思考様式があることを知り、複眼的かつ柔軟な創造力の素地を獲得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （69 山西　博之、55 西村　暢史、16 岩隈　道洋／2回）（共同） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。 （69 山西　博之／2回） 理工学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （60 ホーテス　シュテファン／1回） 持続可能性科学の研究成果の応用を目指して、不確実性やトレードオフに向き合うための体制づくりについて解説する。 （16 岩隈　道洋／1回） リクナビ事件を素材として個人情報保護とELSIについて解説する。 （61 堀江　亜以子／1回） ボーダーレス化する世界と知的財産権の保護について解説する。 （23 樫山　和男／1回） 防災・環境問題を例に数値シミュレーションについて解説する。 （22 角田　篤泰／1回） 情報科学的視点からみた法、法分野へのAI・ソフトウェア工学の応用について解説する。 （34 佐藤　文彦／1回） 生殖補助医療と法、いわゆる代理出産をめぐる課題について解説する。 （31 小向　太郎／1回） サイバーセキュリティと法制度について解説する。 （36 四方　光／1回） サイバー犯罪の現状と対策について解説する。 （54 新妻　実保子／1回） ロボットの自律化、人-ロボットインタラクションなどについて解説する。 （32 斎藤　裕紀恵／1回） EdTechの現状と展望について解説する。	オムニバス・メディア 共同（一部）
総合教育科目	グローバル・学際	学際最前線		本科目は、都心キャンパスの学部（基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、法学部、国際情報学部）の学生対象の共同開講科目（3年次配当）である。3学部の教員が提供する学問分野の発展的内容をそれぞれの学部の学生がともに学ぶという専門的・学際的な視野をもった科目である。3年次配当科目であることから、自らの学問分野における専門的知識を身に付けつつある学生が他学部（他学科）の学生とも協働しながら、異なる学問分野からのアプローチを学び、専門分野横断的で学際的な問題解決力を獲得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （69 山西　博之、55 西村　暢史、16 岩隈　道洋／2回）（共同） 第1回の科目説明、14回のまとめを担当する。 （69 山西　博之／4回） 理工学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （55 西村　暢史／4回） 法学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （16 岩隈　道洋／4回） 国際情報学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。	オムニバス 共同（一部）
総合教育科目	グローバル・学際	多文化共生論		「多文化共生社会」を理解し体得するため、本科目では広く、「越境」と「エンパシー」をテーマに解説する。作品（文学、映画、ドラマなど）を使いながら、自分の固定観念を破り、もっと多様な生、多様な人間がいるということを体感し、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など、人の属性、アイデンティティ、境界線を作る様々な要素について、考察する。本科目での学びを通じて、①自分とは違う環境で生きる人間の心を、前よりも想像できるようになる、②自己と他者の境界線を、前よりも柔軟に捉えることができるようになる、③フィクションが持つ力を実感し、前よりも作品の意味をしっかり考察できるようになる、ことを目指す。	
総合教育科目	グローバル・学際	障害学		障害学は、1970年代以降、徐々に学問領域／アプローチとして形成されてきた。障害学において、障害とは主流派の身体と異なる（とされた）身体、異なる（とされた）身体性のことを指しつつ、そうした身体性を持ってこの社会を生きていくことの経験、とりわけそこで生じる社会的な不利益や差別、排除、抑圧のことを障害と呼ぶ。ここでの「身体」「身体性」には精神や認知特性といったものも含まれる。障害学は、この障害の社会的な側面に焦点を当て、社会構造、人々に与えるインパクト、そして障害の経験の中で紡ぎ出された思想を学問的に取り扱う。本科目では、障害学の蓄積を学ぶことを通じて、障害とそれを取り巻く社会を捉え、複数の視点を獲得することを目的とする。また、障害については、制度化された学問体系には収まらない「知」や「思想」がたくさんあるため、学術論文や書籍以外の書かれたものや、映像なども取り上げながら、考えを深める。	

総合教育科目	グローバル・学際	Global Issues A	○	In this course, students will study in English about the most pressing environmental challenges faced by the world today, including climate change, energy generation, resource depletion, deforestation, and pollution. They will go beyond a superficial understanding of these problems to examine the deep-lying global structures that systemize and perpetuate environmental damage. This is a task-based course in which students will be expected to work in groups to carry out independent research projects into the issues studied in class. Through their work in class they will learn how to research information from reliable sources, critically examine and analyze evidence, and draw conclusions supported by verifiable data. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、現代の世界が直面する環境問題について英語で学ぶ。気候変動、エネルギー生成、資源の枯渇、森林破壊、汚染といった最も差し迫った問題を取り上げ、これらの問題をより深く理解するために、環境破壊が体系的かつ持続的に行われる根本となっている世界の構造について考える。授業はタスクを中心とし、授業で取り上げた問題についてグループで調査プロジェクトを実施する。本科目での学びを通して、信頼できる情報源を使って調査し、また証拠を批判的に検討して分析し、検証可能なデータに裏付けられた結論を導く力を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	Global Issues B	○	In this course, students will learn in English about important social and technological issues in the world today, including artificial intelligence, social media, aging societies, global migration, and human rights. Through their work in class, students will learn how scientific advancements are transforming the way we work and interact and they will cast a critical eye on both the risks and rewards of technological change. They will also study in depth about social change happening across the globe and analyze the trends that are likely to shape our societies tomorrow. They will continue to work in groups to complete self-directed projects, learning how to manage time and resources within a team environment. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、人工知能、ソーシャルメディア、高齢化社会、世界規模の移民、人権といった、現代世界における重要な社会問題および科学技術問題について英語で学ぶ。本科目での学びを通じて、科学技術変化のリスクと恩恵の両面に批判的な目を向け、科学の進歩がいかに働き方や交流の仕方を変容させているかを考え、さらに、世界で起こっている社会的な変化を掘り下げて調べ、これからの社会を形作っていきそうな傾向を分析する力を身に付ける。また、自律的にグループでプロジェクトを実施し、チームで時間とリソースを管理する力も身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	Education for SDGs	○	In this course, students will examine in English the United Nations’ 17 Sustainable Development Goals (SDGs), putting a focus on what we as individuals can do to ameliorate social, economic, and environmental inequalities within our world. As well as taking a broad overview of the SDGs and their principles and challenges, students will choose one goal they have a particular interest in, carrying out a research project into a specific instance of how individual action impacted a local area. They will present the results of their research in a written report and oral presentation. Through their work in class, they will learn the fundamental principles of communicating information clearly, concisely, and attractively. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、国連の掲げる17の持続可能な開発目標(SDGs)について英語で調査し、私たちの世界にある社会的、経済的、環境的な格差を改善するために私たちが個人としてできることは何かを考える。17の目標とその原則や課題を概観した上で、受講者それぞれが関心を寄せる目標を一つ選び、いかに個人の行動が地域に影響するかを具体的に示す調査プロジェクトを実施する。調査の結果はレポートとプレゼンテーションの両方で報告する。本科目での学びを通じて、明瞭に、簡潔に、そして興味をもってもらえるように情報を伝えるための基本原則を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	International Relations and Politics	○	In this course, students will study politics and international relations in English to gain an understanding of events happening around the globe. They will watch news items aimed at native speakers, read articles, and prepare summaries and questions. Through their work in class, they will learn how to express their opinion in a logical and persuasive manner and how to lead discussions and debates. They will also learn to look behind current events to uncover the underlying causes of conflicts and disputes, examining issues like religion, democracy, terrorism, and the clash of ideologies. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、世界で起こっている出来事を理解するために政策と国際関係について英語で学ぶ。授業では英語母語話者に向けて作成されたニュースを視聴し、記事を読んで、要約を作成したり論点を準備する。本科目での学びを通じて、論理的に説得力をもって意見を述べることを学び、議論やディベートを導く力を身に付ける。さらに、現在起こっている出来事の背景を探って対立や紛争の根底にある原因を明らかにし、宗教、民主主義、テロ、そしてイデオロギーの衝突といった問題を調査する力を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
専門教育科目	基礎科目	微分・積分1	○	本科目では、微分積分学の基礎である極限、連続の概念を学び、１変数関数の微分積分について具体的な計算ができるようになることを目指す。具体的には、数列の極限と実数の連続性、関数の極限と連続関数、初等関数、関数の微分、平均値の定理とロピタルの定理、高次の導関数と曲線の凹凸、テーラーの定理、ランダウの記号と漸近展開、定積分と不定積分、積分の計算、広義積分、区分求積法による定積分の定義と曲線の長さなどについて解説し、理解を深める。	

専門教育科目	基礎科目	微分・積分2	○	本科目では、多変数関数の偏微分法と重積分の基礎を学び、具体的な計算が出来るようになることを目指す。具体的には、多変数関数の極限と連続性、偏微分と全微分可能性、合成関数の微分、高次の偏導関数と2変数のテーラーの定理、2変数関数の極値の判定、陰関数の定理と条件付き極値問題、重積分と累次積分、重積分と累次積分の計算重積分の変数変換、体積、曲面積、線積分とグリーンの定理、ガンマ関数とベータ関数などについて解説し、理解を深める。	
専門教育科目	基礎科目	線形代数1	○	線形代数は理学、工学の各分野における重要な基礎科目である。本科目では、行列や行列式といった線形代数の最も基礎的な分野を学ぶ。具体的には、ベクトルと直線や平面の方程式、2次や3次の行列、行列の定義・演算、正方行列、正則行列、行列の基本変形、行列の階数、逆行列、行列と連立１次方程式、行列と１次写像、行列式の定義・性質・計算、小行列式、余因子、行列式と連立１次方程式、について解説する。線形代数の基本事項（行列、掃き出し法、行列式）を学ぶことを目的とする。行列の基本変形、逆行列の計算が出来るようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	線形代数2	○	本科目では、「線形代数1」に引き続いて、理工学部で必要な線形代数の基礎を学ぶ。具体的には、1次独立、1次従属、部分空間、連立1次方程式、1次写像、基底の変換、シュミットの直交化法、直交補空間、固有値と固有ベクトルの定義・計算例、行列の対角化（理論、計算例と応用例）、直交行列、実対称行列の対角化、実2次形式、について解説する。固有値、固有ベクトルの概念を理解し、行列の対角化の計算が出来るようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	物理1	○	物理学は数学的な表現を得られれば、適した条件のもとでそれらを解くことによって様々な公式が得られ、物理現象を説明できる。高等学校までに覚えた公式については、数学的な手法へ立ち戻って理解し論理的に整理することが必要である。本科目では、物体の運動を微分方程式の形の運動方程式で表し、物体の運動を明らかにする。また、運動方程式を基礎に、運動量およびエネルギー保存則を導く。わずかな基礎法則から数学的な手法をもとに組み立てられた力学体系を紹介し理解を深める。全ての理工系の学問と基礎となる基礎的な数学の能力と物理学の基礎知識が身に付くことを目標とする。物体の運動を微分方程式の形の運動方程式で表し、物体の運動を明らかにすることで、様々な基礎法則を導く応用力の素地を習得する。力学を学ぶことで論理的思考力を養い、理工学の考え方の基礎の習得を目指す。	
専門教育科目	基礎科目	化学1	○	化学とは、物質やそれを構成する分子・原子を対象とした学問である。私たち人間の体をはじめ、動物や植物も化学物質から成り立っていて、日常生活で使うさまざまな用品、道具なども化学物質で構成されている。本科目では、化学結合と物質の構造や、化学反応の理解に重点を置いて解説する。具体的には、化学結合、物質の三態、反応速度、酸と塩基、酸化と還元等を取り扱う。化学の基礎となる現象や用語を理解し、数式や数値を適切に用いて定量的に考察できるようになることをを目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	物理実験	○	物理学はあらゆる理工学の基礎である。物理学では実験と理論がともに重要な役割を担ってきたが、実験の裏付けがない限り、理論の発展もない。大学において物理学を学ぶにあたって、実験を通じて自然の仕組みを知ることにはたいへん大きな意義がある。本科目では、以下の課題（単振り子、磁気、低温の世界、水素スペクトル、電子の比電荷の測定、回折と干渉、たわみによるヤング率の測定、オシロスコープ、電磁波、GM管による放射線の測定）の検証実験を自ら行う。実際に手を動かして実験した内容をレポートにまとめることを通して、講義で学んだ物理現象に対する理解をより一層深めることを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	化学実験	○	本科目は、化学の基礎知識及び基本操作の体得を目標とし、基礎的な物理化学、無機化学、有機化学の実験を行う。具体的には、ガラス細工・予備実験、陽イオンの定性分析（金属イオンの反応による同定、金属イオン混合物の分離同定）、アルカリ混合物の定量（中和滴定）、電位差法（pHメーター）を用いた酢酸の水酸化ナトリウムによる滴定、分光光度計によるリン酸イオンの比色定量分析、ガスクロマトグラフィーによるアルコール含有量の測定、薄層クロマトグラフィーを用いたアミノ酸の分離、p-ニトロアセトアニリドの合成、アゾ色素の合成（ジアゾ化反応とカップリング）、パソコンを利用した分子モデリングについて実験を行う。各回の実験について、事前に実験計画を立て、実験後にはレポートを作成して実験の内容とデータをまとめ、考察する。このような作業を重ねることにより、化学現象を科学的に認識し、正しく情報を発信する能力を身につけることを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	物理2		ドアノブに触れた時の静電気、太陽から降り注ぐ光、携帯電話が発する電波、リニアモーターカーを浮上させる力、これら全ては「電磁気学」で理解することができる。本科目では、電磁気学の基本概念や基本法則、物理的意味などを系統立てて解説する。また、理解を助けるために、適宜例題を解く。この講義では電磁気学の基本的概念と典型的な問題の解き方を理解し、ひいては理学・工学の基本的な考え方を身に付けることを目的とする。電場、磁場、電磁波などの概念を理解し、電磁気学に必要な数学を身につけて、マックスウェル方程式を構成する各法則を、自ら説明できるようになることを目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	化学2		有機化合物は、炭素と水素を必須元素に、酸素、窒素、リン、硫黄等の元素が絡んだ多種多様な構造と性質をもつ物質である。生命活動の鍵化合物の役割に加え、生活に不可欠のプラスチックス・繊維・フィルム等の高分子材料、食品、医薬品、さらに光電子材料等も多くの有機化合物が関わる。本科目では、受講者が「有機化合物についての物質観」を身に付けられるよう、有機化合物の構造、構造の表記法と名前の付け方、物理的性質(物性)、化学的性質(反応性、安定性等)の有機化学の基礎概念について論じ、原子と原子を結ぶ「化学結合」に関して、複数の原子核による電子の共有のもたらす安定化の定性的概念から分子軌道による整理の初歩を学んだ後、基本的な物質群(脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素、含ハロゲン有機化合物、アルコール・フェノール__エーテル、カルボニル化合物、カルボン酸誘導体、アミン)についての具体的な事例を学ぶ。さらに日常で関わり合いの大きい有機分子群および生体関連物質、有機・高分子構造材料、有機機能材料について物質の構造(分子構造と集合構造)と性質との関わり方の概要、有機化合物の機器分析についての基盤的な整理を行い、理解を深めることを目的とする。	

専門教育科目	コア科目	情報処理	○	本科目では、インターネット時代にふさわしいコンピュータリテラシー（情報倫理、セキュリティの基礎知識、および、「読み・書き・ソロバン」 のようにコンピュータとネットワークを使いこなすための能力）と情報処理のセンスを養い、また、情報サービスの設計・提供を行う上で必要となるソフトウェアの基礎を学ぶ。実際にパソコンとネットワーク上のプログラミング環境を利用して動作を確認する。情報処理演習と併せて履修することで、反復学習を促し、自主的かつ効果的な学びにより理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	情報処理演習	○	本科目では、インターネット時代にふさわしいコンピュータリテラシー（情報倫理、セキュリティの基礎知識、および、「読み・書き・ソロバン」 のようにコンピュータとネットワークを使いこなすための能力）と情報処理のセンスを養い、また、情報サービスの設計・提供を行う上で必要となるソフトウェアの基礎知識を修得する。「情報処理」にて学んだ内容を、実際にパソコンとネットワーク上のプログラミング環境を利用して課題に取り組むことにより理解を深める。大学での学びに必要なコンピュータリテラシー、ネットワークリテラシーとともに、情報処理・プログラミングの基礎的な知識を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	プログラム言語及演習1	○	本科目では、情報サービスの設計・提供を行う上で必要となる基礎知識を学ぶとともに、様々なプログラムの開発演習を通じて、技能を体得する。演習ではPythonを用いる。学生がPythonに対する基礎的な知識やプログラミング技術を習得することを本科目の目的とする。本科目での学びを通じて、①Pythonによるプログラミング、②基本的なアルゴリズムとデータ構造、③ソフトウェアシステムの構成法の初歩、が習得できることを到達目標とする。	
専門教育科目	コア科目	確率論	○	本科目では、確率についての基礎的な知識、具体的には、確率空間、事象、確率、事象の独立性、条件付確率、確率変数と確率分布、期待値、分散、同時確率分布と共分散、ベルヌーイ分布、2項分布、幾何分布、負の2項分布、ポアソン分布、連続確率変数と確率密度関数、ガンマ関数ベータ関数、一様分布、指数分布、標準正規分布、一般の正規分布、ガンマ分布、カイ二乗分布、ベータ分布、F分布、対数正規分布の基本概念について学ぶ。様々な考え方の基礎となる確率を理解することを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	確率論演習	○	本科目は、「確率論」に付随する演習授業である。確率についての基礎的な知識、具体的には、確率、確率空間、事象、事象の独立性、条件付確率、確率変数と確率分布、期待値、分散、同時確率分布と共分散、ベルヌーイ分布、2項分布、幾何分布、負の2項分布、ポアソン分布、連続確率変数と確率密度関数、離散確率分布、積分計算、ガンマ関数、ベータ関数、一様分布指数分布、標準正規分布一般正規分布、ガンマ分布ベータ分布、対数正規分布F分布について演習を行う。問題を自分で解くことにより、「確率論」の授業の理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	統計学	○	現在、データに基づいた実証的アプローチによる問題解決手法の中で統計手法は中心的な役割を果たしており、その重要性は近年益々増している。本科目では、統計学における基礎概念とその考え方、及び技法を学ぶ。具体的には、確率変数、分布関数、期待値、確率変数の変数変換、積率母関数、2次元確率分布、確率変数の独立性、共分散と相関係数、母集団と標本、標本の整理、大数の法則、中心極限定理、正規分布、点推定、区間推定について解説し、理解を深める。本科目での学びを通じて、統計学における基礎概念とその考え方、及び技法を身につけることを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	統計学演習	○	現在、データに基づいた実証的アプローチによる問題解決手法の中で統計手法は中心的な役割を果たしており、その重要性は近年益々増している。本科目では、「統計学」で学んだ内容について演習を行う。具体的には、確率変数、分布関数、期待値、確率変数の変数変換、積率母関数、2次元確率分布、確率変数の独立性、共分散と相関係数、母集団と標本、標本の整理、母集団分布、確率変数の平方和に関する分布、正規分布、点推定、区間推定について演習を行う。演習本科目での演習を通して、「統計学」において学んだ統計学における基礎概念とその考え方、及び技法への理解を更に深めることを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	応用解析1	○	本科目では、解析学のなかで重要な位置を占める複素関数に関して、理論を中心に学ぶ。具体的には、複素数、複素関数、フラクタル、正則関数、コーシー・リーマンの方程式、指数関数、三角関数、逆関数、複素積分について、その基本的な性質や応用について解説し、理解を深める。本科目での学びを通じて、論理的な思考能力を身に付け、論理的なつながりを理解して計算問題を解いたり証明ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	コア科目	応用解析2	○	本科目では、理工学の様々な分野で使われている複素積分とフーリエ解析について、応用を重視した講義を通じて学ぶ。具体的には、コーシーの積分表示、テイラー展開、ローラン展開、特異点と留数、留数定理、フーリエ級数、フーリエ積分とフーリエ変換、ラプラス変換、微分方程式の解法について解説し、理解を深める。本科目での学びを通じて、論理的な思考能力および理論を応用できるような基礎的な力を身に付けることを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	データ解析1	○	本科目では、統計的データの取り扱いとその解析方法について学ぶ。データ解析を行うためのプログラミング言語RとPythonを活用してデータを計算機に読み込み、散布図を描いたり、基本統計量を算出したりして探索的にデータ解析できる能力を養うことを目的とする。①データをRやPythonで適切に加工、可視化できるようになること、②探索的なデータ解析が行えるようになること、③データに応じた解析方法を判断できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	コア科目	オペレーションズ・リサーチ1	○	オペレーションズ・リサーチ（OR）は、様々な意思決定問題に対する数理的・工学的方法論の総称である。本科目では、高校数学や線形代数、確率論をベースにORの基礎を解説する。ORの基本的な考え方とモデルを理解し、さらに、数理的な方法を現実の問題に適用することの重要性と有用性についても理解を深めることを目的とする。①適当な問題を線形計画問題として定式化できるようになること、②単体法の操作を理解し、またPuLPでLPを解くことができるようになること、③AHPに対する固有ベクトル法の基本を理解できるようになること、④離散時間マルコフ連鎖の基礎概念を理解し、またPageRankを計算できるようになることを到達目標とする。	

専門教育科目	コア科目	テクニカル・プレゼンテーション	○	技術文書の種類は、研究論文、報告書・資料、総説、マニュアル・手順書、仕様書、カタログなど様々である。本科目では、これらのうち、卒業論文や実験レポートの作成の基礎となる、研究論文及び報告書・資料に焦点を絞って、その記述の仕方について学ぶ。コンピュータを利用して文書を作成する方法、プレゼンテーションの技術を身に付けることも、もう一つのねらいである。授業を通じて、研究論文・報告書が作成できるようになることを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	データサイエンス実験A	○	本科目では、調査・実験の計画、データの収集から、分析、分析結果の活用、レポート作成までをグループワークで行う。授業では、4つのテーマ「実験計画法」「生産・設計・商品企画における調査・実験と解析」「人間工学・感性工学実験」「地理情報科学実験」を扱う。実際の問題・課題におけるデータサイエンスの活用の場を体験することで、その内容および適用上のポイントをより深く理解することを目的とする。目的に応じた調査・実験の計画、データの収集、解析、解析結果の活用、レポート作成ができる力が身に付くことを目指す。	共同
専門教育科目	コア科目	データ構造とアルゴリズム	○	本科目では、コンピュータによるデータ処理を実現するために必要な基本的概念である、データ構造とアルゴリズムについて学ぶ。計算量の考え方、基本的なデータ構造およびその操作、さらに探索、ソート、選択などのアルゴリズムの習得を目指す。様々なデータ構造とそれを取り扱う基本的なアルゴリズムの学習を通じて、アルゴリズムを設計・解析するための基本的な手法を修得することを目的とする。Pythonによるプログラムの記述例により、データ構造とアルゴリズムに対する理解を深めるとともに、プログラミング能力の向上を目指す。	
専門教育科目	コア科目	データサイエンス実験B	○	本科目では、調査・実験の計画、データの収集から、分析、分析結果の活用、レポート作成までをグループワークで行う。授業では、4つのテーマ「センシングデータ解析」「視線検出装置を用いた注目度の計測」「自然言語処理によるテキスト分析」「ラズベリーパイを用いたデータ取得・解析」を扱う。実際の問題・課題におけるデータサイエンスの活用の場を体験することで、その内容および適用上のポイントをより深く理解することを目的とする。目的に応じた調査・実験の計画、データの収集、解析、解析結果の活用、レポート作成ができる力が身に付くことを目指す。	共同
専門教育科目	コア科目	オペレーションズ・リサーチ演習	○	本科目では、オペレーションズ・リサーチ（OR）の様々な手法のいくつかについて、Microsoft ExcelおよびVBAを用いた演習を通じて現実の問題に対するORの視点からの見方・捉え方、解決方法、各手法の仕組みについて学ぶ。①Excelの基礎的な操作を学び、それらを用いてORの基本的な手法の仕組みを理解し、toy problemsを解けるようになること、②実際の状況を念頭に置いて問題に取り組むことで、現実の事象や問題のORの視点からの見方・捉え方、問題の解決に取り組む考え方を自分の言葉で説明できるようになること、③班単位の口頭発表の経験を経ることで、グループワークと発表の技術が向上することを目指す。	
専門教育科目	コア科目	データサイエンス演習	○	本科目では、データサイエンスの実践に向けたモデリングとデータ解析、あるいは、アントレプレナーシップに資する演習を行う。序盤で需要の推定方法として基本となる時系列分析の演習を行う。中盤では選択によりビジネス力あるいはデータサイエンス力の涵養を目的としたクラス別演習を行う。終盤では企業におけるデータサイエンスの実践について学ぶ演習を行う。データサイエンスの方法論および実社会における実践について理解を深めることを目的とする。ケーススタディを通して、基本的な方法論の適用場面や仕組みついて理解できるようになることを目指す。	共同
専門教育科目	コア科目	卒業研究I	○	本科目では、ビジネスデータサイエンス学科での学習のまとめとして卒業論文を執筆し、成果を発表するために、配属された研究室の指導教授の指導の下で、それぞれ興味のある特定のテーマを設定し、自主的に研究を行う、一連の取り組み全体からなる課題解決型の学習を主体とする。卒業研究の前半段階として、研究室が対象とする研究分野における調査・探究・学習を通じて卒業研究テーマを特定し、「卒業研究II」で研究課題を解決・評価できるための準備を完了する。指導・助言の下で自主的にビジネスデータサイエンスに関する課題について研究（調査、考案を含む）を進め、自らの成果を文書として取りまとめ、かつ、口頭で説明・質疑応答を行うことを通じて、コミュニケーション力、問題解決力、知識獲得力、組織的行動能力、創造力、自己実現力、専門性、ならびに、多様性創発力の高い水準での修得と発現を目指す。	
専門教育科目	コア科目	卒業研究II	○	本科目では、ビジネスデータサイエンス学科での学習のまとめとして卒業論文を執筆し、成果を発表するために、配属された研究室の指導教授の指導の下で、それぞれ興味のある特定のテーマを設定し、自主的に研究を行う、一連の取り組み全体からなる課題解決型の学習を主体とする。卒業研究の後半段階として、「卒業研究I」で設定した研究テーマに関する探究活動を完了し、成果を適合性、品質、優位性、妥当性、及び新規性を有する論文としてまとめる。指導・助言の下で自主的にビジネスデータサイエンスに関する課題について研究（調査、考案を含む）を進め、自らの成果を文書として取りまとめ、かつ、口頭で説明・質疑応答を行うことを通じて、コミュニケーション力、問題解決力、知識獲得力、組織的行動能力、創造力、自己実現力、専門性、ならびに、多様性創発力の高い水準での修得と発現を目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	品質管理	○	品質管理は、顧客・社会のニーズを満たした製品・サービスを効果的かつ効率的に提供するための方法であり、生産・流通・情報システムの発展にともなって、環境問題、安全問題にまで広く関連を持つ総合的なマネジメントの体系に拡大してきている。本科目の前半では、品質管理の基本的な考え方（顧客指向、PDCAサイクル、全員参加など）、品質管理においてコアとなる活動（改善、維持向上など）の進め方、論理的な思考を支援する手法（パレート図、ヒストグラム、層別、管理図、特性要因図、散布図、親和図法、系統図法、マトリックス図法など）について学ぶ。後半では、視野を広げ、品質管理を組織的に推進するための活動（方針管理、日常管理、小集団改善活動、品質管理教育、新製品・新サービス開発管理、プロセス保証、TQM）について学び、品質管理について理解することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	企業データ分析	○	会計は企業活動を金銭の面から測定したものであり、企業が適切な活動ができているかを評価する一つの重要な方法論である。本科目では、企業の経営・財務状況を把握するための企業会計の仕組みについて学ぶ。前半は財務会計について簿記論を中心に、後半は費用と原価の測定法、原価管理について学ぶ。さらに、作成された会計資料を基にした多面的な企業評価手法について学ぶ。企業会計の仕組みを理解するとともに、適切な財務会計情報利用方法について理解できるようになることを目標とする。	

専門教育科目	コア選択科目	生産管理	○	生産管理は特に製造業での生産活動について人・設備・資源など様々な経営資源を最適に計画・運用・統制する方法を探索する分野である。近年はスマートファクトリーの言葉に代表されるようにセンシング技術を用いた自動化が非常に活発に行われている領域であり、AI/DSの技術が精力的に導入されている分野である。本科目では、生産管理の歴史や手法からはじまり最新のセンシング技術により展開されるスマートファクトリーついて解説する。また実際のセンサ技術を体験することにより、どのようにデータが取得されるかについても学ぶ。生産システムを効率的かつ円滑に実施するための生産管理のあり方や最新の状況について理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	マーケティング・リサーチ	○	マーケティングはすべての組織に必要な活動であり、データサイエンスが期待されている代表的な分野の一つである。本科目では、商品開発やサービス提供などの顧客向けの企業活動を円滑に進めるための、マーケティング・リサーチの方法について解説する。これに先立って、マーケティングの考え方を理解するとともに、講義を通してマーケティング・サイエンスの基礎について学ぶ。企業のマーケティング戦略の基本とマーケティング・リサーチの手法、すなわちデータ収集、集計、分析、レポーティングについて修得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	サプライチェーン・マネジメント	○	サプライチェーン・マネジメントは、資材の供給から生産・流通・販売に至る製品やサービスの供給連鎖を結び、各種情報を企業内および企業間で統合することで人・モノ・情報の流れを共有・管理・制御する現代社会の根幹を成す考え方である。特に近年はセンシング技術の発展によりサプライチェーン上の人やモノの動きがリアルタイムに把握できるようになってきており、AI/DSの技術導入が精力的に行われている分野である。本科目では、物流やグローバルロジスティクスと併せて学習し、併せて需要予測やサプライチェーンシミュレーションを実施することで体感的に学習していく。サプライチェーンの設計と管理の方法論を理論的に理解し、これらの最適意思決定のためのアプローチに関わる総合的マネジメントのための知識が習得できることを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	金融工学	○	本科目では、金融工学の内容を学び、また金融関係の職業の一部を理解する。具体的には、デリバティブ（金融派生商品）の定義および性質、利率と現在価値分析、商品特性、先物の価格理論、プットコールパリティ、デリバティブの価格付け（2項1期間モデル・2項多期間モデル）、離散ブラックショールズ偏差分方程式、ブラックショールズモデル、グリークの定義・意味・計算、ランダムウォークとブラウン運動などの基本を理解する。それらの背後にある数理（特に確率の応用）を理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	実験計画法	○	研究、製品設計・開発、工程設計・改善において、実験を行い、得られたデータから、各種目的に対して適切な結論を導き出すことは重要である。実験データを得るには、時間と費用といったコストがかかる。コストの制約がある中、与えられた実験目的に対して、効率的、かつ効果的に適切な結論を得るための実験計画と分析方法を与えるのが実験計画法である。本科目では、まず、2水準、並びに3水準直交配列表に基づく一部実施計画法を学び、実験計画法の基礎を身に付けることを目的とする。その後、応用範囲が広く実用的な、D、I、Vといった最適基準に基づく非線形計画、拡張計画法、及びタグチメソッド(主にパラメータ設計法)について、理解を深める。	
専門教育科目	コア選択科目	経済性工学	○	企業経営ではビジネスの推進において様々な視点からの検討が必要である。本科目では、経営の意思決定にとって最重要な項目の一つである投資意思決定についての諸手法について解説する。特に企業における設備投資に関する経済性評価の方法論について体系的に学ぶ。数理的には初等的な範囲ではあるが、意思決定における様々な分析の視点の状況や制約に応じた適切な手法を理解できるように講義を進める。企業における設備投資の経済性評価について体系的に学び、管理会計や金融工学との関連についての知識も修得することを目的とする。ビジネスの様々な場面で考慮すべき経済性評価の考え方について理解し、特に比較の基本原則、設備投資分析の手法、代替案からの選択問題について取り上げ、適切に評価できる能力を身につけることを目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	データ解析2	○	本科目では、「データ解析1」に引き続き、統計的データの取り扱いとその解析方法について学ぶ。「データ解析1」で学習したパラメータの推定や仮説検定、統計モデルに基づき、主として回帰と分類について学習する。実践的なデータ解析を前提として、多種の統計モデルを学習するとともに、実データに対して最適な統計モデルのあてはめを行う。データ解析を行う際に必要な統計手法を理解していくことを目的とする。①データ型に依らず、RまたはPythonでデータを適切に加工できるようになること、②利用ライブラリの仕組みを理解し、基礎的なモデリングができるようになること、③データの特徴に応じてモデル選択を行い、RまたはPythonでモデルを実装できるようになることを目指す。	
専門教育科目	コア選択科目	プログラム言語及演習2	○	プログラミング言語は、情報技術（IT）のコンセプトを具現化するための手段として非常に重要な意味を持っている。そのため、最低1つのプログラミング言語を習得しておくことは、情報技術の理解、適用、あるいは開発のための基礎を確立する上で不可欠である。本科目では、現在最も普及し注目を集めているプログラミング言語の1つである Java 言語を取り上げ、プログラミングの基本から、主にオブジェクト指向のコンセプトおよびプログラミング手法について学ぶ。Java 言語によるプログラミングの基本を理解し、プログラミング技術を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	オペレーションズ・リサーチ2	○	本科目では、オペレーションズ・リサーチ（OR）の基本的なツールのうち、待ち行列理論、ゲーム理論の基礎を紹介しつつ、LPの理論について重点的に解説する。「オペレーションズ・リサーチ1」に引き続き、線形計画法（LP）の二段階単体法と双対理論、および、待ち行列理論、ゲーム理論の基本概念について理解することを目的とする。①M/M/1など、待ち行列理論の基礎モデルについて理解できるようになること、②二段階単体法で任意の線形計画問題を解ける原理を理解できるようになること、③主問題と双対問題の関係（双対理論）を理解し、最適解に接近することができるようになること、④ゲーム理論のうち、非協力2人ゲームの基本的な概念を理解し、max-min戦略を導出できるようになることを目指す。	

専門教育科目	コア選択科目	機械学習基礎論	○	膨大なデータからパターンをコンピュータで見いだし、それに基づき予測や判別を行う計算技術は、機械学習（正確に言えば、統計的機械学習）と呼ばれる。本科目では、その機械学習の枠組みと、代表的な手法の解説を行う。機械学習は、教師有り学習、教師無し学習、そして強化学習の三つに大別できる。教師有り学習の代表例は判別や回帰であり、教師無し学習の代表例はクラスタリングや次元圧縮になる。強化学習はゲームプログラミングやロボット制御において必須の道具であるが、やや高度な数理が必要となるため、教師有り学習と教師無し学習を解説する。解説においては、数理的な側面に深く立ち入ることよりも手続きおよびR言語で書いたプログラムを解説することで、実際の問題に直面した際、まずは手を動かせるように意識付けする。統計の標準的な手法を学んだ後に、その発展として、ビッグデータ解析に必要な機械学習の基礎的な知識を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	データベース工学	○	データベースは、情報技術（IT）の中核の1つに位置づけられる重要なものである。そのため、情報システムの開発や運用するためには、データベースとは何かを理解することが不可欠である。本科目では、リレーショナルデータベースを中心としてデータベースの概要、モデル論、管理運用技術、利用技術などを学ぶ。また、近年普及し始めたオブジェクト指向データベースなど最新のトピックスについても概観する。①データベースやデータモデル、データベース言語SQLについて初歩的な知識を身につけること、②リレーショナルデータベースの基本を学び、クエリ処理やトランザクション管理といった、リレーショナルデータベース管理システム（RDBMS）の機能について理解できるようになること、③データベースと関連の深い技術の最新動向を把握することを到達目標とする。	
専門教育科目	コア選択科目	深層学習	○	人工知能ブームは、2012年の深層学習（深層ニューラルネット）が、画像からの一般物体認識にかかわるコンペで、それまでとは桁違いの性能を示した時期から始まった。技術が提案されてたった10年少ししかたっていないにもかかわらず、画像、音声、自然言語（テキスト）の主要三分野の処理においては、それまでの技術を圧倒している。深層学習は、適用されるデータや使用目的によって、適したネットワークの構造が決まる。本科目の前半では、深層学習の原始的形態であるニューラルネットワークに関わる基礎数理を概説する。後半では、Pythonの深層学習のフレームワークの１つであるTensorFlow(テンソルフロー)によって、主要三分野の内、画像、自然言語で利用されている深層ニューラルネットワークの構造や、適用場面および成功事例、計算プラットフォームの紹介も行う。「機械学習基礎論」で取り扱わなかった、機械学習の重要な手法であるニューラルネットワークの基礎と基本的な応用を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	最適化手法	○	整数計画問題（IP）や混合整数計画（MIP）は、線形計画（LP）のうち変数の全部または一部が整数であることを許した数理最適化問題である。その問題記述力の高さは応用範囲を大幅に広げ、近年の求解ソフトウェアの進歩と相まって、実用性が高まっている。一方、ネットワーク最適化問題は、グラフを用いて定式化される問題群であり、道具立ての簡潔さに反し、多様な応用が可能である。また非線形計画（NLP）は連続的な変数や関数で記述される一般的な問題群であり、機械学習をはじめ、適用範囲は非常に広い。本科目では、これらの最適化手法を取り上げ、いくつかの応用例を通じた定式化、代表的な求解アルゴリズム、および、最適性条件の基礎について解説する。整数／混合整数最適化、ネットワーク最適化といった離散最適化、および、非線形最適化の基礎に関する理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	コア選択科目	時系列解析	○	時間とともに変化するデータ、つまり時系列データはあらゆるところで観察される。本科目では、この時系列データの統計的モデリングの方法について解説する。時系列データの統計的特性が時間に依存しない時系列を定常時系列、そうでないものを非定常時系列と呼ぶ。実世界で観察される時系列データは、ほぼ非定常時系列データであるため、本科目では、非定常時系列データの統計的モデリング法のみ取り扱う。非定常時系列モデリング法を支える数理と、モデル内のパラメータ等の推定アルゴリズムを解説する。実社会の時系列データは多次元であり、最近その次元は増える一方であるが、理論等を理解することが主たる目的であるため、一次元時系列データを扱い、理解の促進をはかることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	データサイエンス基礎演習		本科目では、少人数のグループに分かれ、「データサイエンス」「データエンジニアリング」「ビジネス」に関する基礎的な演習や課題に取り組むことで、ビジネス領域のデータサイエンスがどのように役立つのか、学問と実務の両面から理解する。データを分析する事実や分析結果から得られる知見や推論をどのように行うかについて、論理的で実践的な思考方法を身につけるとともに、自分の考えを文章にしたり、発表したりする力を養うことが目的である。データサイエンスの役割に対する認識を深め、ビジネスデータサイエンスを学んでいく上で必要な見方・態度・思考方法を身に付けることを目指す。	共同
専門教育科目	展開科目	応用確率論		本科目では、確率分布を復習し、確率過程による解析手法を解説する。具体的には、ベイズの定理や標本空間、積率母関数、特性関数、離散分布、連続分布を復習したのち、マルコフ連鎖（定義、再起的、既約、詳細釣り合い条件、極限における振る舞い）、ポアソン過程（定義、複合ポアソン過程）、再生過程、連続時間におけるマルコフ連鎖、マルチンゲールについて解説する。本科目での学びを通じて、確率過程の知識が習得できることを到達目標とする。	
専門教育科目	展開科目	情報数学		本科目では、高校数学と線形代数への理解を前提に、集合・写像・論理・代数などの大学数学の基礎と、それを利用する理学・工学の基礎となる情報数学の基礎的な理論を身に付けることを目的とする。具体的には、集合と写像、命題と論理、整数の性質（代数構造・フェルマーの小定理）、複素数の性質、多項式の性質、線形写像、シュミットの直交化、2次形式、2次曲線、線形変換、ハミルトン・ケーリーの定理、スペクトル分解について解説し、理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	情報システムの構造と理論		本科目では、計算機の仕組みを理解するために必要となる基礎を学ぶ。計算機を構成する基本的なハードウェアとソフトウェアの概説ならびに計算機によるデータ処理の仕組みについて解説する。計算機の構造とプログラムによるデータ処理の関係の理解を深めるために、アセンブリ言語・擬似言語によるプログラミングの講義も合わせて行う。本科目での学習を通じて、現代社会の基盤となっている情報システムに対する認識を深めるとともに、情報システムを構成するハードウェアとソフトウェアの基礎的な知識を習得することを目的とする。基本情報技術者試験の内容が理解できる程度の知識の修得を目指す。	

専門教育科目	展開科目	情報理論		現代の情報通信社会を支える情報符号化には、①通信の「効率」向上のための符号化 ＝「情報圧縮」(情報理論)、②通信の「信頼性」向上のための符号化 ＝「誤り訂正符号」(符号理論)、③通信の「秘匿性」向上のための符号化 ＝「暗号」(暗号理論)、の３つの符号化技術がある。本科目では、情報を数量的に取り扱うための数学的手法を解説し、それを基盤として、上記のうち「情報理論」と「符号理論」の基本的な考え方について解説する。情報を数学的に扱うための考え方を理解し、情報を効率よく、誤りなく伝送するための情報符号化の基礎理論を理解し、それらの利点や欠点を含めて、他者に説明できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	展開科目	経営学基礎論		本科目では、グローバル経営における最新のマネジメントに関する基礎理論を一通り、見渡すことを目的とする。戦略、組織、人間をどのようにマネジメントするか、その基本的な考え方を、①計画する、②組織化する、③リーダーシップを発揮する、④コントロールする、という4つの機能から考察する。講義については、グローバルで最も標準的なテキストとされるものをベースに進める。また、毎回、ミニケースを取り上げて、ディスカッションを行い、講義内容を具体的にイメージできるようにする。授業を通じて、最終的には、卒業後、仕事の現場に出たときに、マネジメントされる、マネジメントできる人材として、グルーバルなビジネスの動きを理解できるように、基本的な知識を身につけることを到達目標とする。	
専門教育科目	展開科目	データ処理と可視化		本科目では、データ解析を行う際に重要となる「データ可視化」と「データクレンジング」について解説する。データ可視化では「単変量・多変量データの可視化」「インタラクティブな可視化」「地理空間データの可視化」「ネットワーク構造の可視化」「信号データの可視化」「動画像データの可視化」について概念の説明と実際の可視化の方法について幅広く学んでいく。データクレンジングではデータの基本的な取り扱いから始まり、欠損値の保管や非構造データの処理などについて学んでいく。本講義の到達目標としてPythonを用いてこれらの可視化やクレンジングについて広く取り扱えるようになる技術を身につけることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	人間工学		「人に優しい」を目指して、人が日々使用する工業製品を使いやすいものにしていく取り組み、および生活環境・労働環境を安全で快適なものにしていく取り組みは現代社会において必須である。そのためには人間の身体的・心理的・生理的な基礎特性を広く理解し、製品、環境、仕組み・管理をそれらに適合させていくことが必要である。本科目では、産業現場での活用を見据えながら、人間の基礎特性や、人間特性に基づいたモノ作り・環境作り・管理の考え方を概説する。製品開発や生活環境・労働環境の構築等、産業現場での活用を見据えて、人間の基礎特性、および人間特性に基づいたモノ作り・環境作り・管理の基本的な考え方を理解することを目的とする。人間の基礎特性、および人間特性に基づいたモノ作り・環境作り・管理の基本的な考え方について基礎知識を身に付け、さらに、製品開発や生活環境・労働環境の構築等、産業現場での活用について、基礎知識を用いて説明できる用になることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （101 石橋　基範／7回） 人間工学の定義・歴史、人体の計測とその応用、視覚、聴覚・触覚、人間中心設計 （174 水野　有希／7回） 刺激と反応、覚醒水準とその変化、疲労、負荷・負担、高齢者・障害者、ヒューマンエラー、産業と人間工学	オムニバス
専門教育科目	展開科目	人工知能基礎論		近年、人間の知能のような高度な知的処理を行うシステムが様々な分野で使われており、今後もより高度な知能システムの実現が期待されている。人工知能の研究は極めて多岐にわたるが、本科目では、人工知能研究の歩みをたどり、人工知能の代表的な技術と考え方の基礎を学ぶ。具体的には、人工知能の歴史、探索（グラフによる探索、コストを考慮した探索）、データ、データ分析、機械学習、ナイーブベイズ、決定木学習、線形回帰、k近傍法、アンサンブル学習、k-Meansクラスタリング、ニューラルネットワーク、ロボティクス、自然言語処理、画像解析、音声認識、について解説し、理解を深める。本科目での学びを通じて、人工知能の基礎的な技術、考え方、および応用分野を理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	人工知能応用論1		本科目では、自然言語処理(NLP)の基礎およびテキストデータの基本的な分析と処理方法を学ぶ。講義では、言語データの収集と前処理(トークン化、ステミング)、基本的な分析手法(頻度分析、感情分析)、さらに、機械学習を用いたNLPのアプローチと、その実践的な応用を網羅する。さらに、Python言語を用いた実例を通じて、テキストデータから情報を抽出し、解析する方法を実践的に習得する。この講義を通して、NLPの基礎から最先端技術までを包括的に理解し、実践的な知識とスキルを身につけることを目標とする。	
専門教育科目	展開科目	代数学1		本科目では、抽象代数学入門としての群、環、体の基礎を学び、代数幾何の研究のイメージをつかむことを目的とする。具体的には、ユークリッド平面とアフィン平面、複素アフィン平面、２次曲線の分類、射影直線、 射影平面、射影平面上の2次曲線、特異点、単純点、直線と曲線との接触の位数、ベズーの定理、3次曲線、媒介変数表示、線形系、パスカルの定理、特異点のない3次曲線、変曲点とヘッセ曲線、楕円曲線の標準形と幾何学的演算、特異点のない3次曲線の形、射影平面上の曲線の座標環・関数体、について解説し、理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	代数学2		本科目では、「代数学1」に引き続き、抽象代数学の入門としての群、環、体の基礎を学び、代数幾何の研究のイメージをつかむことを目的とする。具体的には、関数を利用して作る曲線、アフィン空間・射影空間、非特異モデル、射影平面の２次曲線、2次変換、種数、曲線の上の線型系（局所パラメーター、非特異モデルの因子、微分形式と標準因子）、線形系とリーマン・ロッホの定理、線型系が定める曲線への対応、代数曲面、線織面、錐面、代数多様体の間の対応、３次曲面、曲面上の２曲線の交点数、について解説し、理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	生存時間解析		本科目では、統計学を応用したイベントまでの時間（耐用年数や死亡など）に関する評価について、生存時間解析の基本的な理論ならびに手法を解説する。イベントまでの時間を扱う解析は日本における産業をを支える1つの重要の学問である。特に、製品寿命や人の生存について、寿命データの背後にある母集団分布への仮定の妥当性やばらつきの評価法について理解することを目的とする。ノンパラメトリック推定法やセミパラメトリックモデル・パラメトリックモデルを仮定した分析法を理解し、目的に応じた解析計画を立て、データを分析し、分析した結果を解釈できるようになることを目指す。	

専門教育科目	展開科目	数理統計学		本科目は、前半では統計学の基礎概念である「確率変数」「分布」「分布関数」「確率密度関数」を学び、後半では統計検定1級に合格するために必要な統計学の基礎を学ぶことで、統計学の基礎を身に付けることを目的とする。具体的に前半では、集合と写像、確率変数（σ集合体、可測空間、可測関数）、分布（「あらゆる範囲」を表すボレル集合体と分布）、分布関数、確率密度関数、ルベーグ積分の基礎（非負単関数列の積分、一般的な関数の積分）を解説する。また後半では、点推定の基礎（推定量の良し悪しの基準）、フィッシャー情報量とクラメール・ラオの不等式、有効推定量、スコア関数、最尤推定量の漸近正規性と一致性、漸近正規性を利用した区間推定（一般的な分布の区間推定）、ネイマン-ピアソンの基本補題と一様最強力検定を解説する。	
専門教育科目	展開科目	情報幾何学		本科目では、前半は、高校までに学んだ初等幾何学の復習と発展を取り扱う。中盤は、情報数学に必要なネットワーク特にグラフに関する幾何学を扱い、後半は、微分幾何学入門について講義する。具体的には、三角形の幾何学（メネラウス、チェバの定理、内接円、外接円、正弦定理、余弦定理、オイラーの定理）、円の幾何学（方べきの定理とその応用、反転幾何学）、グラフの幾何学（グラフ、頂点、辺の定義など、ひと筆書き可能グラフ、オイラーグラフ、ハミルトングラフ）、微分幾何学（ベクトル、平面内の曲線と曲率、空間内の曲線の基本的性質、空間内の曲線のフレネーセレの公式、曲面論）について解説し、理解を深めることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	人工知能応用論2		本科目では、マルチメディア情報の中心的なメディアである画像や映像に対する人間の視覚感性のメカニズムを、生理学、心理学、認知科学などの観点から整理して解説する。①視覚神経系の情報処理の仕組みをモデル化しつつ理解するとともに、それを模したデジタル画像処理との類似点・相違点・問題点を理解する、②人間の知覚能力を強化して見やすくするための方法論や、人間に代わって機械に画像・映像を認識・理解させるための方法論の基礎と、マルチメディアシステムへの応用について修得する、ことを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	数値解析		現代においてコンピュータシミュレーションは、自然科学や工学、社会科学から医療に至るまで様々な分野で用いられ、我々の生活を基礎から支えている。本科目では、コンピュータシミュレーションを行う際、現象を記述する方程式をどのようにして計算機上で計算すればよいのか、また、元の問題の解と計算機で計算した解にはどのような関係があるのか等、数値計算にまつわる諸問題について解説する。さまざまな方程式の数値解法とその具体的な数値計算法を理解することが目的である。さまざまな方程式の数値解法を理解し、さらに実際に計算機上でプログラムを組み、数値計算結果を得ることができるようになることを目標とする。	
専門教育科目	展開科目	感性工学		昨今の高度化・複雑化した変化の激しい企業内外の環境を背景に、企業経営・事業開発・商品開発等が複雑化し、客観的視点での定量的／定性的分析の双方が必要不可欠なものとなっている。そのような中で、感性価値創造に向けた意思決定では、感性に関わるデータ分析や感性価値分析などからいかに有効な情報を引き出して活用するかが重要な要素となっている。本科目では、「感性の時代」と呼ばれる今日において、感性価値に関わる商品企画のための消費者の嗜好・感覚データの収集およびその解析に用いられる統計手法である官能評価法について考え方と利用方法を身に付けることを目的とする。また、定量的側面だけではなく感性の定性的側面を理解しておくことは今後のビジネスセンスを磨く上でも重要と考えられ、感性産業や経験経済の概要を理解するとともに具体的な事例に基づいた感性価値(経験価値)分析を解説し、理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	情報通信産業論		情報通信産業の進展や組織におけるIT（情報技術）の活用には、めざましいものがある。本科目では、社会の第一線で活躍されている実務家を招き、各々の分野における情報化社会の進展、情報と職業との関わりなどについて解説する。情報技術にかかわる職業人としての在り方、職業観と勤労観に対する認識を広げ、深めることを目的とする。情報技術にかかわる職業人としての在り方、職業観と勤労観に対する認識を広げ、深めることができることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （168 前田　格／2回） 金融におけるIT化 （163 平野　健次／2回） 流通におけるIT化 （7 難波　英嗣／4回） 情報通信業の現状と課題、メディアにおける課題解決 （156 中西　英介／2回） エレクトロニクス業界におけるIT化 （96 浅井　孝浩／2回） 通信産業の現状とこれから （131 古明地　正俊／2回） ソフトウェア産業の現状と課題	オムニバス
専門教育科目	展開科目	経営戦略論		本科目は、グローバル化する経営環境のなかで、組織がどのように外部環境、内部環境に適応し、発展していくか、経営戦略に関する基礎理論を理解することを目的とする。トップマネジメントの中心的な役割である外部環境の分析、経営ビジョンや目標の設定から、それらを実現する戦略の策定と実行するまでのプロセスについて考察する。講義では、グローバルで最も標準的なテキストとするものをベースに進める。また、必要に応じて、ケースを取り上げることで、具体的な取り組みについて理解を深めることができるようにする。組織がどのような課題に直面し、それらをどのように解決しようとするのか、その思考方法を学習する。授業を通じて、最終的には、戦略に関する基礎理論を理解し、事例研究を通じて、理論の応用方法を身につけることを到達目標とする。	

専門教育科目	展開科目	シミュレーション		コンピュータの発展とともにコンピュータシミュレーションが多くの分野で重要な位置を占めるようになってきている。本科目では、ＯＲ・統計などの分野からいくつかのテーマを選び、講義と演習を行なう。具体的に講義では、モンテカルロ法と乱数、データ解析とシミュレーション、最適化問題、意思決定・最適停止問題、運動方式を解説する。演習では、MATLABによる数値計算とグラフィクス、モンテカルロ法、確率計算とシミュレーション、曲線のあてはめ、人工的エータの生成、様々な乱数、図形のあてはめ、意思決定・最適停止問題、運動方程式を扱う。様々な分野で応用されるシミュレーションの考え方および実行のしかたを理解し、卒業研究などで実際にシミュレーションを行える力を身に付けることを目標とする。	※演習 講義7回 演習7回
専門教育科目	展開科目	産業心理学		産業心理学は、産業における人間行動を研究し、人と産業との適切な関係を構築することをを目指す研究領域である。本科目では、「産業社会や社会的自立」の基本的な理解について解説し、組織への参入、コミュニケーション、ワーク・モチベーション、リーダーシップ、職業性ストレス、キャリア発達など、産業活動を始めた人が体験するプロセスを、時系列的にたどる形で講義を進める。講義では、産業活動における多様な心理学的知見に触れ、また受講生同士のグループ討議や各種ワーク体験などを通して、実践的な学びを深める。講義中に受講生の意見や回答を即時収集して、結果に応じた解説をするなど双方向型授業を実施し、受講生の意識や理解度に即した講義とする。産業社会や社会的自立についての理解を深め、将来に向けた主体的な態度を身に付けることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	幾何学1		本科目では、ユークリッド幾何学の公理的構成と、座標を利用した解析幾何学の考え方を理解すること、および1次変換や写像を学習することで、高校数学から大学数学への流れを理解することを目的とする。具体的には、三平方の定理、中線定理、角の二等分線定理、タレスの定理、ユークリッド原論、重心、内心、外心、垂心、傍心、オイラーの定理、方べきの定理、メネラウスの定理とチェバの定理、解析幾何学、座標平面とベクトル、直線の方程式、写像、変換、1次変換、表現行列、1次変換による直線の像や逆像、平行移動変換、回転変換、対称変換、合同変換、相似変換、変換群、直交変換、アフィン変換、クラインによる幾何学の定義、放物線と楕円と双曲線、2次曲線、について解説し、理解を深める。	メディア
専門教育科目	展開科目	幾何学2		本科目では、現代の幾何学の分野の１つである位相幾何学を学ぶ。具体的には、曲面、閉曲面、位相的変形と位相同型、位相幾何学、閉曲面の展開図と表示式、メビウスの帯、トーラス、クラインのつぼ、展開図と表示式の組合せ同値変形、クロスキャップ、射影平面、閉曲面上の多面体グラフ、オイラー標数、オイラーの多面体定理、球面上の正多面体グラフの分類、閉曲面の連結和、ハンドルと逆ハンドル、組合せ同値変形に関する基本変形、閉曲面の分類定理、射影平面と射影変換、デザルクの定理、射影幾何学、について解説し、理解を深める。柔らかい変形である位相的変形を体得し、3次元空間内では実現できないが4次元空間内で実現できる閉曲面を理解し、オイラーの多面体定理や閉曲面の分類定理の証明を理解できるようになることを目指す。	メディア
専門教育科目	展開科目	新製品開発論		企業や組織が永続的に存続・発展するためには、「顧客にとって価値のある製品・サービスを提供する」ことが不可欠である。本科目では、新製品・新サービスの開発において重要となる、顧客の行動・意識の調査・分析と潜在需要をもつ製品コンセプトの企画、顧客ニーズを満たす製品の体系的な開発などの活動に焦点を絞り、それらを効果的・効率的に進めるための方法論について学ぶ。企業の新製品開発に関する方法論とその管理手法を体系的に学ぶことを目的とする。新製品・サービスを企画・設計開発するために必要な方法が理解できることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	確率過程論		確率過程は、時間とともに変化する不確実性を持つ現象やシステムを表現するのに用いられる概念で、きわめて多くの分野で用いられている。本科目では、確率過程の基本的概念について身に付けることを目的とする。具体的には、ポアソン過程（ポアソン分布を用いた定常ポアソン過程の定義、ランダウ記号を用いた定常ポアソン過程の定義、到着間隔時間を用いた定常ポアソン過程の定義）、非定常ポアソン過程、再生過程、再生過程における極限定理（再生過程の大数の法則、Waldの方程式と基本再生定理、再生過程の中心極限定理）、交代再生過程、余命と年齢（交互再生過程の応用）、交代再生過程の在庫管理における応用 （(s, S)発注方式）、ウィーナー過程（ブラウン運動)、ウィーナー過程の統計的推測、レヴィ過程について解説し、理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	ソフトウェア工学		「ソフトウェア危機」が叫ばれソフトウェア工学が誕生したのは、今から40年以上前のことである。それ以降、ハードウェア技術は劇的に進歩し、当時は考えられないほど高性能なコンピュータを個人が持ち歩いて外出先でも手軽に利用できるまでになった。一方、ソフトウェア技術のほうはそれほどの目覚ましい進歩はないものの、オブジェクト指向の提唱以来、技術開発に弾みがつき、近年のUMLの普及と相まって、ようやく「アート」の世界から名前どおり「エンジニアリング」の世界に入ったと言ってよいだろう。本科目では、こうしたソフトウェア工学の歴史的背景と目的を理解し、その主要技術の基礎を習得することを目的として、ソフトウェア開発プロセス、従来の分析/設計手法、および近年のUMLモデリングと関連技術について解説する。ソフトウェア工学の歴史的背景と目的を理解し、その主要技術の基礎を習得することを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	データサイエンス特別講義A		本科目では、組織の基礎について学習する。組織構造がどのようにデザインされているか、その理論と応用という両面から考察を行う。また、組織の動態的側面として、コミュニケーション、モチベーション、意思決定、リーダーシップについても論じる。授業の目的は、企業だけでなく、われわれが具体的な生活のなかで出会う組織を理論的に分析することにある。また、それらの分析に基づいて、具体的に組織に対してどのようにコミットし、マネジメントしていくか、その方法を考えていくことにある。到達目標は、①組織の構造的側面を理解し、説明できること、②組織の動態的側面を理解し、説明できること、③進化的、相互依存的な組織の特性に関して総合的に理解し、説明できるようにすることにある。	
専門教育科目	展開科目	データサイエンス特別講義B		本科目では、グローバル経営での最新のマネジメント理論を一通り、見渡す。戦略、組織、人間をどのようにマネジメントするか、その基本的な考え方を、①計画する、②組織化する、③リーダーシップを発揮する、④コントロールする、というマネジメントの4つの機能から考察する。授業の目的は、グローバル経営での最新のマネジメント理論を一通り理解できるようにすることにある。到達目標は、卒業後、就職し、仕事の現場に出たときに、マネジメントされる人材として、グローバルなビジネスの動きを理解できるように、基本的な知識を身につけることにある。	

専門教育科目	社会理工学部共通科目	社会理工学概論	○	社会理工学部で学ぶ幅広い分野について概論的に紹介するとともに、社会に貢献する科学技術分野を学び、理解することを目的とする。各学科から、学部横断的に重要かつ理解も深まるテーマを選んで講義するものである。本学部では国際化を強く推進しているため、前半では英語の体験学習を通じた国際性の素養の基礎を身に着ける。後半では、3学科から3つずつのテーマで学際的な内容について講義する。都市環境学科の学門分野からは、都市計画、防災とテーマとした内容、ビジネスデータサイエンス学科の学問分野からはデータサイエンスを軸とした内容、そして人間総合総合理工学科の学問分野からはサステナビリティと人間社会、グリーンインフラの役割という内容の講義を通して、社会理工学を俯瞰的に理解できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （46 手計太一／5回） 英語体験学習、気候変動と水防災 （8 樋口知之／3回） ビッグデータ時代におけるデータサイエンスの役割 （84 竹内文乃／2回） 英語体験学習、医療と統計 （39 高田まゆら／2回） 生態学 （63 三苫好治／2回） 環境汚染	オムニバス
学部間共通科目		短期留学プログラムⅠ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。	メディア
学部間共通科目		短期留学プログラムⅡ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	メディア
学部間共通科目		短期留学プログラムⅢ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。	
学部間共通科目		短期留学プログラムⅣ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	
学部間共通科目		ＦＬＰ演習Ａ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は2年次に履修する。	メディア
学部間共通科目		ＦＬＰ演習Ｂ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は3年次に履修する。	メディア

学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｃ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program (FLP) のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は4年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習A (1) では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行なうための基礎的な考え方と技術を修得することを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習A (2) では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決をおこなうための技術と方法への理解を深め、その実行と結果の解釈・フィードバックを行なうことができる力を身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習B (1) では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行なうための考え方と技術を修得し、その実践を行うことを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習B (2) では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行うための考え方と技術をさらに深め、その実践を行うことを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習C (1) では、演習A、Bを通じて修得したAI・データサイエンスの知識と技術を活用して、様々な実社会の問題における課題発見、課題解決、結果のフィードバックを踏まえた改善というサイクルを自主的に回すことができる能力を身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習C (2) では、演習A、B、C (1) を通じて修得したAI・データサイエンスの知識と技術を活用して、様々な実社会の問題における課題発見、課題解決、結果のフィードバックを踏まえた改善というサイクルを自主的に回すことができる能力を高い水準で身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	グローバル・テュートリアル		グローバル化が急速に進展する時代の要請に応えていくため、学部学生（日本人学生・学部留学生）、選科生が、テューター（教員）の助言のもとで、小人数グループ討論を行う。英語または中国語を使用言語として、アクティブな討論を行うことにより、国際的に活躍するための実践的素養を身につけることを目標とする。 討論を指導する担当教員（テューター役）は、海外で実務家として働いた経験を有し、一定の要件を備えた者である。	
学部間共通科目	専門インターンシップ		本科目では、海外の特定の企業・機関で2週間のインターンシップを行う。物理的・文化的環境の異なる職場で働くために学ぶべき知識、身につけるべきスキル、海外で通用する仕事をするための姿勢（態度）を、自ら目標を設定しながら身につけることを目的とする。インターンシップ実施前に2回の事前学習を、実施後にレポートまたはプレゼンテーションを行うことにより、インターンシップで得た知識を自身の中で体系化することも目的である。	

学部間共通科目	グローバル総合講座		本科目では、ジェンダー、経済、社会、政治的格差をテーマとし、世界的・地域的な不平等に焦点を当てる。毎週、世界で生じる様々な問題について研究や活動を行う専門家が講義を行うことにより、グローバルとローカル双方の視点から多角的な視点から不平等を理解する。さらに、ローカルな不平等とグローバルな不平等の関連性を確認し、多様な視点から包括的に理解する。講義とディスカッションを通して、様々な不平等を批判的に学修することを目的としている。 （オムニバス形式　全14回） （152 ティン ティン トゥン/11回） 　グローバル・ジェンダーギャップ、ジェンダーと職場の不平等、国境を越えた移民と不平等、気候変動と不平等のテーマの他、リサーチ・プレゼンテーションの指導および授業の振り返り （74 李　里花、152 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 韓国と日本の関係 （182 山下　梓、152 ティン ティン トゥン/1回）（共同） LGBTIW＋と人権 （161 番園　寛也 、152 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 身体的不平等と社会	オムニバス・共同（一部）
学部間共通科目	グローバル集中講義		投資・開発プロジェクトによる環境および社会への影響を特定のうえ、評価、最小化、緩和する方法について基本的な事項を理解することを目的とする。履修者は、地球環境保全とそれに対処するための国際戦略、環境・社会政策、欧州復興開発銀行（EBRD）等の国際機関の実践活動に触れて学習する。また、環境要因がビジネスの意思決定上にどのように影響するかについて学習する。更に、英語で環境知識を身につける実践的な方法を学ぶ。	
学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング		「グローバルアクティブラーニング」で決定したSDGsに関連するテーマについて、海外の学生と遠隔で毎週グループワークを行い、英語によるプレゼンテーションの準備と発表を行う。 海外学生とのグループワークで心を通わせる体験を重ねることを通じて、本科目のルーブリックで定義する異文化コミュニケーションのKSA力を身につけることを到達目標とする。	メディア
学部間共通科目	グローバルアクティブラーニング		「グローバル遠隔ラーニング」で海外の学生と充実したグループワークを行うことを前提として、英語で自分自身を表現し、地球規模課題についてコミュニケーションをとれるようになるために、SDGsの目標について学び、その中で自分が関心を持つ分野について英語で表現し、海外大学の学生の関心のあり方を理解しながら議論を行い、海外大学との共同プロジェクトのテーマを決めることを目的とする。授業は2回のプロジェクトマネジメントを行うことに加えて、海外の大学に対面形式で約1週間参加し、現地の学生との共同プロジェクトについて話し合い、内容や方法を調整する。	
学部間共通科目	AI・データサイエンスと現代社会		データサイエンスは、多種多様なデータや情報を分析して問題解決に取り組もうとする際に必要な学問である。本科目は、AI（人工知能）やビッグデータの活用もふまえながら、実務家講師から実践例を学び様々な視点から議論を行うことで、データサイエンスの適用方法や有効性、課題を学ぶ。講義の中でデータサイエンスが社会でどのように活用されているのか幾つかの事例を示し、課題の背景を学びながら解決に至る道筋や技術的な基礎知識を養う。これにより学部学科に関わらず、ある課題に対してデータサイエンスの手法をどのように実践したらよいか計画を打ち立てることができる、一連の基礎能力を身に着けることを目標とする。 （オムニバス形式　全14回） （9 大草　孝介/5回） 　初回は授業の位置づけ、ねらい等を説明し、意欲を高める。2回目以降はAIの基礎やデータの可視化、集約の手法等も踏まえながら、社会で起きている変化や活用されているデータ、AI ・データサイエンスの活用に関することを取り扱う。 （112 小野　陽子/3回） 　人間中心のAI社会に関して、品質や要件定義の問題、倫理の問題や関連する議論の動向を解説する。 （62 松崎　和賢/3回） 　データを守る上での留意事項として、情報セキュリティにおける留意事項を解説する。 （20 岡嶋　裕史/3回） 　個人情報保護と関連する問題等を解説する。また、総まとめを行う。	オムニバス・メディア

学部間共通科目	AI・データサイエンス総合		「AIやデータサイエンスがもたらす価値」、「デジタル技術が行き渡った社会における課題」という大きく分けて２つのテーマを学ぶ。前者は技術的な作業の体験も行い、後者では講義の中で身近にどのような課題がありうるかについて考える。基礎的な統計概念、データに基づく思考や問題解決に関する基礎概念や、データ利用に関する倫理などの概念について、AI・データサイエンス領域における関係性を理解することを通じて、AI・データサイエンスに関連する課題に対する認識を深めるとともに、AI・データサイエンス領域の基礎的な知識を習得することを目的とする。 （オムニバス形式　/全14回） （21 岡田　大士・8 樋口　知之/1回）（共同） 全体の概要と授業で用いる基本的な用語説明を行う。 （164 廣岡　信行/1回） 生成 AI（Generative AI）の基礎と活用事例の紹介を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （164 廣岡　信行・78 大野　航太/2回）（共同） デジタルツイン（Digital Twin）の基礎と活用事例の紹介、 生成AI・デジタルツインによる課題解決に関する議論をゲストスピーカーを招聘して多角的に説明する。 （144 高橋　誠人/1回） AI・ロボットの普及に伴う職業の変化とキャリア形成の考え方 （8 樋口　知之/1回） データ活用人材の育成について、ゲストスピーカーを招聘して具体的に説明する。 （78 大野　航太/1回） AI・データ活用による課題解決に関する議論を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （166 福元　徳弘/3回） AI・データサイエンスの活用事例の紹介、課題解決に向けたAI・データサイエンスの導入の進め方、AI・データサイエンスの標準化の取り組みについて （183 山下　勝司/2回） デジタルトランスフォーメーションの導入事例、デジタルトランスフォーメーションの開発と技術 （183 山下　勝司・87 中村　周史/1回）（共同） デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論 （42 武石　智香子/1回） 授業まとめと今後の学修について	オムニバス・共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅠ		データサイエンスは社会科学や人文科学の分野ともかかわりが深い。世論調査やマーケティング調査などの個票データ、人口や経済の統計データ、実験などの行動データはその一例である。本科目では、社会調査データの分析ツールの基本となる表計算ソフト「Excel」と、統計パッケージの中でも操作が比較的簡単な統計パッケージ「SPSS」を取りあげ、ExcelとSPSSの基本的な利用方法を理解することを目的とする。到達目標は、社会調査や統計データを用いて基本的なデータ分析を自分自身で行えるようになることとする。 （オムニバス形式　全14回） （42 武石　智香子/10回） Excelから入るデータ整備、分析、集計、Pythonによるプログラミング、Excelの自動化、データベース入門、SQL、Pythonによる探索的データ分析、最適化の考え方を用いた分析、統計的推定と仮説検定 （42 武石　智香子、87 中村　周史/1回）（共同） Excelによる探索的データ分析（可視化） （42 武石　智香子、133 佐々木　亮/1回）（共同） データアナリティクスと機械学習 （133 佐々木　亮/2回） AI体験学習（画像認識、自然言語処理）	オムニバス・メディア　共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅡ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをなるべく少ない操作で自動化して分析するツールが不可欠である。また、昨今はウェブサービスとして各種のAPI（Application Programming Interface）が整備されており、インターネット上のデータをAPI等を用いて自動的に収集するための環境が整っている。 本科目では、プログラミングを用いてスクリプトによるデータ分析を実現するために適しているプログラミング言語であるRubyを習得することとに加え、Rubyを用いてウェブアプリケーションを簡単に作成し得るRuby on Railsについて理解することである。到達目標は、Rubyを用いて簡単なデータ分析を自身でできるようになることと、簡単なウェブアプリケーションを構築できるようになることである。	メディア

学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅢ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをラングリングし、視覚化・分析するツールが不可欠である。 本科目では、プログラム的な基礎知識を要することなくこれらを行うことができるBI（ビジネス・インテリジェンス）ツールと、データサイエンスにおける基礎言語の一つであるRの基礎、そしてデータ加工、可視化、データ分析の基本的な考え方を学び、理解することを目的とする。また、到達目標は、数万件程度までの比較的小規模のデータについて、データ加工、可視化、基本的なデータ分析を自身で行えるようになることである。 （オムニバス形式　全14回） （78 大野　航太/7回） データの読み込みとサマリー、データラングリング、ダッシュボードやノートによるレポーティング、R、グラフ作成とカスタマイズ、Rでのデータ・アナリティクス、Rmarkdownによるレポーティング （78 大野　航太、82 酒折　文武/7回）（共同） AIとBI、データサイエンスとツール、グラフや表による可視化と分析、統計と機械学習、Exploratoryのさらなる活用、データの読み込みと操作、データラングリングの詳細、Shinyでウェブアプリ構築	オムニバス・メディア　共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅣ		AI・データサイエンスにおいて、データ分析・機械学習や可視化をウェブアプリと連動させたり、音声認識・画像認識などのタスクを行ったり、さらには深層学習や強化学習を含む人工知能を開発したりするためには、汎用的なプログラミング言語が不可欠である。また、格納されているデータベースの操作を行うにはデータベース言語が必要となる。 本科目では、汎用的プログラミング言語の中でデータサイエンスにおける中心的な役割を演じているPythonと、データベース言語SQLを学び、基本的な事項理解することを目的とする。到達目標は、Pythonを用いて数十行程度のプログラムを読んで理解・修正できること、そして簡単なプログラムを自分で作成できること、およびSQLiteを用いてデータベースからのデータ抽出や基本的な処理を行えることとする。	メディア
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（基礎編）		本科目は、大学生として学術的文章作成に必要な知識・技能・態度を基礎から学ぶことで、大学での学びの基礎となる学術的リテラシー（読み書き能力）を身につけることを目的とする。大学生として身につけておくべき学術的な基礎知識を理解し、大学での学修に必要な〈知る／読む／考える〉ことに習熟しながら〈書く〉ことを中心に学ぶ。大学で学ぶ人の心得と大学での学修について理解すること、分かりやすい文章を書くための表記、語彙・語句、文の書き方について理解すること、思考が整理された文章を書くための文章の構造と特徴について理解すること、そして科学的な文章を書くための論証と引用の方法について理解することを到達目標とする。	メディア
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（発展編）		レポート作成や卒業論文の執筆のためには、①自分が立てた問いに対して必要な資料や文献を適切に選び、その内容を正確に理解するスキル、②そこで得た知見に基づいて自分と他者の考えを整理し、さらに思考を深め、自分の意見を確立するスキル、③その内容を他者と共有できるよう、きちんとした文章として書きあげるスキルが必要である。 本科目では、上記①～③のスキルを実践的かつ総合的に学び、大学における記述式テストやレポート作成等の場面で必須となる「書く力」を身につけることを目的とする。到達目標は、レポートや論文の執筆に必要な情報収集力を身につけると同時に、専門領域に関する知識を深めること、データや資料を用いて具体的な論拠を示し、論理的に他者に伝える能力を身につけること、自律的に文章を作成するための基礎知識を学び、自己評価のストラテジーを身につけることである。	メディア
学部間共通科目	キャリア・デザイン・ワークショップ		本科目では、キャリア形成に必要な能力を理解したうえで、学生一人一人が将来社会人としてどのようにありたいのか志を語り、その実現のために、今後どのようにキャリアを形成していくかを確認する。また、社会に目を向け、学科を超えたグループワークで、社会の課題を発見し、解決するプロセスを体験することにより、社会人の能力の基礎となる考える力、協創する力を養う。授業を通じて、キャリア形成の基盤となるコンピテンシー（能力）として、特に、自己実現力、コミュニケーション力、課題設定・解決力のといった将来社会で必要となる能力を身につけることを目的とする。	
教職科目	数学科教育法1		本科目では、日本における数学教育と学習指導要領の変遷、中学校及び高等学校数学科の目標と内容、学習評価、学習指導案の作成について解説する。また前期中等教育（中学校課程）とその背景となる学問領域の特徴を述べ、数学教育の根底に流れる数学的な見方・考え方を教授する。授業では講義に加えてグループ活動、ディスカッション等のアクティブ・ラーニングを取り入れて展開する。本科目は各教科の指導法（数学科教育法1～4）の出発点に位置付けられるものである。当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、中学校及び高等学校数学科の今日的課題を認識し、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けること、これからの学習（数学科教育法2～4）の方向性を掴むことを目的とする。	
教職科目	数学科教育法2		本科目では、「数学科教育法1」で学んだ基礎を基に展開し、特に数学的な見方・考え方、数学教育の現状や課題を学力調査の結果も踏まえて解説する。また中学校数学科4領域及び高等学校数学科の必履修科目「数学Ⅰ」の学習指導案を作成する。模擬授業を実践した後、全体で授業検討を行い、学習指導案の改善と実践的指導力を涵養する。授業では講義に加えてグループ活動、ディスカッション等のアクティブ・ラーニングを取り入れて展開する。本科目は当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、数学的な見方・考え方を中心に中学校及び高等学校数学科の今日的課題を認識し、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計と実践の方法を身に付けること、これからの学習（数学科教育法3～4）の方向性を掴むことを目的とする。	

教職科目	数学科教育法3		本科目では、「数学科教育法1、2」で学んだ理論と実践の基礎を基に展開し、特に中学校の[数学的活動]、高等学校の[課題学習]の内容と取組における配慮事項を解説する。ICT・情報機器、デジタル教材の活用を想定した学習指導案を作成する。模擬授業を実践した後、全体で授業検討を行い、学習指導案の改善と実践的指導力を涵養する。授業では講義に加えてグループ活動、ディスカッション等のアクティブ・ラーニングを取り入れて展開する。本科目は当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、理論と実践の両面から数学的活動や課題学習をどのように効果的に指導するかを検討し、基礎的な学習指導理論を踏まえてICT・情報機器、デジタル教材の活用を想定した授業設計と実践の方法を身に付けること、これからの学習（数学科教育法4）の方向性を掴むことを目的とする。	
教職科目	数学科教育法4		本科目では、「数学科教育法1、2、3」で学んだ理論と実践の基礎を基に展開し、特に数学における探究活動と学習評価、テスト問題の作問を通して指導と評価が一体化した教育について解説する。また主に高等学校の諸分野に関する学習指導案を作成する。模擬授業を実践した後、全体で授業検討を行い、学習指導案の改善と実践的指導力を涵養する。授業では講義に加えてグループ活動、ディスカッション等のアクティブ・ラーニングを取り入れて展開する。本科目は当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、学習評価と一体化した問題作成の方法や、基礎的な学習指導理論を踏まえて探究活動もしくは「総合的な学習（探究）の時間」との連携を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付けることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会理工学部人間総合理工学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語教育科目	英語	英語表現演習1a	○	本科目は、英語でのスムーズかつ明瞭なコミュニケーション能力の育成を目指す。この授業では、我々が直面する諸問題をグローバルな視点から学ぶことを通して、解決すべき問題に対する幅広い知識を得るとともに、それらを批判的に思考する能力を高めることを目指す。また、各授業において、学生同士の情報共有、英語での質疑応答、ペアやグループでの英語での議論を行う。加えて、より発展的な形態での情報発信・情報収集の方法も学習する。こういったさまざまな学習を通して、スピーキング・リスニングの能力を伸ばすのみならず、英語でのスムーズかつ明瞭な発信を、自信をもって行う素地を形成する。英語でのアカデミックなスピーキング・リスニングの能力を伸ばすための学習機会を提供することで、今後の大学生活において必要とされる英語コミュニケーション能力の基礎を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習1b	○	本科目は、英語での明瞭かつ簡潔な文章作成能力の育成を目指す。この授業では、まず基礎的なパラグラフ・ライティングの技法を学び、また、トピック・センテンス、支持文、結論文による段落構成の方法を学ぶ。そして、さまざまな種類のパラグラフ作成練習や自身の主張を支持するための根拠や論拠の用い方についての練習を行う。最終的には、より発展的なライティングの形態として、短いエッセイやレポートの作成方法も学習する。こういった段階的な学習を通して、アカデミック・ライティングの基礎について明確に理解する。英語でのパラグラフ・ライティングや短いレポートの作成方法を学ぶことで、今後の大学生活において必要とされる英語アカデミック・ライティング作成のための基礎的能力を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習2a	○	本科目は、英語でのアカデミック・コミュニケーションとアカデミック・ライティングの能力を有機的に伸ばすことを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力を高める。また、各授業では教室内外において、クラスメートと共に自分たちの関心に基づいたプロジェクト、プレゼンテーション、レポートに取り組むことを通じて、対人スキルや協働スキルを高めるとともに、より複雑で長い話し言葉・書き言葉でのコミュニケーションの構成方法を学ぶ。加えて、これまで学んだ関連語彙や文法を実際に活用し、自らの考えを正確かつ流暢に表現できるようにする。1年次に培った各技能の素地をもとにして、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力を高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語表現演習2b	○	本科目は、英語でのアカデミック・コミュニケーションとアカデミック・ライティング能力を有機的に、より発展的に伸ばすことを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力をさらに高めることを目指す。また、各授業において、より高度なライティングとコミュニケーション技能の演習に取り組むことで、複雑な考えを明瞭で明確な方法で表現する方法を学ぶ。学生は質問やフィードバックをすることで、また相互の発表に興味を示すことで、グループやペアでの積極的な授業参加を行う。加えて、話し言葉と書き言葉という異なるジャンルの特徴についても学び、様々な表現の機会のそれぞれにおいて自信をもってコミュニケーションできるようにする。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関して説明し議論する能力をさらに高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習1a	○	本科目は、英語での比較的複雑な文章を流暢かつ正確に読むための能力の育成を目指す。この授業では、社会問題やグローバルな問題―例えば、国際関係、政治、経済、社会と文化―といった題材を取り扱った文章で学習することで、現実世界の諸問題への理解を深めるとともに、アカデミックな語彙や文法の知識を補強する。また、文章の精読方法に加えて、速読のための方法―例えば、スキミングやスキャニング―についても学習する。加えて、読んだ文章に対する要約作成、分析や議論を通した意見表明についても演習を行う。一般的なアカデミック・リーディングの演習を行うことで、文章全体をスムーズに読む能力を育成するとともに、一文一文の構造を読み解く能力を育成することを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習1b	○	本科目は、英語講読演習1aで培った英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに伸ばすことを目指す。この授業では、社会問題やグローバルな問題についての理解をより深めるとともに、アカデミックな語彙や文法の知識をさらに補強する。また、一文一文の複雑な構造を読み解くための精読能力のさらなる向上に加えて、さまざまな速読方法を適切に選択・組み合わせることによる速読能力の向上も図る。加えて、批判的思考の基本的な演習―例えば、事実と意見を区別すること、思い込みにとらわれないこと、情報が事実に裏付けられているか判断すること―を通した、批判的読解能力の育成も行う。アカデミック・リーディングの発展的な演習を行うことで、文章をより流暢かつ正確に読む能力を育成するとともに、批判的読解についての意識をより高めることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	英語講読演習2a	○	本科目は、1年次の英語講読演習1a・1bに引き続き、英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに展開することを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する理解を深め、自分の意見を表明する能力を高める。また、取り扱うトピックに関連する重要な語彙や文法の知識を補強し、比較的複雑な文章を大きくつまずくことなく正確に読む能力の向上も図る。加えて、1年次に学んだ文章の精読方法や速読方法―例えば、スキミングやスキャニング―や読んだ文章に対する要約作成、分析や議論を通した意見表明についても、より発展的な演習を行う。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する読解能力をさらに高めることを目的とする。	

外国語教育科目	英語	英語講読演習2b	○	本科目は、英語講読演習2aで発展的に演習した英語でのアカデミック・リーディングの能力をさらに深化させることを目指す。この授業では、主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する理解を深め、自分の意見を表明する能力をさらに高める。また、取り扱うトピックに関連する語彙や文法の知識をさらに補強することにとどまらず、１年次に学んだ批判的読解能力をさらに高めながら、読解した内容を社会や技術の発展に関する幅広い問題に関連づけ、グローバル社会に貢献可能な方法を模索するための演習も行う。加えて、必修での英語履修後にも継続的に活用できる、自学自習のための方法についても取り扱う。主に科学、技術、環境の一般的な問題を含むトピックに関する読解能力をさらに深化させることを目的とする。	
外国語教育科目	英語	留学準備講座		本科目は、学生が留学を現実的なものとして考え、最終的にはそれぞれの目標に向けて主体的に行動できるよう、留学の応募準備や英語検定試験対策、留学先における授業対策などを行う。また英語で得た情報を理解し、自分の意見を述べる練習を行うことで、留学準備に留まらない英語コミュニケーションカ・発信力の強化も目指す。留学に興味・関心のある学生が、主体的に留学準備を進められるようになり、留学先および各学生の専門分野のグローバルな現場において活用できる、英語力の向上を目指す。また、ある程度アカデミックな内容の英語を理解し、その上で自身の意見を英語で伝える練習等をクラスメイトと行うことで、多様性創発力も養う。	
外国語教育科目	英語	英語コミュニケーションA	○	In this course, students will develop their communication skills in English. They will learn about topics related to scientific, technological and global issues, focusing on areas of direct relevance to themselves and their future goals. They will listen to a variety of English media, including news reports, business conversations, and academic lectures, and increase their knowledge of practical vocabulary and expressions. They will also learn to share information and express their opinions in a clear and logical manner. Through their work in class, students will become more confident speakers of English, gaining skills they can use in their future careers. 本科目は学生の英語でのコミュニケーションスキルを伸ばすためのものである。学生は、自身あるいは将来の目標に直接関係する分野に注目して、科学、技術、またグローバルな問題について学ぶ。ニュース報道、ビジネス会話、学術講演など、さまざまな英語媒体を聴き、実践的な語彙や表現の知識を増やし、明瞭かつ論理的に情報を共有し自分の意見を述べることも学ぶ。学生が本科目での学びを通して、より自信をもって英語を話せるようになり、将来のキャリアで使えるスキルを身に付けることを目標とする。	
外国語教育科目	英語	英語コミュニケーションB	○	In this course, students will continue to develop their communication skills in English. They will listen to different kinds of media related to scientific, technological and global issues and carry out discussions and presentations on topics of personal interest. This course will put a particular focus on learning self-study skills students can use after completing their university studies. Students will be encouraged to look for opportunities to improve their speaking and listening by technology and resources on the internet. Through their work in class, students will gain confidence in their communication skills and learn how to become lifelong learners of English. 本科目で学生は、引き続き英語でのコミュニケーションスキルを伸ばす。科学、技術、またグローバルな問題についてさまざまな英語媒体を聴き、自身が関心をもつトピックについてディスカッションや発表を行う。また本科目では、特に大学卒業後に自身で学び続けるためのスキルを重視し、学生はインターネットの技術やリソースを使ってスピーキング力やリスニング力を高める機会を求めることが推奨される。学生が本科目での学びを通して、コミュニケーションスキルにおいて自信をもち、生涯にわたって英語を学び続ける術を身に付けることを目標とする。	
外国語教育科目	英語	アカデミック・コミュニケーション	○	本科目は、将来のキャリアで英語を使う可能性のある学生、または大学院に進学し国際会議等での活躍を目指す学生を主な対象とし、主に口頭での専門的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。国際的な会議や学会での口頭発表、ポスター発表、質疑応答といった場面を想定した実践的な練習を通して、それぞれの場面での慣習や方略を具体的に学び、専門的な内容を効果的に伝え、議論する力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	アカデミック・R&W	○	本科目は、将来のキャリアで英語を使う可能性のある学生、または大学院に進学し国際会議等での活躍を目指す学生を主に対象とし、主に書き言葉での情報収集と成果発信の能力を養う。専門的な文章の実践的な読解能力、およびアカデミックなコンテクストにおける実践的なライティング能力を高めることを目的とした本科目を通して、英語で書かれた論文や教科書などの文章から必要な情報を獲得し、整理し、他者に伝え、他者と議論する力、また、読み手や場面に合わせて目的達成のために工夫しながら英語で書く力を養うことを目的とする。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	中級英語試験講座A	○	本科目は、TOEIC® Listening & Reading Test に対応した教科書を用いて授業を行う。教科書に加え補助教材を使い、出題形式やパートごとの解答のポイントを学ぶ。問題を解くことに加え、様々な学習方法(例：シャドウイング、ディクテーション、リテリング)を行う。ペアやグループでの活動を通して、基礎力をより強固にし、応用力育成を目指す。この科目での学習を通じて、外国語および様々な視点に対する認識を深めるとともに、学んだ知識を応用できることを目的とする。TOEIC対策を中心に、多様な英語活動を通じ英語力を伸ばすことを目標とする。	
外国語教育科目	英語	中級英語試験講座B	○	本科目は、「中級英語試験講座A」に引き続き、TOEIC® Listening & Reading Test に対応した教科書を用いて授業を行う。教科書に加え補助教材を使い、出題形式やパートごとの解答のポイントを学ぶ。問題を解くことに加え、様々な学習方法(例：シャドウイング、ディクテーション、リテリング)を行う。ペアやグループでの活動を通して、基礎力をより強固にし、応用力育成を目指す。この科目での学習を通じて、外国語および様々な視点に対する認識を深めるとともに、学んだ知識を応用できることを目的とする。TOEIC対策を中心に、多様な英語活動を通じ英語力を伸ばすことを目標とする。	

外国語教育科目	英語	上級英語試験講座A	○	本科目は留学を目指す学生を主に対象とし、留学要件となる英語検定試験対策を視野に入れながらよりアカデミックな内容をカバーする。授業では具体的にTOEFLやIELTSの問題形式や解答のポイントを学ぶと同時に、自律的な学習方法を実践し、多様な活動を通じて学んだ知識やスキルを応用できる力を養うことを目指す。本科目を通して、留学に必要となる総合的で高度な英語運用能力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	英語	上級英語試験講座B	○	本科目は「上級英語試験講座A」に引き続き、留学を目指す学生を主に対象とし、留学要件となる英語検定試験対策を視野に入れながら、さらに高度でアカデミックな内容をカバーする。授業では具体的にTOEFLやIELTSの問題形式や解答のポイントを学ぶと同時に、自律的な学習方法を実践し、多様な活動を通じて学んだ知識やスキルを応用できる力を養うことを目指す。本科目を通して、留学に必要となる総合的で高度な英語運用能力を養うことが期待される。本科目はTOEIC 600点以上の学生を対象とする「アドバンスト・コース」に位置づけられる。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（表現）a	○	本科目では、初めてドイツ語を学ぶ学習者を対象とする。「ドイツ語初級（文法）a」で学ぶ文法を確認しながら、その初歩的な応用（読む、聞く、話す、書く）を段階的に習得する。具体的には、「読む」ではドイツの日常生活、社会制度、歴史などを平易なドイツ語で書いたものを読む。「聞く」では各種音源を利用して初歩的な聞き取り練習をする。「話す」では受講生同士でドイツ語を用いた会話をしたり、教員のドイツ語の質問にドイツ語で答えるなどして、初歩的な会話を練習する。「書く」では教科書の例文を応用して初歩的な作文練習をする。これらの学習を通じて、初歩的なドイツ語を読む・書く・聞く・話すための能力を身につける。「ドイツ語初級（表現）b」と合わせて受講し、ドイツ語検定４級合格と同等のレベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（表現）b	○	本科目では、「ドイツ語初級（表現）a」に引き続き、「ドイツ語初級（文法）b」で学ぶ文法を確認しながら、その初歩的な応用（読む、聞く、話す、書く）を段階的に習得する。具体的には、「読む」ではドイツの日常生活、社会制度、歴史などを平易なドイツ語で書いたものを読む。「聞く」では各種音源を利用して初歩的な聞き取り練習をする。「話す」では受講生どうしでドイツ語を用いた会話をしたり、教員のドイツ語の質問にドイツ語で答えるなどして、初歩的な会話を練習する。「書く」では教科書の例文を応用して初歩的な作文練習をする。これらの学習を通じて、初歩的なドイツ語を読む・書く・聞く・話すための能力を身につける。「ドイツ語初級（表現）a」と合わせて受講し、ドイツ語検定４級合格と同等のレベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（文法）a	○	本科目は、「ドイツ語初級（表現）a」で学ぶ簡単な日常会話文からはじめて、その背後にある文法構造へ、また逆に文法から始めて、まとまった文章へと螺旋的に階段を登りながら、「ドイツ語初級（表現）b」や「ドイツ語初級（文法）b」にも繋がる、体系的にドイツ語初級を学ぶ。文法は、読む・聞く・話す・書くといったどのアングルからもすべての基礎となる。本科目ではドイツ語の文法を初歩から学び、実際に使いこなせるようになることを目指す。まずは動詞の現在人称変化、それから次第にポイントが名詞に移動し「名詞の性・格」を学習し、前置詞の理解と習得をすることが到達目標となる。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語初級（文法）b	○	本科目では、ドイツ語のごく初歩的な文法（動詞の現在人称変化、キーワード「名詞の性・格」など）はすでに身に付いていることを前提に、ドイツ語の初級文法をさらに学ぶ。基本的な文法事項を理解し、豊富な文法問題演習を実際に解いてみながら、実践的な力を伸ばす。さらに会話文や読解テキストなどにも挑戦し、実践的なドイツ語力に磨きをかける。授業を通じて、分離動詞や再帰動詞、話法の助動詞、時制、受動文、形容詞、関係代名詞などを理解することが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（表現）a	○	本科目では、フランス語の初歩的な会話表現を中心に学ぶ。フランス語の発音や聞き取りの練習、自己紹介や友人の紹介、電話での会話、天候や行先にまつわる会話、レストランでの注文や会話など、簡単なフランス語会話の練習などを行い、実用的なフランス語の習得を行う。フランス語の基本的な会話表現を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、フランス語による簡単な表現や会話などができるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（表現）b	○	本科目では、「フランス語初級（表現）a」に引き続き、フランス語の初歩的な会話表現を中心に学ぶ。フランス語の発音や聞き取りの練習、簡単なフランス語会話の練習などを行い、実用的なフランス語の習得を行う。視聴覚資料も活用して、学習内容の定着を目指す。フランス語の基本的な会話表現を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、フランス語による簡単な表現や会話などができるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（文法）a	○	本科目では、フランス語文法の基本を学ぶ。授業では、「聞く」（音声教材）、「読む」（発音）、「書く」（練習問題）を繰り返し実践し、フランス語の基礎をしっかり身につける。フランスは地方ごとに特色・魅力があるので、折に触れて各地方の紹介もする。①フランス語の文字と発音の仕組みを理解し、フランス語の文・語句を自ら正確に発音できるようになる、②フランス語初級の文法および語彙・表現を学び、フランス語で会話したりフランス語の文章を読むための基礎が身につく、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語初級（文法）b	○	本科目では、「フランス語初級（文法）a」に引き続き、フランス語文法の基本を学ぶ。授業では、「聞く」（音声教材）、「読む」（発音）、「書く」（練習問題）を繰り返し実践し、フランス語の基礎をしっかり身につける。フランスは地方ごとに特色・魅力があるので、折に触れて各地方の紹介もする。①フランス語の文字と発音の仕組みを理解し、フランス語の文・語句をさらに正確に発音できるようになる、②フランス語初級の文法および語彙・表現を学び、フランス語で会話したりフランス語の文章を読むための基礎的な力がさらにが身につくことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（表現）a	○	本科目は、初めて中国語を学ぶ学習者を対象し、発音全般の基礎を築き、正しい声調、ピンインの読み方の定着を目指す。朗読、リスニング練習に意を用い、中国語の発音を耳に慣らし、実際に発音できるまで反復練習する。発音の習得後は､テキストに沿って､初級段階に必要な語彙や文法事項を学ぶ。音読を繰り返すことにより、リスニングを強化し､会話が楽しめるような下地を作る。リスニング・スピーキングを含めた豊富なドリルをこなしたのちに、学生同士での会話練習の時間も設ける。	

外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（表現）b	○	本科目は、「中国語初級（表現）a」に引き続き、初めて中国語を学ぶ学習者を対象し、発音全般の基礎を築き、正しい声調、ピンインの読み方をさらに定着させることを目指す。朗読、リスニング練習に意を用い、中国語の発音を耳に慣らし、実際に発音できるまで反復練習する。発音の習得後は､テキストに沿って､初級段階に必要な語彙や文法事項を学ぶ。音読を繰り返すことにより、リスニングを強化し､会話が楽しめるような下地を作る。リスニング・スピーキングを含めた豊富なドリルをこなしたのちに、学生同士での会話練習の時間も設ける。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（文法）a	○	本科目は、中国語の文法・構造の理解を中心とする入門クラスである。授業では、入門しやすい初級テキストを使い、発音の指導から始めて、基本表現や基礎的な文法要項などを学ぶ。特に、発音、書字体系、構文知識の理解に重点を置いて指導する。豊富な例文と練習問題で繰り返し訓練することにより、中国語の基礎をしっかり作るよう工夫する。授業での学びを通じて、中国語検定試験準4級、HSK1級合格程度の能力が身に付くことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語初級（文法）b	○	本科目は、中国語の文法・構造の理解を中心とする入門クラスである。授業では、「中国語初級（文法）a」に引き続き、入門しやすい初級テキストを使い、発音の指導から始めて、基本表現や基礎的な文法要項などを学ぶ。特に、発音、書字体系、構文知識の理解に重点を置いて指導する。豊富な例文と練習問題で繰り返し訓練することにより、中国語の基礎をしっかり作るよう工夫する。授業での学びを通じて、中国語検定試験4級、HSK2級合格程度の能力が身に付くことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）1a	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、様々なテーマを扱った評論文や新聞記事などを読み、文章の中で用いられている表現、語彙、文法、漢字などを取り上げ、内容を理解する力を養う。具体的には、音読、ワークシートによる内容理解の確認、内容に関する意見文の作成などを行う。様々な文体の日本語に慣れるとともに、大学生活で必要となる日本語読解力を養成することを目的とする。大学生活に必要な一般的教養書を正確に速く読み、理解できるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）1b	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（読解）1a」に引き続き、評論文や新聞記事などを読み、文章の中で用いられている表現、語彙、文法、漢字などを取り上げ、内容を理解する力を養う。具体的には、音読、ワークシートによる内容理解の確認、内容に関する意見文の作成などを行う。日本社会への理解を深めるのに役立つ文章や科学に関する評論を題材にしながら、日本語読解力を養成することを目的とする。①日本社会や日本人の持っている背景知識への理解を深めることができる、②科学の領域における優れた評論を読み、知識を広げることができる、③論理的な文章を正確に理解できるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）1a	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、文章を作成する時の基本的な点を確認し、メールや意見文などの作文練習をする。具体的には、先生へのメールや奨学金申請書の書き方などのほか、敬語について学ぶ。また、書き言葉に特徴的な語彙・表現を身につけるための訓練を行う。日本で留学生活を送る上で必要な日本語作文能力の向上を目的とする。本科目での学びを通じて、適切な語彙・表現、文法を用いて、大学生活で必要な文章を書けるようになることを目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）1b	○	本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（表現）1a」に引き続き、レポートを読み、分析することによってレポート作成に必要な基礎知識を身につける。具体的には、実験レポート例や論証型レポート例を取り上げ、その書き方を学ぶ。また、論理的に文章を組み立てる練習をする。簡潔で正確な文章を書く訓練として要約の練習を行う。大学における基礎的なレポート□作成が行える作文技術の習得を目的とする。書き言葉の文法、語彙・表現を身につけ、簡潔で論理的な文章が書けるようになることを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Aa		本科目では、ドイツ語の技能をバランスよく身に付ける。具体的には、ドイツ語の文章を忠実に日本語に訳すなかで、文脈を正確にとらえる力を養う。また、受講者のドイツ語力に応じて、これまで学んだ基本事項の復習も行う。また、接続法などのより高次の文法内容についても学ぶ。ドイツ語技能検定試験（独検）の問題にも取り組む。この科目での学びを通じて、①中級程度のテキストを辞書を使って読めるようになる、②簡単なドイツ語会話を聞いて理解できるようになる、③ドイツ語で適切に文を作成でき、それを会話や記述によって表現できるようになる、ことを目指す。独検3級の合格レベルが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Ab		本科目では、「ドイツ語中級Aa」に引き続き、ドイツ語の技能をバランスよく身に付ける。具体的には、ドイツ語の文章を忠実に日本語に訳すなかで、文脈を正確にとらえる力を養う。また、受講者のドイツ語力に応じて、これまで学んだ基本事項の復習も行う。また、接続法などのより高次の文法内容についても学ぶ。ドイツ語技能検定試験（独検）の問題にも取り組む。この科目での学びを通じて、①中級程度のテキストを辞書を使って読めるようになる、②簡単なドイツ語会話を聞いて理解できるようになる、③ドイツ語で適切に文を作成でき、それを会話や記述によって表現できるようになる、ことを目指す。独検3級の合格レベルが到達目標である。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Ba		本科目では、中級程度のレベルのドイツ語テキスト・リーディングを行う。最初は既習の文法項目の確認をしつつ、ドイツ語で書かれた文章に触れる。また、実際にテクストを音読することで、ドイツ語の発音の仕方やメカニズムを復習する。接続法や関係代名詞など、難易度の高い文法項目は詳細に解説する。①ネイティブのドイツ語で書かれた文章を辞書を用いながら読めるようになる、②初級ドイツ語学習時に学んだ文法項目を補完し、より精度の高い文法・語学知識が獲得できる、③ドイツ語を用いて簡単な日常会話や作文など、自己表現ができるようになる、ことを目指す。ドイツ語技能検定試験の2～3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	ドイツ語中級Bb		本科目では、「ドイツ語中級Ba」に引き続き、中級レベルのドイツ語テキスト・リーディングを行う。また、実際にテクストを音読することで、ドイツ語の発音の仕方やメカニズムを復習する。接続法や関係代名詞など、難易度の高い文法項目は詳細に解説する。①ネイティブのドイツ語で書かれた文章を辞書を用いながら読めるようになる、②初級ドイツ語学習時に学んだ文法項目を補完し、より精度の高い文法・語学知識が獲得できる、③ドイツ語を用いて簡単な日常会話や作文など、自己表現ができるようになる、ことを目指す。ドイツ語技能検定試験の2～3級の合格レベルを到達目標とする。	

外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Aa		本科目では、フランスでの政治、経済、文化にまつわるフランス語の時事的な文章、例えばフランスでの移民政策や起業の事情、大学事情、ファッション、Mangaブームなどのトピックを読むことを通じて、これまで学んだ初級文法の知識や基本的な語彙・表現の定着を図る。また、同時にフランス文化や社会についての理解を深める。フランス語の初級文法の理解を深めながら、フランス語で書かれた時事的な文章の読解ができるようになることを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Ab		本科目では、「フランス語中級Aa」に引き続き、フランス語の時事的な文章を読むことを通じて、これまで学んだ初級文法の知識や基本的な語彙・表現の定着を図る。また、同時にフランス文化や社会についての理解を深める。フランス語の初級文法の理解を深めながら、フランス語で書かれた時事的な文章の読解ができるようになることを目指す。これまでの学びを通じて、初級から中級レベル（仏語検定3級レベル）までの読解力・表現力を身につけ、それに応じたフランス人の物の考え方に対する知識を得ることを目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Ba		本科目では、初級文法を終えた学習者のための作文の教科書を用いて、フランス語で作文を行う。正確で明瞭な文章を書く能力は、会話をする際にも、文章を読解する際にも、必ず役に立つことから、文法・語彙・構文を確認しながら、フランス語らしい文章を書くスキルを身に付ける。外国語を学ぶことを通じて、自分自身のことや自分が属する文化・社会のことを外国語で正確に表現し、理解してもらうためのスキルを身に付けることを目的とする。①諸外国の科学技術・文化・社会に目を向け、グローバルな視点をもつことができるようになる、②フランス語の基礎文法を復習しながら、それぞれの文法事項や、語彙、構文を使って、実際にフランス語の文章を作ることができるようになる、③自分自身のこと（専攻、趣味・特技、親族・友人・知人、将来の夢など）を簡潔なフランス語で表現することができるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	フランス語中級Bb		本科目では、「フランス語中級Ba」に引き続き、初級文法を終えた学習者のための作文の教科書を用いて、フランス語で作文を行う。正確で明瞭な文章を書く能力は、会話をする際にも、文章を読解する際にも、必ず役に立つことから、文法・語彙・構文を確認しながら、フランス語らしい文章を書くスキルを着実に身に付ける。外国語を学ぶことを通じて、自分自身のことや自分が属する文化・社会のことを外国語で正確に表現し、理解してもらうためのスキルをさらに身に付けることを目的とする。①諸外国の科学技術・文化・社会に目を向け、グローバルな視点をもつことができるようになる、②フランス語の基礎文法を復習しながら、それぞれの文法事項や、語彙、構文を使って、実際にフランス語の文章を作ることができるようになる、③自分自身のこと（専攻、趣味・特技、親族・友人・知人、将来の夢など）を簡潔なフランス語で表現することができるようになる、ことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Aa		本科目は、中国語初級レベルを完璧にし、中級に向かうクラスである。入門の教科書を援用し、既習内容の確認・復習と定着に重きを置き、豊富な表現、会話ができるように知識を増やす。受講者のレベルに合わせて、なるべく教科書の他に、どのような例文があるか等も紹介する。中国、台湾や香港の現代文化や社会についても適宜触れながら、現実感のある語学学習を目指す。①中国語圏の文化、言語が日本のそれらといかに近いかを実感し、中国語圏の人々を身近に感じる、②外国語学習を通して、今までの自分の価値観とは違う見方を知り、柔軟な思考を養う、③外語学学習の楽しさを知り、外国語コミュニケーションへの精神的ハードルを下げる、④中国語コミュニケーションについてはある程度の自信を持って堂々と実行できる、ことを目的とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Ab		本科目は、「中国語中級Aa」に引き続き、中国語初級レベルを完璧にし、中級に向かうクラスである。入門の教科書を援用し、既習内容の確認・復習と定着に重きを置く。そしてさらに豊富な表現、会話ができるように知識を増やしていく。受講者のレベルに合わせて、なるべく教科書の他に、どのような例文があるか等も紹介する。中国、台湾や香港の現代文化や社会についても適宜触れながら、現実感のある語学学習を目指す。①中国語圏の文化、言語が日本のそれらといかに近いかを実感し、中国語圏の人々を身近に感じる、②外国語学習を通して、今までの自分の価値観とは違う見方を知り、柔軟な思考を養う、③外語学学習の楽しさを知り、外国語コミュニケーションへの精神的ハードルを下げる、④中国語コミュニケーションについてはある程度の自信を持って堂々と実行できる、ことを目的とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Ba		本科目では、初級クラスで一年間習得したものを復習しながら、中級レベルの実用会話と短文を学習する。常用語句や基本表現及び場面別の実用会話を身につけるように、できるだけ繰り返し練習を行う。同時に現代中国事情にも触れ、変貌しつつある中国及び中国人の考え方への理解度を深める。初級クラスで学んだことを応用、発展させる中級クラスなので、基本的な会話表現と平易な文章を理解し、中級レベルの会話力と読解力を持つことを目的とする。中国語の基本的な表現を身に付け、より多くの場面会話を習得することを目指す。また、中国語の文構造と表現法の特徴を把握し、一般的な文章を辞書をたよりに読解できる、やや複雑な複文でも応用できることを目指す。中国語検定試験の3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	中国語中級Bb		本科目では、「中国語中級Ba」に引き続き、初級クラスで一年間習得したものを復習しながら、中級レベルの実用会話と短文を学習する。常用語句や基本表現及び場面別の実用会話を確実に身につけるように、さらに繰り返し練習を行う。同時に現代中国事情にも触れ、変貌しつつある中国及び中国人の考え方への理解度を深める。初級クラスで学んだことを応用、発展させる中級クラスなので、基本的な会話表現と平易な文章を理解し、中級レベルの会話力と読解力を確実に身に付けることを目的とする。中国語の基本的な表現を身に付け、より多くの場面会話を習得することを目指す。また、中国語の文構造と表現法の特徴を把握し、一般的な文章を辞書をたよりに読解できる、やや複雑な複文でも応用できることを目指す。中国語検定試験の3級の合格レベルを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）2a		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、論証型や報告型など複数の形式のレポートの書き方や、他の論文等の引用の仕方を、レポート例を用いて学ぶ。また、文を推敲し、修正する練習をすることで、適切な文章を書く訓練をする。レポート・論文を適切な日本語表現で書くための技術や知識を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、レポート・論文などの提出物が適切な日本語で書けるようになることを到達目標とする。	

外国語教育科目	第二外国語	日本語（読解）2b		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、「日本語（読解）2a」に引き続き、文章を書くのに必要な文法的知識を固める。タイトルの付け方、論理的に考える訓練、メールや科学技術文の書き方なども組み合わせて授業を進める。レポート・論文を適切な形式と日本語表現で書くための技術や知識を習得することを目的とする。本科目での学びを通じて、レポート・論文などの提出物がより適切な日本語で書けるようになることを到達目標とする。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）2a		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、仮名遣いや送り仮名、四字熟語、文法などの日本語の基盤となる内容や、敬語やEメールなどの、大学生・社会人として必要な日本語表現を学ぶ。また、作文を推敲し丹念に修正することによって、自らの書く作文の問題点を知り、文章力の向上を図る。日本語一般の知識を身につけ、大学生活や社会で必要な日本語運用能力を養うことを目的とする。大学生活や社会で必要な日本語の語彙・表現などの知識、運用能力の基礎が身につくことを目指す。	
外国語教育科目	第二外国語	日本語（表現）2b		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目では、前半で日本語検定やSPI3言語問題、BJTの問題、N1レベル以上の語彙や表現を扱い、就職活動やビジネスシーンにおいて必要な日本語を学ぶ。後半では、要約や意見文の作成、作文修正を行うことによって、自らの作文の問題点を知り、文章力の向上を図る。日本語一般の知識を身につけ、大学生活や社会で必要な日本語運用能力を高めることを目的とする。大学生活や社会で必要な日本語の語彙・表現などの知識、運用能力を向上させる。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1a	○	本科目では、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力を向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技1b	○	本科目では、「体育実技1a」に引き続き、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力をさらに向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技2a		本科目では、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、複数の異なる競技種目を経験することで、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力を向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	体育実技2b		本科目では、本科目では、「体育実技2a」に引き続き、スポーツの意義、多様な価値について、スポーツ競技の実技を通じて学修する。スポーツの実践によって自己の健康状況を正しく理解し、健康増進、体力の維持・増進させるだけでなく、複数の異なる競技種目を経験することで、説明の仕方を工夫しながらわかりやすく伝え、参加者の理解を得るコミュニケーション能力をさらに向上させる。チームの中で自分の役割を自覚でき、お互いの身体関係を築くような組織的行動能力の向上させる。多様性を受け入れ、複数人の協働により成果を得る多様性創発力を向上させることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学		近年、わが国の人口動態は平均寿命が世界のトップレベルを維持し、加えて出生率の長期的な低下により少子高齢化の進展など、ライフスタイルに大きな変化をもたらしている。このような中で、いつまでも活き活きとした人生を営むためにも、健康の保持・増進は必要不可欠となる。そこで本科目では、各ライフステージにおける健康の保持・増進に関する基礎的な知識から近年の情報までをトレーニング科学、スポーツ医科学などの立場からも紹介し、これからのスポーツのあり方について学ぶ。幼児期から老年期まで生涯にわたって、その体力や目的に応じていつでもどこでもスポーツに親しむことを可能とする知識の獲得、また、参加する人の目的が「スポーツを楽しみ、交流を深める」、「自己の限界に挑戦する」等多様化していることへの対応力を身に付けることを目的とする。	
総合教育科目	健康・スポーツ	スポーツ解析		身体的運動を伴うようなスポーツあるいは歩行やゲームなどのフォームに関わるような、映像をベースとした画像データ、勝敗を決定する得点などの記録データ、身体的計測データや、生化学的数値データなどの取得および分析をおこなう。スポーツに関わるデータを様々な角度から分析し、スポーツの実践をより有効なものとすると同時に、スポーツ観戦についても分析的な立場に立って捉えられるようにする。歩行を含めるスポーツ全体に関わる、分析対象としてのデータが何であるかを理解し、それらのデータを簡単な図や表でまとめ、分析できるような技術を身に付ける。あわせて、理想的なフォームや歩行の状態に対しての理解を得ることを目標とする。	
総合教育科目	健康・スポーツ	スポーツ科学		スポーツと言っても観るスポーツと行うスポーツがあるが、人間は素晴らしいプレーや、早いタイムに出会うと感動する。なぜトップアスリートはあの様な難しい動きが出来るのだろうか？本科目では、スポーツを科学的な観点から学ぶ。具体的には、楽しいスポーツの基本 〝個を生かすチームづくり〟、スポーツ実践・観戦の楽しみ方（スピード、加速度、慣性、力、円運動、重心、トルク、エネルギー）、細胞のスーパーパワー、メンタル（脳）トレーニング（潜在脳の使い方、脳波と睡眠法）、老いと戦う細胞、コーチング（コミュニケーション能力の開発・発揮・発展）について解説し、理解を深める。スポーツを科学的に理解し、健康増進と社会への適応能力を知り、社会生活をする上で最も大切な健康増進の理解が深められることを目指す。	

総合教育科目	健康・スポーツ	生涯スポーツ科学		「生涯スポーツ科学」は、スポーツ医科学、スポーツビジネス、スポーツ文化学、スポーツコーチング、健康スポーツなどから構成される。本科目では、スポーツ医科学について、主なスポーツ外傷・障害を学ぶ。具体的には、足関節捻挫、シンスプリント、脛骨疲労骨折、ジョーンズ骨折、アキレス腱断裂、アキレス腱付着部症、足底腱膜炎、膝前十字靱帯損傷、膝内側側副靱帯損傷、半月板損傷、ジャンパー膝、オスグッド病、分裂膝蓋骨、ランナー膝（腸脛靱帯炎）、鵞足炎、グローインペイン症候群、ハムストリング肉離れ、投球障害肩（腱板断裂、SLAP損傷、インピンジメント症候群）、肩関節脱臼、水泳肩、野球肘、テニス肘、TFCC損傷、突き指、腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、女性の三主徴、高齢者の変形性膝関節症、について解説し、理解を深める。年齢、性別などの多様性を理解し、複数人の協働により成果を得ることができるようになることを目指す。	
総合教育科目	健康・スポーツ	ライフセービング		WHO報告より「2分間に1人」、世界のどこかで水の事故により尊い生命が失われているという。我が日本にも溺水事故は不慮の事故として扱われ、その事故者数は常に上位を占めている。この受け入れがたい事実を減少させるために国際ライフセービング連盟（124カ国加盟）が設立され、諸外国ではライフセーバーが公務員として雇用されている。本科目では、その視点から「生命・健康・安全」をキーワードとして、大自然のなかで、アウトドア・フィットネス（環境も含む）というライフスタイルを創造・展開していく。①自然の中で、自他の危険回避能力が身に付く、②理論と実践を通じて安全思想を高め、自然と生命についての畏敬が深まる、③アウトドア・フィットネスというライフスタイルを理解できるようになる、ことを目指す。	共同
総合教育科目	人文社会	哲学A	○	現在、哲学は世界中で教えられている。だがもともとは古代ギリシアで誕生したローカルで特殊な知の形態であった。遠く離れた極東の地で私たちはそれを学ぼうとしている。そうであるなら、一度は原点にたちかえって、哲学がどのようにして成立し展開していったかを確認しておく作業が必要であろう。本科目はそうした見とおしのもと、前期ではまず古代ギリシアにおける哲学の誕生とその展開の過程を見直すことからはじめ、あわせてヨーロッパにおける哲学の形成に大きなかかわりをもったユダヤ・キリスト教の誕生の過程についても理解することを目的とする。哲学を学ぶということは、西洋という文明の総体を俯瞰することにもつながる。たんに、ひとつの学科を学ぶというレベルをはるかに超えた広い視野と知識が不可欠となる。そうしたグローバルな観点から学習へつなげる。	
総合教育科目	人文社会	哲学B	○	哲学を学ぶには、大きく編年体スタイルとテーマ別スタイルがありうる。「哲学A」では、歴史をたどるスタイルを採用したが、本科目では、学校・ことば・正義・お金・死・世界・戦争・法・自分・性差・愛・幸福など、多様なテーマについて哲学者たちの見解を採りあげ、理解することを目的とする。哲学を学ぶということは、西洋という文明の総体を俯瞰することにもつながる。たんに、ひとつの学科を学ぶというレベルをはるかに超えた広い視野と知識が不可欠となる。そうしたグローバルな観点から学習へつなげる。	
総合教育科目	人文社会	倫理学A	○	本科目では、倫理学の学説を古代から近代まで年代順に解説することを基軸としつつ、その根底にある世界観・価値体系としての哲学についても広く学んでいく。ここで取り上げる思想の多くは数百年前に生きた哲学者のものであり、古いところでは二千数百年も前に成立したものであるが、それらの思想は、自分でも気付かないうちに私たちの頭の中にインストールされていたりもする。私たちが有している世界観や価値観は、自分一人で作り上げたものではなく、必ず歴史のどこかに「起源」を有しているのである。したがって、思想の歴史を知ることは自分自身を知ることでもある。倫理学とその基礎となる哲学の理論や概念について、幅広く理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	倫理学B	○	本科目では、主に現代思想における倫理学的探究の解説を基軸にしつつ、狭義の「倫理学」には分類されないテーマについてもとりあげ、現代という時代において生じた特有の倫理的問題について考察していく。さらには、書物に表現された思想だけでなく、歴史における現実的事象（「風景」の発見・公民権運動・テクノロジーの発展等）の哲学的・倫理学的な意味についても考察し、抽象的な理論と具体的な実践の場面とを接続していく。倫理学とその基礎となる哲学の理論や概念について、幅広く理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	言語・記号論	○	私たちは「言語」や「記号」を四六時中用いて大学生活、日常生活を営んでいるが、ごくありふれたものであるがゆえに、ふだんほとんど意識することはない。本科目では、まずそもそも「言語」とは何かを問い、そしてこれまでの「言語」の問い方の歴史をたどる。特に20世紀後半に興隆した記号論あるいは構造主義の理論および方法論の基礎を学ぶ。さらに、それらの理論・方法論を応用した研究や芸術作品を読解・鑑賞する。20世紀後半に興隆した記号論や構造主義は、21世紀に入って下火になったというよりは、もはや常識になったと考えてよいだろう。それは言語学の理論をモデルにしながら、理系も含め様々な学問分野にも適用・応用された。本科目は、いわゆる「文理融合」を念頭に置いて、理工系を専攻する学生にとっても役立つような、記号論の理論、方法論、応用例などを分かりやすく紹介し、理解できるようになること目指す。	
総合教育科目	人文社会	情報・メディア論	○	私たちは日々、テレビ、新聞、インターネットなどを通じて得た情報を利用しながら生活しているが、それらの情報を、誰が、どんな立場で、何を根拠に、何のために、いつ、どのような仕方で発信したのか、意識しないことが多いのではないか。本科目では、情報とは何か、メディアとは何か、という根本的な問いからスタートして、メディアの歴史、情報の価値、メディアの問題点などを見ていく。理工学を学ぶ学生を対象とした授業であるため、メディアとテクノロジーの関係についても、様々な角度から考察する。さらに、メディアとテクノロジーの関係、テクノロジーと人間の感性の関係、テクノロジーと社会形成の関係について考察し、理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	科学思想A	○	地球規模の環境破壊、大量消費社会の出現などの現象が示すように、われわれは、人間の最高の英知の所産であるはずの科学が人間自身によって制御しがたいまでに肥大化し、人間を支配しようとさえするような奇妙な時代に住んでいる。現代では、「科学とはなにか」という素朴な問いに答えることが緊急課題となっている。そこで本科目では、科学がはじめて誕生した古代ギリシアと、近代科学が成立した科学革命の時代を取りあげて、その科学思想の特徴を検討する。学生には専門的な科学的知識を習得する前に、「科学」がどのように始まり、それがほかの人間の営みとどの点で共通し、どの点で異なるかを理解してもらい、それによって、自分の学習内容が社会でどのような意味をもっているかを学んでもらうことを目的とする。	

総合教育科目	人文社会	科学思想B	○	本科目では、現代の科学哲学の議論を手がかりにして、科学者の思考がいかなるものか、いかにして法則を見いだすのか、科学者が新しい学説を受け入れるようになる背景は何かを考察する。まず、仮説演繹法についての批判的考察を足がかりに、科学者の思考法について様々な学説を紹介する。次いで、科学が前提とする諸概念について掘り下げ、それらについて様々な解釈が可能であることを理解する。最後に、科学が前提とする世界観について批判的に検討する。科学者の思考や方法論がいかなるものか、科学の進歩とは何かなど、科学という営みの特徴について理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	心理学A	○	私たちが漠然と抱いている「こころ」と称する対象について、その理解の仕方はさまざまである。本科目は「こころ」の働きを科学的な視点から理解することを目指す。まず、心理学の成立の背景事情にふれながら心理学の視点について考え、「こころ」の心理学的な捉え方や考え方の理解に努める。これを踏まえて、人間の知性にかかわる「こころ」の諸機能（感覚・知覚、記憶、言語など）について科学的な立場からの理解に努め、「こころ」のもつ優れた環境適応性を考えていく。また、必要に応じて、心理学と隣接する諸領域（哲学、神経科学、進化生物学など）について若干触れてみることで、「こころ」についての理解をもう少し深めてみる。学習を通じて、学生が、心と称する対象に対して、私的な立場から離れて科学的、客観的に考える態度を養い、これを通じて心に対する理解を深めることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	心理学B	○	現代の心理学は基礎科学だと捉えることができる。本科目では、科学の眼を通して心の働きについて理解することを目的とする。はじめに、基礎科学としての心理学が成立するまでの学問的背景について哲学から説き起こし、19世紀の自然科学領域の発展を交えながら、現代の心理学までの流れを追っていく。そして、心の働きを理解するにあたっての心理学の立場を明確にする。こうした心理学的な考え方を押さえたうえで、人の認知機能について古典から現代までの研究を通して学習する。具体的には、認知することにとっての基礎となる知覚の働きを中心に、記憶、思考や言語の働きにまで展開していく。そして、人の認知機能がいかに巧緻なものなのかの気づきを契機として、心の働きについてより深く考え理解していくことをさらに目指していく。	
総合教育科目	人文社会	芸術A	○	本科目では、毎回一つの身近なモチーフを中心に取り上げ、アート表象においてジェンダーとセクシュアリティがどのように表現されるかを探求する。美術史を横断的に考察するため、学生は異なる時代や文化のアート作品を通じて、ジェンダーとセクシュアリティに関する理論や概念を理解し、自らの視点を深めることが期待される。多様な時代や文化のアート作品に対して感受性を高め、アートを通じてジェンダーやセクシュアリティについて理解し、批判的な視点を養う。理工系の分野においても多様性と包摂性の視点を持ち、自らの専門領域で創造的で柔軟なアプローチを発展させることを目指す。	
総合教育科目	人文社会	芸術B	○	本科目では、ジェンダー&セクシュアリティの政治の表現手段として、アートがどのように機能してきたのかを考察し、20世紀以降のアーティストたちによる具体的な実践を紹介する。本科目の目的としては、まず、現代アーティストがジェンダーやセクシュアリティの政治に焦点をあってどのようなアート実践を取り組んできたかを認識し、その重要性を理解する。次に、フェミニストアートやクィアアート歴史と文脈を把握し、多様なアート作品を通じて現代社会の課題を理解し、ジェンダーとセクシュアリティに関する議論に取り組むスキルを養成することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	憲法	○	「憲法」とは、個々の国家の基本事項につき規定したものである。では、日本国憲法はどのような事柄を基本事項として定めているのだろうか。本科目では、日本国憲法が規定する基本的な内容、考え方等について学ぶ。日本国憲法については、すでに中学校や高等学校において学習したことがあるはずである。もっとも、本講義は、単に条文を読み、これを暗記することを目的とするものではない。本講義においては、日本国憲法の思想的な背景や基本的な考え方、人権の意味と内容、統治システムの実態などを明らかにすることを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	法学	○	本科目では、各法分野についての概略を学び、理解することを目的とする。具体的には、憲法、民法、刑法、社会保障法、労働法、国際法について、その重要なエッセンスを取り上げながら、それらを略述する。社会にはさまざまな法が存在している。法は生活の規範として機能したり、さまざまな紛争の解決の手段となったり、時には法によって規制される場合もある。社会の中で当たり前のように存在している法とは、どのようなものなのか。そして日常生活のどのように関わり、どういた解決手段を提示しているか。こうした日常で当たり前のように存在している法について、漠然とした概念にとらわれるだけではなく、具体的な事例を通して検討していく。	メディア
総合教育科目	人文社会	経済A	○	ミクロ経済学は、全ての財・サービスの市場について、その需要や供給など、経済の微視的な動向を分析対象とする。本科目はマクロ経済学と並び、現代経済学の入門コースにあたるもので、ミクロ経済学の基礎的な理論について説明する。講義では、図や数値例を使ったり、現実の問題を取り上げるなどして、ミクロ経済学の核心部分をわかりやすく説明する。本科目の目標は、新聞やニュースでよく取り上げられるような身近な経済問題、例えば、課税（たばこ税、酒税、消費税など）や競争の激しい産業（外食産業やIT産業など）に関する問題を、経済学の枠組みで理解できるようになることである。	
総合教育科目	人文社会	経済B	○	マクロ経済学はGDP（国内総生産）、雇用量（失業率）、物価など経済の巨視的な動向を分析対象とする。本科目は、現代経済学の入門篇として、マクロ経済学の基礎的な部分を取り上げ、経済学をはじめて受講する学生にもわかりやすいように、図や数値例を用いて説明を行う。また、さまざまな経済現象に対する見方や考え方を養えるよう、理論だけでなく、現実の経済の動向についても解説を加える。経済学の基礎内容をマクロ経済学の側面から習得することを目的とし、新聞やニュースでよく取り上げられるような、主要なマクロ指標（GDP、CPI、M1など）を理解し、国の経済政策についても基本的な方向性を把握できるようになることを目標とする。	

総合教育科目	人文社会	政治学A	○	本科目では、政治学を学ぶ上での基礎的教養である日本の統治機構、政治制度につき、日本国憲法をもとに検討していく。たとえば、「権力分立」の下に構築されているといわれているが、なぜそれらは分立しなければならないのか、またそれらは「抑制・均衡」関係に立つと考えることが正しいのか。その他にも、法律はどのようにつくられるのか、行政は何を行うことが憲法によって義務付けられているのか、裁判所は何ができて何ができない機関なのか。講義において、こうした疑問に対する検討を踏まえつつ、日本国憲法における統治機構の統制と、現実的な政治との架橋を行う。日本の統治構造につき、国会、内閣、裁判所といった国家機関の基本的な組織、構造、権限を検討することにより、日本の政治に対する理解を深めることを目的とする。	メディア
総合教育科目	人文社会	政治学B	○	本科目では、政治学について、まずはその意義や経済との関係などを明らかにし、さらに政治制度や政治過程、そして政党や国際政治に関わる問題について、検討を行う。そもそも社会科学は、理工系の学問を専門とする学生には馴染みの薄い学問だと思われるが、現実的な政治問題について、教養として向き合う場面は、市民社会の一員として活動していく以上、多々あると思われる。そのため講義において、そうした政治を見つめるための基礎的な概念や理論を紹介する。現代政治学の基礎的な概念・理論を理解し、現代の政治をより深く理解するための素養を身につけることを目的とする。	メディア
総合教育科目	人文社会	現代社会論A	○	本科目では、現代社会の問題を具体的な事例にもとづいて考察するため、戦後日本における「公害の原点」と言われる水俣病問題をとりあげる。水俣病は、遠い過去の問題として片づけられるものではない。また、科学技術の問題性を感情的にあげつらったり、一企業の加害責任を追及したりすればすむ問題でもない。しかも、立場の違いによって水俣病問題はさまざまな相貌を見せる。ここに水俣病問題の難しさがある。授業では、水俣病問題についての「理解」を深めるだけでなく、水俣病問題の「理解しがたさ」や「割り切れなさ」をも感じとることを目指す。そのため、チッソの経営者、現場の技術者、水俣病患者、医療現場の医師、水俣病問題に取り組んだ作家といったさまざまな立場の人びとの証言を、文字記録・映像記録によって紹介し、考察してゆく。	
総合教育科目	人文社会	現代社会論B	○	本科目では、現代社会の問題を具体的な問題に即しつつ考える。このためドキュメンタリー映画や現代日本の思想家の活動や著作などを手がかりに考察を進める。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。現代社会のかかえる問題について、特定の視点から単純に割り切るのではなく、さまざまな人間の立場から考えられる柔軟性を養うことが目標である。	
総合教育科目	人文社会	環境論A	○	20世紀の半ばごろから公害問題や地球環境問題に対する問題意識の高まりとともに、「環境」が私たちの重要なテーマとなった。環境とは、単なる空間ではなく、私たちを取り囲み、私たちと相互に関係し、影響を与え合って存在する場のことである。私たちは環境の中で、環境と関わり合いながら生きており、その活動のあり方によっては、環境を悪化させ、その結果、私たち自身の存在をも脅かす可能性がある。だからこそ私たちの生きる環境の「持続可能性」が重要な問題として共有されている。本科目では、こうした前提認識を踏まえた上で、人間の生きる環境がどのようなものかを分析し、人間がそれをどのようにデザインしていくべきか理解することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	環境論B	○	本科目では、「環境論A」での学修を踏まえて、私たちが現在直面している様々な環境問題に焦点を当て、それに対して私たちがどのように取り組むべきかを、倫理の観点から考察する。環境問題に直面する私たちは、倫理の対象を人間だけでなく、動物や植物、生態系、将来世代などにまで拡大することを考えなければならなくなっている。また、環境問題の被害を受ける人々は往々にして社会的弱者が多く、そこでは新たな社会正義の問題が生じている。これらの倫理的観点を考慮しながら環境問題について多面的に考察できるようになることを目指す。	
総合教育科目	人文社会	生命と多様性A	○	本科目では、日常生活の身近な話題や社会的関心が高い話題を軸に生命科学の基本を解説する。具体的には、生命科学の誕生、生命の基本単位（細胞）、生命の設計図（ゲノム、遺伝子、DNA、遺伝と生物情報）、エピゲノム（遺伝と環境の関わり）、発生と分化、脳機能、がん、食と健康、感染と免疫、生命倫理、生命技術と現代社会（遺伝子技術の発展、ヒトゲノム・遺伝子解析の倫理的課題）、生物多様性と地球環境の保全、について解説し、理解を深める。ヒトと社会から生命科学を理解し、また、日常にあふれる情報を正しく判断して活用する。科学リテラシーを身につけることを目的とする。生命科学の進歩と応用に関する知識や思考力を深め、科学技術と社会の間に起こる諸問題について理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	生命と多様性B	○	地球上の生物は40億年という長い歴史の中で、他の生物とかかわり合いながらさまざまな環境に適応することで多様化をとげてきた。本科目では、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方・原理をわかりやすく説明する。また、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響にも言及する。生物の多様性と共通性について進化の観点から理解し、進化論や自然淘汰の基本的な考え方を身につけることを目的とする。進化の結果として生物界が多様化していく現象や、生物同士のかかわり、生物と自然環境（生物自身も環境の一部である）とのかかわりを、具体例を通して学ぶとともに、分子、ゲノム、細胞から個体、集団、種、地球環境までの広い観点から理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	欧米の文化と歴史A	○	本科目では、19世紀前半ドイツのベートーヴェンから20世紀アメリカのアイヴズにいたるクラシック音楽の楽曲、そのほかさまざまな美術作品、文学作品などを適宜とりあげ、ヨーロッパとアメリカ合衆国の文化と歴史を概観する。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。以下を本科目の到達目標とする。 ①欧米の文化はおおまかに言って、古代ギリシア的な世界観（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な世界観（ヘブライズム）という異質な世界観どうしの反発や融和のくりかえしといった「常識」を理解する。 ②身近なところでなにげなく接するクラシック音楽や美術作品の背後にも歴史的な奥行きがあることを知り、そうした奥行きを楽しみ味わえる感性と想像力と知性を磨く。 ③個別具体的な芸術作品について、自分の評価・意見を表明する積極性を養う。	

総合教育科目	人文社会	欧米の文化と歴史B	○	本科目では、古代ギリシアのいわゆる「ソクラテス以前の哲学者たち」から19世紀のニーチェに至るヨーロッパの思想史を紹介する。ただし、たんに思想家の思想を紹介するだけでなく、適宜、文学や音楽などの芸術と関連させながら議論を進める。学生諸君が、「問題解決力」「知識獲得力」「組織的行動能力」「創造力」「自己実現力」「多様性創発力」を修得することを目的とする。以下を本科目の到達目標とする。 ①欧米の文化は、おおまかに言って、古代ギリシア的な世界観（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な世界観（ヘブライズム）という異質な世界観どうしの反発や融和のくりかえしといった「常識」を理解する。 ②さらにヘレニズムとヘブライズムの内部にも、相互に歩み寄る可能性が秘められていたことを理解する。 ③文学作品やクラシック音楽を欧米の文化と歴史の流れで捉えることのおもしろさ・大切さを理解する。	
総合教育科目	人文社会	アジアの文化と歴史A	○	本科目では、「アジア」のなかでも、主に中国語圏の歴史・文化について学び、考察することを目的とする。トピックは様々だが、ジェンダー、セクシュアリティの角度から、多く考察する。文学・映画がどのように社会や歴史を描いているか（＝表象しているか）について、考える科目でもある。時代と、地域（主に中国大陸と台湾）をテーマ的繋がりによって往還し、幅広く中国語圏文学・映画の重要作品に触れる。希望によっては、書く練習（文学・映画作品を鑑賞し、それに対する批評を書く練習）を増やす。	
総合教育科目	人文社会	アジアの文化と歴史B	○	本科目では、「アジアの文化と歴史A」に引き続き、「アジア」のなかでも、主に中国語圏の歴史・文化について学び、考察する。「アジアの文化と歴史A」よりは、アジアと欧米が交差する時について考える。ジェンダー、セクシュアリティなどのトピックに着目し、マルチカルチャー的視点、世界的視野で「アジア」を見つめ直せるようにする。「アジアの文化と歴史A」と同様、文学・映画がどのように社会や歴史を描いているか（＝表象しているか）について考える。希望によっては、書く練習（文学・映画作品を鑑賞し、それに対する批評を書く練習）を増やす。アジアの歴史の流れと文化的特徴を把握し、文学や映画の重要性、役割、その可能性を知って感じ取り、批判的思考力を養い、広い視野を持つことを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	日本の歴史と現代A	○	本科目のテーマは、日本人の「感受性」に関する歴史的考察である。我々はしばしば敏感とか鈍感ということを口にするが、この言葉は実のところ何を意味しているのか。これらの語に象徴される人の感受性の問題は、古く遡れば遡るほど、どこか宗教的色彩を帯びる。神や仏という他者、すなわち憧れかつ恐れる超越的存在との独特の交渉に関わる、この国の人々の心構えに触れることになるのだ。本科目では、以上の視点に立ち、日本神話や仏教などをテーマとして取り上げ、日本人の「感受性」をめぐる思想の諸形態を、古代から中世まで概観することにより、この国の人々が神や仏をどのようにイメージしつつ生活してきたのかを十分に理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	日本の歴史と現代B	○	本科目のテーマは、日本人の「感受性」に関する歴史的考察である。我々はしばしば敏感とか鈍感ということを口にするが、この言葉は実のところ何を意味しているのか。これらの語に象徴される人の感受性の問題は、古く遡れば遡るほど、どこか宗教的色彩を帯びる。神や仏という他者、すなわち憧れかつ恐れる超越的存在との独特の交渉に関わる、この国の人々の心構えに触れることになるのだ。本科目では、以上の視点に立ち、「国学」「朱子学」「蘭学」等のテーマを広く取り扱いながら日本人の「感受性」をめぐる思想の諸形態を、近世から近現代まで概観することにより、この国の人々が神や仏をどのようにイメージしつつ生活してきたのかを十分に理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	情報社会と倫理・職業	○	本科目では、情報とは何か、インターネットの歴史、情報化によるビジネス環境の変化、人工知能やビッグデータの影響、プライバシー保護の問題、著作権や特許など情報資産である知的財産の保護と活用の問題、監視社会、生命科学の進歩によりもたらされる生命と情報の新たな関係、教育の情報化等など、情報社会を様々な切り口から概観しながら、情報社会における労働観や倫理上問題となるテーマを取り上げていく□。具体的事例の検討を受講者各自が行い、そしてそれぞれ自分とは異なる見解を理解することによって、倫理観をベースとした普遍的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	環境行政概論	○	本科目では、環境行政の政策目的や実施手法を、映像教材やケーススタディー等も含めて具体的に説明する。この中で講師の国及び地方公共団体における環境行政の実務体験等を適宜紹介する。また、講義の中で過去に公務員試験等で出題された問題等をクイズとして出題し、その解説も併せて行う。本科目での学習を通じて、学生が環境問題に対する認識を深めるとともに、実際の環境行政の実務等に対する基礎的な知識を習得することを目的とする。	
総合教育科目	人文社会	教養演習A	○	本科目は、演習形式で広く教養を身に付けることを目的とした科目であり、いくつかのテーマで開講されている。そのうちの一つを記載する。 本科目では、感性と言語、そして両者の関係についてあらためて考える。具体的には、視覚的芸術（絵画）と聴覚的芸術（音楽）の読解・鑑賞を通じて、それぞれの芸術作品を言葉で理解し、他者と言葉でコミュニケーションしながら、「共感」のための基礎的・学術的な方法を学ぶ。21世紀の科学および産業においては、AIが時代をリードする最先端技術になっていると言っても過言ではない。しかし、このような時代だからこそ、AIをめぐる未曾有の問題に対処するために、生身の人間の身体的なもの、感覚的なものの果たす役割がますます重要になってくる。本科目では、芸術作品（美的なもの＝感性的なもの）を鑑賞する方法を学びながら、感覚（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）によって世界を「感じる」ことの意義について考えることを目的とする。	

総合教育科目	人文社会	教養演習B	○	本科目は、演習形式で広く教養を身に付けることを目的とした科目であり、いくつかのテーマで開講されている。そのうちの一つを記載する。 本科目では、グリム兄弟による『子供と家庭のためのメルヒェン』、いわゆる『グリム童話』を読み解き、理解を深めることを目的とする。『グリム童話』がいかなる意図で収集され、出版され、書き換えられていったかということについては、歴史的な背景（たとえばロマン主義やナショナリズムの高揚、近代家族の成立など）を学ぶことなしに理解することはできない。本科目では、この童話集の成立にまつわる歴史的・文化的背景を学びながら、日本でもよく知られた童話を読んでいく。まずは初版と最終版である第七版を比較検討しながら、これらの物語をどのように論理的に解釈していくか考える。さらにこれらの物語がどのように受容され、再生産されてきたかを考える。その際には、子供向けの本や映画なども参照する。	
総合教育科目	人文社会	日本語リテラシー基礎演習	○	本科目はオムニバス方式でおこなう。前半では、レポート・論文を書くために必要な技術を習得するための練習をおこなう。事実と意見の区別、漢字とかなの使い分け、読点、語順、科学技術文において注意すべき事項を扱う。後半の授業では、テーマに基づき、毎授業プレゼンテーション（発表）を行い、学生同士による評価、フィードバックを実施する。本講義を通して、大学での専門知識の効果的習得を促進するような基礎的な日本語力を身につけることが第一の目標である。さらに、情報を的確に読み取り、その情報を活用して他者と積極的にコミュニケーションし、他者と協働しながら独創的な発想を展開できるような人材の育成をめざす。 （オムニバス方式／全14回） （138 中村　拳／6回） 対面プレゼンテーションおよびオンラインプレゼンテーションの実践演習 （65 吉田　達／2回） ガイダンスおよび全体のまとめ （93　井田　尚美／6回） 伝わりやすい日本語の文章を書くための実践演習	オムニバス
総合教育科目	人文社会	科学技術と倫理	○	環境、情報、技術、医療、法律など現代社会のさまざまな分野で活躍されている学内外講師によるオムニバス方式の講義である。科学技術は人々の生活を支え社会を発展させる反面、地球全体に大きな影響を及ぼす可能性をつねに含んでいる。もし科学技術において倫理に悖る（もとる）行為があった場合は、人々の生活や福祉に深刻な影響を与え、人間の尊厳を傷つける結果にもなる。本科目は、高い科学技術力の修得を志す者に対し、相応しい倫理観を持って社会で活躍していくために必要な倫理教育を授けることを目的とし、生涯において継続的に前進するための具体的な方法論と社会的知識とを全人的に獲得させることを目標としている。 （オムニバス方式／全14回） （5 寺本　剛／5回） 科学技術のリスクと安心・安全、放射性廃棄物と世代間倫理、気候変動とジオエンジニアリングの倫理 （65 吉田　達／2回） 掘割再生−広松伝氏の仕事から考える、現代社会における倫理の問題をあらためて考える （112 小須田　健／1回） 現代社会はなぜ倫理を必要とするか （150 本田　隆浩／2回） 現代情報化社会の構造と倫理・道徳・法の関係、プライバシー保護と個人情報保護 （79 竹中　真也／3回） デジタル時代のリアリティ （117　柴尾　晴信／1回） 生命科学研究における倫理問題	オムニバス
総合教育科目	人文社会	ジェンダー・セクシュアリティ論A	○	本科目では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基礎となる、歴史的な考え方と基礎知識を学ぶ。ジェンダー・セクシュアリティ論について正確に理解するために必要な、歴史学や社会学をはじめとした人文社会科学の様々な分野の知見を学び、議論の土台となる知識を獲得することを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティ論における基本概念とその歴史的成立を理解し、知識を得ること、またその知識をもとに、議論ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	人文社会	ジェンダー・セクシュアリティ論B	○	本科目では、ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識を学び理解するとともに、現代社会における様々なアクチュアルな問題や課題について学ぶ。授業では、基本的な概念を応用してより複雑な問題について考え、議論していく。ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識と理解に基づき、現代社会のアクチュアルな問題群に対して考察を深め、議論する力を養うことを目的とする。ジェンダー・セクシュアリティ論の基本的な知識を獲得し、理解すること、また、現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティをめぐる課題について、正確な知識と理解を土台として考察し、議論ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズA		本科目では、海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解への機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の4週間の海外研修プログラムを通して外国語運用能力向上を図る。TOEIC等の外部英語能力テストのスコアの向上など、各自が目標設定をして留学の成果を確認する。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先はハワイ大学（米国）、春季はカリフォルニア大学デービス校（米国）と西オーストラリア大学（オーストラリア）を予定している。	

総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズBI		本科目では、海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解、理工学分野の研究施設や企業訪問の機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通してイノベーションが創出される近隣国の動向と将来性を理解、外国語運用能力向上を図る。イノベーション、スタートアップ、アントレプレナーシップ動向把握と世界におけるアジア諸国の立ち位置の理解、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先は、シリコンバレー（米国）、春季は上海理工大学（中国）、タマサート大学（タイ）、シリコンバレー（米国）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルスタディーズBII		本科目では、「グローバルスタディーズBI」履修済みの学生と対象として海外研修プログラムを正課授業として展開し、外国語運用能力向上および多文化理解、理工学分野の研究施設や企業訪問の機会を提供することで、グローバルな視点を持った学生の養成を行うことを目的とする。夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通してイノベーションが創出される近隣国の動向と将来性を理解、外国語運用能力向上を図る。イノベーション、スタートアップ、アントレプレナーシップ動向把握と世界におけるアジア諸国の立ち位置の理解、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。合わせて、多文化理解やグローバルな視点を養う。夏季の渡航先は、シリコンバレー（米国）、春季は上海理工大学（中国）、タマサート大学（タイ）、シリコンバレー（米国）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルインターンシップ		本科目では、夏季または春季の1～2週間の海外研修プログラムを通して、新技術が創出されるイノベーション大国の動向と将来性を理解、併せて外国語運用能力向上を図ることを目指す。同時にスタートアップ、アントレプレナーシップ動向とエコシステムの実態を把握し、グローバルにおける日本の優位性と課題を再認識し各人の研究テーマ・専門知識の向上を明確化する等、参加者が予め目標設定をして留学の成果に結びつける。併せて、語学力向上、多文化理解やグローバルな視点を養うと共に、シリコンバレー流起業プロセスを理解する。夏季・春季ともその渡航先は、シリコンバレー（米国）、ハノイ・ホーチミン（タイ）、マレーシア工科大学（マレーシア）、ダルマプルサダ大学（インドネシア）、ラマイア工科大学（インド）を予定している。	
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルアントレプレナーシップ入門		我が国の少子高齢化、新興国の台頭で地球規模の社会、経済、産業、人口構造変化が起きている。このような状況下、市場のグローバル化が余儀なくされ、グローバル人材輩出への期待が年々高まっている。また、不確実性社会が到来、自らの意思判断で時代の潮流に乗り切ることができる、アントレプレナーシップマインドの醸成が必要不可欠となり、双方を兼ね備えた人材が求められている。そこで本科目では、前半で、日本の現状理解、それに応ずるための企業の国際化、市場・産業を理解、また企業が求めるグローバル人材（ニーズ）を理解した上で、個人のキャリアを振り返り、異文化コミュニケーションの必要性と多文化理解を学ぶ。後半では、第4次産業革命、世界のイノベーション、スタートアップ、エコシステムを理解し、アントレプレナーシップの基礎も身に付ける。そして、自ら立案したビジネスプランを作成する能力を養い、ピッチ（プレゼンテーションテクニック習得）実習を行うことでグローバルに羽ばたける人材創出を目指す。	メディア
総合教育科目	グローバル・学際	グローバルアントレプレナーシップ演習		我が国の少子高齢化、新興国の台頭で地球規模の社会、経済、産業、人口構造変化が起きている。このような状況下、市場のグローバル化が余儀なくされ、グローバル人材輩出への期待が年々高まっている。また、不確実性社会が到来、自らの意思判断で時代の潮流に乗り切ることができる、アントレプレナーシップマインドの醸成が必要不可欠となり、双方を兼ね備えた人材が求められている。本科目では、このような時代の潮流を乗り切れる人材創出を目的とし、「アントレプレナーシップ入門」で身に付けた基礎知識を基に、更なるステップアップを目指す。前半では、「アントレプレナーシップ入門」の振り返りを行い、自身が深堀したいビジネスを取り決め、グローバルで通用するビジネスプラン作成を演習形式で実施する。また、自ら立案したビジネスプランを作成する効果的に発表する能力を養うために、グローバルピッチ演習も実施する。さらには、授業で取り組んだビジネスプランを産学協同で日本社会、そして国際社会でも実装できるよう、起業経験者や国・地域別専門家など様々な学外専門家をゲストスピーカーとして招聘、ハンズオンで指導を受ける機会を設けるなど、各専門分野のスキルも向上させ、アントレプレナーシップマインドを備えたグローバル人材の創出を目指す。	メディア
総合教育科目	グローバル・学際	技術と法		本科目では、知的財産法制や技術に関連する法制度、さらには、技術と倫理の立場や企業組織のコンプライアンス・レピュテーションの維持のために大事な内部統制に関する法制度、さらには、急速な発展とともに次々に法的問題が顕在化しているIT・インターネットに関する法律などを幅広く解説する。IT技術の進歩とともに、科学技術の開発・流通・利用に関わる事件が多発するようになり、技術者にとって技術開発や利用の場面で、知的財産権やIT法制、コンプライアンスといった、関連する法制度や法的思考を理解しておくことが重要になってきている。そこで、理系の学生が知っておくべき法律問題の基本的部分を講義し、一定レベルの知識を会得してもらうことを主な目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （38 杉浦　宣彦／11回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。合計9回の授業においては、知的財産に関する法律知識について解説する。 （89 浅見　浩二／1回） 経営法務に関する法律知識について解説する。 （156 丸山　陽／1回） IT・インターネットに関する法律知識について解説する。 （89 浅見　浩二、156 丸山　陽／1回）（共同） 弁理士業務の概要について説明する。	オムニバス 共同（一部）

総合教育科目	グローバル・学際	産業財産権法		本科目では、特許制度をはじめとした産業財産権制度の意義やその状況等について解説するとともに、権利を活用するまでの基礎的な知識（法目的、保護対象、手続きの流れ、登録要件等）および権利取得および権利行使における実務上重要な事項に関する講義を行う。本科目での学びを通じて、特許制度をはじめとした産業財産権制度が産業の発達にどのように貢献するのかを理解し、産業財産権法の基礎的な知識および実務上重要な事項が理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	グローバル・学際	知的財産法演習		本科目は、演習を通じて、知的財産やITをめぐる様々な事案を題材にした知的財産やIT技術に関連する法制度の基礎を学ぶ。前半授業回では、知的財産の基本的知識を学ぶ。そのうえで、その知識を活かして判例を検討し、発表を行う。後半授業回では、実際に企業や特許事務所で働く弁理士の話を聞いたり、現場を見ることによって、現実社会における知的財産を体験する。どのように法制度を学ぶのか、また、法制度の調査方法（リーガルリサーチ）の基礎を学ぶことにより、なにか法的疑問を感じたときにも対応できる基礎的な能力を会得できることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （38 杉浦　宣彦／9回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。合計7回の授業においては、知財法総論、判例研究の仕方、ITセキュリティ関連の判例研究について解説する。 （123 千且　和也／2回） 特許権をめぐる判例研究について解説する。 （97 大塚　啓生／3回） 商標権や意匠権をめぐる判例研究について解説する。	オムニバス
総合教育科目	グローバル・学際	知的財産取扱基礎知識		本科目では、特許権、意匠権、商標権等を権利化するための特許庁への出願手続、それらを取消または無効とするための審判請求・異議申立ての手続、ライセンス契約の交渉、仲裁手続などの代理業務のほか、知的財産取扱に最小限必要な程度の基礎知識を伝授する。将来開発者を目指す学生にとって、特許や商標等の知的財産に関する知的は、自身が発明した権利を守るという意味で重要な権利である。一方、将来知的財産の業界で働くことを考えている学生にとっては、その業務の内容を知ることは非常に有意義である。このような観点から、知的財産に関する実務を垣間見れるような授業を行い、将来的に活用できる知識の習得を目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （89 浅見　浩二／4回） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。このほか2回の授業において、自分の発明を特許出願する方法、意匠法に関連して、先行意匠調査と意匠情報について解説する。 （108 楠　和也／3回） 特許情報の調査、実用新案制度、意匠法に関連してデザインの意義、意匠登録制度とデザインについて解説する。 （156 丸山　陽／2回） 出願から特許取得までの流れ、外国で特許を取るため方法等について解説する。 （130 田中　虹輝／2回） 意匠法、商標法について解説する。 （97 大塚　啓生／3回） 企業経営における商標の効果・価値、商標調査について解説する。	オムニバス
総合教育科目	グローバル・学際	AI・データサイエンス工学概論		自然科学や先端科学技術の諸分野において、人工知能（AI）やデータサイエンスの高度な活用が急速に広がっている。本科目は、理工系学部の各専門分野においてAIやデータサイエンスを活用したいと考える学生を対象とした入門的な科目として、動画及び資料に基づいて、AI・データサイエンスの諸手法の考え方、背後にある数理の概要、そして Python 言語による実装や活用事例を学ぶ。また、Google Colaboratory というクラウド上の実行環境を用いて Python 言語による実際のプログラムの実行と結果の考察を行う。以下を到達目標とする。 ①現代社会におけるAI・データサイエンスの意義を説明できる。 ②機械学習・画像解析・自然言語処理を理学・工学にどのように活用しうるかを例を挙げて説明できる。 ③Python言語で書かれたプログラムをアレンジして簡単な機械学習・画像解析・自然言語処理を行うことができる。 （オムニバス方式／全14回） （41 田口　善弘／3回） Pythonの基礎、Pythonによるデータ分析と可視化について解説する。 （49 生田目　崇／4回） Pythonと機械学習について解説する。 （73 大野　航太／4回） Pythonと画像解析について解説する。 （50 難波　英嗣／3回） Pythonと自然言語処理について解説する。	オムニバス・メディア ※演習 講義7回 演習7回

総合教育科目	グローバル・学際	学問最前線		本科目は、都心キャンパスの学部（基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、法学部、国際情報学部）の学生対象の共同開講科目（1年次配当）である。3学部の教員がそれぞれの専門領域に関連するテーマについて多角的な視点による講義を提供することを通じて、文系・理系を問わず学生に求められる幅広い視野、深い思考の礎となる素養を涵養する。1年次配当科目であることから、大学という学問の入り口に立った学生が他学部(他学科)の学生とも協働しながら、現代において日々生起する新たな問題の解決には様々な思考様式があることを知り、複眼的かつ柔軟な創造力の素地を獲得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （63 山西　博之、52 西村　暢史、14 岩隈　道洋／2回）（共同） 第1回の科目説明、第14回のまとめを行う。 （63 山西　博之／2回） 理工学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （6 ホーテス　シュテファン／1回） 持続可能性科学の研究成果の応用を目指して、不確実性やトレードオフに向き合うための体制づくりについて解説する。 （14 岩隈　道洋／1回） リクナビ事件を素材として個人情報保護とELSIについて解説する。 （58 堀江　亜以子／1回） ボーダーレス化する世界と知的財産権の保護について解説する。 （19 樫山　和男／1回） 防災・環境問題を例に数値シミュレーションについて解説する。 （18 角田　篤泰／1回） 情報科学的視点からみた法、法分野へのAI・ソフトウェア工学の応用について解説する。 （33 佐藤　文彦／1回） 生殖補助医療と法、いわゆる代理出産をめぐる課題について解説する。 （28 小向　太郎／1回） サイバーセキュリティと法制度について解説する。 （36 四方　光／1回） サイバー犯罪の現状と対策について解説する。 （51 新妻　実保子／1回） ロボットの自律化、人-ロボットインタラクションなどについて解説する。 （29 斎藤　裕紀恵／1回） EdTechの現状と展望について解説する。	オムニバス・メディア共同（一部）
総合教育科目	グローバル・学際	学際最前線		本科目は、都心キャンパスの学部（基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、法学部、国際情報学部）の学生対象の共同開講科目（3年次配当）である。3学部の教員が提供する学問分野の発展的内容をそれぞれの学部の学生がともに学ぶという専門的・学際的な視野をもった科目である。3年次配当科目であることから、自らの学問分野における専門的知識を身に付けつつある学生が他学部（他学科）の学生とも協働しながら、異なる学問分野からのアプローチを学び、専門分野横断的で学際的な問題解決力を獲得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （63 山西　博之、52 西村　暢史、14 岩隈　道洋／2回）（共同） 第1回の科目説明、14回のまとめを担当する。 （63 山西　博之／4回） 理工学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （52 西村　暢史／4回） 法学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。 （14 岩隈　道洋／4回） 国際情報学部の学問分野における専門的な内容に関する講義を担当する。	オムニバス 共同（一部）
総合教育科目	グローバル・学際	多文化共生論		「多文化共生社会」を理解し体得するため、本科目では広く、「越境」と「エンパシー」をテーマに解説する。作品（文学、映画、ドラマなど）を使いながら、自分の固定観念を破り、もっと多様な生、多様な人間がいるということを体感し、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など、人の属性、アイデンティティ、境界線を作る様々な要素について、考察する。本科目での学びを通じて、①自分とは違う環境で生きる人間の心を、前よりも想像できるようになる、②自己と他者の境界線を、前よりも柔軟に捉えることができるようになる、③フィクションが持つ力を実感し、前よりも作品の意味をしっかり考察できるようになる、ことを目指す。	
総合教育科目	グローバル・学際	障害学		障害学は、1970年代以降、徐々に学問領域／アプローチとして形成されてきた。障害学において、障害とは主流派の身体と異なる（とされた）身体、異なる（とされた）身体性のことを指しつつ、そうした身体性を持ってこの社会を生きていくことの経験、とりわけそこで生じる社会的な不利益や差別、排除、抑圧のことを障害と呼ぶ。ここでの「身体」「身体性」には精神や認知特性といったものも含まれる。障害学は、この障害の社会的な側面に焦点を当て、社会構造、人々に与えるインパクト、そして障害の経験の中で紡ぎ出された思想を学問的に取り扱う。本科目では、障害学の蓄積を学ぶことを通じて、障害とそれを取り巻く社会を捉え、複数の視点を獲得することを目的とする。また、障害については、制度化された学問体系には収まらない「知」や「思想」がたくさんあるため、学術論文や書籍以外の書かれたものや、映像なども取り上げながら、考えを深める。	

総合教育科目	グローバル・学際	Global Issues A	○	In this course, students will study in English about the most pressing environmental challenges faced by the world today, including climate change, energy generation, resource depletion, deforestation, and pollution. They will go beyond a superficial understanding of these problems to examine the deep-lying global structures that systemize and perpetuate environmental damage. This is a task-based course in which students will be expected to work in groups to carry out independent research projects into the issues studied in class. Through their work in class they will learn how to research information from reliable sources, critically examine and analyze evidence, and draw conclusions supported by verifiable data. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、現代の世界が直面する環境問題について英語で学ぶ。気候変動、エネルギー生成、資源の枯渇、森林破壊、汚染といった最も差し迫った問題を取り上げ、これらの問題をより深く理解するために、環境破壊が体系的かつ持続的に行われる根本となっている世界の構造について考える。授業はタスクを中心とし、授業で取り上げた問題についてグループで調査プロジェクトを実施する。本科目での学びを通して、信頼できる情報源を使って調査し、また証拠を批判的に検討して分析し、検証可能なデータに裏付けられた結論を導く力を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	Global Issues B	○	In this course, students will learn in English about important social and technological issues in the world today, including artificial intelligence, social media, aging societies, global migration, and human rights. Through their work in class, students will learn how scientific advancements are transforming the way we work and interact and they will cast a critical eye on both the risks and rewards of technological change. They will also study in depth about social change happening across the globe and analyze the trends that are likely to shape our societies tomorrow. They will continue to work in groups to complete self-directed projects, learning how to manage time and resources within a team environment. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、人工知能、ソーシャルメディア、高齢化社会、世界規模の移民、人権といった、現代世界における重要な社会問題および科学技術問題について英語で学ぶ。本科目での学びを通じて、科学技術変化のリスクと恩恵の両面に批判的な目を向け、科学の進歩がいかに働き方や交流の仕方を変容させているかを考え、さらに、世界で起こっている社会的な変化を掘り下げて調べ、これからの社会を形作っていきそうな傾向を分析する力を身に付ける。また、自律的にグループでプロジェクトを実施し、チームで時間とリソースを管理する力も身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	Education for SDGs	○	In this course, students will examine in English the United Nations’ 17 Sustainable Development Goals (SDGs), putting a focus on what we as individuals can do to ameliorate social, economic, and environmental inequalities within our world. As well as taking a broad overview of the SDGs and their principles and challenges, students will choose one goal they have a particular interest in, carrying out a research project into a specific instance of how individual action impacted a local area. They will present the results of their research in a written report and oral presentation. Through their work in class, they will learn the fundamental principles of communicating information clearly, concisely, and attractively. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、国連の掲げる17の持続可能な開発目標(SDGs)について英語で調査し、私たちの世界にある社会的、経済的、環境的な格差を改善するために私たちが個人としてできることは何かを考える。17の目標とその原則や課題を概観した上で、受講者それぞれが関心を寄せる目標を一つ選び、いかに個人の行動が地域に影響するかを具体的に示す調査プロジェクトを実施する。調査の結果はレポートとプレゼンテーションの両方で報告する。本科目での学びを通じて、明瞭に、簡潔に、そして興味をもってもらえるように情報を伝えるための基本原則を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
総合教育科目	グローバル・学際	International Relations and Politics	○	In this course, students will study politics and international relations in English to gain an understanding of events happening around the globe. They will watch news items aimed at native speakers, read articles, and prepare summaries and questions. Through their work in class, they will learn how to express their opinion in a logical and persuasive manner and how to lead discussions and debates. They will also learn to look behind current events to uncover the underlying causes of conflicts and disputes, examining issues like religion, democracy, terrorism, and the clash of ideologies. This course comprises one of the required classes for completion of the Global Program. 本科目では、世界で起こっている出来事を理解するために政策と国際関係について英語で学ぶ。授業では英語母語話者に向けて作成されたニュースを視聴し、記事を読んで、要約を作成したり論点を準備する。本科目での学びを通じて、論理的に説得力をもって意見を述べることを学び、議論やディベートを導く力を身に付ける。さらに、現在起こっている出来事の背景を探って対立や紛争の根底にある原因を明らかにし、宗教、民主主義、テロ、そしてイデオロギーの衝突といった問題を調査する力を身に付ける。本科目はグローバル・プログラム修了に必要な科目の１つである。	
専門教育科目	基礎科目	微分・積分1	○	本科目では、微分積分学の基礎である極限、連続の概念を学び、１変数関数の微分積分について具体的な計算ができるようになることを目指す。具体的には、数列の極限と実数の連続性、関数の極限と連続関数、初等関数、関数の微分、平均値の定理とロピタルの定理、高次の導関数と曲線の凹凸、テーラーの定理、ランダウの記号と漸近展開、定積分と不定積分、積分の計算、広義積分、区分求積法による定積分の定義と曲線の長さなどについて解説し、理解を深める。	

専門教育科目	基礎科目	微分・積分2	○	本科目では、多変数関数の偏微分法と重積分の基礎を学び、具体的な計算が出来るようになることを目指す。具体的には、多変数関数の極限と連続性、偏微分と全微分可能性、合成関数の微分、高次の偏導関数と2変数のテーラーの定理、2変数関数の極値の判定、陰関数の定理と条件付き極値問題、重積分と累次積分、重積分と累次積分の計算重積分の変数変換、体積、曲面積、線積分とグリーンの定理、ガンマ関数とベータ関数などについて解説し、理解を深める。	
専門教育科目	基礎科目	線形代数1	○	線形代数は理学、工学の各分野における重要な基礎科目である。本科目では、行列や行列式といった線形代数の最も基礎的な分野を学ぶ。具体的には、ベクトルと直線や平面の方程式、2次や3次の行列、行列の定義・演算、正方行列、正則行列、行列の基本変形、行列の階数、逆行列、行列と連立１次方程式、行列と１次写像、行列式の定義・性質・計算、小行列式、余因子、行列式と連立１次方程式、について解説する。線形代数の基本事項（行列、掃き出し法、行列式）を学ぶことを目的とする。行列の基本変形、逆行列の計算が出来るようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	物理1	○	本科目では、力学の原理を学ぶ。具体的には、運動の法則、位置、速度、加速度、落下運動、単振動、等速円運動、仕事と運動エネルギー、仕事と位置エネルギー、力学的エネルギー保存則、万有引力のエネルギー、運動量保存則、粒子の衝突、ロケット、ベクトル積、角運動量と保存則、中心力、について解説し、理解を深める。論理的思考力の育成を目的とし、力学がどのように問題を扱い、どのように解き、どのように理解するか、が身に付くことを目指す。	
専門教育科目	基礎科目	物理2	○	本科目では、「物理1」の力学に続いて、古典物理学のもう一本の柱である電磁気学について学ぶ。現代の生活には、電磁気が関わっている現象、あるいは、それらを用いた物質・材料が身の周りにあふれている。これら電磁気に関わる現象を理解するための基礎となる法則や考え方の概要を学ぶ。電磁気学の法則で用いられている基本的な「概念」を着実に理解し、電磁気学の基本的な枠組みを理解するのが目標である。電磁気学の法則で用いられている基本的な「概念」を着実に理解し、電磁気学の基本的な枠組みを理解するのが目標である。	
専門教育科目	基礎科目	化学1	○	本科目では、物質の構造という化学の基礎から始まり、物質量の概念、化学結合、酸・塩基の反応、酸化・還元反応などの化学の重要な基礎を概説する。具体的には、化学の基礎（原子・イオン・分子・結晶）、原子の構造（量子数・電子配置）、周期表と元素の性質、化学結合（共有結合の考え方、その他の結合の考え方）、化学量・化学反応式、物質の三態＋気体、反応速度・化学平衡、酸と塩基（アレニウスの定義、ブレンステッド・ローリーの定義）、酸化と還元（酸化数、酸化剤・還元剤、イオン化傾向・電気化学、化学熱力学について解説し、理解を深める。化学に対する認識を深めるとともに、化学に対する基礎的な知識を習得することを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	化学2	○	有機化合物は炭素原子を含む化合物のことを指す。これまでに数千万以上の有機化合物が報告されており、その中にはタンパク質や核酸、脂質といった生命現象に必須となる物質もあれば、医薬品、プラスチック、染料といった日常生活を支える物質も含まれている。これら多様な有機化合物の性質は、その構造の違いによって理解することができる。本科目では、まず有機化合物の構造を支配する要因について解説する。次に、構造の違いが分子の性質（＝反応性）に与える影響を解説する。これらを通じて、構造式から分子の性質を予想するセンスを養う。①有機化合物の簡単な物理化学的性質が予測できるようになること、②有機化合物の基礎的な反応性を理解し、反応生成物を推定できるようになること、③特に重要な有機反応の反応機構を理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	線形代数2	○	本科目では、「線形代数1」に引き続いて、理学・工学分野において必要な線形代数の基礎を学ぶ。具体的には、1次独立、1次従属、部分空間、連立1次方程式、1次写像、基底の変換、シュミットの直交化法、直交補空間、固有値と固有ベクトルの定義・計算例、行列の対角化（理論、計算例と応用例）、直交行列、実対称行列の対角化、実2次形式、について解説する。固有値、固有ベクトルの概念を理解し、行列の対角化の計算が出来るようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	基礎科目	化学実験	○	本科目は、化学の基礎知識及び基本操作の体得を目標とし、基礎的な物理化学、無機化学、有機化学の実験を行う。具体的には、ガラス細工・予備実験、陽イオンの定性分析（金属イオンの反応による同定、金属イオン混合物の分離同定）、アルカリ混合物の定量（中和滴定）、電位差法（pHメーター）を用いた酢酸の水酸化ナトリウムによる滴定、分光光度計によるリン酸イオンの比色定量分析、ガスクロマトグラフィーによるアルコール含有量の測定、薄層クロマトグラフィーを用いたアミノ酸の分離、p-ニトロアセトアニリドの合成、アゾ色素の合成（ジアゾ化反応とカップリング）、パソコンを利用した分子モデリング、について実験を行う。各回の実験について、事前に実験計画を立て、実験後にはレポートを作成して実験の内容とデータをまとめ、考察する。このような作業を重ねることにより、化学現象を科学的に認識し、正しく情報を発信する能力を身につける。	
専門教育科目	基礎科目	物理実験	○	物理学はあらゆる理工学の基礎である。物理学では実験と理論がともに重要な役割を担ってきたが、実験の裏付けがない限り、理論の発展もない。大学において物理学を学ぶにあたって、実験を通じて自然の仕組みを知ることにはたいへん大きな意義がある。本科目では、以下の課題（単振り子、磁気、低温の世界、水素スペクトル、電子の比電荷の測定、回折と干渉、たわみによるヤング率の測定、オシロスコープ、電磁波、GM管による放射線の測定）の検証実験を自ら行う。実際に手を動かして実験した内容をレポートにまとめることを通して、講義で学んだ物理現象に対する理解をより一層深めることを目的とする。	

専門教育科目	コア科目	認知脳科学	○	マーケティングが働きかけるのは消費者の脳である。そこで、消費者の脳の働きを解明し、マーケティングに活用するというアプローチが有用となってくる。このような試みは、ニューロマーケティング、消費者神経科学として研究が盛んになりつつあるが、学問分野としてはまだ発展途上である。本科目では、その概要を捉え、今後の分野発展に関する洞察を得る。特に、方法論に関しては重点を置く。この意味で、認知脳科学の研究法に関するガイダンスも得られる。本科目は消費者認知神経科学における基礎的なリテラシーを涵養し、消費者の脳で展開する思考に関する洞察を得ることを目的とする。消費者認知脳科学の基本概念を理解し、自分自身の視点から分野を捉える能力が身に付くことを目指す。	
専門教育科目	コア科目	生命倫理	○	本科目では、多様化する現代の人間社会において、我々がどのような倫理的課題のまえに立たされているかを認識し、特に救急救命の視点から論じ、人間（生命）に対する倫理観を深めることを目的とする。具体的には、ヒポクラテスと医の倫理、非医療従事者と医療従事者の倫理観、医療事故とリスクマネジメント、救急看護（ナイチンゲールの精神と救急）、災害事故とトリアージ、グットサマリタン法、尊厳死・安楽死とDMRオーダー、ホスピスと終末医療、小児救急医療体制の現状と課題、欧米型ERシステム、災害救助体制の現状、水難救助とライフセービング、東日本大震災（大津波）と防災教育、死生観（Death Education）について解説する。	
専門教育科目	コア科目	地域環境科学	○	都市の持続可能な在り方を包括的に考察できるようになるため、先ずは都市の形成過程を探る。どのような自然条件・社会条件下で都市が発達したかをその発生にまで遡って理解する。現代における急速な都市化に伴う人工的構造物の増加や人口の集中などが都市の環境に及ぼす影響や都市と農村環境の関係を学ぶ。また、地球規模の視野で、都市人口が消費するエネルギーや食糧、その他の自然資源の供給や都市人口が排出する物質・廃棄物の処理処分について社会生態科学の理論に基づいて整理し、都市と環境の相互作用を網羅して把握する生態系サービスの評価方法を学ぶ。都市が発達することによって環境がどのように変化し、この変化が個人の身体と精神に加えて社会や経済、人間以外の生物にどのような影響を及ぼすか、包括的に把握することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （6 ホーテス　シュテファン／7回） 都市の起源と歴史的発展、都市の立地と物理的構造、都市と農山漁村、都市に棲む野生生物、都市と気候、都市の物質循環、都市の生態系サービス （9 原田　芳樹／7回） 都市農業、都市化と都市計画の歴史、地球環境の変化と都市、都市の将来発展を考える、都市に関する政策や計画、都市の国際的な協働、到達度確認	オムニバス
専門教育科目	コア科目	基礎生態学	○	生態学は、生物と環境の関係の把握に関する多様な学術分野を含む。本科目では、それら多様な生態科学の基礎となる基本的な概念や分析・評価の視点を広く取り上げて解説する。それを通じて、自然と社会の諸相を生態学の視点から理解し、科学的な課題を抽出して自ら主体的に解決できる素養を身に付けることを目的とする。生態科学の基礎となる基本的な概念や分析・評価の視点や生態学が扱う多様な課題について、包括的に理解することができるようになることを目指す。	
専門教育科目	コア科目	基礎エネルギー制御学	○	熱力学はあらゆる自然現象に適用される基礎科学であり、自然現象に対する洞察を深め、科学技術の目標を具体化できる。本科目では、分子レベルの挙動から系全体のエネルギー効率の限界を知る方法を学ぶ。具体的には、熱力学の基礎、物質とエネルギー保存則、理想気体と実在気体、内部エネルギー、等温変化と断熱変化、熱機関、エンタルピー、反応過程のエンタルピー変化、エントロピー、自由エネルギー、相と状態図、相平衡、化学平衡、について解説し、理解を深める。分子レベルの挙動を理解し、マクロ的な（自然）現象を定量的に理解する能力が身に付くことを目標とする。	
専門教育科目	コア科目	フレッシュマンセミナー	○	人間総合理工学科の学問領域は、①人間の本質に着目した「認知脳科学」と「健康科学」、②人間の集団に着目した「空間情報科学」と「生物統計学」、③人間の周辺に着目した「生活環境」と「生態系」、④人間の持続可能性に着目した「水循環」と「物質・エネルギー循環」の4分野に大別される。本科目では、人間総合理工学科での学びの全体像をつかみ、どのような能力が習得できるようになるのかについて理解することを目的とする。具体的には、初回の授業で人間総合理工学科全体についてのガイダンスを実施した後に、各教員の担当・専門分野に関する講義とアクティビティ（関係施設などの見学・特別講演など）を行う。 （オムニバス方式／全14回） （11 山村　寛／5回） ガイダンス・人間総合理工学科での過ごし方、水循環、特別講演、課題解決演習 （4 檀　一平太／3回） 進路と学習方法の方針、留学のすすめ、認知脳科学 （8 竹内　文乃／1回） 生物統計学 （7 三苫　好治／1回） 物質・エネルギー循環 （9 原田　芳樹／1回） 都市生態学 （3 高田　まゆら／1回） 保全生態学 （6 ホーテス　シュテファン／1回） 景観環境学 （2 小峯　力／1回） 健康科学	オムニバス

専門教育科目	コア科目	確率・統計	○	本科目は、統計学の入門的な位置づけであり、データの収集法から、データの要約（記述統計）の方法、データにつきまとう不確実性の確率による表現、不確実性を考慮に入れた統計的推測の方法を学び、それらを利用した解析例について学び、実際の解析を通して統計解析の有用性を理解し、背景にある理論の学習へと結びつける。統計の標準的な手法の背景にある理論を理解し、実際のデータに対して統計手法を適用できるようにすることを目的とする。観測・測定されたデータから、現象発生の確率的メカニズムをモデル化し、問題解決に役立てるために必要な統計学の基本的事項、データに基づく推測法の習得を目標とする。	
専門教育科目	コア科目	情報処理	○	現代社会において、情報通信技術（ICT）が果たす役割はもはや把握できないほどに大きくなっている。しかし、我々はICTを活用しつつも、その中身に付いてはあまりよく分かっていないという場合が多い。また、情報機器は今後の学習・研究に必須のツールであるが、その発展と機能性の変化は非常に速い。また、近年ではスマートフォンの一般化および高スペック化によって、より手軽かつ便利に大容量のデータを扱うことができるようになったものの、その一方で、データ処理の内容がブラックボックス化され、ユーザーが情報処理のメカニズムを学び、創造の楽しみを知る機会は失われつつある。そこで本科目では、ICTをブラックボックスのままにはせず、その原理や仕組みをひもとき、情報リテラシーを高めていく。各々の目的に適った方法で情報機器を扱い、ICT技術を活用うための、基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。	
専門教育科目	コア科目	環境物理化学	○	物質収支は、環境問題をモデル化する上で極めて重要な概念になる。本科目では、①工学の基礎、②化学反応の基礎、③エネルギーの基礎、を学び、その内容をもとに物質収支をたて、環境問題の解決策を提案する手法を学習する。具体的には、単位の種類と基礎、有効数字、濃度の表現、化学反応のイメージ、反応速度、エネルギー、化学ポテンシャル、リアクターと物質収支、回分反応、流通式押し出し型、完全混合型、環境問題の解法（消毒と浄水、湖の浄化）、について解説し、理解を深める。物質収支の考え方を修得し、水代謝システム工学、水環境工学、エネルギー環境学などの学習に生かすことを目的とする。国際単位と有効数字、化学反応の基礎、エネルギーの基礎などを学習するとともに、これらの基礎が環境・エネルギー問題を解決する上でどのように結びついているのかについて理解できるようになることを目標とする。	
専門教育科目	コア科目	情報処理演習	○	本科目では、Excelによる表計算を用いて、演習環境で自らデータを処理し、コンピュータを扱うための基礎知識を習得する。さらに、マクロ機能を用いてプログラムを設計し、コーディングを行うことで、プログラミングのためのノウハウを身に付ける。誰もが使用するExcelを駆使して、どこまでの可能性が追求できるか体感する。Excelによる表計算の演習を通じて、コンピュータをツールとして使いこなし、簡単なプログラミングを通して、カスタマイズする技能を身に付けることを目的とする。Excelを習得し、基本的な実践力を身に付けることによって、基本情報技術者試験における表計算には対応できるレベルの実力が身に付くことを目標とする。	
専門教育科目	コア科目	健康科学概論	○	生活の質（QOL）調整生存年を、できるだけ資源を節約しつつ大きくすることが健康科学の究極の目標である。しかし我が国は、これから世界初の超高齢社会に入り、さまざまな社会的課題を突き付けられることになる。これまで健康施策は、厚生施策の一領域であったが、近年のエビデンスの集積により、国及び地方自体の総合政策として取り組まなければならない、重要政策となった。一方で、我々が健康を志したとしても、巷に溢れる健康情報の中で、何をどう信じればよいのかは、定かではない。医療さえも時に健康に反する選択となることさえある。本科目では、「医療倫理・研究倫理」「エビデンス」をキーワードに健康について学ぶ。具体的には、医療倫理・研究倫理（概論・応用・実践）、エビデンス概論、エビデンスと研究デザイン、エビデンスの検索と評価等について解説し、理解することを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （8 竹内　文乃／11回） エビデンス概論、エビデンスと研究デザイン、エビデンスの検索と評価、医療情報概論、医療情報応用 （124 高島　響子／3回） 医療倫理・研究倫理概論、医療倫理・研究倫理応用、医療倫理・研究倫理実践	オムニバス
専門教育科目	コア科目	都市生態学概論	○	都市は、①人間の行動、②人間が作りだしたシステム（例：建物・上下水道など）、そして③自然のプロセスの相互作用、によって機能している。本科目では、この相互作用を解説し、持続可能な社会を実現する戦略の一つとして都市生態学の基礎知識を学ぶ。そして実践的・学際的・国際的な視点を育むため、日常生活から実務・研究の最前線に至るまで、国内外の様々な事例を紹介する。人間総合理工学科が扱う環境分野（環境デザイン、生態学、持続可能性科学、水代謝システム科学）の応用事例には特に重点を置く。都市生態学の基礎知識を実践的・学際的・国際的な視点から幅広く学ぶことを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （9 原田　芳樹／10回） 都市生態学の系譜概説、地理情報理工学（予習課題講評、生態系サービスと都市計画、都市の物質収支、都市の土壌、都市の水、大気降下物、総括） （6 ホーテス　シュテファン／4回） 都市の持続可能性科学事例紹介（千葉の里山、フィリピンのイフガオ、ドイツ、宮城の南三陸）	オムニバス
専門教育科目	コア科目	実用認知心理学	○	本科目では、人間の思考の傾向と歪みを把握したうえで、物事や情報を見聞きしたままに受け取らず、客観的かつ分析的に理解する思考法を学ぶ。いわば、認知心理学的思考に基づいたクリティカルシンキングシンキングである。従来の伝統的クリティカルシンキングにはとらわれず、近年の認知・脳科学的知見を取り入れた新たなアプローチを展開する。すなわち、人間の思考特性を把握した上で、それを制御し、効率的な思考を実践する技術の習得を目指す。学習内容を単なる知識ではなく、知恵として身に着けるために、プレゼンテーションを通したアクティブラーニングを実践する。また、学習機会の拡大のため、積極的に英語文献の読解を取り入れる。	

専門教育科目	コア科目	人体の構造と機能	○	病気、怪我は誰しもに起こり得る。病気や怪我にはその発生部位や原因により多種多様な症状が発現するが、これらを理解するためには、解剖学や生理学の基本的な知識が不可欠となる。本科目では、救急医療の実務経験に基づき、人間のからだの構造や形態を学ぶ「解剖学」と、その機能を学ぶ「生理学」の両方の分野から、病気や怪我を理解し、人間についての医科学的な理解を深める。病気や怪我のメカニズムについて、解剖学および生理学の観点から理解できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （10 八木 茂典／10回） 解剖学基礎、生理学基礎、心疾患の解剖・病態生理、呼吸器疾患と解剖・病態生理、腹部疾患の解剖・病態生理、頭部疾患の解剖・病態生理、内分泌・血液疾患、小児、高齢者の解剖・病態生理 （114 匂坂　量／4回） 外傷、心停止・ファーストエイド、到達度確認	オムニバス
専門教育科目	コア科目	生物統計学	○	細胞や動物を対象とした薬理試験・毒性試験、ヒトを対象とした疫学調査や臨床研究など、生物とくにヒトを対象とした研究の計画とデータ解析に関わる応用統計学が、生物統計学である。本科目では、疫学調査と臨床試験を中心としてデザインの基本とデータ解析の基本（データの記述、2群比較、多群比較と実験データの解析、相関と回帰、回帰分析の拡張と継時データ解析、生存時間解析）について学ぶ。ヒトを対象とするデータを取り扱う「生物統計学」について理解する。人を対象とするデータ解析の数理的な側面を中心に理解し、演習を行う土台とすることを目的とする。生物統計学の基本を学び、疫学研究と臨床試験の論文で使われている統計手法が理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	コア科目	都市環境デザイン	○	21世紀初頭になると、環境デザイン分野は持続可能な都市を実現する勢力として、世界中で急速に拡大を始めた。関連する研究・教育・実務は理工系・農学系・芸術系に大別されるが、本科目では、環境デザインの基礎知識を実践的・学際的・国際的な視点から幅広く学ぶ。人間総合理工学科が扱う環境分野（生態学、持続可能性科学、水代謝システム科学）の応用事例には特に重点を置いて解説し、理解することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （9 原田　芳樹／8回） 環境デザインの基礎、ランドスケープ学の体系（現代の動向、設計の基礎、設計と科学技術、分野構成、伝統的生態学との関連、演習） （6 ホーテス　シュテファン／6回） 地理情報デザイン学（植生、大気、水）、社会生態系の持続可能性、科学・政策インターフェイス、人類が安全に活動できる領域	オムニバス ※演習 講義12回 演習2回
専門教育科目	コア科目	保全生態学概論	○	保全生態学とは、「生物多様性の保全と持続可能な利用」という社会的な目標に生態学の分析・評価アプローチと蓄積された知見をもって寄与する応用科学・政策科学である。本科目では、ヒトと自然環境との関係の変遷をたどり、現代の生物多様性の危機の諸相を明らかにし、持続可能な社会をつくるために自然と共生するための要件を提示するとともに、自然再生など、そのために必要な政策や実践について述べる。生物多様性の保全と持続可能な利用という「自然との共生」にかかわる現代の国際・国内の社会的な目標・政策とその人類史的な位置づけ、社会的な文脈における生物多様性と生態系サービスの分析・評価、自然再生事業等の実践における科学的課題、とくに里山・里地における生物多様性保全の実践・評価における保全生態学的アプローチ等について理解できるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （3 高田　まゆら／9回） 環境の限界と持続可能性、保全生態学と生物多様性、生態系サービスと生態系評価、IPBESと保全生態学的研究との関わり、現代の絶滅：要因と影響、、小さな個体群の絶滅リスクと遺伝的多様性、個体群の空間構造、生物群集の改変、侵略的な外来生物の影響と対策 （6 ホーテス　シュテファン／5回） 湿地の保全と再生、淡水生態系の危機と保全、さとやまと生物多様性、農業がもたらす問題と対策、自然再生と生態系管理	オムニバス
専門教育科目	コア科目	水環境システム学	○	生き物にとって「水」は不可欠な物質であり、水循環を「健全」に保つことは、健康に持続可能な生活を営むうえで極めて重要となる。従来、人間活動がほとんどなかった時代には、水循環が健全に維持されていたが、人間活動が活発になるに伴って、公害に代表されるような環境問題が多発することになる。公害発生を二度と今後発生させないためにも、我々は、公害に至るまでの経緯をきちんと理解し、人間活動を工学的にコントロールしながら自然環境とうまく共生する術を学ぶ必要がある。本科目では、最初に「自然による浄化作用」について理解するために、水環境の基本的な現象について学ぶ。続いて、「人間活動の制御」について理解するために、「上下水道システム」について学ぶ。最後に、合意形成を図るうえで重要となる「環境リスクマネジメント」について学ぶ。これらの学びを通して、都市や地域において、健全な水循環を形成するために必要となる知識と考え方が身に付くことを目指す。	

専門教育科目	コア科目	土壌環境制御学	○	本科目では、「環境・エネルギー自然誌実習」と連携して、資源循環、エネルギーの高効率利用、環境保全に使われる各種システムについて学び、エネルギーや環境に関わる様々なシステムを利用することで資源・環境・エネルギー問題をどのように克服するかについて理解する。特に、多くの循環システムでは粉体が存在している。そのため、粉体内部や表面で生じている移動や反応現象も含めて学習する。広義の環境保全を図るために、様々な資源循環、省エネルギーシステムが開発されてきた。ここでは、それらがどのように設計・解析されてきたのか学習し、環境保全をより推進するための新しい方策を考えられるようにすることを目的とする。科目の目標を達成するために必要な教科書の内容を自身で理解出来るようにすることは、利用可能なデータベースを調べ、問題の解決に役立てられるようになることを目標とする。	
専門教育科目	コア科目	ソフォモアセミナー	○	「フレッシュマンセミナー」では、学科での学びを知り、今後の学習計画を立てること、「人間総合理工学演習」で必要となる知識や能力を身に付けることを目的とし、各教員からオムニバス方式で授業を提供する。具体的には、①グループでの議論およびプレゼンテーションのスキル、②分野をまたいだ総合的なサスティナビリティーの視点、③学習意欲の醸成、④大学院進学に向けた準備、⑤就職活動に向けた準備、についてスキルの修得を目指す。前半では、ファシリテーションおよびプレゼンテーションについてそれぞれ実習を交えながら学習する。後半では、学科の先輩へのヒアリングなどを通じて、将来ビジョンを形成すると共に、大学院への進学や就職に向けた準備に繋げる。自分の強みと弱みを理解し、効果的に自分自身を対外に伝える能力が身に付くことを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （11 山村　寛／7回） 人間総合に必要な能力、ファシリテーション（講義編・実践編・公開編）、プレゼンテーション（講義編・実践編・公開編） （6 ホーテス　シュテファン、11 山村　寛／1回）（共同） SDGs思考とサスティナビリティー （4 檀　一平太、9 原田　芳樹／2回）（共同） 「先輩に聞こう」グループ分けとテーマ決定（グループワーク）、取材調書の作成 （4 檀　一平太／2回） 取材、編集 （7 三苫　好治、9 原田　芳樹、11 山村　寛、6 ホーテス　シュテファン、4 檀　一平太、3 高田　まゆら、8 竹内　文乃、2 小峯　力／2回）（共同） まとめ、発表会	オムニバス
専門教育科目	コア科目	救急理論・実習	○	救急の出動増加に伴う救急受け入れ問題と、東日本大震災（大津波）にみられたように緊急・災害救助が求められる現代社会において、如何に生き延びるかが課題となっている。つまり「想定外に生きる」知識と技術が必要である。本科目では、一次救命の知識、技術を学び、心肺停止（CPA）の傷病者の確実な社会復帰を図るための心肺脳蘇生（CPCR）及び対外式除細動器（AED）による質の高いBLS技術を学ぶ。また、理工学の視点から自然災害に対するリスク管理を考えるとともに、現地実習を基に観光地における救急救命と災害対策（減災）について、人の利用と適切な安全管理の観点から人（命）を軸としたモノつくりを考える。人々の生命を軸として、生命にかかわる事態への対応、および事故リスクに対するロジカルな思考方法や対策が身に付くことを目指す。	共同
専門教育科目	コア科目	環境デザイン概論・実習	○	伝統的なデザインの実践と比較して、21世紀の環境デザイン分野では、環境と人間社会に関する定量的な情報（数量、形状、時間、パターンなど）を戦略的に活用し、未来構想を力強く一般社会に訴えかける技法が発達してきた。本科目では、このような環境デザイン分野の技法を学び、研究やビジネスへの幅広い応用に必要な基礎的スキルを身に付けることを目的とする。最初の授業で受講者は東京都特別区の模擬アンバサダーとなり、毎週出題される課題を通して、自分の区の様々な情報を扱う。住む場所、働く場所、そして観光地としての問題点と可能性に重点が置かれ、終盤のグループ総合実習では、自分の区の将来的ビジョンを国内外に売り込むプレゼンテーションを行う。ソフトウエアはInkScapeを使用し、必要最低限のデジタル編集スキルを学ぶ。	※実習 講義7回 実習7回
専門教育科目	コア科目	プログラミング言語1	○	本科目では、プログラミングの基礎を演習を通して学ぶ。言語としてはPythonを用いる。具体的には、アルゴリズムとプログラミング、Pythonの実行手順と基本文法、データ型、演算子、論理演算、配列、関数、制御構造（順次と分岐、反復）、数値演算、標準ライブラリ、オブジェクト指向、について解説し、演習を行う。この授業の目的は、Pythonを「なんとか使いこなし」て、「役に立つプログラムを作る」ことである。近年、アカデミアおよびテック系企業の双方において爆発的に需要の高まっている Python によるプログラミングを学習・演習することで、データ処理に必要な論理的思考方法と、プログラミングに関する最低限のノウハウが身に付くことを目標とする。	※演習 講義7回 演習7回
専門教育科目	コア科目	応用生態工学	○	応用生態工学は空間情報科学、都市計画、環境保全、防災、保健医療、観光、ナビゲーション、エリアマーケティングなど幅広い分野を扱う学問である。本科目では、人間社会の課題を定量的に扱う戦略の一つとして空間情報科学の基礎知識を学ぶ。そして実践的・学際的・国際的な視点を育むため、日常生活から専門的な意思決定に至るまで、国内外の様々な活用事例を紹介する。人間総合理工学科の扱う環境分野（環境デザイン、生態学、持続可能性科学、水代謝システム科学）の応用事例には重点を置いて解説し、理解することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （9 原田　芳樹／7回） 空間情報科学の視点、学術論文の基礎、空間情報科学の分野構成、空間情報科学の身近な研究事例、ビッグデータ時代の空間情報科学、空間情報科学の認知・行動、空間情報学と生態学 （6 ホーテス　シュテファン／7回） 空間情報科学と都市計画、空間情報科学と生態系サービス、iTree Grand Prix 、植生と気候の相互作用、里地里山、総括	オムニバス

専門教育科目	コア科目	人間総合理工学演習1	○	本科目は、人間総合理工学がめざす豊かな人間生活とsustainableな社会の創造に向けた社会課題解決のための視点と方法論・技法の習得を目的とする。前半では、解決が求められる社会課題を複数の視点から提示し、グループ討論を通じて課題の理解を深める。中盤では、問題解決のための技法と方法論を講義と演習により学ぶ。後半では、グループ別にアクティブ・ラーニングを行う。グループ毎に社会課題を取り上げ、解決に向けた情報収集のための調査を計画し、演習期間内に実施できるパイロット調査を実施し、調査結果を分析し、本格的な課題解決のための提言を行う。社会課題の選択は教官の指導の下に受講者自身が決定するが、新たな視点での都市再開発、緑地活用あるいは開発、都市におけるコミュニティ形成、買い物難民・独居などの高齢者問題、空き家問題、子育て問題、勤労者の健康問題、学生生活の問題などが候補となろう。持続可能な社会づくりに貢献できるように、必要な異分野横断的な知識と技法を身に付けることを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （11 山村　寛／1回） 問題解決とは何か？課題発見と解決方法 （4 檀　一平太、9 原田　芳樹／2回）（共同） ファシリテーション演習、ライティングスキル （7 三苫　好治、8 竹内　文乃／6回）（共同） グループワーク、課題発表 （6 ホーテス　シュテファン／2回） 多基準分析、英語で研究交流 （3 高田　まゆら／1回） 地理情報学（基礎・実践） （11 山村　寛、4 檀　一平太、7 三苫　好治、6 ホーテス　シュテファン、3 高田　まゆら、8 竹内　文乃、9 原田　芳樹／2回）（共同） 中間発表会、最終発表会	オムニバス 共同（一部）
専門教育科目	コア科目	人間総合理工学演習2	○	本科目では、問題を見つけ出す課題設定能力、見つけた課題を解決する問題解決能力、多様な意見をまとめ時間内に仕上げ、マネジメント能力を養うことを目指す。具体的には、教員が選定した対象地について、自然との共生社会・循環型社会の構築を阻む問題を発見し、問題を解決に導く課題を設定し、課題を解決するための筋道を立て、行動・支援するための必要なプロセスを完了する。演習の始めに、課題解決方法の基礎を学ぶ。次に、対象地の現状調査方法について学ぶ。この現状調査では、対象地における仮想課題を設定し、その課題を解決するための種々の方法と、それらの成功例と失敗例について文献などによりまとめる。さらに、現地調査を行い、成功例や失敗例の実際が文献調査などでまとめた結果と相違があるか否かを確認し、それらの一致不一致の原因を考察する。演習の後半では、学生が自ら実際に対象地を選定し問題点の抽出、課題の設定、課題解決方法の提案を行う。	共同
専門教育科目	コア科目	環境エネルギー・自然誌実習	○	本科目は、大きく二部に分けて行う。第一部は、資源・エネルギー循環操作、及び物理化学的に環境修復作業を行う際に必要となる混相流動、水処理、平衡分離や速度差分離などの各種操作に関する実験を行う。また、実験結果の考察やレポートの作成等を通して、データの取り扱い方や報告書・論文の作成方法について学習する。第二部は、生物多様性の保全・管理のための野生動物（外来種を含む）、節足動物、植物の観察に必要な基本事項、生活史理解に資する観察・採集法や実験法を実験室や東京大学小石川植物園等にて学習する。環境・エネルギー・物質循環と自然誌に関わる基本的な知識について、これらを実習によって身に付け、使えるようにすることを目的とする。レポートの作成法を学び、獲得した知識を発信できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （7 三苫　好治、11 山村　寛／1回）（共同） 実習ガイダンス、個別実習テーマに関する講義、データ整理に使う表計算マクロプログラミング、安全講習 （7 三苫　好治／4回） 実習（固気系流動層（気泡流動層）、小型PC（ラズベリーパイ）を使った「計測と制御」の基礎、吸着除湿（デシカント空調）、単蒸留（エタノール一水系）） （11 山村　寛／4回） 実習（凝集・膜ろ過、リン吸着・回収、河川の水質調査、定量PCRによる一般細菌の定量 （3 高田　まゆら、139 西原　昇吾／5回）（共同） 自然誌実習の意義についての講義と実習ガイダンス、実習（陸上節足動物の採集・観察・同定、池の生物の採集・観察・同定、池や陸上の生物の採集・観察・同定、総括）	オムニバス 共同（一部）
専門教育科目	コア科目	認知科学・健康科学実習	○	認知科学・健康科学はヒトを対象とした科学であり、理系分野の中でも独特の研究技法が求められる。本科目では、まず、研究に先立って研究倫理とその遵守を学ぶ。次に、ヒトの認知、健康といった一見あいまいな計測対象に対し、測定系の確立と妥当性の検討が必要となる。さらに、研究の手順や発表の作法の習得も重要である。特に実験デザインと統計的解析手法は必須である。そして最後に、得られた研究結果が、社会・環境とヒトとの関係においてどのような意義を有するかを考察する。「生活習慣と健康」の解析と考察を通し、ヒトを対象とした研究において、人間の心とからだを"知る、測る、育む"ための基礎知識と研究技法の習得を目指す。 （オムニバス方式／全14回） （4 檀　一平太、142 兵頭　和樹／7回）（共同） 認知科学実験（基礎と解析手法、抑制課題、注意課題、記憶系課題、プライミング課題、ニューロマーケティング課題、総括） （8 竹内　文乃／7回） ヒトを対象としたサプリメントの2重盲検試験と関連研究の準備（役割分担、研究計画立案）、試験と関連研究実施（実施準備、データ収集、データ整理と解析、発表・レポート準備、発表と討論）	オムニバス 共同（一部）

専門教育科目	コア科目	インディペンデントスタディ3B	○	本科目では、教員の指導の下、具体的な研究テーマを設定し、研究室での活動や教員の研究指導を通した、学術的な探究を行う。これにより、これまでの大学生活で得た学びと研究の接点を理解し、卒業研究や修士研究の準備として、研究活動に必要とされる個人での研究計画・遂行能力の育成を目的とする。以下の3つから1つ以上を選び、関連するスキルの習得を到達目標とする。①先行研究のレビューを通した国際的な社会背景・研究動向の理解、②テーマの新規性や生産性を論じる能力の育成、③実習を通した基礎的実験・調査・分析方法の習得。	
専門教育科目	コア科目	卒業研究I	○	本科目と「卒業研究II」は、指導教員と設定したテーマに関して研究を行い、卒業論文を執筆し、卒業研究の内容について学科において発表する。そのうち本科目では、先行研究のまとめや自分の研究で使用するデータの収集が中心となる。研究の実施にあたって、在学中に獲得した知識や技法を活用し、研究テーマの背景を調べ、現時点の知見をまとめ、研究課題を明確化する。研究課題に対して結論を出すために、適切な方法を選び、データ収集を行い、データを整理し、解析し、結果を可視化する。自分の新しい結果と先行研究から引用する既存の知見を照らし合わせ、結果の位置づけや妥当性を考察する。最後に、研究から得られた結論をまとめ、研究の展望や研究結果の実社会における応用の可能性について意見を述べる。	
専門教育科目	コア科目	卒業研究II	○	「卒業研究I」と本科目は、指導教員と設定したテーマに関して研究を行い、卒業論文を執筆し、卒業研究の内容について学科において発表する。そのうち本科目では、研究結果を卒業論文としてまとめ、卒業研究発表会で評価を受ける。研究の実施にあたって、在学中に獲得した知識や技法を活用し、研究テーマの背景を調べ、現時点の知見をまとめ、研究課題を明確化する。研究課題に対して結論を出すために、適切な方法を選び、データ収集を行い、データを整理し、解析し、結果を可視化する。自分の新しい結果と先行研究から引用する既存の知見を照らし合わせ、結果の位置づけや妥当性を考察する。最後に、研究から得られた結論をまとめ、研究の展望や研究結果の実社会における応用の可能性について意見を述べる。	
専門教育科目	展開科目	心理統計学		本科目では、直接観察することが出来ない心理を、出来る限り定量的に測定し、統計解析することを目的とし、それらの理論的背景を学ぶ。心理学分野の先行研究検索、研究計画、統計解析、報告法についての知識・経験・技術を理論的背景を重視して学ぶ。具体的には、報告法、妥当性、信頼性、記述統計・データスクリーニング、推測統計、ｔ検定、分散分析、分散分析、相関分析、回帰分析、について、基礎的な理解を得て、実用に資する理論的背景を習得することを目指す。	
専門教育科目	展開科目	心理統計学演習		本科目では、直接観察することが出来ない心理を、出来る限り定量的に測定し、統計解析することを目的とし、演習を通じて、心理学分野の先行研究検索、研究計画、統計解析、報告法についての知識・経験・技術を学ぶ。具体的には、報告法、妥当性、信頼性、記述統計・データスクリーニング、推測統計、ｔ検定、分散分析、分散分析、相関分析、回帰分析、について学び、最後にポスタープレゼンテーションを行う。データを解析した結果を、APAフォーマットに従い、論理的に報告できるようになることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	保全生態学フィールドワーク・データ解析		本科目では、良好な里地里山環境が残されており、地域主導による里地里山の自然再生事業「久保川イーハトーブ自然再生事業」が進められている、岩手県一関市内萩荘地区において、2泊3日の野外実習を行う。実習では、水田、畦畔、水路、溜池、二次林などからなる里地・里山の生物相および自然再生地とそこでの活動について学び、植生、昆虫類、鳥類、水生生物等のモニタリング法をはじめとする保全生態学の野外調査手法と考え方を実践的主体的に学ぶ。野外調査で得られたデータは、引き続く室内実習においてデータを統合解析し、発表と討議を行う。 里地里山の生物多様性保全と自然再生に必要となる保全生態学的な考え方やモニタリングの技術を、フィールドにおける実習とデータ解析演習を通じて実践的に学ぶことを目的とする。フィールド調査の計画、調査の実施、データの記録とデータの解析とそれにもとづく考察までの技法が身に付くことを目指す。	共同
専門教育科目	展開科目	基礎生物・生化学		現在の地球上には多種多様な生物が存在する。しかし、その進化の歴史を紐解けば、1種類の祖先に行きつくはずである。実際、多様な生物間においても、その基本原理とも言える構造や機能には多数の共通点が存在する。本科目では、DNAやタンパク質から多様な生命現象が生まれる仕組みを解説するとともに、生物の模様形成、体内時計、味覚、老化といった身近な生命現象の原理を取り上げ、生物学・生化学の基礎概念の定着を目指す。また、遺伝子工学技術やシステム生物学など、最新の生物学分野についても紹介する。この科目での学習を通じて、生命現象の基本原理やその知識の活用についての認識を深めるとともに、生物学・生化学に対する基礎的な知識を習得することを目的とする。①生命単位や生命現象について、基礎的な専門用語を用い、他者に説明できるようになること、②身近な社会課題について、生物学の視点から解決する方策を提案できるようになることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	地球科学		本科目では、「地球の希少さ」と「地球の動き」に着目する。他の惑星と地球の環境を比較する「比較惑星学」から導入し、地球の内部構造、地球の「動き」の代表である地震・火山といった「大地」の動きにまず注目する。そして、現代の社会に生きる人々が必ず考慮しなくてはならない「環境変動」という地球の「大気」の動きへと話を繋ぐ。「環境変動」の授業では、実際に過去の地球に起きたダイナミックな気候変動についても触れ、地球が一定のシステムを持って動き続けている事に着目する。授業ではできるだけ具体的事例や最新の情報を取り込み、写真や映像教材なども活用する。地球の動きに注目しながら、地球システムの特徴を理解することを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	科学技術の発展と人間社会		科学技術は、社会生活を豊かにした反面、公害や薬害、環境問題などの負の影響をもたらした。こうした負の側面を回避するために、科学技術と人間社会の間に新たな関係を構築することが求められている。本科目では、科学技術と人間社会のこれまでの相互関係を歴史的に跡づけるとともに、その延長線上で現代社会が抱えることになった諸問題について考察する。その上で、両者の関係のあるべき姿について展望する。①科学技術の発展史を人間社会の展開・変化と関連づけて理解できるようになること、②現在の科学技術社会が抱えている問題にいかに対処すべきかを考え、科学技術とのよりよい関わり方を構想できるようになることを目指す。	

専門教育科目	展開科目	現代物理学1		本科目では、量子力学について学ぶ。高等学校で学習した古典力学と量子力学がどう違うのか、また量子力学がどのようなもので、また、何に使えるのかまでを説明する。具体的には、光の波動性と粒子性、物質の粒子性と波動性、波の重ね合わせと不確定性関係、シュレディンガー方程式と波動関数、物理量と期待値、演算子と物理量、「状態ベクトル」としての波動関数、分散と不確定性関係、1次元の簡単なポテンシャル内の粒子、1次元の束縛状態と散乱、1次元調和振動子、3次元のシュレディンガー方程式（角運動量、波動関数・水素原子）について解説し、理解を深める。授業を通じて「量子力学とは本来どういうものか」を正しく理解することを目標とする。	メディア
専門教育科目	展開科目	現代物理学2		熱力学、統計力学はどちらかといえば古典物理学に属するテーマであるが、物質の状態や我々が日常経験する物質の性質を理解する基礎となる分野である。本科目では、熱力学とその応用を中心に、熱力学で示される性質をミクロな粒子の力学から導く統計力学の初歩を学ぶ。物質の状態や性質を記述する基礎としての熱力学を学び、エントロピーの概念や熱力学の考え方がどのように応用されているかを理解する熱力学の諸概念（自由エネルギー・エントロピー・熱力学第１法則・熱力学第２法則など）を理解し、それにより日常的な現象がどのように説明されるのかを自身の言葉で説明できるようになることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	地学1		地球上には生命が育まれ、私たち人類も出現し、豊かな文化や芸術も生まれた。私たちが享受する美しい自然も地球の変化の産物である。一方で、そうした地球の変化は、ときに私たちにとって脅威となる。地震、洪水などの自然災害は地球の変化のひとつの側面であり、私たちは否応なしにこれらと対峙しなければならない。さらに近代以降は、逆に、拡大する人類活動が地球という惑星や私たち自身を含むそこに生きる生命にとって脅威となりつつある。このような時代において、さまざまな現象を地質学的時間・空間スケールで捉えることは、私たちの存在を再認識する上でも、また、自然災害を軽減し環境問題を解決するためにも重要であり、これからの時代を担う科学者・技術者・教育者にとって必須の素養と言っても過言ではない。本科目では、地球に変化を与える２種類の主たる営力（内的営力と外的営力）のうち、内的営力（地球内部に起因する営力）に関する内容、具体的には、プレートテクトニクス、鉱物、岩石、火山、地震などについて学び、理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	地学2		地球上には生命が育まれ、私たち人類も出現し、豊かな文化や芸術も生まれた。私たちが享受する美しい自然も地球の変化の産物である。一方で、そうした地球の変化は、ときに私たちにとって脅威となる。地震、洪水などの自然災害は地球の変化のひとつの側面であり、私たちは否応なしにこれらと対峙しなければならない。さらに近代以降は、逆に、拡大する人類活動が地球という惑星や私たち自身を含むそこに生きる生命にとって脅威となりつつある。このような時代において、さまざまな現象を地質学的時間・空間スケールで捉えることは、私たちの存在を再認識する上でも、また、自然災害を軽減し環境問題を解決するためにも重要であり、これからの時代を担う科学者・技術者・教育者にとって必須の素養と言っても過言ではない。本科目では、地球に変化を与える２種類の主たる営力（内的営力と外的営力）のうち、外的営力（太陽エネルギーや重力に起因する営力）、具体的には、風化、重力移動、河川、氷河と気候変動、風、波などについて学ぶとともに、地質年代や地球の歴史についても学び、理解を深めることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	微生物学		微生物は、我々の生活空間や体内に無数に存在し、人間の生活や活動をサポートしたり、自然界における物質循環を担ったり、ときには、人間の健康をも左右する。昨今のゲノム解析技術の進歩によって、これまでの常識が覆るような発見も数多くあり、今後の技術開発や自分自身の身を守る手段として、微生物学に関する知識はますます重要になってきている。本科目では、微生物学における最新の研究例まで幅広く扱い、その基礎を学ぶ。微生物学に関する幅広い知識の習得を目的とする。本科目の前半において、微生物学の基礎知識を習得し、物質循環のメカニズムが理解できるようになること、また後半において、強力な研究ツールとなる基礎分子生物学を習得し、微生物と人間社会の関わりについて理解できるようになることを目指す。	メディア
専門教育科目	展開科目	水環境工学		本科目では、上水道と下水道の基本的な技術とシステムを学ぶ。さらに基礎知識の習得にとどまらず、近年、上下水道において問題となっている課題や、最新の水処理・汚泥処理・維持管理技術についても学習する。水環境を清浄に保ち、健康で文化的な水供給を実施するために不可欠となる上水道、下水道工学についての基礎を学び、また水に係わる経営やSDGsについても学ぶことで、今後の環境分野の方向性について展望を得ることを目的とする。上下水道の課題について理解し、技術だけでなく、経営、維持管理、人材育成、国際展開など、多角的にインフラの課題を捉えることができる視点を養い、自分なりに未来の上下水道インフラに関する意見を持ち、論理的に伝えられるようになることを目標とする。	
専門教育科目	展開科目	保健医療情報処理		本科目では、臨床評価・疫学調査、医療改革のためのデータを得るための基盤システムとして、電子カルテやレセプト等の医療データベースの意義と課題を解説し、プライバシーなどこれらを活用する上での課題や具体的利用事例を学ぶ。位置情報・空間情報についても「空間疫学」と呼ばれる疫学研究の具体例とともにGISデータに触れ、その詳細や具体的利用事例について理解を深める。「医療データベース」の意義と課題および「位置情報・空間情報」の利用事例について理解を深めることを目的とする。保健や医療が抱える課題を情報処理技術によって解決するにはどうすべきかについて理解できるようになることを目標とする。	

専門教育科目	展開科目	プログラミング言語2		本科目では、「プログラミング言語1」で学習したPythonについて、その先端科学秘術分野での使われ方を学ぶ。また、「プログラミング言語1」での学びを復習しつつ、Pythonの基礎と応用を、演習を通じて学ぶ。具体的には、Pythonの復習（関数とクラスの概念、クラスの利用方法、ライブラリの読み出しと利用方法）、GUI基本操作（表示と制御、簡易GUI表示、ファイル入出力、画像変換、画像応用）、機械学習（定義、手順、アルゴリズム）、画像認識と深層学習、Pythonによる最先端科学技術、について解説し、演習を行う。Pythonの「研究やデータ解析、分析などでの使われ方」を知り、基礎知識を学びながら簡単な応用を体験し「先端にある科学技術を身近に触れ」て、「なんとか使いこなせるようになる」ことを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （4 檀　一平太／7回） 科学技術とPythonプログラミング：日常の業務から最先端技術まで（Pythonによる最先端科学技術）、Pythonの復習（関数とクラスの概念、クラスの利用方法、ライブラリの読み出しと利用方法）、GUI基本操作（表示と制御、簡易GUI表示、ファイル入出力、画像変換、画像応用） （142 兵頭　和樹／7回） 機械学習（機械学習とは、機械学習の手順、機械学習アルゴリズム、画像認識と深層学習、Pythonによる最先端科学技術；何ができるか、したいか）	オムニバス ※演習 講義7回 演習7回
専門教育科目	展開科目	生物統計学演習		本科目では、統計パッケージSASの使い方の基本とデータ加工を学ぶ。次いで基礎的な集計とグラフ化、応用頻度の高い統計手法について主に医療・保健系の例題を用いて、解析指示と結果の解釈の仕方について学ぶ。「生物統計学」で学んだ内容を実際の統計解析パッケージSASを用いて実装し、自身で実データの解析（基礎的なデータハンドリング、集計とグラフ化、応用頻度の高い統計手法の利用と結果の解釈）ができるようになることを目指す。	
専門教育科目	展開科目	認知マーケティング		マーケティングが働きかけるのは消費者の脳である。そこで、消費者の脳の働きを解明し、マーケティングに活用するというアプローチが有用となってくる。このような試みは、ニューロマーケティング、消費者神経科学として研究が盛んになりつつあるが、学問分野としてはまだ発展途上である。本科目では、その概要を捉え、今後の分野発展に関する洞察を得る。特に、方法論に関しては重点を置く。この意味で、認知脳科学の研究法に関するガイダンスも得られる。本消費者認知神経科学における基礎的なリテラシーを涵養し、消費者の脳で展開する思考に関する洞察を得ることを目的とする。消費者認知脳科学の基本概念を理解し、自分自身の視点から分野を捉える能力が身に付くことを目指す。	
専門教育科目	展開科目	機器分析化学		環境中には、現在多岐に渡る物質が放出されており、これらの物質の質および量を正確に計測することで、リスクを管理することが求められている。特に、近年では、pptオーダーまで正確に分析できる手法も開発されており、分析技術はこの20年間で急速に発展している。一方で、これらの高度な分析装置を利用するにあたっては、分析に関する基礎的な原理や分析の基本的な技術が欠落している場合には、正確な値が出てこない場合がある。本科目では、機器分析で必要となる基本的な分析技術を解説する。また、分析装置の原理や測定方法などを学び、実際に分光光度計や蛍光分光光度計の操作を通して、分析を実施する際に気をつける事項などについて学習する。環境・エネルギー・自然誌実習で必要となる分析化学の基礎が身に付くことを目指す。	
専門教育科目	展開科目	ヒューマンウエルネス論		本科目では、健康・スポーツ医科学的な立場から、各ライフステージ（幼児期から高齢期）における一般の人、障害のある人、アスリートなど多くの人たちを対象として、それぞれの目的に応じたwell-beingな状態とは何かを探究する。具体的には、心身のバランスとヒューマンウエルネス、健康心理学からのアプローチ（こころとからだのつながり）、スポーツ心理学からのアプローチ（スポーツウエルネス）、WHOによる"健康の定義"が見直された理由と今後の課題、障害者から学ぶ"生きがい論"、幸せな人間関係の構築、ストレスとの付き合い方、挫折からの立ち直り（レジリエンスとは）、強み（strength）への注目、健康・スポーツ科学からのアプローチ（可能性への挑戦）、予防医学・行動科学からのアプローチ （ファースト・エイドの重要性）について解説し、理解を深める。 （オムニバス方式／全14回） （2 小峯　力／4回） 健康・スポーツ科学からのアプローチ、予防医学・行動科学からのアプローチ （85 村井　剛／9回） 心身のバランスとヒューマンウエルネス、健康心理学からのアプローチ、スポーツ心理学からのアプローチ（スポーツウエルネス）、WHOによる"健康の定義"が見直された理由と今後の課題、各ライフステージにおけるWell-beingな状態とは、障害者から学ぶ"生きがい論"、幸せな人間関係の構築、挫折からの立ち直り、強み（strength）への注目 （167 渡邉　真弓／1回） ストレスとの付き合い方	オムニバス

専門教育科目	展開科目	サスティナビリティ行動科学		本科目では、持続可能性に関する国際的な議論に影響を与えた主要な出版物を読み、その議論がどのように政策や法的枠組み、インセンティブ制度に反映されてきたかを分析していく。環境的、社会的、行動的、認知的、経済的側面を含む包括的な方法で持続可能性の問題と解決法を学ぶことを目的とする。本科目の学びを通じて、①持続可能な選択肢を決定するために、私たちは何を知る必要があるのか、②これらの決定のために信頼できる情報を提供できるとして、私たちは個人として、また集団として、私たちの行動をこの情報に結びつけることができるのか、といった問いに、環境政策や、行動経済学からのソリューションを得られるようになることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （6 ホーテス　シュテファン／7回） 持続可能性の測定-原則と課題(私たちは持続可能な行動をとるべきか？)、安定性と回復力の倫理、持続可能性指標の実際-各国のパフォーマンス評価、スーパーマーケットにおける持続可能性(商品ラベルは何を示し何を隠すのか)、楽しくする(余暇活動としての持続可能性への取り組み)、持続可能なライフスタイルのパイオニアとしての大学？ （4 檀　一平太／7回） 行動経済学入門、持続可能性に関するヒューリスティクス、認知バイアス、プロスペクト理論、メンタルアカウンティング、持続可能性の促進、持続可能な社会を実現するための行動上の課題	オムニバス
専門教育科目	展開科目	国際サステイナビリティ計画		本科目の前半は、広域的な地域計画を取り上げ、国連その他の国際的な組織が作成する環境計画の基礎的な枠組みや方針について学ぶ。特に欧州連合で進められている環境の保全や持続可能な利用に関する取り組みを事例として挙げる。地方、自治体の計画に関する議論においては物質循環の制御や自然災害対策、野生生物の管理も取り上げ、環境を対象とする計画の多様性について理解を深める。後半は、都市開発や建設事業に伴う環境計画を学ぶ。建築物、道路などの建設による微気候や水循環の変化に環境計画においてどのように対応し、植栽に使う植物をどのような基準に基づいて選定・配置し、五感を通じて多様な利用者に楽しんでもらえる空間をどのように造っていけるかなどというテーマを扱う。人と環境を巡る諸問題を包括的に扱い、問題解決に向けた体制づくりと様々主体の協働によって策定される政策や計画の理論と実践について、演習を交えて把握することが本科目の目的である。 （オムニバス方式／全14回） （6 ホーテス　シュテファン／4回） 環境計画の基礎・環境計画に関する自主研究プロジェクトの選定、環境計画は何故必要か？人と環境の関わりを計画から考える、国連・欧州連合の環境計画、国土計画・環境基本計画など各国における取組 （3 高田　まゆら／3回） 野生生物の個体群管理と環境計画、州や県の環境計画、市町村における環境計画 （6 ホーテス　シュテファン、3 高田　まゆら／1回）（共同） 自主プロジェクトの中間発表 （9 原田　芳樹／6回） 都市環境計画概論、都市スケールの環境計画（都市森林）、街区スケールの環境計画（ランドスケープマスタープラン）、身体スケールの環境計画（プレイスメイキングとアクセシビリティ）、自主プロジェクトの発表と議論	オムニバス 共同（一部） ※演習 講義10回 演習4回
専門教育科目	展開科目	資源循環エネルギー学		本科目では、リサイクルおよび再生可能エネルギーの重要性と、持続可能な資源管理とエネルギー供給を行うための化学技術を解説する。また、それらの課題等も学ぶ。具体的には、人類のエネルギー利用の歴史、わが国のエネルギー事情、最近の火力発電、原子力発電とリスク、自然エネルギーの利用と限界、燃料電池の最前線、循環型社会と資源、電気自動車の最前線、新エネルギーとエコ効率革命、ライフサイクルアセスメント（LCA）、グリーンケミストリー、触媒化学の最前線、について解説し、理解を深める。①資源の定義や省エネルギー条件下でのそれらの循環方法を理解できるようになる、②エネルギー効率を計算し、技術の有効性を評価することができるようになることを目標とする。	
専門教育科目	展開科目	ファシリテーション実習		本科目では、人間総合理工学科の学びを通して習得をした議論と共同作業について、当事者ではなく、外部の立場からファシリテーションを行う技法を学び、実践していく。本実習では、まずファシリテーションの理論的基礎とスキルとして理解力、論理的思考能力、傾聴力、交渉力を習得する。一方で、知識のインプットだけにとどまらず、実践の場を通した活用を重視する。特に、大学における様々な演習科目を実践の場として活用し、机上の空論ではなく、生きた技法の習得を目指す。本実習を通して、実際の社会において、様々な分野に通じるファシリテーション能力を涵養し、実地応用の素を実装すること目指す。	
専門教育科目	社会理工学部共通科目	社会理工学概論	○	社会理工学部で学ぶ幅広い分野について概論的に紹介するとともに、社会に貢献する科学技術分野を学び、理解することを目的とする。各学科から、学部横断的に重要かつ理解も深まるテーマを選んで講義するものである。本学部では国際化を強く推進しているため、前半では英語の体験学習を通じた国際性の素養の基礎を身に着ける。後半では、3学科から3つずつのテーマで学際的な内容について講義する。都市環境学科の学門分野からは、都市計画、防災とテーマとした内容、ビジネスデータサイエンス学科の学問分野からはデータサイエンスを軸とした内容、そして人間総合総合理工学科の学問分野からはサステナビリティと人間社会、グリーンインフラの役割という内容の講義を通して、社会理工学を俯瞰的に理解できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全14回） （43 手計　太一／5回） 英語体験学習、気候変動と水防災 （54 樋口　知之／3回） ビッグデータ時代におけるデータサイエンスの役割 （8 竹内　文乃／2回） 英語体験学習、医療と統計 （3 高田　まゆら／2回） 生態学 （7 三苫　好治／2回） 環境汚染	オムニバス

学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。	メディア
学部間共通科目	短期留学プログラムⅡ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	メディア
学部間共通科目	短期留学プログラムⅢ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。	
学部間共通科目	短期留学プログラムⅣ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は2年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｂ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は3年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｃ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は4年次に履修する。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習A（1）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行なうための基礎的な考え方と技術を修得することを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習A（2）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決をおこなうための技術と方法への理解を深め、その実行と結果の解釈・フィードバックを行なうことができる力を身につけることを目標とする。	メディア

学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習B（1）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行なうための考え方と技術を修得し、その実践を行うことを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習B（2）では、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決を行うための考え方と技術をさらに深め、その実践を行うことを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(1)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習C（1）では、演習A、Bを通じて修得したAI・データサイエンスの知識と技術を活用して、様々な実社会の問題における課題発見、課題解決、結果のフィードバックを踏まえた改善というサイクルを自主的に回すことができる能力を身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(2)		データサイエンスに関連するテーマをクラス別に定め、ゼミナール形式による実践的なグループ活動を行う。 AI・データサイエンスツールで学んだスキルを活用しながら，産業界や科学技術分野，身近な社会で取得された現実のデータに基づいて課題発見・課題解決を目指した総合的な活動を行う。3 学年の活動を合同で行い、学年に応じた役割でグループ活動に参加することで、 AI・データサイエンス系のさらなる知識・技術習得や各専門分野の学修への意欲を高めることを目指す。演習C（2）では、演習A、B、C（1）を通じて修得したAI・データサイエンスの知識と技術を活用して、様々な実社会の問題における課題発見、課題解決、結果のフィードバックを踏まえた改善というサイクルを自主的に回すことができる能力を高い水準で身につけることを目標とする。	メディア
学部間共通科目	グローバル・テュートリアル		グローバル化が急速に進展する時代の要請に応えていくため、学部学生（日本人学生・学部留学生）、選科生が、テューター（教員）の助言のもとで、小人数グループ討論を行う。英語または中国語を使用言語として、アクティブな討論を行うことにより、国際的に活躍するための実践的素養を身につけることを目標とする。 討論を指導する担当教員（テューター役）は、海外で実務家として働いた経験を有し、一定の要件を備えた者である。	
学部間共通科目	専門インターンシップ		本科目では、海外の特定の企業・機関で2週間のインターンシップを行う。物理的・文化的環境の異なる職場で働くために学ぶべき知識、身につけるべきスキル、海外で通用する仕事をするための姿勢（態度）を、自ら目標を設定しながら身につけることを目的とする。インターンシップ実施前に2回の事前学習を、実施後にレポートまたはプレゼンテーションを行うことにより、インターンシップで得た知識を自身の中で体系化することも目的である。	
学部間共通科目	グローバル総合講座		本科目では、ジェンダー、経済、社会、政治的格差をテーマとし、世界的・地域的な不平等に焦点を当てる。毎週、世界で生じる様々な問題について研究や活動を行う専門家が講義を行うことにより、グローバルとローカル双方の視点から多角的な視点から不平等を理解する。さらに、ローカルな不平等とグローバルな不平等の関連性を確認し、多様な視点から包括的に理解する。講義とディスカッションを通して、様々な不平等を批判的に学修することを目的としている。 （オムニバス形式　全14回） （135 ティン ティン トゥン/11回） 　グローバル・ジェンダーギャップ、ジェンダーと職場の不平等、国境を越えた移民と不平等、気候変動と不平等のテーマの他、リサーチ・プレゼンテーションの指導および授業の振り返り （67 李　里花、135 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 　韓国と日本の関係 （163 山下　梓、135 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 　LGBTIW＋と人権 （141 番園　寛也 、135 ティン ティン トゥン/1回）（共同） 　身体的不平等と社会	オムニバス・共同（一部）

学部間共通科目	グローバル集中講義		投資・開発プロジェクトによる環境および社会への影響を特定のうえ、評価、最小化、緩和する方法について基本的な事項を理解することを目的とする。履修者は、地球環境保全とそれに対処するための国際戦略、環境・社会政策、欧州復興開発銀行（EBRD）等の国際機関の実践活動に触れて学習する。また、環境要因がビジネスの意思決定上にどのように影響するかについて学習する。更に、英語で環境知識を身につける実践的な方法を学ぶ。	
学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング		「グローバルアクティブラーニング」で決定したSDGsに関連するテーマについて、海外の学生と遠隔で毎週グループワークを行い、英語によるプレゼンテーションの準備と発表を行う。 海外学生とのグループワークで心を通わせる体験を重ねることを通じて、本科目のルーブリックで定義する異文化コミュニケーションのKSA力を身につけることを到達目標とする。	メディア
学部間共通科目	グローバルアクティブラーニング		「グローバル遠隔ラーニング」で海外の学生と充実したグループワークを行うことを前提として、英語で自分自身を表現し、地球規模課題についてコミュニケーションをとれるようになるために、SDGsの目標について学び、その中で自分が関心を持つ分野について英語で表現し、海外大学の学生の関心のあり方を理解しながら議論を行い、海外大学との共同プロジェクトのテーマを決めることを目的とする。授業は2回のプロジェクトマネジメントを行うことに加えて、海外の大学に対面形式で約1週間参加し、現地の学生との共同プロジェクトについて話し合い、内容や方法を調整する。	
学部間共通科目	AI・データサイエンスと現代社会		データサイエンスは、多種多様なデータや情報を分析して問題解決に取り組もうとする際に必要な学問である。本科目は、AI（人工知能）やビッグデータの活用もふまえながら、実務家講師から実践例を学び様々な視点から議論を行うことで、データサイエンスの適用方法や有効性、課題を学ぶ。講義の中でデータサイエンスが社会でどのように活用されているのか幾つかの事例を示し、課題の背景を学びながら解決に至る道筋や技術的な基礎知識を養う。これにより学部学科に関わらず、ある課題に対してデータサイエンスの手法をどのように実践したらよいか計画を打ち立てることができる、一連の基礎能力を身に着けることを目標とする。 （オムニバス形式　全14回） （72 大草　孝介/5回） 　初回は授業の位置づけ、ねらい等を説明し、意欲を高める。2回目以降はAIの基礎やデータの可視化、集約の手法等も踏まえながら、社会で起きている変化や活用されているデータ、AI ・データサイエンスの活用に関することを取り扱う。 （101 小野　陽子/3回） 　人間中心のAI社会に関して、品質や要件定義の問題、倫理の問題や関連する議論の動向を解説する。 （59 松崎　和賢/3回） 　データを守る上での留意事項として、情報セキュリティにおける留意事項を解説する。 （16 岡嶋　裕史/3回） 　個人情報保護と関連する問題等を解説する。また、総まとめを行う。	オムニバス・メディア

学部間共通科目	AI・データサイエンス総合		「AIやデータサイエンスがもたらす価値」、「デジタル技術が行き渡った社会における課題」という大きく分けて２つのテーマを学ぶ。前者は技術的な作業の体験も行い、後者では講義の中で身近にどのような課題がありうるかについて考える。基礎的な統計概念、データに基づく思考や問題解決に関する基礎概念や、データ利用に関する倫理などの概念について、AI・データサイエンス領域における関係性を理解することを通じて、AI・データサイエンスに関連する課題に対する認識を深めるとともに、AI・データサイエンス領域の基礎的な知識を習得することを目的とする。 （オムニバス形式　/全14回） （17 岡田　大士・54 樋口　知之/1回）（共同） 全体の概要と授業で用いる基本的な用語説明を行う。 （143 廣岡　信行/1回） 生成 AI（Generative AI）の基礎と活用事例の紹介を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （143 廣岡　信行・73 大野　航太/2回）（共同） デジタルツイン（Digital Twin）の基礎と活用事例の紹介、 生成AI・デジタルツインによる課題解決に関する議論をゲストスピーカーを招聘して多角的に説明する。 （126 高橋　誠人/1回） AI・ロボットの普及に伴う職業の変化とキャリア形成の考え方 （54 樋口　知之/1回） データ活用人材の育成について、ゲストスピーカーを招聘して具体的に説明する。 （73 大野　航太/1回） AI・データ活用による課題解決に関する議論を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （146 福元　徳弘/3回） AI・データサイエンスの活用事例の紹介、課題解決に向けたAI・データサイエンスの導入の進め方、AI・データサイエンスの標準化の取り組みについて （164 山下　勝司/2回） デジタルトランスフォーメーションの導入事例、デジタルトランスフォーメーションの開発と技術 （164 山下　勝司・81 中村　周史/1回）（共同） デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論 （40 武石　智香子/1回） 授業まとめと今後の学修について	オムニバス・共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅠ		データサイエンスは社会科学や人文科学の分野ともかかわりが深い。世論調査やマーケティング調査などの個票データ、人口や経済の統計データ、実験などの行動データはその一例である。本科目では、社会調査データの分析ツールの基本となる表計算ソフト「Excel」と、統計パッケージの中でも操作が比較的簡単な統計パッケージ「SPSS」を取りあげ、ExcelとSPSSの基本的な利用方法を理解することを目的とする。到達目標は、社会調査や統計データを用いて基本的なデータ分析を自分自身で行えるようになることとする。 （オムニバス形式　全14回） （40 武石　智香子/10回） Excelから入るデータ整備、分析、集計、Pythonによるプログラミング、Excelの自動化、データベース入門、SQL、Pythonによる探索的データ分析、最適化の考え方を用いた分析、統計的推定と仮説検定 （40 武石　智香子、81 中村　周史/1回）（共同） Excelによる探索的データ分析（可視化） （40 武石　智香子、115 佐々木　亮/1回）（共同） データアナリティクスと機械学習 （115 佐々木　亮/2回） AI体験学習（画像認識、自然言語処理）	オムニバス・メディア共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅡ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをなるべく少ない操作で自動化して分析するツールが不可欠である。また、昨今はウェブサービスとして各種のAPI（Application Programming Interface）が整備されており、インターネット上のデータをAPI等を用いて自動的に収集するための環境が整っている。 本科目では、プログラミングを用いてスクリプトによるデータ分析を実現するために適しているプログラミング言語であるRubyを習得することとに加え、Rubyを用いてウェブアプリケーションを簡単に作成し得るRuby on Railsについて理解することである。到達目標は、Rubyを用いて簡単なデータ分析を自身でできるようになることと、簡単なウェブアプリケーションを構築できるようになることである。	メディア

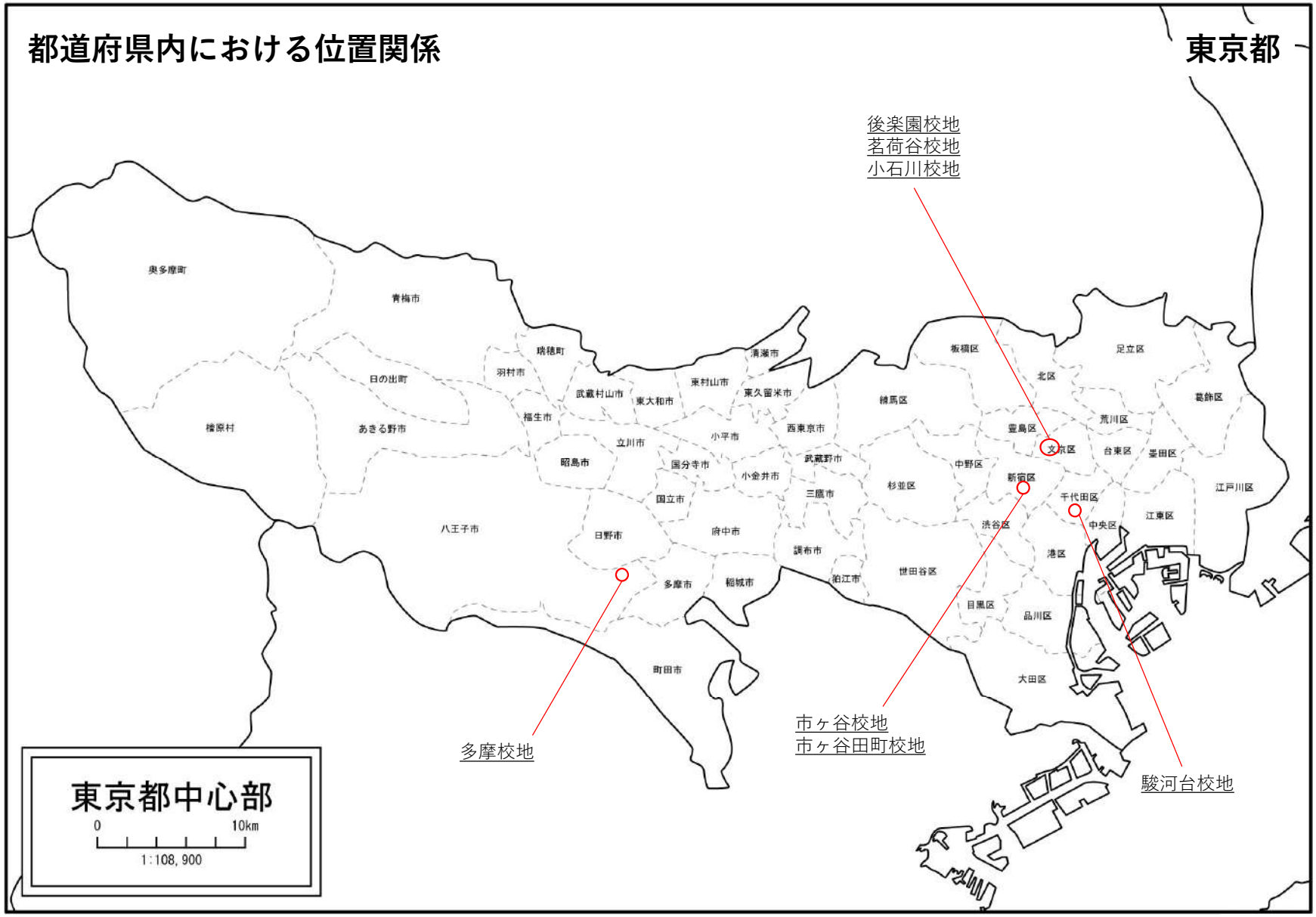
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅢ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをラングリングし、視覚化・分析するツールが不可欠である。 本科目では、プログラム的な基礎知識を要することなくこれらを行うことができるBI（ビジネス・インテリジェンス）ツールと、データサイエンスにおける基礎言語の一つであるRの基礎、そしてデータ加工、可視化、データ分析の基本的な考え方を学び、理解することを目的とする。また、到達目標は、数万件程度までの比較的小規模のデータについて、データ加工、可視化、基本的なデータ分析を自身で行えるようになることである。 （オムニバス形式　全14回） （73 大野　航太/7回） データの読み込みとサマリー、データラングリング、ダッシュボードやノートによるレポーティング、R、グラフ作成とカスタマイズ、Rでのデータ・アナリティクス、Rmarkdownによるレポーティング （73 大野　航太、77 酒折　文武/7回）（共同） AIとBI、データサイエンスとツール、グラフや表による可視化と分析、統計と機械学習、Exploratoryのさらなる活用、データの読み込みと操作、データラングリングの詳細、Shinyでウェブアプリ構築	オムニバス・メディア共同（一部）
学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅣ		AI・データサイエンスにおいて、データ分析・機械学習や可視化をウェブアプリと連動させたり、音声認識・画像認識などのタスクを行ったり、さらには深層学習や強化学習を含む人工知能を開発したりするためには、汎用的なプログラミング言語が不可欠である。また、格納されているデータベースの操作を行うにはデータベース言語が必要となる。 本科目では、汎用的プログラミング言語の中でデータサイエンスにおける中心的な役割を演じているPythonと、データベース言語SQLを学び、基本的な事項理解することを目的とする。到達目標は、Pythonを用いて数十行程度のプログラムを読んで理解・修正できること、そして簡単なプログラムを自分で作成できること、およびSQLiteを用いてデータベースからのデータ抽出や基本的な処理を行えることとする。	メディア
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（基礎編）		本科目は、大学生として学術的文章作成に必要な知識・技能・態度を基礎から学ぶことで、大学での学びの基礎となる学術的リテラシー（読み書き能力）を身につけることを目的とする。大学生として身につけておくべき学術的な基礎知識を理解し、大学での学修に必要な〈知る／読む／考える〉ことに習熟しながら〈書く〉ことを中心に学ぶ。大学で学ぶ人の心得と大学での学修について理解すること、分かりやすい文章を書くための表記、語彙・語句、文の書き方について理解すること、思考が整理された文章を書くための文章の構造と特徴について理解すること、そして科学的な文章を書くための論証と引用の方法について理解することを到達目標とする。	メディア
学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（発展編）		レポート作成や卒業論文の執筆のためには、①自分が立てた問いに対して必要な資料や文献を適切に選び、その内容を正確に理解するスキル、②そこで得た知見に基づいて自分と他者の考えを整理し、さらに思考を深め、自分の意見を確立するスキル、③その内容を他者と共有できるよう、きちんとした文章として書きあげるスキルが必要である。 本科目では、上記①～③のスキルを実践的かつ総合的に学び、大学における記述式テストやレポート作成等の場面で必須となる「書く力」を身につけることを目的とする。到達目標は、レポートや論文の執筆に必要な情報収集力を身につけると同時に、専門領域に関する知識を深めること、データや資料を用いて具体的な論拠を示し、論理的に他者に伝える能力を身につけること、自律的に文章を作成するための基礎知識を学び、自己評価のストラテジーを身につけることである。	メディア
学部間共通科目	キャリア・デザイン・ワークショップ		本科目では、キャリア形成に必要な能力を理解したうえで、学生一人一人が将来社会人としてどのようにありたいのか志を語り、その実現のために、今後どのようにキャリアを形成していくかを確認する。また、社会に目を向け、学科を超えたグループワークで、社会の課題を発見し、解決するプロセスを体験することにより、社会人の能力の基礎となる考える力、協創する力を養う。授業を通じて、キャリア形成の基盤となるコンピテンシー（能力）として、特に、自己実現力、コミュニケーション力、課題設定・解決力のといった将来社会で必要となる能力を身につけることを目的とする。	
自由科目	インディペンデントスタディ1A		本科目では、特定の教員の指導の下、研究室での活動や教員の研究指導を通した入門的な探究を行う。学科１年次前期に学ぶ、幅広い分野の授業と、研究の接点を理解することを目的とする。具体的には以下の3つから1つ以上を選び、関連するスキルの習得を到達目標とする。①先行研究のレビューを通した国際的な社会背景・研究動向の理解、②テーマの新規性や生産性を論じる能力の育成、③実習を通した基礎的実験・調査・分析方法の習得。	
自由科目	インディペンデントスタディ1B		本科目では、特定の教員の指導の下、研究室での活動や教員の研究指導を通した基礎的な探究を行う。学科１年次後期に学ぶ、幅広い分野の授業と、研究の接点を理解することを目的とする。具体的には以下の3つから1つ以上を選び、関連するスキルの習得を到達目標とする。①先行研究のレビューを通した国際的な社会背景・研究動向の理解、②テーマの新規性や生産性を論じる能力の育成、③実習を通した基礎的実験・調査・分析方法の習得。	
自由科目	インディペンデントスタディ2A		本科目では、特定の教員の指導の下、大まかな学術的テーマを設定し、研究室での活動や教員の研究指導を通した計画的な探究を行う。これにより、学科２年次前期に学ぶ、幅広い分野の授業と、研究の接点を理解し、卒業研究の分野やテーマを設定する上で必要な、幅広い知識と経験を得ることを目的とする。具体的には以下の3つから1つ以上を選び、関連するスキルの習得を到達目標とする。①先行研究のレビューを通した国際的な社会背景・研究動向の理解、②テーマの新規性や生産性を論じる能力の育成、③実習を通した基礎的実験・調査・分析方法の習得。	

自由科目	インディペンデントスタディ2B		本科目では、特定の教員の指導の下、大まかな学術的テーマを発展させ、研究室での活動や教員の研究指導を通した計画的な探究を行う。これにより、学科２年次後期に学ぶ、幅広い分野の授業と、研究の接点を理解し、卒業研究の分野やテーマを設定する上で必要な、幅広い知識と経験を得ることを目的とする。具体的には以下の3つから1つ以上を選び、関連するスキルの習得を到達目標とする。①先行研究のレビューを通した国際的な社会背景・研究動向の理解、②テーマの新規性や生産性を論じる能力の育成、③実習を通した基礎的実験・調査・分析方法の習得。	
自由科目	インディペンデントスタディ3A		本科目では、教員の指導の下、具体的な研究テーマの設定に向け、研究室での活動や教員の研究指導を通した、学術的な探究を行う。これにより、学科３年次前期に学ぶ、専門科目を中心とした学びと研究の接点を理解し、卒業研究や修士研究に先駆けて、研究活動に必要とされる個人での研究計画・遂行能力の育成を目的とする。以下の３つから１つ以上を選び、関連するスキルの習得を到達目標とする。①先行研究のレビューを通した国際的な社会背景・研究動向の理解、②テーマの新規性や生産性を論じる能力の育成、③実習を通した基礎的実験・調査・分析方法の習得。	

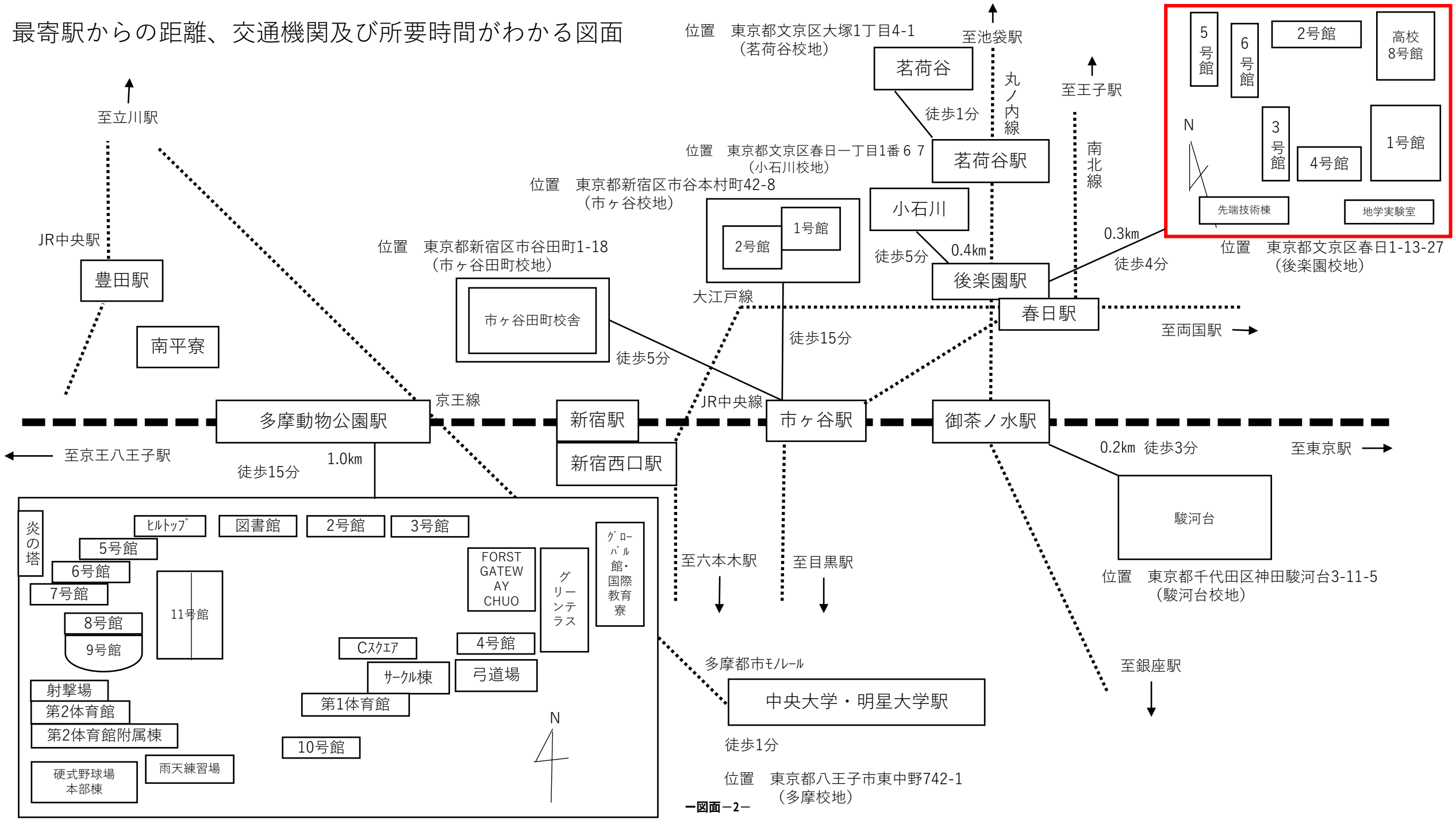
学校法人中央大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
中央大学				中央大学				
法学部				法学部				
法律学科	882	－	3,528	法律学科	882	－	3,528	
政治学科	389	－	1,556	政治学科	389	－	1,556	
国際企業関係法学科	168	－	672	国際企業関係法学科	168	－	672	
経済学部				経済学部				
経済学科	467	－	1,868	経済学科	467	－	1,868	
経済情報システム学科	180	－	720	経済情報システム学科	180	－	720	
国際経済学科	265	－	1,060	国際経済学科	265	－	1,060	
公共・環境経済学科	150	－	600	公共・環境経済学科	150	－	600	
商学部				商学部				
経営学科	300	－	1,200	経営学科	300	－	1,200	
会計学科	300	－	1,200	会計学科	300	－	1,200	
国際マーケティング学科	300	－	1,200	国際マーケティング学科	300	－	1,200	
金融学科	120	－	480	金融学科	120	－	480	
理工学部								
数学科	70	－	280		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
物理学科	70	－	280		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
都市環境学科	90	－	360		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
精密機械工学科	145	－	580		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
電気電子情報通信工学科	135	－	540		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
応用化学科	145	－	580		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
ビジネスデータサイエンス学科	115	－	460		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
情報工学科	100	－	400		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
生命科学科	75	－	300		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
人間総合理工学科	75	－	300		0	－	0	令和8年4月学生募集停止
				基幹理工学部				学部の設置（届出）
				数学科	70	－	280	
				物理学科	70	－	280	
				応用化学科	145	－	580	
				生命科学科	75	－	300	
				社会理工学部				学部の設置（届出）
				都市環境学科	90	－	360	
				ビジネスデータサイエンス学科	115	－	460	
				人間総合理工学科	75	－	300	
				先進理工学部				学部の設置（届出）
				精密機械工学科	145	－	580	
				電気電子情報通信工学科	135	－	540	
				情報工学科	100	－	400	
文学部				文学部				
人文社会学科	990	－	3,960	人文社会学科	990	－	3,960	
総合政策学部				総合政策学部				
政策科学科	150	－	600	政策科学科	150	－	600	
国際政策文化学科	150	－	600	国際政策文化学科	150	－	600	
国際経営学部				国際経営学部				
国際経営学科	300	－	1,200	国際経営学科	300	－	1,200	
国際情報学部				国際情報学部				
国際情報学科	150	－	600	国際情報学科	150	－	600	
通信教育部	3,000	－	12,000	通信教育部	3,000	－	12,000	
（法学部通信教育課程）				（法学部通信教育課程）				
計	9,281	－	37,124	計	9,281	－	37,124	
中央大学大学院				中央大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
公法専攻（M）	8	－	16	公法専攻（M）	8	－	16	
民事法専攻（M）	20	－	40	民事法専攻（M）	20	－	40	
刑事法専攻（M）	10	－	20	刑事法専攻（M）	10	－	20	
国際企業関係法専攻（M）	20	－	40	国際企業関係法専攻（M）	20	－	40	
政治学専攻（M）	15	－	30	政治学専攻（M）	15	－	30	
公法専攻（D）	3	－	9	公法専攻（D）	3	－	9	
民事法専攻（D）	7	－	21	民事法専攻（D）	7	－	21	
刑事法専攻（D）	5	－	15	刑事法専攻（D）	5	－	15	
国際企業関係法専攻（D）	10	－	30	国際企業関係法専攻（D）	10	－	30	
政治学専攻（D）	3	－	9	政治学専攻（D）	3	－	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻（M）	50	－	100	経済学専攻（M）	50	－	100	
経済学専攻（D）	10	－	30	経済学専攻（D）	10	－	30	
商学研究科				商学研究科				
商学専攻（M）	25	－	50	商学専攻（M）	25	－	50	
商学専攻（D）	5	－	15	商学専攻（D）	5	－	15	
理工学研究科				理工学研究科				
数学専攻（M）	25	－	50	数学専攻（M）	25	－	50	
物理学専攻（M）	25	－	50	物理学専攻（M）	25	－	50	
都市人間環境学専攻（M）	60	－	120	都市人間環境学専攻（M）	60	－	120	
精密工学専攻（M）	52	－	104	精密工学専攻（M）	52	－	104	
電気電子情報通信工学専攻（M）	45	－	90	電気電子情報通信工学専攻（M）	45	－	90	
応用化学専攻（M）	45	－	90	応用化学専攻（M）	45	－	90	
ビジネスデータサイエンス専攻（M）	30	－	60	ビジネスデータサイエンス専攻（M）	30	－	60	
情報工学専攻（M）	40	－	80	情報工学専攻（M）	40	－	80	
生命科学専攻（M）	25	－	50	生命科学専攻（M）	25	－	50	
数学専攻（D）	3	－	9	数学専攻（D）	3	－	9	
物理学専攻（D）	3	－	9	物理学専攻（D）	3	－	9	
都市人間環境学専攻（D）	5	－	15	都市人間環境学専攻（D）	5	－	15	
精密工学専攻（D）	3	－	9	精密工学専攻（D）	3	－	9	
応用化学専攻（D）	3	－	9	応用化学専攻（D）	3	－	9	
ビジネスデータサイエンス専攻（D）	3	－	9	ビジネスデータサイエンス専攻（D）	3	－	9	
生命科学専攻（D）	2	－	6	生命科学専攻（D）	2	－	6	
電気・情報系専攻（D）	7	－	21	電気・情報系専攻（D）	7	－	21	

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(M)	10	－	20	国文学専攻(M)	10	－	20	
英文学専攻(M)	10	－	20	英文学専攻(M)	10	－	20	
独文学専攻(M)	5	－	10	独文学専攻(M)	5	－	10	
仏文学専攻(M)	5	－	10	仏文学専攻(M)	5	－	10	
中国言語文化専攻(M)	5	－	10	中国言語文化専攻(M)	5	－	10	
日本史学専攻(M)	7	－	14	日本史学専攻(M)	7	－	14	
東洋史学専攻(M)	5	－	10	東洋史学専攻(M)	5	－	10	
西洋史学専攻(M)	5	－	10	西洋史学専攻(M)	5	－	10	
哲学専攻(M)	5	－	10	哲学専攻(M)	5	－	10	
社会学専攻(M)	5	－	10	社会学専攻(M)	5	－	10	
社会情報学専攻(M)	5	－	10	社会情報学専攻(M)	5	－	10	
教育学専攻(M)	5	－	10	教育学専攻(M)	5	－	10	
心理学専攻(M)	8	－	16	心理学専攻(M)	8	－	16	
国文学専攻(D)	5	－	15	国文学専攻(D)	5	－	15	
英文学専攻(D)	5	－	15	英文学専攻(D)	5	－	15	
独文学専攻(D)	3	－	9	独文学専攻(D)	3	－	9	
仏文学専攻(D)	3	－	9	仏文学専攻(D)	3	－	9	
中国言語文化専攻(D)	3	－	9	中国言語文化専攻(D)	3	－	9	
日本史学専攻(D)	5	－	15	日本史学専攻(D)	5	－	15	
東洋史学専攻(D)	3	－	9	東洋史学専攻(D)	3	－	9	
西洋史学専攻(D)	3	－	9	西洋史学専攻(D)	3	－	9	
哲学専攻(D)	3	－	9	哲学専攻(D)	3	－	9	
社会学専攻(D)	3	－	9	社会学専攻(D)	3	－	9	
社会情報学専攻(D)	3	－	9	社会情報学専攻(D)	3	－	9	
教育学専攻(D)	3	－	9	教育学専攻(D)	3	－	9	
心理学専攻(D)	4	－	12	心理学専攻(D)	4	－	12	
総合政策研究科				総合政策研究科				
総合政策専攻(M)	40	－	80	総合政策専攻(M)	40	－	80	
総合政策専攻(D)	10	－	30	総合政策専攻(D)	10	－	30	
国際情報研究科				国際情報研究科				
国際情報専攻(M)	25		50	国際情報専攻(M)	25		50	
法務研究科				法務研究科				
法務専攻(P)	160	－	480	法務専攻(P)	160	－	480	
戦略経営研究科				戦略経営研究科				
戦略経営専攻(P)	80	－	160	戦略経営専攻(P)	80	－	160	
ビジネス科学専攻(D)	12	－	36	ビジネス科学専攻(D)	12	－	36	
計	1,020	－	2,340	計	1,020	－	2,340	


都道府県内における位置関係
東京都
後楽園校地
茗荷谷校地
小石川校地
市ヶ谷校地
市ヶ谷田町校地
多摩校地
駿河台校地
東京都中心部
0
10km
1:108,900
奥多摩町
青梅市
瑞穂町
羽村市
日の出町
武蔵村山市
東大和市
東村山市
東久留米市
清瀬市
福生市
檜原村
あきる野市
立川市
小平市
西東京市
昭島市
国分寺市
武蔵野市
小金井市
国立市
三鷹市
八王子市
日野市
府中市
調布市
多摩市
稲城市
狛江市
町田市
板橋区
練馬区
北区
足立区
葛飾区
荒川区
豊島区
文京区
台東区
墨田区
中野区
新宿区
杉並区
千代田区
江戸川区
渋谷区
中央区
江東区
港区
世田谷区
目黒区
品川区
大田区

最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



ー図面ー2ー

校舎、運動場等の配置図

校地面積：13,674.86
校舎面積：72,027.93

使用する校舎

校地に算入されない部分

文京区富坂上公衆便所

物置

5号館

6号館

2号館

8号館

ガスガバナー室

3号館

1号館

4号館

倉庫棟

先端技術棟

危険物倉庫

測量器具庫

地学実験室

産学官共同研究棟

東京メトロ丸の内線

真北

座標北

一図面—4

後楽園キャンパス配置図

（完成年度）

A3出力図

縮尺
1:1000

校舎の平面図

（公開用ファイルから省略）

学則

中央大学学則

（規程第二百九十三号）

目次

第一章　総則（第一条・第二条）
第二章　本大学の組織
　第一節　教育と研究の組織（第三条―第七条）
　第二節　運営の機関及び教職員（第八条―第十六条）
　第三節　外国人研究者（第十六条の二）
第三章　修学の期間
　第一節　修業年限（第十七条）
　第二節　学年、学期及び授業日（第十八条―第二十条）
第四章　入学、留学、休学、退学及び除籍
　第一節　入学、留学等（第二十一条―第二十八条）
　第二節　休学、退学及び除籍（第二十九条―第三十一条の二）
第五章　教育課程及び履修方法（第三十二条―第三十六条の二）
第六章　試験及び成績（第三十七条―第四十一条）
第七章　卒業及び学士の学位（第四十二条―第四十五条）
第八章　奨学（第四十六条）
第九章　教員、職員及び学生の責務
　第一節　通則（第四十七条・第四十八条）
　第二節　学生の守るべき事項（第四十九条・第五十条）

第十章　賞罰（第五十一条・第五十二条）
第十一章　学費等
　第一節　入学検定料及び審査料（第五十三条・第五十四条）
　第二節　学費、科目等履修費及び聴講料（第五十五条―第五十八条の二）
　第三節　手数料（第五十九条）
　第四節　学費等の返還制限（第六十条）
第十二章　科目等履修生及び聴講生（第六十一条・第六十一条の二）
第十二章の二　外国人留学生（第六十一条の三）
第十三章　公開講座（第六十二条）
第十四章　改正（第六十三条）
第十五章　雑則（第六十四条）
附則

第一章　総則

（この学則の目的）

第一条　この学則は、大学の本旨に基づいて、学校法人中央大学の設置する中央大学（以下「本大学」という。）における教育・研究の組織及び運営について必要な基準を定めることを目的とする。

（本大学の使命）

第二条　本大学は、その伝統及び私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。

第二章　本大学の組織

第一節　教育と研究の組織

（学部及び学科）

第三条　本大学に、次の学部を置く。

法　学　部
経　済　学　部
商　学　部
基幹理工学部
社会理工学部
先進理工学部
文　学　部
総合政策学部
国際経営学部
国際情報学部

２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。

（学部の教育研究上の目的）

第三条の二　前条第一項に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　法学部　法学及び政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力及び問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成する。

二　経済学部　経済学及びその関連領域にかかる教育研究を行い、広く国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有し、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することのできる人材を養成する。

三　商学部　商学にかかる各専門分野及びその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成する。

四　基幹理工学部　理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、数学、自然科学（物理学・化学・生物学）、およ

び工学の分野に関する理論と諸現象についての確実な知識と応用力を身につけ、新しい課題への果敢な挑戦力を持ち、人類共通の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。

五　社会理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成する。

六　先進理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、人・モノ・自然を結びつける仕組みを先導または協働して考案し、この世界に実現することを通じて、科学技術分野の諸課題の解決、ならびに持続的かつ包摂的な社会の構築に積極的に貢献できる人材を養成する。

七　文学部　人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。

八　総合政策学部　人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。

九　国際経営学部　経済学、経営学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急速に変化する国際企業経営に必要となる企業経営やグローバル経済にかかる専門知識を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成する。

十　国際情報学部　情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論と社会における諸現象にかかる教育研究を行う。専門分野における高度な知識を有し、複雑さを極めてグローバルな性格を有する情報の諸問題に対する解決策を立案し、提案し、かつ実現することで公正な社会を構築しうる人材を養成し、社会に貢献する。

（学生定員）

第四条　第三条の学部及び学科の学生定員は、別表第一に掲げるとおりとする。

（通信教育課程）

第五条　法学部に、通信教育課程を置く。
２　通信教育課程に関する特則は、別に定める。
（大学院）
第六条　本大学に、大学院を置く。
２　大学院に関する特則は、別に定める。
（附属施設）
第七条　本大学に、附属の図書館を置く。
２　本大学には、前項のほか、附属の研究所、センターその他必要な教育・研究施設を置くことができる。
３　附属施設に関する規則は、別に定める。

第二節　運営の機関及び教職員

（学長）
第八条　本大学に、学長を置く。
２　学長は、本大学の全般に関する事項をつかさどり、本大学を代表する。
（副学長）
第八条の二　本大学に、学長の職務を助けるため、副学長を置くことができる。
２　副学長に関する細目は、別に定める。
（学部長）
第九条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に学部長を置く。
２　学部長は、その学部に関する事項をつかさどり、その学部を代表する。
３　学部長の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
４　学部長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（学部長補佐）

第九条の二　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、学部長の業務を補佐するために、学部長補佐を置くことができる。

2　学部長補佐に関する細目は、別に定める。

（学部長会議）

第十条　本大学に、各学部間の連絡協議のため、学部長会議を置く。

（教授会）

第十一条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、教授会を置く。

2　教授会は、その学部の教授、准教授、助教及び専任講師をもって組織する。この場合において、教授会を組織する助教及び専任講師の範囲は、当該学部が定めるところによる。

3　教授会は、その学部に関する次の事項について審議し、その意見を学長に述べるものとする。

一　学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること

二　学位の授与に関すること

三　その他その学部の教育研究に関する重要事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要と認めるものとして別に定める事項

4　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について、審議し、又は、学長等の求めに応じて、学長等に意見を述べることができる。

（理工学術院）

第十一条の二　本大学に理工学術院を置き、理工学術院は、所属する教員により基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部の教育研究に係る運営を行う。

2　理工学術院に理工学術院長を置く。

3　理工学術院に、理工学術院長の業務を補佐するために、学術院長補佐を置くことができる。

4　理工学術院に教授会を置く。

5　理工学術院長の位置付け及び任期並びに理工学術院に置かれる教授会に関する組織及び審議事項、連合教授会については、第九条第二項か

ら第四項、第九条の二第二項、第十一条第二項から第四項及び第十二条の規定を適用する。この場合において、第九条第二項から第四項中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と、「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第九条の二第二項中「学部長補佐」とあるのは「理工学術院長補佐」と、第十一条第二項中「その学部」及び「当該学部」とあるのは「理工学術院」と、第十一条第三項中「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第十一条第四項及び第十二条中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と読み替える。

6　理工学術院、理工学術院長及び理工学術院教授会に関する細目は、この学則に定めるもののほか、別に定める。

（連合教授会）

第十二条　学長、学部長又は教授会が、各学部に共通する重要事項について連絡協議する必要を認めたときは、連合教授会を開くことができる。

（共同の委員会）

第十三条　教授会が必要と認めるときは、他の教授会と共同して、共同の委員会を設けることができる。

（運営の手続き等）

第十四条　学部長会議、教授会、連合教授会及び共同の委員会に関する運営の手続きその他必要な事項については、別に定める。

（教職員）

第十五条　本大学に、専任の教授、准教授、助教、講師（実験講師を含む。）、事務職員及び技術職員を置く。

2　本大学に、前項のほか、必要に応じ非常勤の教員（客員教授を含む。）及び臨時の職員を置く。

（名誉教授）

第十六条　本大学は、別に定める細則により、教員であった者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。

第三節　外国人研究者

（外国人研究者）

第十六条の二　本大学に、外国人研究者を置くことができる。

2　外国人研究者の受入れについては、別に定める。

第三章　修学の期間

第一節　修業年限

（修業年限）

第十七条　学部の修業年限は、四年とする。ただし、第四十三条第二項の規定により卒業を認められた者については、この限りでない。

2　卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数は、通算して八年を限度とする。

3　在学できる年数の計算においては、第十九条に定める学期を〇・五年として計算する。

4　再入学及び編入学をした者の在学できる年数については、別に定める。

5　第二項の規定は、留学した者にも適用する。

第二節　学年、学期及び授業日

（学年）

第十八条　学年は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。ただし、後期の始めに入学した場合の学年は、九月二十一日に始まり、翌年の九月二十日に終わるものとする。

（学期）

第十九条　学年は、二期に分け、次の各号のとおりとする。

一　前期　四月一日から九月二十日まで

二　後期　九月二十一日から翌年三月三十一日まで

（休業日）

第二十条　授業を行わない日（以下「休業日」という。）は、次のとおりとする。ただし、必要があるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業することがある。

一　日曜日

二　国民の祝日に関する法律に定める休日

三　本大学の創立記念日　七月八日

四　夏季休業　七月二十一日から九月二十日まで
五　冬季休業　十二月二十五日から翌年一月七日まで
六　春季休業　翌年二月十五日から三月三十一日まで
2　休業日の変更又は臨時の休業日については、そのつど公示する。

第四章　入学、留学、休学、退学及び除籍

第一節　入学、留学等

（入学の時期）
第二十一条　入学の時期は、四月一日とする。ただし、教授会の議を経て学長が決定した場合は、入学の時期を後期の学期の始めとすることができる。
（入学の資格）
第二十二条　学部の第一年次に入学する者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。
一　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
二　通常の課程による十二年の学校教育を修了した者
三　外国において学校教育における十二年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
四　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
五　専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
六　文部科学大臣の指定した者
七　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定に合格した者を含む。）
八　学校教育法第九十条第二項の規定により他の大学に入学した者であって、本大学における教育を受けるにふさわしい学力があると本大学が認めたもの
九　本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、十八歳に達したもの

（入学の志願）

第二十三条　入学を志願する者は、入学願書その他の出願書類に入学検定料を添えて願い出て、かつ、入学試験又はこれに代わる選考（以下「入学の選考」という。）を受けなければならない。

（入学の手続き）

第二十四条　入学の選考に合格した者は、入学の手続きをすることができる。

２　入学の手続きをする者は、別に定める入学手続要項により、保証人連署の誓約書その他必要な入学書類に学費を添えて、手続きをしなければならない。

（保証人）

第二十五条　保証人は、父、母又はその他の成年者で独立の生計を営む者でなければならない。

２　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

３　学生は、保証人の変更又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第二十六条　入学（編入学を含む。）の手続を終えた者（以下「新入生」という。）には、学生証を交付する。

（編入学及び転部科）

第二十七条　第二十二条から第二十四条までの規定にかかわらず、編入学及び転部科の資格、志願及び手続については、別に定める。

（他の大学における授業科目の履修）

第二十七条の二　本大学は、教育上有益と認めるときは、別に定める細則により、学生が他の大学の授業科目を履修することを許可することができる。

（留学）

第二十七条の三　前条の規定は、学生が外国の大学へ留学する場合に準用する。

（二重学籍の禁止）

第二十八条　本大学の学部・学科には、他大学又は本大学のその他の学部・学科と併せて在学することはできない。

第二節　休学、退学及び除籍

（休学）

第二十九条　傷病、海外留学その他やむを得ない事由によって、学期のうち二カ月以上修学することができない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、休学の許可を受けて、休学することができる。

2　休学の期間は、休学の許可を受けた日から、その学期の終了日までとし、休学の期間が終了した翌日に復学するものとする。

3　前項の期間中に休学の事由が消滅しない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、許可を受けて引き続き休学することができる。

4　休学の許可を受けた日にかかわらず、休学の期間は学期ごとに〇・五年として計算し、通算して四年を超えることはできない。

5　休学の期間は、第十七条第一項に定める修業年限には算入しない。

6　休学の期間は、第十七条第二項に定める在学できる年数に算入する。

7　休学の期間については、学費を減免することができる。

（退学）

第三十条　病気その他の事由によって退学しようとする者は、保証人と連署の退学届に学生証を添えて、退学の手続きをしなければならない。

（除籍）

第三十一条　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

一　新入生で、指定された期限までに履修届を提出しない者、その他本大学において修学する意志がないと認められる者

二　第五十六条第二項に定める期限までに、学費を完納しない者

三　在学できる年数を超える者

四　退学の決定をされた者

（再入学）

第三十一条の二　前条の規定（第三号の規定を除く。）により除籍された者が、再入学を希望するときは、その理由を附して、保証人と連署の再入学願を提出し、再入学の許可を受けることができる。

２　第五十二条の規定により退学の処分を受けた者の再入学については、特に反省が顕著であると認められたときでなければ許可しない。

第五章　教育課程及び履修方法

（授業）

第三十二条　本大学は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

２　本大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。授業科目の名称、単位数及び履修方法は、別表第二に掲げるとおりとし、年次配当その他については各教授会が別に定める。

３　前項後段のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。

４　前項の授業科目の名称、単位数及び履修方法は、別表第二の二、第二の三、第二の四及び第二の五に掲げるとおりとし、年次配当その他については各教授会が別に定める。

（メディアを利用して行う授業科目）

第三十二条の二　前条に規定する授業については、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

２　多様なメディアを高度に利用して行う授業科目及び履修方法等は、各教授会が別に定める。

（単位の計算方法及び授業期間）

第三十三条　各授業科目の単位は、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、次の基準並びに授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して計算する。

一　講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

二　実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

三　講義、演習、実験、実習又は実技のいずれかの授業科目について、二以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前二号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3　各授業科目の授業は、十四週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（履修の手続き）

第三十四条　学生は、その学年に履修しようとする授業科目について、指定された期限までに履修届を提出のうえ、履修しなければならない。

（単位の授与）

第三十五条　授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試験」という。）に合格した者には、所定の単位を与える。

（他の大学において修得した単位）

第三十五条の二　第二十七条の二の規定により履修した授業科目について修得した単位は、六十単位を超えない範囲で各教授会が定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

（外国の大学において修得した単位）

第三十五条の三　前条の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

（入学前に修得した単位）

第三十五条の四　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学の一年次に入学する前に第六十一条に規定する本大学の科目等履修生として修得した単位を、本大学入学後に本大学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学は、教育上有益と認めるときは、本大学に編入学した者が、本大学に入学する前に本大学、他大学、短期大学その他の中央大学学則施行規則（以下、「施行規則」という。）第三条に定める学校等において修得した単位を本大学において修得したものとみなすことができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第三十五条の五　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、各教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、第三十五条の二及び第三十五条の三により本大学において修得したものとみなす単位数並びに施行規則第十五条第一項により修得した単位と合わせて六十単位を超えないものとする。

（メディアを利用して行う授業で修得した単位）
第三十五条の六　第三十二条の二に規定する授業の方法により修得した単位については、第四十三条第一項第二号に規定する卒業に必要な単位のうち、六十単位を超えないものとする。
（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法）
第三十六条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。
２　前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第三に掲げるとおりとする。
（学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭資格を取得しようとする者の履修方法）
第三十六条の二　学芸員、社会教育主事、司書及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、それぞれの資格取得のために必要な授業科目を履修しなければならない。ただし、司書教諭の資格を取得しようとする者は、現に教育職員免許状を取得するために必要な授業科目を履修している者でなければならない。

第六章　試験及び成績

（試験の方法）
第三十七条　試験は、筆記又は口述によるものとする。ただし、論文の提出その他の方法によることができる。
（試験の時期）
第三十八条　試験は、学年末又は学期末において行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期においても行うことができる。
（受験の条件）
第三十九条　試験は、履修した授業科目でなければ、受けることができない。
２　学費及び必要な手数料を納入しない者は、試験を受けることができない。
３　休学又は停学の期間中は、試験を受けることができない。
（成績の表示）
第四十条　試験の成績は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ及びＥで示し、Ｓ、Ａ、Ｂ及びＣを合格とし、Ｅを不合格とする。
（成績の通知）

第四十一条　前条の成績は、学生に通知する。

第七章　卒業及び学士の学位

（卒業に必要な単位）

第四十二条　各学部の卒業に必要な単位は、別表第二に掲げるとおりとする。

（卒業の要件）

第四十三条　卒業の要件は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、休学の期間中は卒業できない。

一　四年以上在学すること

二　卒業に必要な単位を修得していること

２　各教授会の定めるところにより、学部の学生として三年以上在学した者が、前項第二号に定める卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項第一号の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

（卒業の時期）

第四十三条の二　卒業の時期は、学年末とする。ただし、教授会の議を経て学長が決定した場合は、卒業の時期を他の時期とすることができる。

（学士の学位）

第四十四条　卒業の要件を備えた者には、学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

（専攻分野の名称）

第四十五条　学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従って、別表第三の二に掲げるとおりとする。

第八章　奨学

（奨学）

第四十六条　能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学が困難な者及び特に学力が優れている者には、奨学の方法を講ずることができる。

２　奨学の方法は、奨学金の貸与及び給付とする。

3　奨学の方法に関する規程は、別に定める。

第九章　教員、職員及び学生の責務

第一節　通則

（相互の尊重と協力）

第四十七条　教員、職員及び学生（科目等履修生及び聴講生を含む。以下同じ。）は、個人の尊厳を重んじ、学問の自由を尊重し、それぞれの職責・地位に即しつつ、相互の信頼と協力によって、本大学の使命を達成するように努めなければならない。

（環境の保持）

第四十八条　教員、職員及び学生は、本大学の使命にかんがみ、教育と研究にふさわしい環境が保持されるよう自ら努めるとともに、本大学の正常な運営に協力しなければならない。

第二節　学生の守るべき事項

（学生の守るべき事項）

第四十九条　学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

一　登校するときは、必ず学生証（科目等履修生証及び聴講生証を含む。）を携帯し、教職員から学生証の提示を求められた場合には、これを提示すること。

二　教育・研究に支障を及ぼし、又は他の者の個人の尊厳若しくは人格を侵害するような言動をしないこと。

三　その他学生としての本分に反しないこと。

（変更届）

第五十条　学生は、その氏名、居住地又は本籍に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

第十章　賞罰

（表彰）

第五十一条　学生として表彰に価する行為があったときは、表彰することができる。

（懲戒）

第五十二条　学則に違反し、その他不都合な行為のあった学生に対しては、行為の軽重と教育上の必要を考慮して、訓告、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対してでなければ行うことができない。

一　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

二　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

三　正当の理由がなくて出席の常でない者

四　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

2　前項に定める訓告、停学又は退学の処分は、学長が別に定めるところにより行うものとする。

第十一章　学費等

第一節　入学検定料及び審査料

（入学検定料）

第五十三条　入学（再入学及び編入学を含む。）又は転部科を志願する者は、別表第四に掲げる入学検定料を納めなければならない。ただし、推薦入学の選考において、二段階選考を実施する場合は、別表第四の二に掲げる入学検定料を納めなければならない。

2　前項本文の規定にかかわらず、本大学は、特別の理由がある場合に、別に定めるところにより入学検定料を減額することがある。

（審査料）

第五十四条　第六十一条に規定する科目等履修生又は第六十一条の二に規定する聴講生となることを願い出る者は、別表第四の三に掲げる審査料を納めなければならない。ただし、第六十一条第五項に規定する履修期間又は第六十一条の二第四項に規定する聴講期間を超えて継続して履修又は聴講を願い出る者については、審査料を免除する。

2　前項の規定にかかわらず、同一年度に第六十一条又は第六十一条の二に基づき二つ以上の学部に履修又は聴講を願い出る者の審査料は、重複して納入することを要しない。

第二節　学費、科目等履修費及び聴講料

（学費）

第五十五条　学費は次のとおりとし、納入額は別表第五、別表第六及び別表第七に掲げるとおりとする。

一　入学金
二　授業料
三　実験実習料
四　教育充実費
五　施設設備費
六　教職履修料
七　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

２　学費の減免措置については、別に定める。

（納期）

第五十六条　前条第一項に規定する学費は、毎学年、次に掲げる区分に従い、当該各号に定める期日までに全納しなければならない。ただし、授業料、実験実習料又は教育充実費及び施設設備費についてやむを得ない事由により全納できないときは、前期と後期の二期に分納することができる。

一　四月一日に入学した者　六月三十日
二　九月二十一日に入学した者　一月十四日

２　前項ただし書に定める分納の期限は次の各号のとおりとする。

一　四月一日に入学した者
　前期　六月三十日
　後期　一月十四日
二　九月二十一日に入学した者
　後期　一月十四日
　前期　六月三十日

３　前項各号に定める期日までにやむを得ない事由により学費を納入することができない場合は、保証人と連署の延納願を提出して許可を受

け、次に掲げる期日までに学費を納入した場合に限り、前項各号の期限までに学費が納入されたものとみなす。

一　前期　七月十四日

二　後期　一月二十八日

（特殊学費）

第五十七条　再入学その他特殊な場合の学費については、別に定める。

（科目等履修費）

第五十八条　第六十一条に規定する科目等履修生の科目等履修費は次のとおりとし、納入額は別に定める。

一　登録料

二　科目履修料

三　教職履修料

四　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

（聴講料）

第五十八条の二　第六十一条の二に規定する聴講生の聴講料の納入額は、別に定める。

第三節　手数料

（手数料）

第五十九条　手数料の種類及び納入額については、別に定める。

第四節　学費等の返還制限

（学費等の返還制限）

第六十条　納入した学費等は、返還しない。

第十二章　科目等履修生及び聴講生

（科目等履修生）

第六十一条　各教授会（中央大学教育職員の養成に関する運営委員会（以下「教職運営委員会」という。）を含む。）は、本大学の学部学生以

外の者が単位の修得を目的として、別表第四の三に掲げる審査料を添えて特定の授業科目の履修を願い出た場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。

2　前項により履修を願い出ることができる者は、第二十二条に定める入学の資格を有する者でなければならない。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りでない。

3　前項の規定にかかわらず、教育職員の免許並びに学芸員、社会教育主事、司書及び司書教諭の資格を取得するために必要な授業科目の単位の修得を目的として履修を願い出ることができる者は、学士の学位（大学院に在学する者を含む。）を有する者であって、教職運営委員会又は文学部教授会がそれぞれ定める要件を満たす者でなければならない。

4　履修を許可された者は、所定の期日までに、別に定める科目等履修費を納入し、履修の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、科目等履修生証を交付する。

5　科目等履修生として、授業科目を履修できる期間は、六カ月又は一年とする。

6　科目等履修生が各学部において一学年度に履修できる単位は、三十単位を超えない範囲で当該教授会において定める。ただし、第三項の規定により科目等履修生となった者の一学年度に履修できる単位の上限は、必要に応じて教職運営委員会又は文学部教授会において定めるものとする。

7　前項本文の規定にかかわらず、科目等履修生が二学部以上の授業科目を履修する場合において、一学年度に履修できる単位は、各学部を通算して三十単位を超えることはできない。ただし、第三項の規定により科目等履修生となった者の一学年度に履修できる単位の上限については、この限りでない。

8　科目等履修生が、授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試験」という。）に合格したときには、所定の単位を与える。当該試験の成績は、科目等履修生に通知する。

9　科目等履修生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

（聴講生）

第六十一条の二　各教授会は、別表第四の三に定める審査料を添えて、特定の授業科目について聴講を願い出た者がいる場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、聴講生として当該授業科目の聴講を許可することができる。

2　聴講を願い出る者の資格は、各教授会が定める。

3　聴講を許可された者は、所定の期日までに、別に定める聴講料を納入し、聴講の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、聴講生証を交付する。

4　聴講生として、授業科目を聴講できる期間は、六カ月又は一年とする。

5　聴講生が聴講した授業科目について試験を受けたときは、請求により成績証明書を交付する。ただし、授業科目の単位は与えない。

6　聴講生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

第十二章の二　外国人留学生

（外国人留学生）

第六十一条の三　外国人留学生の受入れについては、別に定める。

2　外国人留学生で、外国の大学を卒業した者又はこれに準ずる者は、第三年次に編入学を認めることができる。

3　外国人留学生については、学修の必要に応じて別表第二に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて特別の科目を置くことができる。

4　前項に定める特別の科目として日本語及び日本事情に関する科目等（以下「日本語科目等」という。）を置く。

5　日本語科目等の名称、単位数及び履修の基本方法は、別表第二の六に掲げるとおりとする。

第十三章　公開講座

（公開講座）

第六十二条　本大学は、正規の授業のほか、適時、公開講座を開設する。

第十四章　改正

（改正）

第六十三条　この学則の改正は、教授会の議を経なければならない。

第十五章　雑則

（施行の細目）

第六十四条　この学則に特別の定めがあるものを除くほか、この学則の実施の手続きその他この執行について必要な細目は、別に定める。

附　則

（　省　略　）

附　則（規程第三千百三十八号）

（施行期日）

1　この学則は、令和八年四月一日から施行する。

（経過措置）

2　改正後のこの学則は、令和八年度以降の入学生から適用し、令和七年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　理工学部については、令和八年度から学生募集を停止し、当該学部に在学する者がいなくなるまでの間は存続する。

4　この学則施行の際、改正前の学則に基づき理工学部長がつかさどる事項については、理工学術院長がこれを行い理工学部を代表する。理工学部教授会が審議し、又は、その意見を学長等に述べる事項については、理工学術院教授会がこれを行う。

5　この学則施行後、最初に就任する理工学術院長の任期は、第九条第三項及び第十一条の二第五項の規定にかかわらず、令和九年十月三十一日までとする。

改　正　令和三・一〇・一五（規程第二千九百三十号）　令和五・一・一六（規程第三千十九号）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	467	1,868
	経済情報システム学科	180	720
	国際経済学科	265	1,060
	公共・環境経済学科	150	600
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
総計		6,281	25,124

別表第二（第三十二条第二項関係）

（法学部、経済学部、商学部　省略）

基幹理工学部数学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1

フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2

欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	4
数学2	4
線形代数学1	4
線形代数学2	4
物理1	2
物理2	2
化学1	2
化学2	2

コア科目	
基礎数学1	2
基礎数学2	2
数学1演習	1
数学2演習	1
線形代数学1演習	1
線形代数学2演習	1
情報処理	2
プログラミング言語1	2
基礎数学3	4
代数学序論	4
解析学1	4
卒業研究I	4
卒業研究II	4
展開科目	
離散数学1	2
離散数学2	2
基礎数学4	2
代数学1	4
幾何学序論	2
解析学2	4
解析学3	2
統計数学1	2
統計数学2	2
数値計算法1	2
数値計算法2	2
数学特別講義(情報と職業)	2
位相数学	4
代数学2	4
代数学3	4
幾何学1	4
幾何学2	4
実解析学1	2
実解析学2	4
複素解析学1	4
複素解析学2	2
統計数学3	4
統計数学4	4
数値解析	2
プログラミング言語2	2
計算の理論	2
プログラミング言語3	2
代数学4	2
代数学5	2

代数学6	2
幾何学3	2
幾何学4	2
解析学4	2
解析学5	2
解析学6	2
確率論	2
応用統計学1	2
応用統計学2	2
応用統計学3	2
データベースと情報検索	2
情報数学特論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・チュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2

数学科教育法3	2
数学科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、128 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」まで（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択すること。）の授業科目の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）94 単位を必修とする。

（2）「数学 1」から「線形代数学 2」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）「物理 1」から「化学 2」までの授業科目の中から４単位、展開科目の中から 38 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

基幹理工学部物理学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1

アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2

哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2

技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	2
数学2	2
線形代数1	2
線形代数2	2
物理1	2
化学1	2
物理実験	2
物理2	2
化学2	2
情報システム	2
データベースと情報検索	2
ネットワークと情報通信	2
情報通信産業論	2
コア科目	
情報処理概論	2
物理学実験1	3
物理学実験2	3
物理学特別演習	1
卒業研究I	2
卒業研究II	2
コア選択科目	
力学及演習1	3
力学及演習2	3
物理数学及演習1	3
物理数学及演習2	3
電磁気学及演習1	3
電磁気学及演習2	3
量子力学及演習1	3
量子力学及演習2	3

統計力学及演習1	3
統計力学及演習2	3
展開科目	
現代物理学序論	2
解析力学	2
確率及統計	2
化学実験	2
代数学1	2
代数学2	2
数理解析	2
応用解析1	2
応用解析2	2
固体物性	2
量子化学	2
幾何学1	2
幾何学2	2
統計物理学	2
物性物理学	2
宇宙物理学	2
量子情報物理学	2
超伝導物理学	2
固体物理学	2
生物物理学	2
複雑系物理学	2
相対性理論	2
数値計算特論	2
量子情報通信	2
相関電子系物理学	2
物理情報計測	2
コンピュータ及情報処理1	2
コンピュータ及情報処理2	2
計算プログラミング	2
科学英語1	2
科学英語2	2
計算機シミュレーション1	2
計算機シミュレーション2	2
エレクトロニクス	2
コンピュータグラフィックス	2
地学1	2
地学2	2
生物学1	2
生物学2	2
物理化学	2
学部間共通科目	

短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
生物学実験Ⅰ	1
生物学実験Ⅱ	1
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）96 単位を必修とする。

（2）「数学 1」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）コア選択科目の中から 24 単位、「現代物理学序論」から「相関電子系物理学」までの授業科目の中から 20 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

基幹理工学部応用化学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1

中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2

倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2

知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
物理1	2
物理2	2
物理実験	2
基礎物理化学	2
物理化学1	2
化学実験	2
コア科目	
基礎無機化学	2
無機化学1	2
基礎有機化学	2
有機化学1	2
化学情報処理	2
基礎化学工学	2
応用化学実験1	3
応用化学実験2	3
応用化学実験3	3
応用化学実験4	3
卒業研究I	4
卒業研究II	4
コア選択科目	
線形代数1	2
線形代数2	2
物理化学2	2
物理化学3	2
物理化学演習	2
無機化学2	2
分析化学	2
無機化学演習	2
有機化学2	2

有機化学3	2
化学工学1	2
化学工学2	2
物理化学4	2
物理化学5	2
無機化学3	2
有機化学4	2
高分子化学	2
有機化学演習	2
化学工学演習	2
展開科目	
地学1	2
地学2	2
生物学1	2
生物学2	2
有機分析化学	2
有機合成化学	2
分子機能化学	2
生物無機化学	2
応用分析化学	2
無機材料化学	2
有機金属化学	2
生物有機化学	2
天然物化学	2
応用有機化学	2
光機能化学	2
化学工学3	2
化学工学4	2
化学工学5	2
品質管理	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2

グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
生物学実験Ⅰ	1
生物学実験Ⅱ	1
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）96 単位を必修とする。

（2）基礎科目、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）コア選択科目の中から 30 単位、展開科目の中から 10 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

基幹理工学部生命科学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1

フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2

アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	2
数学2	2
物理1	2
物理2	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	
基礎生化学	2
基礎分子生物学	2
進化多様性生物学	2

生命科学英語初級	1
情報処理演習1	1
情報処理演習2	1
代謝生物学	2
分子遺伝学	2
分子細胞生物学	2
地球環境・生態学	2
遺伝情報学実験	3
代謝生物学実験	3
環境生物学実験	3
植物分子生理学	2
動物分子生理学	2
応用生物学	2
生理・生化学実験	3
遺伝子工学実験	3
動物生理学実験	3
生命科学英語上級A	1
生命科学英語上級B	1
分子発生学	2
卒業研究I	4
卒業研究II	4
展開科目	
基礎生物学	2
物理実験	2
化学実験	2
地学1	2
地学2	2
バイオインフォマティクス	2
生物環境情報学	2
生物統計学	2
生命科学英語中級	1
生体エネルギー論	2
生命科学技術基礎	2
進化学	2
自然史野外実習	1
脳・神経科学	2
環境応用微生物学	2
生産応用微生物学	2
ヒトと病気の生物学	2

バイオテクノロジー概論	2
ヒューマンバイオロジー	2
タンパク質デザイン	2
エイジング生物学	2
免疫学	2
生体物質機能学	2
生物物理学	2
生体工学	2
生物有機化学	2
生物無機化学	2
生物資源経済学	2
環境工学	2
生物学特殊講義A（環境関係）	2
生物学特殊講義B（食品関係）	2
生物学特殊講義C（生体関係）	2
生物学特殊講義D（安全性関係）	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2

キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、127 単位とする。

イ　外国語教育科目は、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）第二外国語の「ドイツ語初級（表現）a」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）89 単位を必修とする。

（2）コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）基礎科目の中から８単位、展開科目の中から 24 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

社会理工学部都市環境学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1

留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2

ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1

グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学	
線形代数	2
微分・積分	4
解析学基礎	4
常微分方程式	1
偏微分方程式	1
ベクトル解析	1
フーリエ解析	1
固有値解析	1
複素関数	1
確率・統計	2
データ解析基礎	2
回帰モデル	1
クラスター分析	1
最適化理論	1
ミクロ経済学序説	1
情報	
プログラミング言語	2
数値解析	2
理学	
力学	2
基礎化学	2
地学1	2
物理実験	2
化学実験	2
熱力学・電磁気学	2

コア科目	
都市環境学概論1	2
都市環境学概論2	2
空間情報学	2
卒業研究I	3
卒業研究II	3
コア選択科目	
コース	
社会基盤系ゼミナール1	2
水環境・防災系ゼミナール1	2
計画系ゼミナール1	2
社会基盤系ゼミナール2	2
水環境・防災系ゼミナール2	2
計画系ゼミナール2	2
キャリア・倫理	
都市環境キャリアデザイン	1
現場見学	1
公務員のための都市環境学	2
建設技術者のための都市環境学	1
国際技術者のための都市環境学	1
社会基盤系	
(1) 構造・材料	
材料力学・同演習	2
構造力学1	1
コンクリート材料1	1
構造力学2	1
コンクリート材料2	1
(2) 土質	
土質力学1	1
土質力学2	1
土質力学3	1
水環境・防災系	
基礎流体力学・同演習	2
水理学1・同演習	2
海岸水理基礎	1
大気流体基礎	1
計画系	
空間のマネジメント	2
都市環境計画1	2
都市環境計画2	2
応用	
(1) 社会基盤系	
鉄筋コンクリート・同演習	2
土質力学4	1

構造力学3	1
固体力学	2
地盤工学1	1
構造シミュレーション	2
材料科学論	2
地盤工学2	2
地盤動力学	2
(2) 水環境・防災系	
水理学2	1
海岸・港湾工学	2
水文学	2
河川工学	2
沿岸環境工学	2
都市水循環	2
海岸水理学	2
気象学	2
(3) 計画系	
都市環境計画3	2
コミュニティデザイン	2
都市環境政策	2
離散選択モデル	2
輸送システム	2
政策評価手法	2
展開科目	
自然環境論	2
空間情報学実習	2
振動と耐震1	1
地形・地質工学	2
空間デザイン演習	2
振動と耐震2	1
地理空間情報学	2
防災工学	2
環境リスク評価論	2
基礎生態学	2
計算力学	2
維持管理工学	2
連続体力学	2
社会理工学部共通科目	
社会理工学概論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2

ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・チュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）第二外国語の「ドイツ語初級（表現）a」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、具体的な履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）９単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）103 単位を必修とする。

（2）コア科目、社会理工学部共通科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）基礎科目のうち、「線形代数」から「複素関数」までの授業科目の中から 12 単位、「確率・統計」から「ミクロ経済学序説」までの授業科目の中から４単位、

「プログラミング言語」から「熱力学・電磁気学」までの授業科目の中から８単位、合計 30 単位を必修とする。

（４）コア選択科目のうち、コースの中から４単位、キャリア・倫理の中から３単位、社会基盤系のうち（1）構造・材料の中から４単位、（2）土質の中から２単位、水環境・防災系の中から４単位、計画系の中から４単位、合計 18 単位を必修とする。

（５）応用のうち（1）社会基盤系の中から５単位、（2）水環境・防災系の中から５単位、（3）計画系の中から４単位、合計 16 単位を必修とする。

（６）展開科目の中から８単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」までは卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

社会理工学部ビジネスデータサイエンス学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1

フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2

経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1

専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
線形代数1	2
線形代数2	2
物理1	2
化学1	2
物理実験	2
化学実験	2
物理2	2
化学2	2
コア科目	
情報処理	2
情報処理演習	1
プログラム言語及演習1	2
確率論	2
確率論演習	1
統計学	2
統計学演習	1
応用解析1	2
応用解析2	2
データ解析1	2
オペレーションズ・リサーチ1	2
テクニカル・プレゼンテーション	1
データサイエンス実験A	2
データ構造とアルゴリズム	2
データサイエンス実験B	2
オペレーションズ・リサーチ演習	1
データサイエンス演習	1
卒業研究I	2
卒業研究II	2
コア選択科目	
品質管理	2
企業データ分析	2
生産管理	2
マーケティング・リサーチ	2
サプライチェーン・マネジメント	2
金融工学	2
実験計画法	2
経済性工学	2
データ解析2	2
プログラム言語及演習2	2
オペレーションズ・リサーチ2	2

機械学習基礎論	2
データベース工学	2
深層学習	2
最適化手法	2
時系列解析	2
展開科目	
データサイエンス基礎演習	1
応用確率論	2
情報数学	2
情報システムの構造と理論	2
情報理論	2
経営学基礎論	2
データ処理と可視化	2
人間工学	2
人工知能基礎論	2
人工知能応用論1	2
代数学1	2
代数学2	2
生存時間解析	2
数理統計学	2
情報幾何学	2
人工知能応用論2	2
数値解析	2
感性工学	2
情報通信産業論	2
経営戦略論	2
シミュレーション	2
産業心理学	2
幾何学1	2
幾何学2	2
新製品開発論	2
確率過程論	2
ソフトウェア工学	2
データサイエンス特別講義A	2
データサイエンス特別講義B	2
社会理工学部共通科目	
社会理工学概論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4

ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）12 単位を必修とする。

（２）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（３）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）10 単位を必修とする。

（２）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）102 単位を必修とする。

（2）「微分・積分 1」から「化学 1」まで、コア科目、社会理工学部共通科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）「物理実験」から「化学実験」までの授業科目の中から 2 単位、「品質管理」から「経済性工学」までの授業科目の中から 12 単位、「データ解析 2」から「時系列解析」までの授業科目の中から 12 単位、展開科目の中から 24 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

社会理工学部人間総合理工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1

中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2

現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4

線形代数1	2
物理1	2
物理2	2
化学1	2
化学2	2
線形代数2	2
化学実験	2
物理実験	2
コア科目	
認知脳科学	2
生命倫理	2
地域環境科学	2
基礎生態学	2
基礎エネルギー制御学	2
フレッシュマンセミナー	1
確率・統計	2
情報処理	2
環境物理化学	2
情報処理演習	1
健康科学概論	2
都市生態学概論	2
実用認知心理学	2
人体の構造と機能	2
生物統計学	2
都市環境デザイン	2
保全生態学概論	2
水環境システム学	2
土壌環境制御学	2
ソフォモアセミナー	1
救急理論・実習	1
環境デザイン概論・実習	2
プログラミング言語1	2
応用生態工学	2
人間総合理工学演習1	3
人間総合理工学演習2	3
環境エネルギー・自然誌実習	3
認知科学・健康科学実習	3
インディペンデントスタディ3B	1
卒業研究I	2
卒業研究II	2
展開科目	
心理統計学	2
心理統計学演習	1
保全生態学フィールドワーク・データ解析	2

基礎生物・生化学	2
地球科学	2
科学技術の発展と人間社会	2
現代物理学1	2
現代物理学2	2
地学1	2
地学2	2
微生物学	2
水環境工学	2
保健医療情報処理	2
プログラミング言語2	2
生物統計学演習	1
認知マーケティング	2
機器分析化学	2
ヒューマンウエルネス論	2
サスティナビリティ行動科学	2
国際サステイナビリティ計画	2
資源循環エネルギー学	2
ファシリテーション実習	1
社会理工学部共通科目	
社会理工学概論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2

AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
自由科目	
インディペンデントスタディ1A	1
インディペンデントスタディ1B	1
インディペンデントスタディ2A	1
インディペンデントスタディ2B	1
インディペンデントスタディ3A	1

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「上級英語試験講座 B」までの授業科目の中から２単位、「ドイツ語初級（表現）a」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）100 単位を必修とする。

（2）「微分・積分 1」から「線形代数 1」まで、コア科目、社会理工学部共通科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）「物理 1」から「物理実験」までの授業科目の中から６単位、展開科目の中から 21 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、自由科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

先進理工学部精密機械工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1

英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1

体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2

科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	2
数学2	2
数学3	2
数学4	2
数学演習1	2
数学演習2	2
物理実験	2
物理学	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	
力学1	2
力学2	2
情報処理	2
材料力学1	2
精密機械材料1	2
設計製図通論	2
精密機械工学概論	2
精密機械工学特別講義	2

精密機械工学演習	2
機構学	2
機械力学1	2
流体力学1	2
工業熱力学	2
材料加工学1	2
精密機械製図	2
電気工学	2
制御工学1	2
精密機械工学プロジェクト	2
伝熱工学	2
計測工学1	2
精密機械工学実験	2
卒業研究I	3
卒業研究II	3
コア選択科目	
情報処理演習	2
機械力学演習	2
材料力学演習	2
流体力学演習	2
電子回路	2
制御工学演習	2
応用数学A	1
応用数学B	1
応用数学C	1
応用数学D	1
熱工学演習	2
展開科目	
工業技術史	2
機械力学2	2
材料力学2	2
情報工学演習	2
計算工学1	2
精密機械材料2	2
材料加工学2	2
代数学1	2
代数学2	2
音響工学	2
弾塑性学	2
流体力学2	2
ソフトコンピューティング	2
材料強度学	2
トライボロジー	2
加工制御工学	2

工作機械学	2
生産システム工学	2
設計システム工学	2
工業デザイン	2
制御工学2	2
メカトロニクス	2
ロボット工学	2
現代制御理論	2
計測工学2	2
光学	2
生体工学	2
医用精密工学	2
情報機器	2
科学技術英語	2
機械要素設計	2
幾何学1	2
幾何学2	2
計算工学2	2
画像処理	2
品質工学	2
先進理工学部共通科目	
先進理工学概論	2
マイクロマシン	2
量子論	2
計算幾何学	2
新エネルギー技術	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・チュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2

グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
工業科教育法1	2
工業科教育法2	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）９単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）103 単位を必修とする。

（2）「数学 1」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）コア選択科目の中から 14 単位、展開科目と先進理工学部共通科目の中から合計 27 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショ

ップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

先進理工学部電気電子情報通信工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1

フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2

アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
線形代数1	2
線形代数2	2
物理1	2
物理2	2
物理実験	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	

電気電子情報通信工学概論	1
回路基礎及演習1	3
ディジタル代数及演習	3
技術文書作成演習	1
プログラム言語及演習1	2
プログラム言語及演習2	2
解析概論	4
電磁気学及演習1	3
電磁気学及演習2	3
回路基礎及演習2	3
制御工学	2
電子回路1	2
電子物性	2
情報理論	2
電気電子情報通信実験I	3
電気電子情報通信実験II	3
卒業研究I	3
卒業研究II	3
展開科目	
確率及統計	2
材料力学概論	2
電磁気計測	2
半導体工学	2
電子計測	2
数値解析	2
アルゴリズムとデータ構造	2
数理計画法	2
コンピュータ工学基礎	2
電気回路	2
電気機器基礎	2
代数学1	2
代数学2	2
発変電工学	2
送配電工学	2
電気機器応用	2
パワーエレクトロニクス	2
電気化学と電池	2
システム制御	2
センシング工学	2
電磁界理論	2
電磁波工学	2
光エレクトロニクス	2
電気・電子材料	2
電子回路2	2

電子回路設計	2
ディジタル回路	2
信号処理	2
情報通信伝送	2
情報数学	2
情報セキュリティ基礎	2
電気機器設計	2
先端技術特別講義A	2
機械学習	2
幾何学1	2
幾何学2	2
工学デザイン概論	2
科学技術英語	2
品質管理	2
電力応用	2
電気法規及施設管理	2
ロボット工学	2
応用数理解析	2
情報通信ネットワーク	2
通信機器	2
通信法規	2
コンピュータシステムとインターネット	2
データベース工学	2
情報通信産業論	2
生体情報工学	2
先端技術特別講義B	2
先進理工学部共通科目	
先進理工学概論	2
マイクロマシン	2
量子論	2
計算幾何学	2
新エネルギー技術	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2

AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
情報科教育法	4
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
工業科教育法1	2
工業科教育法2	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）102 単位を必修とする。

（2）「微分・積分 1」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）展開科目と先進理工学部共通科目の中から合計 39 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

先進理工学部情報工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1

ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2

環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
線形代数1	2
線形代数2	2

物理1	2
物理2	2
物理実験	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	
情報基礎数学	2
映像情報学	2
コンピュータの構造	2
情報総合概論	2
Cプログラミング初級	2
Cプログラミング初級演習	2
Cプログラミング中級演習	2
情報総合演習	2
社会情報学1	2
数理基礎A	2
数理基礎B	2
応用数学	2
知能情報学	2
データベース技術	2
数理情報学1	2
数理情報学2	2
数値計算1	2
プログラミング上級演習	2
アルゴリズムとデータ構造演習	2
オペレーティングシステム技術	2
ネットワーク技術	2
ソフトウェア技術	2
基盤系オブジェクト指向プログラミング演習	2
開発系プログラミング演習	2
卒業研究I	2
卒業研究II	2
展開科目	
論文演習	2
空間数学	2
物理応用	2
地理空間情報技術	2
画像・映像コンテンツ演習1	2
数値計算2	2
サイバー技術	2
ディジタル信号処理	2
マルチメディア情報処理	2
情報・通信理論	2
暗号理論	2

最適化	2
ディジタル形状処理	2
大規模・高速計算	2
ネットワークアルゴリズム	2
コンピュータ設計	2
情報ビジネス	2
社会情報学2	2
実践プログラミング	2
画像・映像コンテンツ演習2	2
画像・映像コンテンツ演習3	2
幾何学1	2
幾何学2	2
コンパイラ設計	2
システムプログラム	2
画像・映像コンテンツ演習4	2
先進理工学部共通科目	
先進理工学概論	2
マイクロマシン	2
量子論	2
計算幾何学	2
新エネルギー技術	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2

AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
自由科目	
オープンプロジェクト演習	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
情報科教育法	4

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）12 単位を必修とする。

（２）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（３）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）10 単位を必修とする。

（２）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（３）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目について、以下のとおりとする。

（１）102 単位を必修とする。

（２）「微分・積分 1」から「物理 2」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）展開科目と先進理工学部共通科目の中から合計 34 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

（文学部、総合政策学部、国際経営学部、国際情報学部　省略）

教職基幹科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
教育の理念と歴史	2
教職の基礎	2
教育と社会・制度	2
発達と学習の心理	2
特別支援教育の基礎	2
道徳教育の理論と方法	2
教育課程と総合的な学習の時間	2
生徒指導と特別活動	2
教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む）	2
教育相談と進路指導	2
教育実習Ⅰ（事前・事後指導の１単位を含む。）	3
教育実習Ⅱ	2
教職実践演習	2
学校インターンシップ１	1
学校インターンシップ２	1

二　履修方法

ア　「教育の理念と歴史」から「特別支援教育の基礎」まで、「教育課程と総合的な学習の時間」から「教育実習Ⅰ（事前・事後指導の１単位を含む。）」まで、「教職実践演習」を各教科必修とする。

イ　「道徳教育の理論と方法」、「教育実習Ⅱ」は、免許状相当教科必修とする（中一種免）。

ウ　「学校インターンシップ１」、「学校インターンシップ２」は各教科選択とする。

別表第二の二（第三十二条第四項関係）

学芸員資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	2
社会教育概論（２）	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館実習	3
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論	2
古文書学（１）	2
古文書学（２）	2
古文書学（３）	2
美術史概論A	2
美術史概論B	2
古文書学演習（１）	2
古文書学演習（２）	2
古文書学演習（３）	2
考古学実習	2
美術史美術館入門演習（１）	4
美術史美術館入門演習（２）	4
考古学A	2
考古学B	2
記録史料学A	2
記録史料学B	2
日本文化史A	2
日本文化史B	2
東洋美術史A	2
東洋美術史B	2
東洋考古学A	2
東洋考古学B	2
日本美術史（近世以前）	2
日本美術史（近現代）	2
西洋美術史（近代以前）	2
西洋美術史（近現代）	2

民俗学（学史・理論）	2
民俗学（記録・分析）	2

二　履修方法

（1）　「博物館概論」から「博物館教育論」までを必修とする。

（2）　「社会教育概論(1)」、「社会教育概論(2)」までの授業科目の中から２単位、「古文書学(1)」から「美術史概論B」までの授業科目の中から２単位、「古文書学演習(1)」から「美術史美術館入門演習（2）」までの授業科目の中から２単位、「考古学A」から「民俗学（記録・分析）」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

別表第二の三（第三十二条第四項関係）

社会教育主事資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	２
社会教育概論（２）	２
生涯学習経営論（１）	２
生涯学習経営論（２）	２
生涯学習支援論（１）	２
生涯学習支援論（２）	２
社会教育演習（１）	２
社会教育演習（２）	２
社会教育実習	１
社会教育特講（１）	２
社会教育特講（２）	２
社会教育特講（３）	２
社会教育特講（４）	２
キャリア教育論	２
生涯教育論	２
生涯発達心理学	２
健康教育学	２
図書館サービス概論	２
博物館教育論	２

二　履修方法

（１）　「社会教育概論（１）」から「社会教育実習」までを必修とする。

（２）　「社会教育特講（１）」から「博物館教育論」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

別表第二の四（第三十二条第四項関係）

司書資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	２
社会教育概論（２）	２
図書館情報学概論	２
図書館情報技術論	２
図書館・情報センター経営論	２
図書館サービス概論	２
情報サービス論	２
児童サービス論	２
情報サービス演習（１）	２
情報サービス演習（２）	２
図書館情報資源概論	２
情報資源組織論	２
情報資源組織演習（１）	２
情報資源組織演習（２）	２
専門資料論	２
学校図書館サービス論	２
アーカイブ論	２
図書・図書館史	２
図書館情報学実習	２

二　履修方法

（１）　「社会教育概論（１）」、「社会教育概論（２）」、「図書館情報学概論」から「情報資源組織演習（２）」までを必修とする。

（２）　「専門資料論」から「図書館情報学実習」までの授業科目の中から４単位を必修とする。

別表第二の五（第三十二条第四項関係）

司書教諭資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
学校図書館論	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

二　履修方法

「学校図書館論」から「情報メディアの活用」までを必修とする。

別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）

外国人留学生に関する特別科目（日本語科目）

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
日本語ＡⅠ(１)	1
日本語AⅡ(１)	1
日本語AⅢ(１)	1
日本語AⅣ(１)	1
日本語ＡⅠ(２)	1
日本語AⅡ(２)	1
日本語AⅢ(２)	1
日本語AⅣ(２)	1
日本語ＡⅠ(３)	1
日本語AⅡ(３)	1
日本語AⅢ(３)	1
日本語AⅣ(３)	1
日本語ＡⅠ(４)	1
日本語AⅡ(４)	1
日本語AⅢ(４)	1
日本語AⅣ(４)	1
日本語ＢⅠ(１)	1
日本語BⅡ(１)	1
日本語ＢⅠ(２)	1
日本語BⅡ(２)	1
日本語ＢⅠ(３)	1
日本語BⅡ(３)	1
日本語ＢⅠ(４)	1
日本語BⅡ(４)	1
日本語（読解）１ａ	1
日本語（読解）１ｂ	1
日本語（表現）１ａ	1
日本語（表現）１ｂ	1
日本語（読解）２ａ	1
日本語（読解）２ｂ	1
日本語（表現）２ａ	1
日本語（表現）２ｂ	1
日本事情	2

二　履修方法

ア　日本語Aのみを履修する日本語Aコース（16単位必修）、日本語Bのみを履修する日本語Bコース（８単位必修）及び開講されている日本語科目から４単位を履修する日本語Cコース（４単位必修）を置き、いずれの方法で履修するかは、各学部が各人について指定する。

イ　修得した日本語の単位は、各学部の定めるところにより別表第二に掲げる外国語科目の卒業に必要な単位に代えることができる。

ウ　日本語Aコース、日本語Bコース及び日本語Cコースのいずれかのコースを履修した者で、日本語の修得単位で外国語科目の卒業に必要な単位を充足しない者は、別表第二に掲げる外国語科目（本人が国籍を有する国の公用語を除く。）を履修しなければならない。当該外国語の履修の範囲及びその履修の方法については、各学部の定めるところによる。

エ　「日本語（読解）１a」から「日本語（表現）２b」までの授業科目は基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部に設置し、当該３学部に在学する外国人留学生に限り履修することができる。また、設置科目及び修得単位の扱いについては、基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部が学科ごとに別に定める。

オ　「日本事情」の単位は、各学部の定めるところにより備考イに掲げる授業科目について２単位までの単位に代えることができる。

三　備考

ア　この表に掲げる授業科目の履修は、外国人留学生に限る。

イ　日本事情の単位により代えることができる授業科目の範囲は、次のとおりとする。

①　経済学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる総合教育科目。

②　商学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げるリベラルアーツ科目。

③　文学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる総合教育科目。

④　総合政策学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる基礎科目群の科目。

⑤　国際経営学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げるグローバル人材科目群の科目。

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	経済情報システム学科	社会	公民・商業
	国際経済学科		
	公共・環境経済学科	社会	公民
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
基幹理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	応用化学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科
社会理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
先進理工学部	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	情報工学科	数学	数学・情報
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民
総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 経済情報システム学科 国際経済学科 公共・環境経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

別表第四（第五十三条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
入学検定料	三五、〇〇〇
推薦入学検定料	三五、〇〇〇

別表第四の二（第五十三条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
第一次推薦入学検定料	一五、〇〇〇
第二次推薦入学検定料	二〇、〇〇〇

別表第四の三（第五十四条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
審査料Ａ	一一、〇〇〇
審査料Ｂ	五、〇〇〇

（注）一　審査料Ａは、第六十一条に基づく審査料

二　審査料Ｂは、第六十一条の二に基づく審査料

別表第五（第五十五条関係）

（単位・円）

入学金	二四〇、〇〇〇

別表第六（第五十五条関係）　　（単位・円）

学部	費目／年度	授　業　料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	―――――	２７９，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２８５，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２９０，８００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
経済学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	１５，０００	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	１５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
商学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	１８，０００	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	１８，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１８，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
基幹理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
社会理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
先進理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
文学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	―――――	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２４１，４００
総合政策学部	令和８年度	１，１２１，４００	―――――	５０，０００	２２７，６００
	令和９年度	１，１４３，８００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，１６６，６００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際経営学部	令和８年度	９８１，６００	―――――	５０，０００	２２７，６００
	令和９年度	１，００１，２００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，０２１，２００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際情報学部	令和８年度	１，０５７，８００	―――――	５０，０００	２４２，５００
	令和９年度	１，０７８，９００	―――――	５０，０００	２４７，３００
	令和１０年度	１，１００，４００	―――――	５０，０００	２５２，２００
	令和１１年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００

変更事項を記載した書類

変更事項を記載した書類

変更の事由

・多様で複雑な諸問題に対し、それぞれの分野での専門性を発揮して適切に対応し、社会の要請に応え得る人材を一層輩出すべく、令和８年４月に理工学部を募集停止し、その収容定員の再配分をもって基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部を設置するため。

変更点：第３条、第３条の２、第５３条、別表第１、別表第２、別表第２の６、別表第３、別表第３の２、別表第６

・新設する基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部の教育研究に係る運営については、新たに理工学術院を置きその運営を行うため。なお、募集停止する理工学部については、当該学部在学生がいなくなるまでの間、理工学部長の職務権限は理工学術院長に、理工学部教授会の機能は理工学術院教授会に引き継ぎ運営を行う。

変更点：第９条、第９条の２、第１１条、第１１条の２、第１３条、第３２条の２、第４３条、第６１条、第６１条の２

変更部分の新旧対照表

中央大学学則　変更部分の新旧対照表

改正箇所は、アンダーラインで表示。
◎は、新設科目を示す。
×は、廃止科目を示す。

現行	改正案
中央大学学則 規程第二百九十三号	中央大学学則 規程第二百九十三号
（学部及び学科） 第三条　本大学に、次の学部を置く。 法学部 経済学部 商学部 理工学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部 国際情報学部 ２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。	（学部及び学科） 第三条　本大学に、次の学部を置く。 法学部 経済学部 商学部 基幹理工学部 社会理工学部 先進理工学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部 国際情報学部 ２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。

（学部の教育研究上の目的） 第三条の二　前条第一項に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。	（学部の教育研究上の目的） 第三条の二　（現行どおり。）
一　法学部　法学及び政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力及び問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成する。	一　（現行どおり。）
二　経済学部　経済学及びその関連領域にかかる教育研究を行い、広く国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有し、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することのできる人材を養成する。	二　（現行どおり。）
三　商学部　商学にかかる各専門分野及びその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成する。	三　（現行どおり。）
四　理工学部　理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、新しい課題への果敢な挑戦力と組織をまとめる卓越した交渉力を持ち、人類共有の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見の成果発表を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。	四　基幹理工学部　理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、数学、自然科学（物理学・化学・生物学）、および工学の分野に関する理論と諸現象についての確実な知識と応用力を身につけ、新しい課題への果敢な挑戦力を持ち、人類共通の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。 五　社会理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が

	抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成する。
	六　先進理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、人・モノ・自然を結びつける仕組みを先導または協働して考案し、この世界に実現することを通じて、科学技術分野の諸課題の解決、ならびに持続的かつ包摂的な社会の構築に積極的に貢献できる人材を養成する。
五　文学部　人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。	七　文学部　人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。
六　総合政策学部　人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。	八　総合政策学部　人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。
七　国際経営学部　経済学、経営学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急速に変化する国際企業経営に必要となる企業経営やグローバル経済にかかる専門知識を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成する。	九　国際経営学部　経済学、経営学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急速に変化する国際企業経営に必要となる企業経営やグローバル経済にかかる専門知識を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成する。

八　国際情報学部　情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論と社会における諸現象にかかる教育研究を行う。専門分野における高度な知識を有し、複雑さを極めてグローバルな性格を有する情報の諸問題に対する解決策を立案し、提案し、かつ実現することで公正な社会を構築しうる人材を養成し、社会に貢献する。	十　国際情報学部　情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論と社会における諸現象にかかる教育研究を行う。専門分野における高度な知識を有し、複雑さを極めてグローバルな性格を有する情報の諸問題に対する解決策を立案し、提案し、かつ実現することで公正な社会を構築しうる人材を養成し、社会に貢献する。
（学生定員）	（学生定員）
第四条　第三条の学部及び学科の学生定員は、別表第一に掲げるとおりとする。	第四条　（現行どおり。）
（学部長）	（学部長）
第九条　各学部に学部長を置く。	第九条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に学部長を置く。
２　学部長は、その学部に関する事項をつかさどり、その学部を代表する。	２　（現行どおり。）
３　学部長の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。	３　（現行どおり。）
４　学部長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。	４　（現行どおり。）
（学部長補佐）	（学部長補佐）
第九条の二　各学部に、学部長の業務を補佐するために、学部長補佐を置くことができる。	第九条の二　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、学部長の業務を補佐するために、学部長補佐を置くことができる。
２　学部長補佐に関する細目は、別に定める。	２　（現行どおり。）
（学部長会議）	（学部長会議）
第十条　本大学に、各学部間の連絡協議のため、学部長会議を置く。	第十条　（現行どおり。）

（教授会） 第十一条　各学部に、教授会を置く。	（教授会） 第十一条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、教授会を置く。
２　教授会は、その学部の教授、准教授、助教及び専任講師をもつて組織する。この場合において、教授会を組織する助教及び専任講師の範囲は、当該学部が定めるところによる。	２　（現行どおり。）
３　教授会は、その学部に関する次の事項について審議し、その意見を学長に述べるものとする。 一　学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること 二　学位の授与に関すること 三　その他その学部の教育研究に関する重要事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要と認めるものとして別に定める事項	３　（現行どおり。）
４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について、審議し、又は、学長等の求めに応じて、学長等に意見を述べることができる。	４　（現行どおり。）
	（理工学術院） 第十一条の二　本大学に理工学術院を置き、理工学術院は、所属する教員により基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部の教育研究に係る運営を行う。 ２　理工学術院に理工学術院長を置く。 ３　理工学術院に、理工学術院長の業務を補佐するために、学術院長補

	佐を置くことができる。 ４　理工学術院に教授会を置く。 ５　理工学術院長の位置付け及び任期並びに理工学術院に置かれる教授会に関する組織及び審議事項、連合教授会については、第九条第二項から第四項、第九条の二第二項、第十一条第二項から第四項及び第十二条の規定を適用する。この場合において、第九条第二項から第四項中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と、「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第九条の二第二項中「学部長補佐」とあるのは「理工学術院長補佐」と、第十一条第二項中「その学部」及び「当該学部」とあるのは「理工学術院」と、第十一条第三項中「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第十一条第四項及び第十二条中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と読み替える。 ６　理工学術院、理工学術院長及び理工学術院教授会に関する細目は、この学則に定めるもののほか、別に定める。
（連合教授会） 第十二条　学長、学部長又は教授会が、各学部に共通する重要事項について連絡協議する必要を認めたときは、連合教授会を開くことができる。	（連合教授会） 第十二条　（現行どおり。）
（共同の委員会） 第十三条　教授会が必要と認めるときは、他の学部の教授会と共同して、共同の委員会を設けることができる。	（共同の委員会） 第十三条　教授会が必要と認めるときは、他の教授会と共同して、共同の委員会を設けることができる。

（運営の手続き等） 第十四条　学部長会議、教授会、連合教授会及び共同の委員会に関する運営の手続きその他必要な事項については、別に定める。	（運営の手続き等） 第十四条　（現行どおり。）
（授業） 第三十二条　本大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第二に掲げるとおりとする。	（授業） 第三十二条　（現行どおり。）
２　前項後段のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。	２　（現行どおり。）
３　前項の授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第二の二、第二の三、第二の四及び第二の五に掲げるとおりとする。	３　（現行どおり。）
（メディアを利用して行う授業科目） 第三十二条の二　前条に規定する授業については、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。	（メディアを利用して行う授業科目） 第三十二条の二　（現行どおり。）
２　多様なメディアを高度に利用して行う授業科目及び履修方法等は、各学部教授会が別に定める。	２　多様なメディアを高度に利用して行う授業科目及び履修方法等は、各教授会が別に定める。
（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法） 第三十六条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。	（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法） 第三十六条　（現行どおり。）
２　前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種	２　（現行どおり。）

類及び教科は、別表第三に掲げるとおりとする。	
（卒業の要件）	（卒業の要件）
第四十三条　卒業の要件は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、休学の期間中は卒業できない。	第四十三条　（現行どおり。）
一　四年以上在学すること	
二　卒業に必要な単位を修得していること	
２　各学部教授会の定めるところにより、当該学部の学生として三年以上在学した者が、前項第二号に定める卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項第一号の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。	２　各教授会の定めるところにより、学部の学生として三年以上在学した者が、前項第二号に定める卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項第一号の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。
（専攻分野の名称）	（専攻分野の名称）
第四十五条　学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従つて、別表第三の二に掲げるとおりとする。	第四十五条　（現行どおり。）
（入学検定料）	（入学検定料）
第五十三条　入学（再入学及び編入学を含む。）又は転科を志願する者は、別表第四に掲げる入学検定料を納めなければならない。ただし、推薦入学の選考において、二段階選考を実施する場合は、別表第四の二に掲げる入学検定料を納めなければならない。	第五十三条　入学（再入学及び編入学を含む。）又は転部科を志願する者は、別表第四に掲げる入学検定料を納めなければならない。ただし、推薦入学の選考において、二段階選考を実施する場合は、別表第四の二に掲げる入学検定料を納めなければならない。
２　前項本文の規定にかかわらず、本大学は、特別の理由がある場合に、別に定めるところにより入学検定料を減額することがある。	２　（現行どおり。）
（学費）	（学費）
第五十五条　学費は次のとおりとし、納入額は別表第五、別表第六及び	第五十五条　（現行どおり。）

別表第七に掲げるとおりとする。 一　入学金 二　授業料 三　実験実習料 四　教育充実費 五　施設設備費 六　教職履修料 七　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料	
2　学費の減免措置については、別に定める。	2　（現行どおり。）
（科目等履修生）	（科目等履修生）
第六十一条　各学部教授会（中央大学教育職員の養成に関する運営委員会（以下「教職運営委員会」という。）を含む。）は、本大学の学部学生以外の者が単位の修得を目的として、別表第四の三に掲げる審査料を添えて特定の授業科目の履修を願い出た場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。	第六十一条　各教授会（中央大学教育職員の養成に関する運営委員会（以下「教職運営委員会」という。）を含む。）は、本大学の学部学生以外の者が単位の修得を目的として、別表第四の三に掲げる審査料を添えて特定の授業科目の履修を願い出た場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。
2　前項により履修を願い出ることができる者は、第二十二条に定める入学の資格を有する者でなければならない。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りでない。	2　（現行どおり。）
3　前項の規定にかかわらず、教育職員の免許並びに学芸員、社会教育主事、司書及び司書教諭の資格を取得するために必要な授業科目の単	3　（現行どおり。）

位の修得を目的として履修を願い出ることができる者は、学士の学位（大学院に在学する者を含む。）を有する者であつて、教職運営委員会又は文学部教授会がそれぞれ定める要件を満たす者でなければならない。	
4　履修を許可された者は、所定の期日までに、別に定める科目等履修費を納入し、履修の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、科目等履修生証を交付する。	4　（現行どおり。）
5　科目等履修生として、授業科目を履修できる期間は、六カ月又は一年とする。	5　（現行どおり。）
6　科目等履修生が各学部において一学年度に履修できる単位は、三十単位を超えない範囲で当該学部教授会において定める。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限は、必要に応じて教職運営委員会又は文学部教授会において定めるものとする。	6　科目等履修生が各学部において一学年度に履修できる単位は、三十単位を超えない範囲で当該教授会において定める。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限は、必要に応じて教職運営委員会又は文学部教授会において定めるものとする。
7　前項本文の規定にかかわらず、科目等履修生が二学部以上の授業科目を履修する場合において、一学年度に履修できる単位は、各学部を通算して三十単位を超えることはできない。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限については、この限りでない。	7　（現行どおり。）
8　科目等履修生が、授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試験」という。）に合格したときには、所定の単位を与える。当該試験の成績は、科目等履修生に通知する。	8　（現行どおり。）
9　科目等履修生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。	9　（現行どおり。）

（聴講生） 第六十一条の二　各学部教授会は、別表第四の三に定める審査料を添えて、特定の授業科目について聴講を願い出た者がいる場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、聴講生として当該授業科目の聴講を許可することができる。	（聴講生） 第六十一条の二　各教授会は、別表第四の三に定める審査料を添えて、特定の授業科目について聴講を願い出た者がいる場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、聴講生として当該授業科目の聴講を許可することができる。
２　聴講を願い出る者の資格は、各学部教授会が定める。	２　聴講を願い出る者の資格は、各教授会が定める。
３　聴講を許可された者は、所定の期日までに、別に定める聴講料を納入し、聴講の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、聴講生証を交付する。	３　（現行どおり。）
４　聴講生として、授業科目を聴講できる期間は、六カ月又は一年とする。	４　（現行どおり。）
５　聴講生が聴講した授業科目について試験を受けたときは、請求により成績証明書を交付する。ただし、授業科目の単位は与えない。	５　（現行どおり。）
６　聴講生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。	６　（現行どおり。）
（外国人留学生） 第六十一条の三　外国人留学生の受入れについては、別に定める。	（外国人留学生） 第六十一条の三　（現行どおり。）
２　外国人留学生で、外国の大学を卒業した者又はこれに準ずる者は、第三年次に編入学を認めることができる。	２　（現行どおり。）
３　外国人留学生については、学修の必要に応じて別表第二に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて特別の科目を置くことができる。	３　（現行どおり。）
４　前項に定める特別の科目として日本語及び日本事情に関する科目等	４　（現行どおり。）

（以下「日本語科目等」という。）を置く。	
5　日本語科目等の名称、単位数、年次配当及び履修の基本方法は、別表第二の六に掲げるとおりとする。	5　（現行どおり。）
	附　則（規程第三千百三十八号）
	（施行期日）
	1　この学則は、令和八年四月一日から施行する。
	（経過措置）
	2　改正後のこの学則は、令和八年度以降の入学生から適用し、令和七年度以前の入学生については、なお従前の例による。
	3　理工学部については、令和八年度から学生募集を停止し、当該学部に在学する者がいなくなるまでの間は存続する。
	4　この学則施行の際、改正前の学則に基づき理工学部長がつかさどる事項については、理工学術院長がこれを行い理工学部を代表する。理工学部教授会が審議し、又は、その意見を学長等に述べる事項については、理工学術院教授会がこれを行う。
	5　この学則施行後、最初に就任する理工学術院長の任期は、第九条第三項及び第十一条の二第五項の規定にかかわらず、令和九年十月三十一日までとする。
別表第一（第四条関係）	別表第一（第四条関係）
【別紙1 参照】	【別紙2 参照】
別表第二（第三十二条第二項関係）理工学部	別表第二（第三十二条第二項関係）基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部

【別紙3 参照】	【別紙4 参照】
別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）	別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）
【別紙5 参照】	【別紙6 参照】
別表第三（第三十六条第二項関係）	別表第三（第三十六条第二項関係）
【別紙7 参照】	【別紙8 参照】
別表第三の二（第四十五条関係）	別表第三の二（第四十五条関係）
【別紙9 参照】	【別紙10 参照】
別表第六（第五十五条関係）	別表第六（第五十五条関係）
【別紙11 参照】	【別紙12 参照】

別紙1（現行）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	八二	三、五二八
	国際企業関係法学科	一六八	六七二
	政治学科	三八九	一、五五六
	計	四三九	五、七五六
経済学部	経済学科	四六七	一、八六八
	経済情報システム学科	一八〇	七二〇
	国際経済学科	二六五	一、〇六〇
	公共・環境経済学科	一五〇	六〇〇
	計	一、〇六二	四、二四八
商学部	経営学科	三三〇	一、三二〇
	会計学科	三〇〇	一、二〇〇
	国際マーケティング学科	三〇〇	一、二〇〇
	金融学科	一二〇	四八〇
	計	一、〇二〇	四、〇八〇
理工学部	応用化学科	一四五	五八〇
	電気電子情報通信工学科	一三五	五四〇
	精密機械工学科	一四五	五八〇
	都市環境学科	九〇	三六〇
	物理学科	七〇	二八〇
	数学科	七〇	二八〇
	ビジネスデータサイエンス学科	一四五	五八〇
	情報工学科	一〇五	四六〇
	生命科学科	七五	三〇〇
	人間総合理工学科	七五	三〇〇
	計	一、〇二〇	四、〇八〇
文学部	人文社会学科	九九〇	三、九六〇
	計	九九〇	三、九六〇
総合政策学部	政策科学科	一一五〇	六〇〇
	国際政策文化学科	一五〇	六〇〇
	計	三〇〇	一、二〇〇
国際経営学部	国際経営学科	三〇〇	一、二〇〇
	計	三〇〇	一、二〇〇
国際情報学部	国際情報学科	一五〇	六〇〇
	計	一五〇	六〇〇
総計		六、二八一	二五、一二四

別紙２（改正案）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	467	1,868
	経済情報システム学科	180	720
	国際経済学科	265	1,060
	公共・環境経済学科	150	600
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
総計		6,281	25,124

別紙３（現行）

別表第二（第三十二条第二項関係）

理工学部数学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語ＡⅠ	1
ドイツ語ＡⅡ	1
ドイツ語ＢⅠ	1
ドイツ語ＢⅡ	1
フランス語ＡⅠ	1
フランス語ＡⅡ	1
フランス語ＢⅠ	1
フランス語ＢⅡ	1
中国語ＡⅠ	1
中国語ＡⅡ	1
中国語ＢⅠ	1
中国語ＢⅡ	1
ドイツ語ＡⅢ	1

ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2

政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	

数学A	4
数学B	4
線形代数学一	4
線形代数学二	4
物理一	2
物理二	2
化学一	2
化学二	2
コア科目	
基礎数学一	2
基礎数学二	2
数学演習A	1
数学演習B	1
線形代数学一演習	1
線形代数学二演習	1
情報処理	2
プログラミング言語一	2
基礎数学三	4
代数学序論	4
解析学第一	4
卒業研究Ⅰ	4
卒業研究Ⅱ	4
展開科目	
離散数学一	2
離散数学二	2
基礎数学四	2
代数学一	4
幾何学序論	2
解析学第二	4
解析学第三	2
統計数学一	2
統計数学二	2
数値計算法一	2
数値計算法二	2
数学特別講義（情報と職業）	2
位相数学	4
代数学二	4
代数学三	4
幾何学一	4

幾何学二	4
実解析学一	2
実解析学二	4
複素解析学一	4
複素解析学二	2
統計数学三	4
統計数学四	4
数値解析一	2
プログラミング言語二	2
計算の理論一	2
プログラミング言語三	2
代数学四	2
代数学五	2
代数学六	2
幾何学三	2
幾何学四	2
幾何学五	2
解析学四	2
解析学五	2
解析学六	2
確率論	2
応用統計学一	2
応用統計学二	2
応用統計学三	2
応用統計学四	2
計算の理論二	2
ネットワークと情報通信	2
コンピュータと情報処理	2
データベースと情報検索	2
情報システム	2
情報処理応用	2
情報数学特論一	2
情報数学特論二	2

情報数学特論三	2
情報数学特論四	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1

産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、128単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」まで（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の授業科目の中から４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」、「体育実技AⅡ」を必修とする。

（３）　人文社会から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　94単位を必修とする。

（２）　基礎科目の「数学A」から「線形代数学二」までを必修とする。

（３）　「物理一」から「化学二」までの授業科目の中から４単位、コア科目の中から32単位、展開科目の中から38単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部物理学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語AⅠ	1
ドイツ語AⅡ	1
ドイツ語BⅠ	1
ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1

フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2

現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
数学一	2
数学二	2
線形代数一	2

線形代数二	2
物理一	2
化学一	2
物理実験	2
物理二	2
化学二	2
情報システム	2
データベースと情報検索	2
ネットワークと情報通信	2
情報通信産業論	2
コア科目	
情報処理概論	2
物理学実験一	3
物理学実験二	3
物理学特別演習	1
卒業研究Ⅰ	2
卒業研究Ⅱ	2
コア選択科目	
力学及演習一	3
力学及演習二	3
物理数学及演習一	3
物理数学及演習二	3
電磁気学及演習一	3
電磁気学及演習二	3
量子力学及演習一	3
量子力学及演習二	3
統計力学及演習一	3
統計力学及演習二	3
展開科目	
現代物理学序論	2
解析力学	2
確率及統計	2
化学実験	2
代数学Ⅰ	2
代数学Ⅱ	2
数理解析	2
応用解析一	2
応用解析二	2
固体物性	2

量子化学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
統計物理学	2
物性物理学	2
宇宙物理学	2
量子情報物理学	2
超伝導物理学	2
固体物理学	2
生物物理学	2
複雑系物理学	2
相対性理論	2
数値計算特論	2
量子情報通信	2
相関電子系物理学	2
物理情報計測	2
コンピュータ及情報処理一	2
コンピュータ及情報処理二	2
計算プログラミング	2
科学英語一	2
科学英語二	2
計算機シミュレーション一	2
計算機シミュレーション二	2
エレクトロニクス	2
地学一	2
地学二	2
生物学一	2
生物学二	2
物理化学	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2

AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2

生物学実験Ⅰ	1
生物学実験Ⅱ	1
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　「英語表現演習一」から「中国語BⅡ」までの授業科目の中から12単位を必修とする。ただし、「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までのすべての授業科目を必修とする。

（２）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」までの授業科目（ただし、第二外国語の中から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（３）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」から「体育実技AⅡ」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　96単位を必修とする。

（２）　「数学一」から「物理実験」までの授業科目、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　コア選択科目の中から24単位、「現代物理学序論」から「相関電子系物理学」までの授業科目の中から20単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部都市環境学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1

英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語AⅠ	1
ドイツ語AⅡ	1
ドイツ語BⅠ	1
ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1

総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2

アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
線形代数	2
微分・積分	2
力学	2
基礎化学	2
物理実験	2
化学実験	2
熱力学・電磁気学	2
フレッシュマンセミナー	2
固体・流体の科学	2
確率・統計	2
解析学基礎	2

データ解析基礎	2
空間のマネジメント	2
流体力学	2
材料力学	2
流体力学演習	1
材料力学演習	1
数学演習	1
地学一	2
水理学一	2
構造力学一	2
応用解析Ⅰ	2
応用解析Ⅱ	2
プログラミング言語	2
都市・地域計画	2
空間情報学	2
水理学二	2
構造力学二	2
地盤工学一	2
コンクリート材料	2
鉄筋コンクリート構造	2
水理学および構造力学演習一	1
水理学および構造力学演習二	1
鉄筋コンクリート構造演習	1
データ解析	2
システム最適化	2
生活環境論	2
自然環境論	2
水環境システム学	2
空間情報学実習	2
力学実験	3
現場実習	2
キャリアデザインと倫理	2
数値解析	2
空間デザイン演習	2
コミュニティデザイン	2
地盤工学二	2
地盤工学演習	1
固体力学	2
環境解析	2

河川工学	2
維持管理工学	2
防災工学	2
振動と耐震	2
海岸・港湾工学	2
水文学	2
交通計画	2
基礎生態学	2
環境エネルギー工学	2
環境リスク評価論	2
専門演習一	2
専門演習二	2
空間設計実習	2
政策分析・評価	2
国土・都市行政	2
地形・地質工学	2
シミュレーション工学	2
水環境工学	2
機能とデザイン演習	2
地理空間情報学	2
卒業研究Ⅰ	3
卒業研究Ⅱ	3
政策評価手法	2
都市水循環	2
計算力学	2
材料科学論	2
地盤動力学	2
構造物の安全性・信頼性	2
気象学	2
海岸水理学	2
離散選択モデル	2
輸送システム	2
連続体力学	2
地盤構造物の設計・施工・維持管理	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2

FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　第二外国語のうち、「ドイツ語AⅠ」から「中国語BⅡ」までの授業科目の中からいずれか１カ国語を選択し、４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目からについては、以下のとおりとする。

（１）　９単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」から「体育実技AⅡ」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　103単位を必修とする。

（２）　「線形代数」から「熱力学・電磁気学」までの授業科目の中から10単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部精密機械工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1

中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語ＡⅠ	1
ドイツ語ＡⅡ	1
ドイツ語ＢⅠ	1
ドイツ語ＢⅡ	1
フランス語ＡⅠ	1
フランス語ＡⅡ	1
フランス語ＢⅠ	1
フランス語ＢⅡ	1
中国語ＡⅠ	1
中国語ＡⅡ	1
中国語ＢⅠ	1
中国語ＢⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技ＡⅠ	1
体育実技ＡⅡ	1
体育実技ＢⅠ	1
体育実技ＢⅡ	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2

人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2

グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
数学Ⅰ	2
数学Ⅱ	2
数学Ⅲ	2
数学Ⅳ	2
数学演習Ⅰ	2
数学演習Ⅱ	2
物理実験	2
物理学	2
化学Ⅰ	2
化学Ⅱ	2
コア科目	
力学Ⅰ	2
力学Ⅱ	2
情報処理	2
材料力学Ⅰ	2
精密機械材料Ⅰ	2
設計製図通論	2
精密機械工学概論	2
精密機械工学特別講義	2
精密機械工学演習	2
機構学	2
機械力学Ⅰ	2

流体力学Ⅰ	2
工業熱力学	2
材料加工学Ⅰ	2
精密機械製図	2
電気工学	2
制御工学Ⅰ	2
精密機械工学プロジェクト	2
伝熱工学	2
計測工学Ⅰ	2
精密機械工学実験	2
卒業研究Ⅰ	3
卒業研究Ⅱ	3
コア選択科目	
情報処理演習	2
機械力学演習	2
材料力学演習	2
流体力学演習	2
電子回路	2
制御工学演習	2
応用数学Ⅰ	1
応用数学Ⅱ	1
応用数学Ⅲ	1
応用数学Ⅳ	1
熱工学演習	2
展開科目	
工業技術史	2
機械力学Ⅱ	2
材料力学Ⅱ	2
情報工学演習	2
計算工学Ⅰ	2
精密機械材料Ⅱ	2
材料加工学Ⅱ	2
代数学Ⅰ	2
代数学Ⅱ	2
音響工学	2
弾塑性学	2
流体力学Ⅱ	2
ソフトコンピューティング	2
材料強度学	2

トライボロジー	2
加工制御工学	2
工作機械学	2
生産システム工学	2
設計システム工学	2
工業デザイン	2
マイクロマシン	2
制御工学Ⅱ	2
メカトロニクス	2
ロボット工学	2
現代制御理論	2
計測工学Ⅱ	2
光学	2
生体工学	2
医用精密工学	2
情報機器	2
科学技術英語	2
機械要素設計	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
計算工学Ⅱ	2
画像処理	2
品質工学	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1

グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
工業科教育法1	2
工業科教育法2	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　９単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」から「体育実技AⅡ」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　103単位を必修とする。

（２）　「数学Ⅰ」から「物理実験」までの授業科目、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　コア選択科目の中から14単位、展開科目の中から27単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部電気電子情報通信工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語AⅠ	1
ドイツ語AⅡ	1
ドイツ語BⅠ	1
ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1

フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2

環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
知的財産法演習	2
産業財産権法	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分一	4
微分・積分二	4
線形代数一	2
線形代数二	2

物理一	2
物理二	2
物理実験	2
化学一	2
化学二	2
コア科目	
電気電子情報通信工学概論	1
回路基礎及演習一	3
ディジタル代数及演習	3
技術文書作成演習	1
プログラム言語及演習一	2
プログラム言語及演習二	2
解析概論	4
電磁気学及演習一	3
電磁気学及演習二	3
回路基礎及演習二	3
制御工学	2
電子回路一	2
電子物性	2
情報理論	2
電気電子情報通信実験A	3
電気電子情報通信実験B	3
卒業研究Ⅰ	3
卒業研究Ⅱ	3
展開科目	
確率及統計	2
材料力学概論	2
電磁気計測	2
半導体工学	2
電子計測	2
数値解析	2
アルゴリズムとデータ構造	2
数理計画法	2
コンピュータ工学基礎	2
電気回路	2
電気機器基礎	2
代数学Ⅰ	2
代数学Ⅱ	2
発変電工学	2

送配電工学	2
電気機器応用	2
パワーエレクトロニクス	2
電気化学と電池	2
システム制御	2
センシング工学	2
電磁界理論	2
電磁波工学	2
光エレクトロニクス	2
電気・電子材料	2
電子回路二	2
電子回路設計	2
ディジタル回路	2
信号処理	2
情報通信伝送	2
量子論	2
情報数学	2
情報セキュリティ基礎	2
電気機器設計	2
先端技術特別講義一	2
機械学習	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
工学デザイン概論	2
科学技術英語	2
品質管理	2
新エネルギー技術	2
電力応用	2
電気法規及施設管理	2
ロボット工学	2
応用数理解析	2
情報通信ネットワーク	2
通信機器	2
通信法規	2
コンピュータシステムとインターネット	2
データベース工学	2
コンピュータグラフィックス	2
情報通信産業論	2
生体情報工学	2

先端技術特別講義二	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2

産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
情報科教育法	4
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
工業科教育法1	2
工業科教育法2	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」、「体育実技AⅡ」を必修とする。

（３）　人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　102単位を必修とする。

（２）　「微分・積分一」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　展開科目の中から39単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部応用化学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語AⅠ	1
ドイツ語AⅡ	1
ドイツ語BⅠ	1
ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1

フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2

環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分一	4
微分・積分二	4
物理一	2
物理二	2

物理実験	2
基礎物理化学	2
物理化学一	2
化学実験	2
コア科目	
基礎無機化学	2
無機化学一	2
基礎有機化学	2
有機化学一	2
化学情報処理	2
基礎化学工学	2
応用化学実験一	3
応用化学実験二	3
応用化学実験三	3
応用化学実験四	3
卒業研究Ⅰ	4
卒業研究Ⅱ	4
コア選択科目	
線形代数一	2
線形代数二	2
物理化学二	2
物理化学三	2
物理化学演習	2
無機化学二	2
分析化学	2
無機化学演習	2
有機化学二	2
有機化学三	2
化学工学一	2
化学工学二	2
物理化学四	2
物理化学五	2
無機化学三	2

有機化学四	2
高分子化学	2
有機化学演習	2
化学工学演習	2
展開科目	
地学一	2
地学二	2
生物学一	2
生物学二	2
分子機能化学	2
生物無機化学	2
応用分析化学	2
無機材料化学	2
有機金属化学	2
生物有機化学	2
天然物化学	2
応用有機化学二	2
光機能化学	2
化学工学三	2
化学工学四	2
化学工学五	2
品質管理	2
有機分析化学	2
応用有機化学一	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2

専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
生物学実験Ⅰ	1
生物学実験Ⅱ	1
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」、「体育実技AⅡ」を必修とする。

（３）　人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　96単位を必修とする。

（２）　基礎科目、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　コア選択科目から30単位、展開科目から10単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部ビジネスデータサイエンス学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1

英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語AⅠ	1
ドイツ語AⅡ	1
ドイツ語BⅠ	1
ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2

生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2

科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分一	4
微分・積分二	4
線形代数一	2
線形代数二	2
物理一	2
化学一	2
物理実験	2
化学実験	2
物理二	2
化学二	2
コア科目	
データサイエンス概論	2
情報処理	2
情報処理演習	1
プログラム言語及演習一	2
確率論	2
確率論演習	1
統計学	2
統計学演習	1

応用解析一	2
応用解析二	2
データ解析一	2
オペレーションズ・リサーチ一	2
テクニカル・プレゼンテーション	1
データサイエンス実験A	2
データ構造とアルゴリズム	2
データサイエンス実験B	2
オペレーションズ・リサーチ演習	1
データサイエンス演習	1
卒業研究Ⅰ	2
卒業研究Ⅱ	2
コア選択科目	
品質管理	2
企業データ分析	2
生産管理	2
マーケティング・リサーチ	2
サプライチェーン・マネジメント	2
金融工学	2
実験計画法	2
経済性工学	2
データ解析二	2
プログラム言語及演習二	2
オペレーションズ・リサーチ二	2
機械学習基礎論	2
データベース工学	2
深層学習	2
最適化手法	2
時系列解析	2
展開科目	
データサイエンス基礎演習	1
応用確率論	2
情報数学	2
情報システムの構造と理論	2
情報理論	2
経営学基礎論	2
データ処理と可視化	2
人間工学	2
人工知能基礎論	2

人工知能応用論一	2
代数学Ⅰ	2
代数学Ⅱ	2
生存時間解析	2
数理統計学	2
情報幾何学	2
人工知能応用論二	2
数値解析	2
感性工学	2
情報通信産業論	2
経営戦略論	2
シミュレーション	2
産業心理学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
新製品開発論	2
確率過程論	2
ソフトウェア工学	2
データサイエンス特別講義A	2
データサイエンス特別講義B	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2

グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）　12単位を必修とする。

（2）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（3）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技ＡⅠ」から「体育実技ＡⅡ」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　102単位を必修とする。

（２）　「微分・積分一」から「化学一」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　「物理実験」から「化学実験」までの授業科目の中から２単位、「品質管理」から「経済性工学」までの授業科目の中から12単位、「データ解析二」から「時系列解析」までの授業科目の中から12単位、展開科目の中から24単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部情報工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語ＡⅠ	1
ドイツ語ＡⅡ	1
ドイツ語ＢⅠ	1

ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
スポーツ解析	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2

科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2

技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分一	4
微分・積分二	4
線形代数一	2
線形代数二	2
物理一	2
物理二	2
物理実験	2
化学一	2
化学二	2
コア科目	
情報基礎数学	2
映像情報学	2
コンピュータの構造	2
情報総合概論	2
Cプログラミング初級	2
Cプログラミング初級演習	2
Cプログラミング中級演習	2
情報総合演習	2
社会情報学一	2
数理基礎一	2
数理基礎二	2
応用数学	2
知能情報学	2
データベース技術	2
数理情報学一	2
数理情報学二	2
数値計算一	2
プログラミング上級演習	2
アルゴリズムとデータ構造演習	2

オペレーティングシステム技術	2
ネットワーク技術	2
ソフトウェア技術	2
基盤系オブジェクト指向プログラミング演習	2
開発系プログラミング演習	2
卒業研究Ⅰ	2
卒業研究Ⅱ	2
展開科目	
論文演習	2
空間数学	2
物理応用	2
地理空間情報技術	2
画像・映像コンテンツ演習一	2
数値計算二	2
サイバー技術	2
ディジタル信号処理	2
マルチメディア情報処理	2
情報・通信理論	2
暗号理論	2
最適化	2
ディジタル形状処理	2
大規模・高速計算	2
計算幾何学	2
ネットワークアルゴリズム	2
コンピュータ設計	2
情報ビジネス	2
社会情報学二	2
実践プログラミング	2
画像・映像コンテンツ演習二	2
画像・映像コンテンツ演習三	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
コンピュータグラフィックス	2
コンパイラ設計	2
システムプログラム	2
画像・映像コンテンツ演習四	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4

短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
オープンプロジェクト演習	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1

産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
情報科教育法	4

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「英語コミュニケーション一」から「中国語BⅡ」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」、「体育実技AⅡ」を必修とする。

（３）　人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　102単位を必修とする。

（２）　「微分・積分一」から「物理二」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）展開科目の中から34単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部生命科学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1

英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語AⅠ	1
ドイツ語AⅡ	1
ドイツ語BⅠ	1
ドイツ語BⅡ	1
フランス語AⅠ	1
フランス語AⅡ	1
フランス語BⅠ	1
フランス語BⅡ	1
中国語AⅠ	1
中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1

総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
健康スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2
憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2

日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
数学一	2
数学二	2
物理一	2
物理二	2
化学一	2
化学二	2
コア科目	
基礎生化学	2
基礎分子生物学	2
進化多様性生物学	2
生命科学英語初級	1
情報処理演習一	1
情報処理演習二	1

代謝生物学	2
分子遺伝学	2
分子細胞生物学	2
地球環境・生態学	2
遺伝情報学実験	3
代謝生物学実験	3
環境生物学実験	3
植物分子生理学	2
動物分子生理学	2
応用生物学	2
生理・生化学実験	3
遺伝子工学実験	3
動物生理学実験	3
生命科学英語上級一	1
生命科学英語上級二	1
分子発生学	2
卒業研究Ⅰ	4
卒業研究Ⅱ	4
展開科目	
基礎生物学	2
物理実験	2
化学実験	2
地学一	2
地学二	2
バイオインフォマティクス	2
生物環境情報学	2
生物統計学	2
生命科学英語中級	1
生体エネルギー論	2
生命科学技術基礎	2
進化学	2
自然史野外実習	1
脳・神経科学	2
環境応用微生物学	2
生産応用微生物学	2
ヒトと病気の生物学	2
バイオテクノロジー概論	2
ヒューマンバイオロジー	2
タンパク質デザイン	2

エイジング生物学	2
免疫学	2
生体物質機能学	2
生物資源経済学	2
環境工学	2
生物学特殊講義一（環境関係）	2
生物学特殊講義二（食品関係）	2
生物学特殊講義三（生体関係）	2
生物学特殊講義四（安全性関係）	2
生物物理学	2
生体工学	2
生物有機化学	2
生物無機化学	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2

大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2
先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1
教職科目	
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、127単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　12単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「ドイツ語AⅠ」から「中国語BⅡ」までの授業科目の中から１カ国語を選択し、４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」、「体育実技AⅡ」を必修とする。

（３）　人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　89単位を必修とする。

（２）　コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　基礎科目の中から８単位、展開科目の中から24単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

理工学部人間総合理工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習一	1
英語表現演習二	1
英語表現演習三	1
英語表現演習四	1
英語講読演習一	1
英語講読演習二	1
英語講読演習三	1
英語講読演習四	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーション一	1
英語コミュニケーション二	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座一	1
中級英語試験講座二	1
上級英語試験講座	1
第二外国語	
ドイツ語ＡⅠ	1
ドイツ語ＡⅡ	1
ドイツ語ＢⅠ	1
ドイツ語ＢⅡ	1
フランス語ＡⅠ	1
フランス語ＡⅡ	1
フランス語ＢⅠ	1
フランス語ＢⅡ	1
中国語ＡⅠ	1

中国語AⅡ	1
中国語BⅠ	1
中国語BⅡ	1
ドイツ語AⅢ	1
ドイツ語AⅣ	1
ドイツ語BⅢ	1
ドイツ語BⅣ	1
フランス語AⅢ	1
フランス語AⅣ	1
フランス語BⅢ	1
フランス語BⅣ	1
中国語AⅢ	1
中国語AⅣ	1
中国語BⅢ	1
中国語BⅣ	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技AⅠ	1
体育実技AⅡ	1
体育実技BⅠ	1
体育実技BⅡ	1
ライフセービング	2
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
人文社会	
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
倫理学Ⅰ	2
倫理学Ⅱ	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想Ⅰ	2
科学思想Ⅱ	2
心理学Ⅰ	2
心理学Ⅱ	2
芸術Ⅰ	2
芸術Ⅱ	2

憲法	2
法学	2
経済Ⅰ	2
経済Ⅱ	2
政治学Ⅰ	2
政治学Ⅱ	2
現代社会論Ⅰ	2
現代社会論Ⅱ	2
環境論Ⅰ	2
環境論Ⅱ	2
生命と多様性Ⅰ	2
生命と多様性Ⅱ	2
欧米の文化と歴史Ⅰ	2
欧米の文化と歴史Ⅱ	2
アジアの文化と歴史Ⅰ	2
アジアの文化と歴史Ⅱ	2
日本の歴史と現代Ⅰ	2
日本の歴史と現代Ⅱ	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習Ⅰ	2
教養演習Ⅱ	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	2
ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBⅠ	1
グローバルスタディーズBⅡ	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2

多文化共生論	2
障害学	2
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分一	4
微分・積分二	4
線形代数一	2
物理一	2
物理二	2
化学一	2
化学二	2
線形代数二	2
化学実験	2
物理実験	2
コア科目	
認知脳科学	2
空間情報科学概論	2
生命倫理	2
都市と環境	2
基礎生態学	2
エネルギー創造学	2
フレッシュマンセミナー	1
確率・統計一	2
情報処理	2
環境物理化学	2
情報処理演習	1
応用認知心理学	2
都市空間と行動	2
人体の構造と機能	2
健康科学概論	2
生物統計学	2
環境デザイン論	2
保全生態学概論	2
水環境システム学	2
環境エネルギー工学	2
ソフォモアセミナー	1
救急理論・実習	1
デザイン技法	2
プログラミング言語一	2

人間総合理工学演習一	3
人間総合理工学演習二	3
環境エネルギー・自然誌実習	3
認知科学・健康科学実習	3
卒業研究Ⅰ	2
卒業研究Ⅱ	2
展開科目	
心理統計学	2
心理統計学演習	1
保全生態学フィールドワーク・データ解析	2
基礎生物・生化学	2
確率・統計二	2
地球科学	2
科学技術の発展と人間社会	2
現代物理学一	2
現代物理学二	2
地学一	2
地学二	2
微生物学	2
エコロジカルプランニング	2
機器分析化学	2
ヒューマンウエルネス論	2
サスティナビリティ行動科学	2
物質エネルギー操作	2
水環境工学	2
ヒューマンバイオロジー	2
保健医療情報処理	2
プログラミング言語二	2
応用植生学	2
環境政策	2
空間情報モデリング	2
生物統計学演習	1
システム最適化	2
都市・地域計画	2
認知マーケティング	2
交通計画	2
都市空間解析	2
品質管理	2
感性工学	2

人間工学	2
バイオメカニクス	2
エイジング生物学	2
ヒトと病気の生物学	2
医用精密工学	2
免疫学	2
気象学	2
環境リスク評価論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
AI・データサイエンス演習A（一）	2
AI・データサイエンス演習A（二）	2
AI・データサイエンス演習B（一）	2
AI・データサイエンス演習B（二）	2
AI・データサイエンス演習C（一）	2
AI・データサイエンス演習C（二）	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
自由科目	
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
知的財産取扱基礎知識	2

先端科学技術論Ⅰ	2
先端科学技術論Ⅱ	2
先端科学技術論Ⅲ	2
産業キャリア教育プログラム	
産業科学技術論A	2
産業科学技術演習A	1
産業科学技術論B	2
産業科学技術演習B	1
産業科学技術論C	2
産業科学技術演習C	1
産業科学技術研修A	1
産業科学技術研修B	1

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位を必修とする。

（２）　「英語表現演習一」から「英語講読演習四」までを必修とする。

（３）　「英語コミュニケーション一」から「上級英語試験講座」までの授業科目の中から２単位、「ドイツ語AⅠ」から「中国語BⅡ」までの授業科目の中からいずれか１カ国語を選択して４単位を必修とする。

（４）　外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　10単位を必修とする。

（２）　「体育実技AⅠ」、「体育実技AⅡ」を必修とする。

（３）　人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　100単位を必修とする。

（２）　「微分・積分一」から「線形代数一」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）　「物理一」から「物理実験」までの授業科目の中から６単位、展開科目の中から24単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」、「大学生のための論文作成の技法（発展編）」、自由科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

別紙４　(改正案)

別表第二（第三十二条第二項関係）

基幹理工学部数学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1

フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2

欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	4
数学2	4
線形代数学1	4
線形代数学2	4
物理1	2
物理2	2
化学1	2
化学2	2

コア科目	
基礎数学1	2
基礎数学2	2
数学1演習	1
数学2演習	1
線形代数学1演習	1
線形代数学2演習	1
情報処理	2
プログラミング言語1	2
基礎数学3	4
代数学序論	4
解析学1	4
卒業研究I	4
卒業研究II	4
展開科目	
離散数学1	2
離散数学2	2
基礎数学4	2
代数学1	4
幾何学序論	2
解析学2	4
解析学3	2
統計数学1	2
統計数学2	2
数値計算法1	2
数値計算法2	2
数学特別講義(情報と職業)	2
位相数学	4
代数学2	4
代数学3	4
幾何学1	4
幾何学2	4
実解析学1	2
実解析学2	4
複素解析学1	4
複素解析学2	2
統計数学3	4
統計数学4	4
数値解析	2
プログラミング言語2	2
計算の理論	2
プログラミング言語3	2
代数学4	2
代数学5	2

代数学6	2
幾何学3	2
幾何学4	2
解析学4	2
解析学5	2
解析学6	2
確率論	2
応用統計学1	2
応用統計学2	2
応用統計学3	2
データベースと情報検索	2
情報数学特論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・チュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2

数学科教育法3	2
数学科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、128 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」まで（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択すること。）の授業科目の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）94 単位を必修とする。

（2）「数学 1」から「線形代数学 2」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）「物理 1」から「化学 2」までの授業科目の中から４単位、展開科目の中から 38 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

基幹理工学部物理学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1

アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2

哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2

技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	2
数学2	2
線形代数1	2
線形代数2	2
物理1	2
化学1	2
物理実験	2
物理2	2
化学2	2
情報システム	2
データベースと情報検索	2
ネットワークと情報通信	2
情報通信産業論	2
コア科目	
情報処理概論	2
物理学実験1	3
物理学実験2	3
物理学特別演習	1
卒業研究I	2
卒業研究II	2
コア選択科目	
力学及演習1	3
力学及演習2	3
物理数学及演習1	3
物理数学及演習2	3
電磁気学及演習1	3
電磁気学及演習2	3
量子力学及演習1	3
量子力学及演習2	3

統計力学及演習1	3
統計力学及演習2	3
展開科目	
現代物理学序論	2
解析力学	2
確率及統計	2
化学実験	2
代数学1	2
代数学2	2
数理解析	2
応用解析1	2
応用解析2	2
固体物性	2
量子化学	2
幾何学1	2
幾何学2	2
統計物理学	2
物性物理学	2
宇宙物理学	2
量子情報物理学	2
超伝導物理学	2
固体物理学	2
生物物理学	2
複雑系物理学	2
相対性理論	2
数値計算特論	2
量子情報通信	2
相関電子系物理学	2
物理情報計測	2
コンピュータ及情報処理1	2
コンピュータ及情報処理2	2
計算プログラミング	2
科学英語1	2
科学英語2	2
計算機シミュレーション1	2
計算機シミュレーション2	2
エレクトロニクス	2
コンピュータグラフィックス	2
地学1	2
地学2	2
生物学1	2
生物学2	2
物理化学	2
学部間共通科目	

短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
生物学実験Ⅰ	1
生物学実験Ⅱ	1
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）96 単位を必修とする。

（2）「数学 1」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）コア選択科目の中から 24 単位、「現代物理学序論」から「相関電子系物理学」までの授業科目の中から 20 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

基幹理工学部応用化学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1

中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2

倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2

知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
物理1	2
物理2	2
物理実験	2
基礎物理化学	2
物理化学1	2
化学実験	2
コア科目	
基礎無機化学	2
無機化学1	2
基礎有機化学	2
有機化学1	2
化学情報処理	2
基礎化学工学	2
応用化学実験1	3
応用化学実験2	3
応用化学実験3	3
応用化学実験4	3
卒業研究I	4
卒業研究II	4
コア選択科目	
線形代数1	2
線形代数2	2
物理化学2	2
物理化学3	2
物理化学演習	2
無機化学2	2
分析化学	2
無機化学演習	2
有機化学2	2

有機化学3	2
化学工学1	2
化学工学2	2
物理化学4	2
物理化学5	2
無機化学3	2
有機化学4	2
高分子化学	2
有機化学演習	2
化学工学演習	2
展開科目	
地学1	2
地学2	2
生物学1	2
生物学2	2
有機分析化学	2
有機合成化学	2
分子機能化学	2
生物無機化学	2
応用分析化学	2
無機材料化学	2
有機金属化学	2
生物有機化学	2
天然物化学	2
応用有機化学	2
光機能化学	2
化学工学3	2
化学工学4	2
化学工学5	2
品質管理	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2

グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
生物学実験Ⅰ	1
生物学実験Ⅱ	1
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、130 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）96 単位を必修とする。

（2）基礎科目、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）コア選択科目の中から 30 単位、展開科目の中から 10 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

基幹理工学部生命科学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1

フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
ライフセービング	2
生涯スポーツ科学	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2

アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	2
数学2	2
物理1	2
物理2	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	
基礎生化学	2
基礎分子生物学	2
進化多様性生物学	2

生命科学英語初級	1
情報処理演習1	1
情報処理演習2	1
代謝生物学	2
分子遺伝学	2
分子細胞生物学	2
地球環境・生態学	2
遺伝情報学実験	3
代謝生物学実験	3
環境生物学実験	3
植物分子生理学	2
動物分子生理学	2
応用生物学	2
生理・生化学実験	3
遺伝子工学実験	3
動物生理学実験	3
生命科学英語上級A	1
生命科学英語上級B	1
分子発生学	2
卒業研究I	4
卒業研究II	4
展開科目	
基礎生物学	2
物理実験	2
化学実験	2
地学1	2
地学2	2
バイオインフォマティクス	2
生物環境情報学	2
生物統計学	2
生命科学英語中級	1
生体エネルギー論	2
生命科学技術基礎	2
進化学	2
自然史野外実習	1
脳・神経科学	2
環境応用微生物学	2
生産応用微生物学	2
ヒトと病気の生物学	2

バイオテクノロジー概論	2
ヒューマンバイオロジー	2
タンパク質デザイン	2
エイジング生物学	2
免疫学	2
生体物質機能学	2
生物物理学	2
生体工学	2
生物有機化学	2
生物無機化学	2
生物資源経済学	2
環境工学	2
生物学特殊講義A（環境関係）	2
生物学特殊講義B（食品関係）	2
生物学特殊講義C（生体関係）	2
生物学特殊講義D（安全性関係）	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2

キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
地学実験Ⅰ	1
地学実験Ⅱ	1
理科教育法1	2
理科教育法2	2
理科教育法3	2
理科教育法4	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、127 単位とする。

イ　外国語教育科目は、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）第二外国語の「ドイツ語初級（表現）a」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）89 単位を必修とする。

（2）コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）基礎科目の中から８単位、展開科目の中から 24 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

社会理工学部都市環境学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1

留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2

ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1

グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学	
線形代数	2
微分・積分	4
解析学基礎	4
常微分方程式	1
偏微分方程式	1
ベクトル解析	1
フーリエ解析	1
固有値解析	1
複素関数	1
確率・統計	2
データ解析基礎	2
回帰モデル	1
クラスター分析	1
最適化理論	1
ミクロ経済学序説	1
情報	
プログラミング言語	2
数値解析	2
理学	
力学	2
基礎化学	2
地学1	2
物理実験	2
化学実験	2
熱力学・電磁気学	2

コア科目	
都市環境学概論1	2
都市環境学概論2	2
空間情報学	2
卒業研究I	3
卒業研究II	3
コア選択科目	
コース	
社会基盤系ゼミナール1	2
水環境・防災系ゼミナール1	2
計画系ゼミナール1	2
社会基盤系ゼミナール2	2
水環境・防災系ゼミナール2	2
計画系ゼミナール2	2
キャリア・倫理	
都市環境キャリアデザイン	1
現場見学	1
公務員のための都市環境学	2
建設技術者のための都市環境学	1
国際技術者のための都市環境学	1
社会基盤系	
(1) 構造・材料	
材料力学・同演習	2
構造力学1	1
コンクリート材料1	1
構造力学2	1
コンクリート材料2	1
(2) 土質	
土質力学1	1
土質力学2	1
土質力学3	1
水環境・防災系	
基礎流体力学・同演習	2
水理学1・同演習	2
海岸水理基礎	1
大気流体基礎	1
計画系	
空間のマネジメント	2
都市環境計画1	2
都市環境計画2	2
応用	
(1) 社会基盤系	
鉄筋コンクリート・同演習	2
土質力学4	1

構造力学3	1
固体力学	2
地盤工学1	1
構造シミュレーション	2
材料科学論	2
地盤工学2	2
地盤動力学	2
(2) 水環境・防災系	
水理学2	1
海岸・港湾工学	2
水文学	2
河川工学	2
沿岸環境工学	2
都市水循環	2
海岸水理学	2
気象学	2
(3) 計画系	
都市環境計画3	2
コミュニティデザイン	2
都市環境政策	2
離散選択モデル	2
輸送システム	2
政策評価手法	2
展開科目	
自然環境論	2
空間情報学実習	2
振動と耐震1	1
地形・地質工学	2
空間デザイン演習	2
振動と耐震2	1
地理空間情報学	2
防災工学	2
環境リスク評価論	2
基礎生態学	2
計算力学	2
維持管理工学	2
連続体力学	2
社会理工学部共通科目	
社会理工学概論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2

ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・チュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）第二外国語の「ドイツ語初級（表現）a」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、具体的な履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）９単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）103 単位を必修とする。

（2）コア科目、社会理工学部共通科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）基礎科目のうち、「線形代数」から「複素関数」までの授業科目の中から 12 単位、「確率・統計」から「ミクロ経済学序説」までの授業科目の中から４単位、

「プログラミング言語」から「熱力学・電磁気学」までの授業科目の中から８単位、合計 30 単位を必修とする。

（４）コア選択科目のうち、コースの中から４単位、キャリア・倫理の中から３単位、社会基盤系のうち（1）構造・材料の中から４単位、（2）土質の中から２単位、水環境・防災系の中から４単位、計画系の中から４単位、合計 18 単位を必修とする。

（５）応用のうち（1）社会基盤系の中から５単位、（2）水環境・防災系の中から５単位、（3）計画系の中から４単位、合計 16 単位を必修とする。

（６）展開科目の中から８単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」までは卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

社会理工学部ビジネスデータサイエンス学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1

フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2

経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1

専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
線形代数1	2
線形代数2	2
物理1	2
化学1	2
物理実験	2
化学実験	2
物理2	2
化学2	2
コア科目	
情報処理	2
情報処理演習	1
プログラム言語及演習1	2
確率論	2
確率論演習	1
統計学	2
統計学演習	1
応用解析1	2
応用解析2	2
データ解析1	2
オペレーションズ・リサーチ1	2
テクニカル・プレゼンテーション	1
データサイエンス実験A	2
データ構造とアルゴリズム	2
データサイエンス実験B	2
オペレーションズ・リサーチ演習	1
データサイエンス演習	1
卒業研究I	2
卒業研究II	2
コア選択科目	
品質管理	2
企業データ分析	2
生産管理	2
マーケティング・リサーチ	2
サプライチェーン・マネジメント	2
金融工学	2
実験計画法	2
経済性工学	2
データ解析2	2
プログラム言語及演習2	2
オペレーションズ・リサーチ2	2

機械学習基礎論	2
データベース工学	2
深層学習	2
最適化手法	2
時系列解析	2
展開科目	
データサイエンス基礎演習	1
応用確率論	2
情報数学	2
情報システムの構造と理論	2
情報理論	2
経営学基礎論	2
データ処理と可視化	2
人間工学	2
人工知能基礎論	2
人工知能応用論1	2
代数学1	2
代数学2	2
生存時間解析	2
数理統計学	2
情報幾何学	2
人工知能応用論2	2
数値解析	2
感性工学	2
情報通信産業論	2
経営戦略論	2
シミュレーション	2
産業心理学	2
幾何学1	2
幾何学2	2
新製品開発論	2
確率過程論	2
ソフトウェア工学	2
データサイエンス特別講義A	2
データサイエンス特別講義B	2
社会理工学部共通科目	
社会理工学概論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4

ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）102 単位を必修とする。

（2）「微分・積分 1」から「化学 1」まで、コア科目、社会理工学部共通科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）「物理実験」から「化学実験」までの授業科目の中から２単位、「品質管理」か

ら「経済性工学」までの授業科目の中から 12 単位、「データ解析 2」から「時系列解析」までの授業科目の中から 12 単位、展開科目の中から 24 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

社会理工学部人間総合理工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1

中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2

現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4

線形代数1	2
物理1	2
物理2	2
化学1	2
化学2	2
線形代数2	2
化学実験	2
物理実験	2
コア科目	
認知脳科学	2
生命倫理	2
地域環境科学	2
基礎生態学	2
基礎エネルギー制御学	2
フレッシュマンセミナー	1
確率・統計	2
情報処理	2
環境物理化学	2
情報処理演習	1
健康科学概論	2
都市生態学概論	2
実用認知心理学	2
人体の構造と機能	2
生物統計学	2
都市環境デザイン	2
保全生態学概論	2
水環境システム学	2
土壌環境制御学	2
ソフォモアセミナー	1
救急理論・実習	1
環境デザイン概論・実習	2
プログラミング言語1	2
応用生態工学	2
人間総合理工学演習1	3
人間総合理工学演習2	3
環境エネルギー・自然誌実習	3
認知科学・健康科学実習	3
インディペンデントスタディ3B	1
卒業研究I	2
卒業研究II	2
展開科目	
心理統計学	2
心理統計学演習	1
保全生態学フィールドワーク・データ解析	2

基礎生物・生化学	2
地球科学	2
科学技術の発展と人間社会	2
現代物理学1	2
現代物理学2	2
地学1	2
地学2	2
微生物学	2
水環境工学	2
保健医療情報処理	2
プログラミング言語2	2
生物統計学演習	1
認知マーケティング	2
機器分析化学	2
ヒューマンウエルネス論	2
サスティナビリティ行動科学	2
国際サステイナビリティ計画	2
資源循環エネルギー学	2
ファシリテーション実習	1
社会理工学部共通科目	
社会理工学概論	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2

AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
自由科目	
インディペンデントスタディ1A	1
インディペンデントスタディ1B	1
インディペンデントスタディ2A	1
インディペンデントスタディ2B	1
インディペンデントスタディ3A	1

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「上級英語試験講座 B」までの授業科目の中から２単位、「ドイツ語初級（表現）a」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）100 単位を必修とする。

（2）「微分・積分 1」から「線形代数 1」まで、コア科目、社会理工学部共通科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）「物理 1」から「物理実験」までの授業科目の中から６単位、展開科目の中から 21 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、自由科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

先進理工学部精密機械工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1

英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1

体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2

科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
数学1	2
数学2	2
数学3	2
数学4	2
数学演習1	2
数学演習2	2
物理実験	2
物理学	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	
力学1	2
力学2	2
情報処理	2
材料力学1	2
精密機械材料1	2
設計製図通論	2
精密機械工学概論	2
精密機械工学特別講義	2

精密機械工学演習	2
機構学	2
機械力学1	2
流体力学1	2
工業熱力学	2
材料加工学1	2
精密機械製図	2
電気工学	2
制御工学1	2
精密機械工学プロジェクト	2
伝熱工学	2
計測工学1	2
精密機械工学実験	2
卒業研究I	3
卒業研究II	3
コア選択科目	
情報処理演習	2
機械力学演習	2
材料力学演習	2
流体力学演習	2
電子回路	2
制御工学演習	2
応用数学A	1
応用数学B	1
応用数学C	1
応用数学D	1
熱工学演習	2
展開科目	
工業技術史	2
機械力学2	2
材料力学2	2
情報工学演習	2
計算工学1	2
精密機械材料2	2
材料加工学2	2
代数学1	2
代数学2	2
音響工学	2
弾塑性学	2
流体力学2	2
ソフトコンピューティング	2
材料強度学	2
トライボロジー	2
加工制御工学	2

工作機械学	2
生産システム工学	2
設計システム工学	2
工業デザイン	2
制御工学2	2
メカトロニクス	2
ロボット工学	2
現代制御理論	2
計測工学2	2
光学	2
生体工学	2
医用精密工学	2
情報機器	2
科学技術英語	2
機械要素設計	2
幾何学1	2
幾何学2	2
計算工学2	2
画像処理	2
品質工学	2
先進理工学部共通科目	
先進理工学概論	2
マイクロマシン	2
量子論	2
計算幾何学	2
新エネルギー技術	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・チュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2

グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
工業科教育法1	2
工業科教育法2	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）９単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までの授業科目の中から１単位、人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）103 単位を必修とする。

（2）「数学 1」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）コア選択科目の中から 14 単位、展開科目と先進理工学部共通科目の中から合計 27 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショ

ップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

先進理工学部電気電子情報通信工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1
ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1

フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2
環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2

アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
線形代数1	2
線形代数2	2
物理1	2
物理2	2
物理実験	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	

電気電子情報通信工学概論	1
回路基礎及演習1	3
ディジタル代数及演習	3
技術文書作成演習	1
プログラム言語及演習1	2
プログラム言語及演習2	2
解析概論	4
電磁気学及演習1	3
電磁気学及演習2	3
回路基礎及演習2	3
制御工学	2
電子回路1	2
電子物性	2
情報理論	2
電気電子情報通信実験I	3
電気電子情報通信実験II	3
卒業研究I	3
卒業研究II	3
展開科目	
確率及統計	2
材料力学概論	2
電磁気計測	2
半導体工学	2
電子計測	2
数値解析	2
アルゴリズムとデータ構造	2
数理計画法	2
コンピュータ工学基礎	2
電気回路	2
電気機器基礎	2
代数学1	2
代数学2	2
発変電工学	2
送配電工学	2
電気機器応用	2
パワーエレクトロニクス	2
電気化学と電池	2
システム制御	2
センシング工学	2
電磁界理論	2
電磁波工学	2
光エレクトロニクス	2
電気・電子材料	2
電子回路2	2

電子回路設計	2
ディジタル回路	2
信号処理	2
情報通信伝送	2
情報数学	2
情報セキュリティ基礎	2
電気機器設計	2
先端技術特別講義A	2
機械学習	2
幾何学1	2
幾何学2	2
工学デザイン概論	2
科学技術英語	2
品質管理	2
電力応用	2
電気法規及施設管理	2
ロボット工学	2
応用数理解析	2
情報通信ネットワーク	2
通信機器	2
通信法規	2
コンピュータシステムとインターネット	2
データベース工学	2
情報通信産業論	2
生体情報工学	2
先端技術特別講義B	2
先進理工学部共通科目	
先進理工学概論	2
マイクロマシン	2
量子論	2
計算幾何学	2
新エネルギー技術	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2

AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
情報科教育法	4
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
工業科教育法1	2
工業科教育法2	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（1）12 単位を必修とする。

（2）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（3）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（4）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（1）10 単位を必修とする。

（2）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（3）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（1）102 単位を必修とする。

（2）「微分・積分 1」から「物理実験」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（3）展開科目と先進理工学部共通科目の中から合計 39 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

先進理工学部情報工学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
外国語教育科目	
英語	
英語表現演習1a	1
英語表現演習1b	1
英語表現演習2a	1
英語表現演習2b	1
英語講読演習1a	1
英語講読演習1b	1
英語講読演習2a	1
英語講読演習2b	1
留学準備講座	1
英語コミュニケーションA	1
英語コミュニケーションB	1
アカデミック・コミュニケーション	1
アカデミック・R&W	1
中級英語試験講座A	1
中級英語試験講座B	1
上級英語試験講座A	1
上級英語試験講座B	1
第二外国語	
ドイツ語初級（表現）a	1
ドイツ語初級（表現）b	1
ドイツ語初級（文法）a	1
ドイツ語初級（文法）b	1
フランス語初級（表現）a	1
フランス語初級（表現）b	1
フランス語初級（文法）a	1
フランス語初級（文法）b	1
中国語初級（表現）a	1
中国語初級（表現）b	1
中国語初級（文法）a	1
中国語初級（文法）b	1

ドイツ語中級Aa	1
ドイツ語中級Ab	1
ドイツ語中級Ba	1
ドイツ語中級Bb	1
フランス語中級Aa	1
フランス語中級Ab	1
フランス語中級Ba	1
フランス語中級Bb	1
中国語中級Aa	1
中国語中級Ab	1
中国語中級Ba	1
中国語中級Bb	1
総合教育科目	
健康・スポーツ	
体育実技1a	1
体育実技1b	1
体育実技2a	1
体育実技2b	1
健康スポーツ科学	2
スポーツ解析	2
スポーツ科学	2
生涯スポーツ科学	2
ライフセービング	2
人文社会	
哲学A	2
哲学B	2
倫理学A	2
倫理学B	2
言語・記号論	2
情報・メディア論	2
科学思想A	2
科学思想B	2
心理学A	2
心理学B	2
芸術A	2
芸術B	2
憲法	2
法学	2
経済A	2
経済B	2
政治学A	2
政治学B	2
現代社会論A	2
現代社会論B	2

環境論A	2
環境論B	2
生命と多様性A	2
生命と多様性B	2
欧米の文化と歴史A	2
欧米の文化と歴史B	2
アジアの文化と歴史A	2
アジアの文化と歴史B	2
日本の歴史と現代A	2
日本の歴史と現代B	2
情報社会と倫理・職業	2
環境行政概論	2
教養演習A	2
教養演習B	2
日本語リテラシー基礎演習	2
科学技術と倫理	2
ジェンダー・セクシュアリティ論A	2
ジェンダー・セクシュアリティ論B	2
グローバル・学際	
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズBI	1
グローバルスタディーズBII	1
グローバルインターンシップ	1
グローバルアントレプレナーシップ入門	2
グローバルアントレプレナーシップ演習	2
技術と法	2
産業財産権法	2
知的財産法演習	2
知的財産取扱基礎知識	2
AI・データサイエンス工学概論	2
学問最前線	2
学際最前線	2
多文化共生論	2
障害学	2
Global Issues A	1
Global Issues B	1
Education for SDGs	1
International Relations and Politics	1
専門教育科目	
基礎科目	
微分・積分1	4
微分・積分2	4
線形代数1	2
線形代数2	2

物理1	2
物理2	2
物理実験	2
化学1	2
化学2	2
コア科目	
情報基礎数学	2
映像情報学	2
コンピュータの構造	2
情報総合概論	2
Cプログラミング初級	2
Cプログラミング初級演習	2
Cプログラミング中級演習	2
情報総合演習	2
社会情報学1	2
数理基礎A	2
数理基礎B	2
応用数学	2
知能情報学	2
データベース技術	2
数理情報学1	2
数理情報学2	2
数値計算1	2
プログラミング上級演習	2
アルゴリズムとデータ構造演習	2
オペレーティングシステム技術	2
ネットワーク技術	2
ソフトウェア技術	2
基盤系オブジェクト指向プログラミング演習	2
開発系プログラミング演習	2
卒業研究I	2
卒業研究II	2
展開科目	
論文演習	2
空間数学	2
物理応用	2
地理空間情報技術	2
画像・映像コンテンツ演習1	2
数値計算2	2
サイバー技術	2
ディジタル信号処理	2
マルチメディア情報処理	2
情報・通信理論	2
暗号理論	2

最適化	2
ディジタル形状処理	2
大規模・高速計算	2
ネットワークアルゴリズム	2
コンピュータ設計	2
情報ビジネス	2
社会情報学2	2
実践プログラミング	2
画像・映像コンテンツ演習2	2
画像・映像コンテンツ演習3	2
幾何学1	2
幾何学2	2
コンパイラ設計	2
システムプログラム	2
画像・映像コンテンツ演習4	2
先進理工学部共通科目	
先進理工学概論	2
マイクロマシン	2
量子論	2
計算幾何学	2
新エネルギー技術	2
コンピュータグラフィックス	2
学部間共通科目	
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2

AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
自由科目	
オープンプロジェクト演習	2
教職科目	
数学科教育法1	2
数学科教育法2	2
数学科教育法3	2
数学科教育法4	2
情報科教育法	4

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、134 単位とする。

イ　外国語教育科目については、以下のとおりとする。

（１）12 単位を必修とする。

（２）「英語表現演習 1a」から「英語講読演習 2b」までを必修とする。

（３）「英語コミュニケーション A」から「中国語初級（文法）b」までの授業科目（ただし、第二外国語から履修する場合は、いずれか１カ国語を選択）の中から４単位を必修とする。

（４）外国人留学生について、第二外国語の履修方法は別表第二の六による。

ウ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）10 単位を必修とする。

（２）「体育実技 1a」から「体育実技 1b」までを必修とする。

（３）人文社会の中から８単位を必修とする。

エ　専門教育科目について、以下のとおりとする。

（１）102 単位を必修とする。

（２）「微分・積分 1」から「物理 2」まで、コア科目に置かれるすべての授業科目を必修とする。

（３）展開科目と先進理工学部共通科目の中から合計 34 単位を必修とする。

オ　「大学生のための論文作成の技法（基礎編）」から「キャリア・デザイン・ワークショップ」まで、自由科目、教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

別紙５　（現行）

別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）

外国人留学生に関する特別科目（日本語科目）

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
日本語ＡⅠ(１)	1
日本語ＡⅡ(１)	1
日本語ＡⅢ(１)	1
日本語ＡⅣ(１)	1
日本語ＡⅠ(２)	1
日本語ＡⅡ(２)	1
日本語ＡⅢ(２)	1
日本語ＡⅣ(２)	1
日本語ＡⅠ(３)	1
日本語ＡⅡ(３)	1
日本語ＡⅢ(３)	1
日本語ＡⅣ(３)	1
日本語ＡⅠ(４)	1
日本語ＡⅡ(４)	1
日本語ＡⅢ(４)	1
日本語ＡⅣ(４)	1
日本語ＢⅠ(１)	1
日本語ＢⅡ(１)	1
日本語ＢⅠ(２)	1
日本語ＢⅡ(２)	1
日本語ＢⅠ(３)	1
日本語ＢⅡ(３)	1
日本語ＢⅠ(４)	1
日本語ＢⅡ(４)	1
日本語ＡⅠ	1
日本語ＡⅡ	1
日本語ＢⅠ	1
日本語ＢⅡ	1
日本語ＡⅢ	1
日本語ＡⅣ	1
日本語ＢⅢ	1
日本語ＢⅣ	1
日本事情	2

二　履修方法

ア　日本語Aのみを履修する日本語Aコース（16単位必修）、日本語Bのみを履修する日本語Bコース（８単位必修）及び開講されている日本語科目から４単位を履修する日本語Cコース（４単位必修）を置き、いずれの方法で履修するかは、各学部が各人について指定する。

イ　修得した日本語の単位は、各学部の定めるところにより別表第二に掲げる外国語科目の卒業に必要な単位に代えることができる。

ウ　日本語Aコース、日本語Bコース及び日本語Cコースのいずれかのコースを履修した者で、日本語の修得単位で外国語科目の卒業に必要な単位を充足しない者は、別表第二に掲げる外国語科目（本人が国籍を有する国の公用語を除く。）を履修しなければならない。当該外国語の履修の範囲及びその履修の方法については、各学部の定めるところによる。

エ　「日本語ＡⅠ」から「日本語BⅣ」までの授業科目は理工学部に設置し、理工学部に在学する外国人留学生に限り履修することができる。また、設置科目及び修得単位の扱いについては、理工学部が学科ごとに別に定める。

オ　「日本事情」の単位は、各学部の定めるところにより備考イに掲げる授業科目について２単位までの単位に代えることができる。

三　備考

ア　この表に掲げる授業科目の履修は、外国人留学生に限る。

イ　日本事情の単位により代えることができる授業科目の範囲は、次のとおりとする。

①　経済学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる総合教育科目。

②　商学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げるリベラルアーツ科目。

③　文学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる総合教育科目。

④　総合政策学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる基礎科目群の科目。

⑤　国際経営学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げるグローバル人材科目群の科目。

別紙６　（改正案）

別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）

外国人留学生に関する特別科目（日本語科目）

一　授業科目及び単位数

	授業科目	単位数
	日本語ＡⅠ(１)	１
	日本語ＡⅡ(１)	１
	日本語ＡⅢ(１)	１
	日本語ＡⅣ(１)	１
	日本語ＡⅠ(２)	１
	日本語ＡⅡ(２)	１
	日本語ＡⅢ(２)	１
	日本語ＡⅣ(２)	１
	日本語ＡⅠ(３)	１
	日本語ＡⅡ(３)	１
	日本語ＡⅢ(３)	１
	日本語ＡⅣ(３)	１
	日本語ＡⅠ(４)	１
	日本語ＡⅡ(４)	１
	日本語ＡⅢ(４)	１
	日本語ＡⅣ(４)	１
	日本語ＢⅠ(１)	１
	日本語ＢⅡ(１)	１
	日本語ＢⅠ(２)	１
	日本語ＢⅡ(２)	１
	日本語ＢⅠ(３)	１
	日本語ＢⅡ(３)	１
	日本語ＢⅠ(４)	１
	日本語ＢⅡ(４)	１
◎	日本語（読解）１ａ	１
◎	日本語（読解）１ｂ	１
◎	日本語（表現）１ａ	１
◎	日本語（表現）１ｂ	１
◎	日本語（読解）２ａ	１
◎	日本語（読解）２ｂ	１
◎	日本語（表現）２ａ	１
◎	日本語（表現）２ｂ	１
	日本事情	２

二　履修方法

ア　日本語Aのみを履修する日本語Aコース（16単位必修）、日本語Bのみを履修する日本語Bコース（８単位必修）及び開講されている日本語科目から４単位を履修する日本語Cコース（４単位必修）を置き、いずれの方法で履修するかは、各学部が各人について指定する。

イ　修得した日本語の単位は、各学部の定めるところにより別表第二に掲げる外国語科目の卒業に必要な単位に代えることができる。

ウ　日本語Aコース、日本語Bコース及び日本語Cコースのいずれかのコースを履修した者で、日本語の修得単位で外国語科目の卒業に必要な単位を充足しない者は、別表第二に掲げる外国語科目（本人が国籍を有する国の公用語を除く。）を履修しなければならない。当該外国語の履修の範囲及びその履修の方法については、各学部の定めるところによる。

エ　「日本語（読解）１a」から「日本語（表現）２b」までの授業科目は基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部に設置し、当該３学部に在学する外国人留学生に限り履修することができる。また、設置科目及び修得単位の扱いについては、基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部が学科ごとに別に定める。

オ　「日本事情」の単位は、各学部の定めるところにより備考イに掲げる授業科目について２単位までの単位に代えることができる。

三　備考

ア　この表に掲げる授業科目の履修は、外国人留学生に限る。

イ　日本事情の単位により代えることができる授業科目の範囲は、次のとおりとする。

①　経済学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる総合教育科目。

②　商学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げるリベラルアーツ科目。

③　文学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる総合教育科目。

④　総合政策学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げる基礎科目群の科目。

⑤　国際経営学部に在学する外国人留学生については、別表第二に掲げるグローバル人材科目群の科目。

別紙７　（現行）

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	経済情報システム学科	社会	公民・商業
	国際経済学科		
	公共・環境経済学科	社会	公民
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	応用化学科	理科	理科
	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
	情報工学科	数学	数学・情報
	生命科学科	理科	理科
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民
総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別紙８　（改正案）

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	経済情報システム学科	社会	公民・商業
	国際経済学科		
	公共・環境経済学科	社会	公民
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
基幹理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	応用化学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科
社会理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
先進理工学部	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	情報工学科	数学	数学・情報
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民

総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別紙９（現行）

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科	学士（法学）
	国際企業関係法学科	
	政治学科	
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経済情報システム学科	
	国際経済学科	
	公共・環境経済学科	
商学部	経営学科	学士（商学）
	会計学科	
	国際マーケティング学科	
	金融学科	
理工学部	数学科	学士（理学）
	物理学科	
	都市環境学科	学士（工学）
	精密機械工学科	
	電気電子情報通信工学科	
	応用化学科	
	ビジネスデータサイエンス学科	
	情報工学科	
	生命科学科	学士（理学）
	人間総合理工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学）
		学士（史学）
		学士（哲学）
		学士（社会学）
		学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科	学士（総合政策）
	国際政策文化学科	
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

別紙10 （改正案）

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 経済情報システム学科 国際経済学科 公共・環境経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

別紙11（現行）

別表第六（第五十五条関係）

学部	年度＼費目	授業料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
部学法	令和七年度	八三九、八〇〇	――――	――――	二七四、二〇〇
	令和八年度	八五六、五〇〇	――――	――――	二七九、六〇〇
	令和九年度	八七三、六〇〇	――――	――――	二八五、一〇〇
	令和十年度	八九一、〇〇〇	――――	――――	二九〇、八〇〇
	令和十一年度	九〇八、八〇〇	――――	――――	二九六、六〇〇
部学済経	令和七年度	八三九、八〇〇	――――	一五、〇〇〇	二二三、二〇〇
	令和八年度	八五六、五〇〇	――――	一五、〇〇〇	二二七、六〇〇
	令和九年度	八七三、六〇〇	――――	一五、〇〇〇	二三二、一〇〇
	令和十年度	八九一、〇〇〇	――――	一五、〇〇〇	二三六、七〇〇
	令和十一年度	九〇八、八〇〇	――――	一五、〇〇〇	二四一、四〇〇
部学商	令和七年度	八三九、八〇〇	――――	一八、〇〇〇	二二三、二〇〇
	令和八年度	八五六、五〇〇	――――	一八、〇〇〇	二二七、六〇〇
	令和九年度	八七三、六〇〇	――――	一八、〇〇〇	二三二、一〇〇
	令和十年度	八九一、〇〇〇	――――	一八、〇〇〇	二三六、七〇〇
	令和十一年度	九〇八、八〇〇	――――	一八、〇〇〇	二四一、四〇〇
部学工理	令和七年度	一、一九九、二〇〇	一〇九、六〇〇	――――	三〇三、六〇〇
	令和八年度	一、二三三、一〇〇	一〇九、六〇〇	――――	三〇九、六〇〇
	令和九年度	一、二四七、五〇〇	一〇九、六〇〇	――――	三一五、七〇〇
	令和十年度	一、二七二、四〇〇	一〇九、六〇〇	――――	三二二、〇〇〇
	令和十一年度	一、二九七、八〇〇	一〇九、六〇〇	――――	三二八、四〇〇
部学文	令和七年度	八三九、八〇〇	――――	――――	二二三、二〇〇
	令和八年度	八五六、五〇〇	――――	――――	二二七、六〇〇
	令和九年度	八七三、六〇〇	――――	――――	二三二、一〇〇
	令和十年度	八九一、〇〇〇	――――	――――	二三六、七〇〇
	令和十一年度	九〇八、八〇〇	――――	――――	二四一、四〇〇
部学策政合総	令和七年度	一、〇九九、五〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二二三、二〇〇
	令和八年度	一、一二一、四〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二二七、六〇〇
	令和九年度	一、一四三、八〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二三二、一〇〇
	令和十年度	一、一六六、六〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二三六、七〇〇
	令和十一年度	一、一八九、九〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二四一、四〇〇
部学當経際国	令和七年度	九六二、四〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二二三、二〇〇
	令和八年度	九八一、六〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二二七、六〇〇
	令和九年度	一、〇〇一、二〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二三二、一〇〇
	令和十年度	一、〇二一、二〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二三六、七〇〇
	令和十一年度	一、〇四一、六〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二四一、四〇〇
部学報情際国	令和七年度	一、〇三七、一〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二三七、八〇〇
	令和八年度	一、〇五七、八〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二四二、五〇〇
	令和九年度	一、〇七八、九〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二四七、三〇〇
	令和十年度	一、一〇〇、四〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二五二、二〇〇
	令和十一年度	一、一二二、四〇〇	――――	五〇、〇〇〇	二五七、二〇〇

別紙12　（改正案）

別表第６（第５５条関係）　　（単位・円）

学部	費目／年度	授　業　料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	―――――	２７９，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２８５，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２９０，８００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
経済学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	１５，０００	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	１５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
商学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	１８，０００	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	１８，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１８，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
基幹理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
社会理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
先進理工学部	令和８年度	１，２２３，１００	１０９，６００	―――――	３０９，６００
	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
文学部	令和８年度	８５６，５００	―――――	―――――	２２７，６００
	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２４１，４００
総合政策学部	令和８年度	１，１２１，４００	―――――	５０，０００	２２７，６００
	令和９年度	１，１４３，８００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，１６６，６００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際経営学部	令和８年度	９８１，６００	―――――	５０，０００	２２７，６００
	令和９年度	１，００１，２００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，０２１，２００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際情報学部	令和８年度	１，０５７，８００	―――――	５０，０００	２４２，５００
	令和９年度	１，０７８，９００	―――――	５０，０００	２４７，３００
	令和１０年度	１，１００，４００	―――――	５０，０００	２５２，２００
	令和１１年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００

中央大学教授会規程

規程第二百九十七号

（趣旨）

第一条　この規程は、中央大学学則第十四条に基づき、教授会の運営について、必要な事項を定める。

（招集）

第二条　教授会は、学部長（理工学術院長を含む。以下同じ。）が招集する。

２　学部長は、学長または教授会員の三分の一以上の者から、会議に付すべき議題を示して会議の招集を請求された場合は、すみやかに教授会を招集しなければならない。

３　会議の議長は、学部長とし、学部長に事故があるときは、出席教授会員の互選によつて議長を決定する。

（学長の出席）

第三条　学長は、教授会に出席して意見を述べることができる。

（開会）

第四条　教授会は、教授会員の過半数の出席がなければ開くことができない。

（議決）

第五条　教授会の議事について議決する場合には、出席教授会員の過半数の同意を要する。

（連合教授会）

第六条　連合教授会は、関係学部長が共同して招集する。

２　会議の議長は、学長とし、学長に事故があるときは、関係学部長の互選によつて議長を決定する。

（改正）

第七条　この規程の改正は、教授会の議を経なければならない。

（細則）

第八条　この規程に特別の定めがあるものを除くほか、この規程の実施のため必要な細目は、別に定める。

附　則

この規程は、昭和五十年四月一日から施行する。

附　則（規程第三千百三十九号）

この規程は、令和八年四月一日から施行する。